

下湯原遺跡(2)

ハッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 第69集

研究室保管

2020

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

研究室保管

下湯原遺跡（2）

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第69集

2020

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

ハッ場ダムは、治水・利水・発電を行う多目的ダムとして計画され、吾妻郡長野原町を中心に工事が進められてきました。ハッ場ダムの建設に伴う埋蔵文化財発掘調査は、当事業団が平成6年度から実施し、四半世紀となります。

下湯原遺跡は、平成27年度に発掘調査が開始され、28・29年度に調査が行われました。既に27年度調査の調査成果については一部を残し報告されております。

今回は27年度調査の未報告部分に加え、28・29年度の発掘調査について報告します。

調査の結果、天明三(1783)年の浅間山の噴火に伴う泥流で被災した屋敷とその周辺の畑や道の他、天明三年より古い畑や平安時代の竪穴建物など数多くの遺構が発見されました。

特に泥流で埋まった建物の内部には囲炉裏が残されており、建物に隣接して廁が作られ、降下した軽石をかき寄せた跡など天明三年当時の生活空間が現代に甦って来るように感じられます。

これらの調査成果は、長野原町を中心とした地域、ひいては群馬県における地域史を考える上でも重要な資料となるものと考えております。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、国土交通省ハッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会および長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者の皆様には、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

令和2年2月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 中野三智男

例 言

1. 本書はハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として平成27・28・29年に実施された「下湯原遺跡」の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2. 遺跡の呼称及び所在地

下湯原遺跡(しもゆばらいせき)は、群馬県吾妻郡長野原町大字川原湯地内に所在する。

・地番は、377-1・378-1・394-1、395-1他である。

3. 事業主体 国土交通省関東地方整備局

4. 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5. 発掘調査及び整理作業の期間

(1)発掘事業

調査期間 平成27年4月1日～平成27年12月31日

発掘調査担当 大西雅広(上司専門員・調査統括) 麻生敏隆(上司専門員) 松村和男(主任調査研究員)

関 俊明(主任調査研究員) 笹澤泰史(主任調査研究員) 石坂 聡(主任調査研究員)

小林茂夫(主任調査研究員) 藤井義徳(主任調査研究員) 小野 隆(主任調査研究員)

立野善紀(調査研究員) 中沢 栢(専門調査役) 間庭 稔(専門調査役)

調査面積 66,175m²

遺跡掘削工事 発掘対象が広いため、遺跡を1～3工区に区分し、以下の共同企業体が実施した。

1 工区 歴史の杜・吉澤建設・南波建設 吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

2 工区 株式会社調研、技研コンサル株式会社、瑞穂建設株式会社 吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

3 工区 シン技術・毛野・山下 吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

調査期間 平成28年9月1日～平成28年10月31日

発掘調査担当 黒崎博樹(主任調査研究員) 小林茂夫(主任調査研究員) 宮下 寛(主任調査研究員)

小野和之(専門調査役)

調査面積 7,908m²

遺跡掘削工事 株式会社調研、技研コンサル株式会社、瑞穂建設株式会社 吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

調査期間 平成29年11月1日～平成29年12月26日

発掘担当者 小原俊行(専門員)

調査面積 3,051m²

遺跡掘削工事 歴史の杜・吉澤建設・南波建設 吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

(2)整理事業

整理期間 『下湯原遺跡(1)』報告書を作成する際に、今回記載する遺跡の整理も行っていたので、前回分も含める。

平成28年10月1日～平成29年3月31日 整理担当 津島 秀章(資料2課長)

平成29年4月1日～平成30年3月31日 整理担当 徳江 秀夫(専門調査役)

平成31年4月1日～令和元年12月31日 整理担当 黒田 晃(主任調査研究員)

6. 本書作成の担当者は以下のとおりである。

編集 黒田 晃(主任調査研究員)

本文執筆 執筆担当 黒田 晃(主任調査研究員)

デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員・資料統括)

遺構写真 発掘担当者

遺物写真 石坂 茂(専門調査役)、大西雅広(専門調査役)、関 邦一(専門調査役)、津島秀章(資料2課長)、

杉山秀宏(主任調査研究員・資料統括)、黒田 晃(主任調査研究員)

- 発掘調査および整理事業での委託
遺構測量 株式会社測研
- 石材の同定は、飯島静男氏(群馬地質研究会)に依頼した。
- 出土人骨については、榑崎修一郎(大妻女子大学博物館)に依頼した。その成果は、本書の中で報告する。
- 発掘調査および報告書の作成にあたり群馬県教育委員会事務局文化財保護課、長野原町教育委員会、県立文書館のご指導とご助言を得た。長野原町教育委員会、県立文書館から、古文書や絵図面等の提供を得た。
- 発掘調査の記録資料と出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

凡 例

- 本書で使用した座標値および方位は、日本測地系、平面直角座標系第Ⅱ系を用い、座標北で示した。調査区は、 $X = 613600 \sim 61840$ 、 $Y = -100200 \sim -100800$ の範囲に収まる。

- 等高線・遺構断面図等に記した数値は、海拔標高を示す。
- 遺構図・遺物図については、各挿入中にスケールを添付したが、原則下記の縮尺で掲載した。また、遺物写真の縮尺は、実測図と同一縮尺ではない。なお、本文中のピットについては掘立・柱穴列のものはP、単独のものはピットとして扱っている。

遺構図：畑 1/100 平坦面 1/60 ヤックラ 1/100 建物 1/60 道 1/60 溝 1/100 土坑 1/60 墓 1/20
石垣 1/80 トレンチ 1/100 ピット 1/40 焼土 1/60

遺物図：縄文 1/3・1/4 土師器・須恵器 1/3・1/4 在地系 1/4 陶磁器 1/3
金属 1/1・1/2 石製品 1/2・1/3・1/4・1/6・1/10 ガラス 1/1

これ以外の縮尺の場合は、各図下部にスケールを示すか、個別図に縮尺を示している。

- 遺物の掲載は、種別に限らず遺構毎に通し番号とした。
- 本書の図版に使用したスクリーントーン及びマークは『下湯原遺跡(1)』使用のものと同じとし、以下を使用する。

遺構図平面：炭 ■ 焼土 ■ 被熱 ■ 粘土 ■ 灰面 ■ ローム ■

As-A ■ 少し焼けた土 ■ ヤックラ ■ 礫範囲 ■ 敷石範囲 ■

道範囲 ■ 集石範囲 ■ 炭範囲 ■

遺構断面図：攪乱 ■ 泥流堆積面 ■

遺物図：石仏 — 黒色彩色 赤色彩色 砥石 — 炭化物

土器 — 灰軸 ■ 漆 ■

- 遺構平面図中の遺物記号は『下湯原遺跡(1)』使用のものと同じとし、以下を使用する。

全体：● 出土遺物 祭祀(墓地)：● 土器 ○ 陶磁器 ▲ 石器・石製品 ■ 鉄・金属製品

- 銭貨の拓本は表を左、裏を右に配置した。左右逆に配置した銭貨は、数枚が重なり重なって出土している中で、他の銭貨と重なり表裏が逆であったものである。
- 遺構の計測は、全容が計測できない遺構については残存値()で記してある。なお、畑の計測では、畝間から隣の畝間までの間を畝サク間隔として計測した。
- 浅間A軽石(As-A)は、天明三(1783)年に浅間山が噴火した際に噴出した軽石の名称である。また、「天明泥流」は、天明三年新暦8月5日の浅間山噴火に伴う泥流堆積物の名称である。
- 遺物観察表における計測値の単位はcmとし、重量はgで表記している。欠損した遺物の計測値は()で現存値を示した。
- 本書で使用した地形図は以下の通りである。
国土地理院：地形図 5万分の1「草津」 国土地理院：地形図 20万分の1「長野」

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次	
表目次	
写真目次	
第1章 調査の方法と経過	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過・調査方法・調査概要・整理事業の経過	1
第3節 調査区の概要	3
第2章 遺跡の環境	6
第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	9
第3章 発見された遺構と遺物	13
第1節 時代別の概要	13
第2節 各区の様相	14
1 D1区1面の遺構	14
2 D1区2面の遺構(1)土坑(2)溝(3)畑(4)集石	19
3 D1区3面、4・5面の遺構(1)土坑(2)溝(3)ピット(4)墓	27
4 D2区1面の遺構	43
5 D2区2面の遺構(1)溝(2)畑(3)焼土	47
6 D2区3面の遺構(1)掘立柱建物(2)土坑(3)ピット(4)墓(5)畑(6)甕壇状遺構	53
7 D2区4面の遺構(1)土坑(2)ピット(3)焼土	74
8 D3区1面の遺構	77
9 D3区2面の遺構(1)土坑(2)溝	80
10 D3区3面の遺構(1)土坑(2)溝(3)ピット	85
11 D3区①1面の遺構(1)建物(2)天明泥流下の畑(3)石垣(4)集石(5)ヤッケラ	93
12 D3区①2面の遺構(1)竪穴建物(2)土坑(3)ピット(4)墓(5)焼土(6)炭化材	107
13 D3区②1面の遺構(1)道(2)天明泥流下の畑(3)集石(4)木枠	123
14 D3区②2面の遺構(1)土坑(2)溝(3)ピット(4)焼土(5)墓	129
15 D3区②3面の遺構(1)掘立柱建物(2)土坑(3)ピット(4)焼土	143
16 E5区の遺構	150
17 E7区1面の遺構(1)道(2)溝(3)墓(4)天明泥流下の畑(5)石垣(6)ヤッケラ(7)粘土採掘坑	153
18 E7区2面の遺構(1)溝	169
19 G区1面の遺構(1)溝(2)天明泥流下の畑	173
20 G区2・3面の遺構	173
第3節 自然科学分析	197
下湯原遺跡の近世人骨	

挿図目次

第1図	下関原遺跡調査区全体図	4	第64図	D3区①1面1-6号平坦面	103
第2図	地区・区・グリッドの概念図	5	第65図	D3区①1面石垣	104
第3図	下関原遺跡基本土層図	6	第66図	D3区①1面集石	105
第4図	下関原遺跡周辺の地名	7	第67図	D3区①1面ヤケラ	106
第5図	遺跡位置図	8	第68図	D3区①2面全体図	108
第6図	中世及び天明期以下の遺跡分布図	11	第69図	D3区①2面1号竪穴建物	109
第7図	D1区1面全体図、A・B土層断面図	15	第70図	D3区①2面1号竪穴建物-カマド	110
第8図	D1区1面C・D土層断面図	16	第71図	D3区①2面土坑(1)	112
第9図	D1区1面1~8号平坦面	17	第72図	D3区①2面土坑(2)	113
第10図	D1区1面9・10号平坦面、植物根痕認識面	18	第73図	D3区①2面土坑(3)	114
第11図	D1区2面全体図	20	第74図	D3区①2面ピット(1)	118
第12図	D1区2面1~9号土坑、1・2号集石	21	第75図	D3区①2面ピット(2)	119
第13図	D1区2面1~3号溝、3号集石	23	第76図	D3区①2面ピット(3)	120
第14図	D1区2面4・5号溝	24	第77図	D3区①2面5・6号墓	121
第15図	D1区2面堀	26	第78図	D3区①2面3・4号焼土、炭化材	122
第16図	D1区3面全体図	28	第79図	D3区②1面全体図	124
第17図	D1区3面土坑(1)	35	第80図	D3区②1面A~C土層断面図	125
第18図	D1区3面土坑(2)	36	第81図	D3区②1面3・4号溝	126
第19図	D1区3面土坑(3)	37	第82図	D3区②1面7~13号平坦面	127
第20図	D1区3面土坑(4)	38	第83図	D3区②1面集石、木杵遺構	128
第21図	D1区3面土坑(5)、4号溝、1号ピット	39	第84図	D3区②2面全体図	130
第22図	D1区3面1・2号墓	40	第85図	D3区②2面A~C土層断面図	131
第23図	D1区4・5面全体図	41	第86図	D3区②2面土坑(1)	135
第24図	D1区4・5面基本土層	42	第87図	D3区②2面土坑(2)	136
第25図	D2区1面A土層断面図	43	第88図	D3区②2面1~4号溝	137
第26図	D2区1面全体図	44	第89図	D3区②2面5~7号溝	138
第27図	D2区1面1~8号平坦面	45	第90図	D3区②2面8~11号溝	139
第28図	D2区1面9・10号平坦面、4・8号平坦面平・断面図	46	第91図	D3区②2面ピット(1)	141
第29図	D2区2面全体図	48	第92図	D3区②2面ピット(2)、5・6号焼土	142
第30図	D2区2面1・2号溝	49	第93図	D3区②3面全体図	144
第31図	D2区2面3号溝、堀	50	第94図	D3区②3面1号掘立柱建物	145
第32図	D2区2面焼土	52	第95図	D3区②3面土坑、7号焼土	148
第33図	D2区3面全体図	54	第96図	D3区②4面ピット、21号墓	149
第34図	D2区3面1号掘立柱建物	56	第97図	E5区全体図	151
第35図	D2区3面2号掘立柱建物	58	第98図	E5区A・B・C土層断面図	152
第36図	D2区3面土坑	62	第99図	E7区1面全体図	154
第37図	D2区3面ピット(1)	67	第100図	E7区1面A・B土層断面図	155
第38図	D2区3面ピット(2)	68	第101図	E7区1面C~F土層断面図	156
第39図	D2区3面ピット(3)、1号墓	69	第102図	E7区1面G~J土層断面図	157
第40図	D2区3面堀	70	第103図	E7区1面K土層断面図	158
第41図	D2区3面離壇状遺構(1)	72	第104図	E7区1面1号道(1)	160
第42図	D2区3面離壇状遺構(2)	73	第105図	E7区1面1号道(2)	161
第43図	D2区4面全体図	75	第106図	E7区1面1号溝(1)	162
第44図	D2区4面土坑、ピット、焼土	76	第107図	E7区1面1号溝(2)	163
第45図	D3区1面全体図	78	第108図	E7区1面1号溝(3)	164
第46図	D3区1面柱大図	79	第109図	E7区1面1~3号墓、1~3号平坦面	165
第47図	D3区2面全体図	81	第110図	E7区1面石垣B	166
第48図	D3区2面土坑	82	第111図	E7区1面ヤケラ	167
第49図	D3区2面1~3号溝	83	第112図	E7区1面1~3号粘土層遺構	168
第50図	D3区2面4~5号溝	84	第113図	E7区2面全体図	170
第51図	D3区3面全体図	86	第114図	E7区2面2~4号溝	171
第52図	D3区3面土坑、6・7号溝	89	第115図	E7区2面4号溝	172
第53図	D3区3面8~11・17号溝	90	第116図	G区1面全体図	174
第54図	D3区3面12~16号溝	91	第117図	G区1面A~F土層断面図	175
第55図	D3区3面ピット	92	第118図	G区1面南壁A、北西壁A土層断面図	176
第56図	D3区①1面全体図、A土層断面図	94	第119図	G区1面1号溝	177
第57図	D3区①1面B・C土層断面図	95	第120図	G区1面煙土層断面図	178
第58図	D3区①1面1号建物	97	第121図	G区1面煙2	179
第59図	D3区①1面1号建物押入裏、火床	98	第122図	G区1面煙土層断面図	180
第60図	D3区①1面1号建物1・2号焼土	99	第123図	G区2面全体図	181
第61図	D3区①1面堀、1・2号便槽	100	第124図	G区2面A・B、北西壁A・B土層断面図	182
第62図	D3区①1面2号建物	101	第125図	G区3面北西壁A土層断面図	183
第63図	D3区①1面2号建物押入裏	102	第126図	D1区、2区出土遺物	184

第127図	D 2区、3区、3区①出土遺物	185
第128図	D 3区①出土遺物	186
第129図	D 3区①、E 5区、7区出土遺物	187

第130図	E 7区出土遺物	188
第131図	E 7区出土遺物	189

表目次

第1表	周辺の中・近世遺跡一覧表	10
第2表	周辺の中世城跡踏査表	11
第3表	土坑一覧表	190
第4表	ピット一覧表	192
第5表	遺物観察表	194
第6表	縄文土器の胎土分類表	196
第7表	下周原遺跡出土人骨まとめ	207

写真目次

P.L. 1	1 下周原遺跡遠景南西端部(北東から)	7	D 1区3面37・45号土坑(北から)
	2 D 3区1面全景(南西から)	8	D 1区3面39号土坑断面(東から)
P.L. 2	1 D 2区1面畑検出状況(北から)	1	D 1区3面40号土坑(東から)
	2 D 2区1面畑検出状況(南から)	2	D 1区3面44号土坑(北から)
P.L. 3	1 D 1区1面全景(西から)	3	D 1区3面45号土坑(北から)
	2 D 1区1面A(北西から)	4	D 1区3面46号土坑(北から)
	3 D 1区1面A-D(北から)	5	D 1区3面48号土坑(東から)
	4 D 1区1面植物痕跡確認(北から)	6	D 1区3面49号土坑(東から)
	5 D 1区2面東側(北から)	7	D 1区3面50号土坑(北から)
P.L. 4	1 D 1区2面全景(北から)	8	D 1区3面51～53号土坑(北から)
	2 D 1区2面西側(北から)	1	D 1区3面54号土坑(北から)
	3 D 1区2面1号土坑(北から)	2	D 1区3面55・56号土坑(北から)
	4 D 1区2面2～9号土坑、1・2号集石、4号溝(北から)	3	D 1区3面57号土坑(北から)
	5 D 1区2面1号溝(北西から)	4	D 1区3面60号土坑断面(南から)
P.L. 5	1 D 1区2面2号溝(北から)	5	D 1区3面61号土坑(北から)
	2 D 1区2面3号溝(北から)	6	D 1区3面62号土坑断面(西から)
	3 D 1区2面3号集石(南から)	7	D 1区3面4号溝(南から)
	4 D 1区2面3号溝断面(北から)	8	D 1区3面1号墓(北から)
	5 D 1区2面4号溝(西から)	P.L. 12	1 D 1区3面1号墓断面(西から)
	6 D 1区2面5号溝(北から)	2	D 1区3面2号墓(南から)
	7 D 1区2面5号溝断面(北から)	3	D 1区3面2号墓(北から)
	8 D 1区2面1・2号集石(南から)	4	D 1区3面2号墓断面(南から)
P.L. 6	1 D 1区2面畑(北から)	5	D 1区4・5面B(南から)
	2 D 1区3面西側(東から)	6	D 2区1面畑(北から)
	3 D 1区3面全景(北から)	7	D 2区1面A(西から)
	4 D 1区3面中央(東から)	8	D 2区1面3号平坦面(北から)
	5 D 1区3面東側(東から)	P.L. 13	1 D 2区1面全景(南西から)
P.L. 7	1 D 1区3面10号土坑断面(南から)	2	D 2区1面4号平坦面(北から)
	2 D 1区3面11号土坑(北から)	3	D 2区1面7号平坦面(北から)
	3 D 1区3面12号土坑(南から)	4	D 2区1面8号平坦面(北から)
	4 D 1区3面13号土坑(南から)	5	D 2区2面1号溝(北から)
	5 D 1区3面14・15号土坑(北西から)	P.L. 14	1 D 2区2面2号溝(北東から)
	6 D 1区3面16・17・33・58・59号土坑(北から)	2	D 2区2面3号溝・畑(北から)
	7 D 1区3面18号土坑(北から)	3	D 2区2面3号溝断面(北から)
P.L. 8	1 D 1区3面19・20・32号土坑(西から)	4	D 2区2面1号焼土(北から)
	2 D 1区3面21号土坑(南から)	5	D 2区2面2号焼土(北から)
	3 D 1区3面22号土坑(南から)	6	D 2区2面3号焼土(北から)
	4 D 1区3面23号土坑(北から)	7	D 2区2面4号焼土(北から)
	5 D 1区3面24号土坑(北から)	8	D 2区2面5号焼土(北から)
	6 D 1区3面25・29号土坑、1号ピット(北から)	P.L. 15	1 D 2区2面6号焼土(北から)
	7 D 1区3面26・38号土坑(北から)	2	D 2区2面7号焼土(東から)
	8 D 1区3面27号土坑(北から)	3	D 2区2面8号焼土断面(西から)
P.L. 9	1 D 1区3面29号土坑(北から)	4	D 2区2面9号焼土(西から)
	2 D 1区3面30号土坑(北から)	5	D 2区2面遺物集中(東から)
	3 D 1区3面31号土坑(南から)	P.L. 16	1 D 2区3面全景(北から)
	4 D 1区3面32号土坑(北から)	2	D 2区3面1号竪立建物(北から)
	5 D 1区3面34号土坑(北から)	1	D 2区3面1号竪立建物P 1(北から)
	6 D 1区3面35・36号土坑(北から)	2	D 2区3面1号竪立建物P 2(北から)

	3	D 2区3面1号独立建物 P 3 (北から)		3	D 2区4面19号土坑(北から)
	4	D 2区3面1号独立建物 P 4 (北から)		4	D 2区4面20号土坑(北から)
	5	D 2区3面1号独立建物 P 5 (北から)		5	D 2区4面21号土坑(北から)
	6	D 2区3面1号独立建物 P 6 (北から)		6	D 2区4面33号ビツト断面(南から)
	7	D 2区3面1号独立建物 P 7 (北から)	P L . 25	1	D 2区4面33号ビツト(北から)
	8	D 2区3面1号独立建物 P 8 (北から)		2	D 2区4面11号境土(東から)
	9	D 2区3面1号独立建物 P 9 (北から)		3	D 2区4面12号境土(北から)
	10	D 2区3面1号独立建物 P 10 (北から)		4	D 2区1面全景(南東から)
	11	D 2区3面1号独立建物 P 11 (北から)	P L . 26	1	D 3区1面棚(南西から)
	12	D 2区3面1号独立建物 P 12 (北から)		2	D 3区2面1号土坑(北から)
	13	D 2区3面1号独立建物 P 13 (北から)		3	D 3区2面2号土坑断面(北から)
	14	D 2区3面1号独立建物 P 14断面(北から)		4	D 3区2面3号土坑断面(北から)
	15	D 2区3面1号独立建物 P 14 (北から)		5	D 3区2面1・2・3号溝(南から)
P L . 18	1	D 2区3面2号独立柱建物(北から)	P L . 27	1	D 3区2面3号溝(北から)
	2	D 2区3面2号独立建物 P 1 (北から)		2	D 3区2面4号溝(北から)
	3	D 2区3面2号独立建物 P 2 (北から)		3	D 3区2面4号溝断面(南から)
	4	D 2区3面2号独立建物 P 3 (北から)		4	D 3区2面5号溝(西から)
	5	D 2区3面2号独立建物 P 4 (北から)		5	D 3区3面全景(北から)
P L . 19	1	D 2区3面1号土坑(北から)	P L . 28	1	D 3区3面4号土坑(西から)
	2	D 2区3面2号土坑(北から)		2	D 3区3面5号土坑(南から)
	3	D 2区3面3号土坑(北から)		3	D 3区3面6号土坑(南から)
	4	D 2区3面5号土坑断面(北から)		4	D 3区3面7号土坑(南から)
	5	D 2区3面6号土坑(北から)		5	D 3区3面8号土坑(南から)
	6	D 2区3面7号土坑(北から)		6	D 3区3面9号土坑(北東から)
	7	D 2区3面8号土坑断面(北から)		7	D 3区3面6・7号溝(北から)
	8	D 2区3面10号土坑(北から)		8	D 3区3面8号溝遺物出土状況(北東から)
P L . 20	1	D 2区3面12号土坑(南西から)	P L . 29	1	D 3区3面8～10・16号溝(北から)
	2	D 2区3面13号土坑(北から)		2	D 3区3面9号土坑、8・9・17号溝(西から)
	3	D 2区3面15号土坑(南から)	P L . 30	1	D 3区3面5～7号土坑、11～15号溝(北から)
	4	D 2区3面1号ビツト(北から)		2	D 3区3面16号溝断面(北西から)
	5	D 2区3面2号ビツト(北から)	P L . 31	1	D 3区①1面北側(北から)
	6	D 2区3面3号ビツト(北から)		2	D 3区①1面1号建物(東から)
	7	D 2区3面4号ビツト(北西から)	P L . 32	1	D 3区3面1号ビツト(南から)
	8	D 2区3面5号ビツト(南から)		2	D 3区①1面B・C(東から)
	9	D 2区3面6号ビツト(北から)		3	D 3区①1面C(東から)
P L . 21	1	D 2区3面7号ビツト(北から)		4	D 3区①1面B(東から)
	2	D 2区3面8号ビツト(北から)		5	D 3区①1面1号建物伊勢(南から)
	3	D 2区3面9号ビツト(北から)		6	D 3区①1面1号建物伊勢断面(北から)
	4	D 2区3面10号ビツト(北から)		7	D 3区①1面1号建物伊勢断面(南から)
	5	D 2区3面11号ビツト(北から)		8	D 3区①1面1号建物伊勢中断面(南から)
	6	D 2区3面12号ビツト(北から)	P L . 33	1	D 3区①1面1号建物境土1(北から)
	7	D 2区3面13号ビツト(北から)		2	D 3区①1面1号建物境土2(北から)
	8	D 2区3面14号ビツト(北から)		3	D 3区①1面側、1・2号便槽(東から)
	9	D 2区3面15号ビツト(北から)		4	D 3区①1面側、1・2号便槽(西から)
	10	D 2区3面16号ビツト(北から)		5	D 3区①1面側、1号便槽断面(東から)
	11	D 2区3面17号ビツト(北から)		6	D 3区①1面側、2号便槽断面(東から)
	12	D 2区3面18号ビツト(北から)		7	D 3区①1面土手西端、石垣(東から)
	13	D 2区3面19号ビツト(北から)		8	D 3区①1面土手西端、石垣(北から)
	14	D 2区3面20号ビツト(北から)	P L . 34	1	D 3区①1面2号建物(南から)
	15	D 2区3面21号ビツト(北から)		2	D 3区①1面2号建物伊勢(南から)
P L . 22	1	D 2区3面22号ビツト(北から)	P L . 35	1	D 3区①1面土手(東から)
	2	D 2区3面23号ビツト(北から)		2	D 3区①1面集石(南から)
	3	D 2区3面24号ビツト(北から)		3	D 3区①1面ヤックラ(北から)
	4	D 2区3面25号ビツト(北から)		4	D 3区①2面南側(南から)
	5	D 2区3面26号ビツト(北から)	P L . 36	1	D 3区①2面北側(東から)
	6	D 2区3面27号ビツト(北から)		2	D 3区①2面1号整穴建物床面(南から)
	7	D 2区3面28号ビツト(北から)	P L . 37	1	D 3区①2面1号整穴建物 P 1 (南から)
	8	D 2区3面29号ビツト(北から)		2	D 3区①2面1号整穴建物 P 2 (南から)
	9	D 2区3面30号ビツト(北から)		3	D 3区①2面1号整穴建物 P 3 (南から)
	10	D 2区3面31号ビツト(北から)		4	D 3区①2面1号整穴建物 貯蔵穴(南から)
	11	D 2区3面32号ビツト(北から)		5	D 3区①2面1号整穴建物掘り方(南から)
	12	D 2区3面1号墓(南から)	P L . 38	1	D 3区①2面1号整穴建物カマド(南から)
P L . 23	1	D 2区3面1号墓(東から)		2	D 3区①2面1号整穴建物カマド掘り方断面(南から)
	2	D 2区3面2号墓(北東から)		3	D 3区①2面1号整穴建物カマド掘り方断面(西から)
P L . 24	1	D 2区4面全景(西から)		4	D 3区①2面1号整穴建物床下埋土(西から)
	2	D 2区4面17号土坑(北から)		5	D 3区①2面1号土坑断面(東から)

P.L.39	6	D3区①2面2・3号土坑(北西から)	P.L.46	1	D3区②2面1号溝断面(南西から)		
	7	D3区①2面5号土坑(南から)		2	D3区②2面1号溝断面(南西から)		
	8	D3区①2面8号土坑(南から)		3	D3区②2面2・3号溝(北から)		
	1	D3区①2面9号土坑(南から)		4	D3区②2面2・3号溝断面(南から)		
	2	D3区①2面10号土坑(南から)		5	D3区②2面4号溝(北から)		
P.L.40	3	D3区①2面11号土坑断面(東から)	P.L.47	6	D3区②2面4号溝断面(南から)		
	4	D3区①2面11・12号土坑(南から)		7	D3区②2面5号溝断面(南西から)		
	5	D3区①2面14号土坑断面(西から)		1	D3区②2面5～8号溝(北から)		
	6	D3区①2面14号土坑(西から)		2	D3区②2面6号溝断面(南西から)		
	7	D3区①2面15号土坑(南から)		3	D3区②2面7号溝断面(南西から)		
	8	D3区①2面16号土坑(北から)		4	D3区②2面8号溝断面(南西から)		
	1	D3区①2面7号ピット(南から)		P.L.48	5	D3区②2面9号溝(南から)	
	2	D3区①2面8号ピット(南から)			1	D3区②2面9～11号溝(南から)	
	3	D3区①2面9号ピット(南から)			2	D3区②2面10号溝(北から)	
	4	D3区①2面10号ピット(南から)			3	D3区②2面9・11号溝(南から)	
5	D3区①2面11号ピット(南から)	P.L.49	1		D3区②2面30号ピット(南から)		
6	D3区①2面12号ピット(南から)		2		D3区②2面37号ピット(東から)		
7	D3区①2面13号ピット(南から)		3		D3区②2面38号ピット(北東から)		
8	D3区①2面14号ピット(南から)		4		D3区②2面39号ピット(北東から)		
9	D3区①2面15号ピット(南から)		5		D3区②2面40号ピット(南東から)		
10	D3区①2面16号ピット(南から)		6		D3区②2面41号ピット(東から)		
11	D3区①2面18号ピット(南から)		7	D3区②2面42号ピット(東から)			
12	D3区①2面19号ピット(南から)		8	D3区②2面43号ピット(東から)			
13	D3区①2面20号ピット(南から)		9	D3区②2面44号ピット(南西から)			
14	D3区①2面21号ピット(南から)		P.L.50	10	D3区②2面5号焼土(南から)		
15	D3区①2面22号ピット(南から)	11		D3区②2面6号焼土(南東から)			
P.L.41	1	D3区①2面23号ピット(南から)		1	D3区③3面1号独立柱建物(北から)		
	2	D3区①2面24号ピット(南から)		2	D3区③3面1号独立柱建物P1(南から)		
	3	D3区①2面25号ピット(南から)		3	D3区③3面1号独立柱建物P2(南から)		
	4	D3区①2面26号ピット(南から)		4	D3区③3面1号独立柱建物P3(南から)		
	5	D3区①2面27号ピット(南から)		5	D3区③3面1号独立柱建物P4(南から)		
	6	D3区①2面28号ピット(南から)		6	D3区③3面1号独立柱建物P5(南から)		
	7	D3区①2面29号ピット(南から)		7	D3区③3面1号独立柱建物P6(南から)		
	8	D3区①2面30号ピット(南から)		P.L.51	1	D3区③3面19・20号土坑(西から)	
	P.L.42	1	D3区①2面5号墓断面(西から)		2	D3区③3面21号土坑(南から)	
		2	D3区①2面5号墓(南から)		3	D3区③3面33・34・37号土坑、7号焼土(南から)	
3		D3区①2面6号墓断面(東から)	4		D3区③3面35号土坑(南から)		
4		D3区①2面6号墓(南から)	5		D3区③3面36号土坑(南から)		
5		D3区①2面6号墓(南から)	6		D3区③3面37号土坑(北から)		
6		D3区①2面3号焼土(南から)	7		D3区③3面31号ピット(南から)		
7		D3区①2面4号焼土(南から)	8		D3区③3面32号ピット(南から)		
8		D3区②1面3号道(南から)	P.L.52		9	D3区③3面33号ピット(南から)	
1		D3区②1面4号道(南から)			1	D3区③3面34号ピット(南から)	
2		D3区②1面8号平坦面(南から)		2	D3区③3面35号ピット(東から)		
3	D3区②1面9号平坦面(南から)	3		D3区③3面21号墓(東から)			
4	D3区②1面11号平坦面(南から)	4		D3区③3面21号墓(南から)			
5	D3区②1面集石(南から)	P.L.53		5	E5区全景(北西から)		
6	D3区②1面木神(西から)			1	E5区A(北東から)		
7	D3区②1面木神(西から)			2	E5区A断面(西から)		
8	D3区②2面18号土坑(北から)			3	E5区B(南西から)		
P.L.44	1			D3区②2面23号土坑(南から)	4	E5区B断面(北西から)	
	2		D3区②2面24号土坑(南西から)	5	E5区C(北西から)		
	3		D3区②2面25号土坑(南から)	6	E5区C断面(北西から)		
	4		D3区②2面26号土坑(南西から)	7	E5区畑(南西から)		
	5	D3区②2面27号土坑(南西から)	8	E5区畑(南西から)			
	6	D3区②2面28号土坑(南から)	P.L.54	1	E7区1面全景(北東から)		
	7	D3区②2面29号土坑(西から)		2	E7区1面東端部調査風景(北西から)		
	8	D3区②2面30号土坑(南から)		P.L.55	1	E7区1面A断面(東から)	
	P.L.45	1			D3区②2面31号土坑(南西から)	2	E7区1面B断面(北西から)
		2			D3区②2面32号土坑(北東から)	3	E7区1面C断面(南西から)
3		D3区②2面38号土坑・45号ピット(南西から)			4	E7区1面D断面(北から)	
4		D3区②2面39・40号土坑(南西から)			5	E7区1面E断面(北西から)	
5		D3区②2面41号土坑(北東から)			6	E7区1面F断面(北西から)	
6		D3区②2面42・43号土坑(北東から)			7	E7区1面G断面(北西から)	
7		D3区②2面44号土坑(南西から)			8	E7区1面H断面(西から)	
8		D3区②2面1号溝(北から)	P.L.56		1	E7区1面I断面(西から)	

- 2 E7区1面K断面(北西から)
 - 3 E7区1面1号溝、1号道、石垣(西から)
 - 4 E7区1面1号道、石垣(西から)
 - 5 E7区1面1号溝、1号道、石垣(西から)
 - 6 E7区1面1号道、石垣(西から)
 - 7 E7区1面1号道、石垣(西から)
 - 8 E7区1面1号墓断面(南東から)
- P L .57
- 1 E7区1面1号墓(東から)
 - 2 E7区1面2号墓(北から)
 - 3 E7区1面2号墓(北から)
 - 4 E7区1面3号墓断面(北から)
 - 5 E7区1面3号墓(東から)
 - 6 E7区1面ヤッケラ(北から)
 - 7 E7区2面2号溝(東から)
 - 8 E7区2面3号溝(西から)
- P L .58
- 1 E7区2面4号溝(西から)
 - 2 G区1面A(北から)
 - 3 G区1面全景(北から)

- 4 G区1面B(北から)
 - 5 G区1面C断面(北西から)
- P L .59
- 1 G区1面D(西から)
 - 2 G区1面E(東から)
 - 3 G区1面F(南東から)
 - 4 G区1面南壁断面(北から)
 - 5 G区1面1号溝(南西から)
- P L .60
- 1 G区1面北西壁(南から)
 - 2 G区1面1号溝断面(南西から)
 - 3 G区1面畑2南側(北から)
 - 4 G区1面南東壁北側断面(南から)
 - 5 G区2面南側(西から)
- P L .61
- 1 G区2面北側(西から)
 - 2 G区2面A(西から)
 - 3 G区2面B(東から)
 - 4 G区2面北東壁A(南西から)
 - 5 G区2面北側(南東から)

第1章 調査の方法と経過

第1節 調査に至る経過

吾妻川は源を群馬・長野県境の烏居峠に発し、浅間山・草津白根山の中間を東流して万座川・熊川・白砂川等の支流を合わせる。途中、吾妻峡と称される美観をつくりながら、さらに温川・四万川・名久田川等の支流を合わせ、渋川市付近で利根川と合流する全長76.2kmの一級河川である。

ハッ場ダムは、吾妻川の中流に建設され①洪水調節②流水の正常な機能維持③水道及び工業用水の新たな確保並びに発電を目的とする多目的ダムで、天端標高586m・堤高116m・湛水面積約3.0km²・総貯水容量1,075万m³の規模を測る重力式コンクリートダムである。

ダム位置は、左岸が群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑字ハッ場、右岸が大字河原湯字金花山にあり、名勝「吾妻狭」の入り口付近にあたる。

ハッ場ダム建設計画は、「昭和24年利根川改修改定計画」の一環として昭和27年5月に調査着手後、平成4年7月「ハッ場ダム建設事業に係る基本協定書」及び「用地補償調査に関する協定書」が締結されることによって本格着工となった。

ハッ場ダム建設事業に伴う埋蔵文化財調査の実施に関しては、平成6年3月18日に建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長との間で「ハッ場ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」が締結され、埋蔵文化財発掘調査事業の実施計画が決定した。これにより委託者である建設省関東地方建設局長と受託者である群馬県教育委員会教育長とが年度区分ごとに発掘調査受委託契約を締結のうえ、以後発掘調査が実施されることとなったのである。

この協定を踏まえて、平成6年4月1日に関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長により発掘調査受委託契約を、同日に群馬県教育委員会教育長と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長により発掘調査受委託契約を締結し、ハッ場ダム進入路関連遺跡を調査箇所とするハッ場ダム埋蔵文化財発掘調査が開始された。

平成11年4月1日には、建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長の間で、「ハッ場ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定の一部を変更する協定書(第1回変更)」が締結され、発掘調査受委託契約についての変更が行われた。これにより受託者が群馬県教育委員会教育長から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長へ変更となり、現在の調査体制に至っている。

また、平成17年4月1日、同協定書(第2回変更)の締結により、発掘調査の業務完了期日が、「平成18年3月31日」から「平成23年3月31日」まで延長。平成20年3月31日同協定書(第3回変更)の締結により、発掘調査の業務完了期日が「平成28年3月31日」まで延長。「平成28年3月25日」同協定書(第4回変更)の締結により、発掘調査の業務完了期日が「平成29年3月31日」まで延長。平成29年3月29日、同協定書(第5回変更)の締結により、発掘調査の業務完了期日が「平成32年3月31日」まで延長された。

第2節 調査経過・調査方法・調査概要・整理事業の経過

1 調査経過

下湯原遺跡は、長野原町大字川原湯字下湯原および新井の門地内に存在する。平成22年5月に群馬県教育委員会文化財保護課が試掘調査を実施し、江戸時代天明三年浅間山噴火に伴う泥流下の畑と中世の遺構等が確認された。

調査は発掘対象面積が広大であるため、調査区を分割して、平成27年から令和元年にかけて4年間行われた。

平成27年度には66,175m²、平成28年度には7,908m²、更に平成29年度には13,051m²の調査が行われた。また平成31年(令和元年)4月1日～7月31日には、過去3年間の調査の際に現有道路として利用されていたため調査不能だった地点を対象に調査を進めた。この調査の内容に関しては、本書では報告しない。

2 調査方法

下湯原遺跡は、主に吾妻川中段段丘面上に立地し、厚さ0.3～2mの天明泥流に被覆されている。

調査方法について細部については各年度により若干の違いがみられるが、大局的には先ずバックホーを使用することにより天明泥流の除去作業から始めた。その後発掘作業員を導入して、動機や移植ゴテ等による遺構の検出作業、並びにトレンチ掘削や断ち割り作業等により遺構調査を実施した。

遺物の取り上げについては、遺構別・地点別取り上げを基本とし、表土中の遺物や遺構が明確でない地点から出土した遺物に関しては遺構外遺物として取り上げた。

遺構平面測量・断面測量にあたっては、測量業者委託によるデジタル測量を基本として、縮率1/10・1/20・1/40を基準に、縮率を適宜選択して実施した。

遺構写真については、現場担当者によるデジタルカメラ及び6×7版モノクロネガフィルムを使用した撮影の他、より広範囲の撮影については、高所作業車使用の高所写真撮影、業者委託による航空写真撮影(ラジコンヘリコプター)等を行った。

3 調査概要

① 27年度調査

調査は平成27年4月1日から12月31日まで行われた。当初は共同企業体により調査区を1・2・3工区としていたが、1工区は中央部分1か所、2工区は国道を挟んで南と北に分かれた2か所、3工区は西・東・南東端の3か所に分かれた地区が設定されていたため、そのままの名称で調査を進めることは不都合であったので、調査区は地形等の差により再分割を行ってA区～F区の6区として呼称した(第1図)。

A区では、天明泥流の畑の他に縄文時代中期から後期の遺構遺物や平安時代の竪穴建物を含む遺構・遺物が検出された。

平安時代の竪穴建物はA区で5棟検出されたが、他の区においてはF区で破壊を受けた1棟が発見されたのみである。また、中世の掘立柱建物が集中して造られていた。

B・C区では、天明泥流下の畑の下から更に古い畑が

検出された。特にC区では耕作方向の異なる畑が広い面積で確認されている。またB区では中・近世の掘立柱建物が調査された。

D区では、天明泥流下の畑の他に中・近世の掘立柱建物や墓・道・石垣等が確認された。

E区では、天明泥流下の畑の他に同じ時期の墓地を調査した。泥流に埋没以降は墓地としては利用されていなかったようである。

ここでは石垣を伴う平坦面が造成され、そこに建物が建てられており、建物の周囲には多くの墓が造られていた。更に石垣を伴う村の幹線道路も発見されている。

F区では、天明泥流下の畑の更の下から天明泥流以前の山崩れなどにより埋没した3面の畑が調査された。天明泥流以前の災害史を考えるうえで、貴重な資料となっている。

更にそれぞれの区は地形や道路や線路等に分割されているため、A区はA1区・A2区に、B区はB1区・B2区に、C区はC1区・C2区・C3区に、E区はE1区・E2区・E3区・E4区・E5区・E6区及びE7区に細分されている。

27年度の調査区に関して、A区～C区に関しては全て『下湯原遺跡(1)』で報告済みであるが、D区については継続して28年度にもD3区①・②として調査が行われており、この地区とE区の西端(E5区・E7区)については、未報告であるため本書で報告を行う。

② 28年度調査

調査は平成28年4月1日から平成28年6月30日と9月1日から10月31日の2回に分けて行われた。

調査区は27年度に調査されたD2区の西に隣接し、調査区の西端が吾妻川に注ぐ小河川の打越沢に接しているD3区①と、旧川原湯温泉街に上る道路の下部分であるD3区②に分けられる。

D3区①では、天明泥流下の畑の他に、掘立柱建物が2棟、1棟の建物に隣接して2基の便槽を伴う厩、耕作に邪魔になった石を集めたヤックラ、集石遺構や造成された平坦面、泥流堆積以降に造られた多くの墓などが検出され、下の面からは泥流堆積以前の墓や平安時代の竪穴建物が1棟、焼土や炭化材が集まっている場所などが検出された。

D3区②では、天明泥流下畑の他に、道・集石遺構・平坦面や畑の畝の方向に沿った形で約1m四方に造られた木製の枠が検出された。畑に伴う施設であると推定されるが、機能は不明である。

下の面からはピット・土坑・溝・焼土の他、墓・掘立柱建物などが検出された。

③ 29年度調査

調査は平成29年10月1日から平成29年12月26日まで行われた。

調査区は遺跡全体の北東端部に位置し、南西は27年度F区に接し、北東は吾妻川に接している。この区をG区として調査を進めた。

遺構は後世の攪乱により破壊されている部分も多いが、天明泥流下畑が検出された。更に下の面に遺構があるかトレンチ調査をしたところ、遺構が確認できなかったため1面だけの調査で終了した。

4 整理事業の経過

整理事業は平成31年4月1日から令和元年11月30日まで実施した。

作業は各年度の遺構平面図・遺構写真の確認から開始し、遺構写真の選定を行った。遺物については27年度調査分に関しては、撮影・実測作業が完了していたため、28年度以降の出土遺物について接合・復元、写真撮影・実測・トレース作業を行い観察表を作成した。

更に遺構図を編集した後報告書レイアウトを作成、全体のデジタル編集作業及びデジタル版組を行い報告書を作成した。

第3節 調査区の概要

1 遺跡番号について

平成6年度から始まったハッ場ダム建設に伴う発掘調査においては、遺跡名勝の略号やグリッドの設定などについて「ハッ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」に基づき進められている。以下本書でもそれに準拠し必要部分について記載する。

調査における遺跡番号は、ハッ場ダム建設にかかわる

長野原町の大字5地区(1:河原畑、2:川原湯、3:横壁、4:林、5:長野原)と東吾妻町の大字3地区(6:三島、7:大柏木、8:松谷)に番号を付し、ハッ場ダムの略号(YD)に続ける。ハイフン以下は各地区内に所在する遺跡について、調査順に通し番号を付し遺跡番号とする。

下湯原遺跡は、長野原町の小字番号が2番である川原湯に存在し、川原湯において4番目に調査された遺跡であるため「YD2-04」となる。

2 基準座標について

基準座標は、国家座標(2002年4月改正以前の日本測地系)に基づく平面直角座標第Ⅸ系(日本測地系)を使用し、東吾妻町大柏木付近を原点(座標値X=+58000.0、Y=-97000.0)とした1km方眼を基点として、ハッ場ダム関連の調査区域全域を区画すると、60区画に分割することができる。南東端のグリッドにNo.1の番号を付け、西に向かってNo.2・No.3と順に称していくと、北西端のグリッドはNo.60となる。

この1辺1kmの「大グリッド」を「地区」と呼ぶ。本遺跡はNo.34に所在する。

更に1辺1km「地区」を1辺100m四方のグリッドに分割すると、東西10グリッド×南北10グリッドの100区画が生まれる。

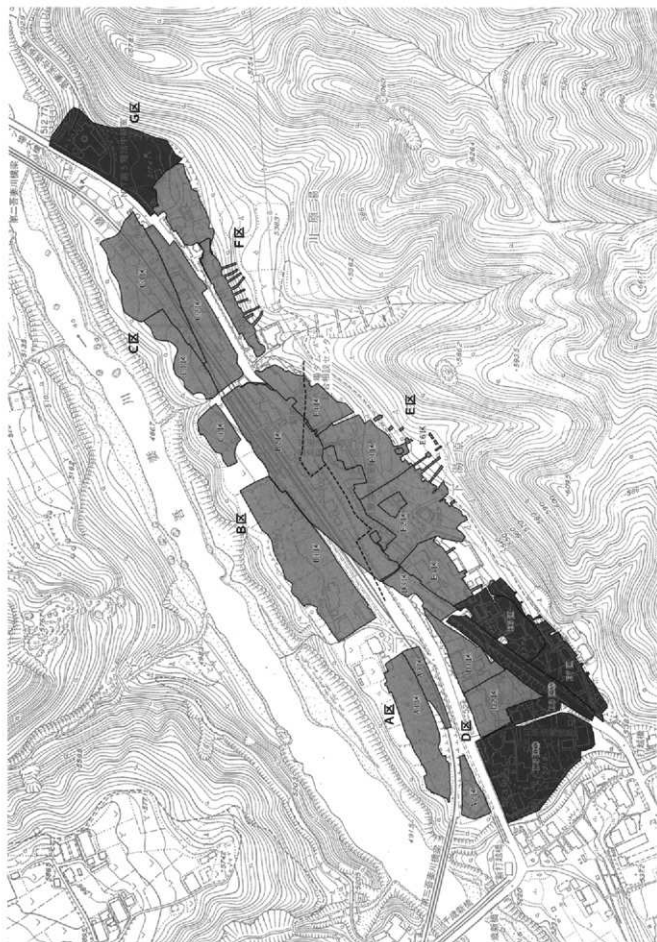
南東端のグリッドを1として、西へ向かって1~10の番号を付し、1の北側を11、更に北を21とすると、北西端のグリッドは100となる。この「地区」を100分した「中グリッド」を「区」とする。(第2図参照)

更に1辺100mの「区」を4m×4mの区画で分割すると縦25区×横25区の総計625の区画ができる。

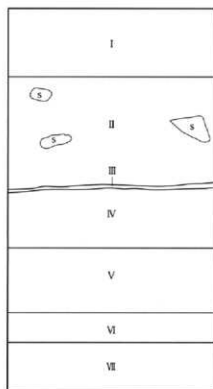
この「小グリッド」を「グリッド」と呼び、南東端のグリッドをA1、西に向かってB1・C1・D1と呼称していくと、南西端は25区画あるのでY1グリッドとなる。

また、A1グリッドの北の区画をA2グリッド、更に北をA3グリッドと呼称していくと、北東隅はA25グリッドとなり北西隅はY25グリッドとなる。(表2参照)

このように、地区番号・区番号・グリッド番号を記載することで、ハッ場ダム発掘調査地域における特定の地点を、4m×4mのグリッド区画まで平面的な座標値として特定することができる。



第1図 下田原町調査区全体図



- | | |
|----------------------|--------------------------------------|
| I層 暗褐色土(10YR3/3) | 現在の耕作土及び表土。 |
| II層 暗褐色土(10YR3/3) | 天明泥流:天明三年(1783) |
| III層 浅間A軽石(As-A) | 天明三年(1783)発砲のよい白色軽石2~4mm
大の軽石が主体。 |
| IV層 ぶい黄褐色(7.5YR6/4) | 粒子細かくしまり、粘性弱い。 |
| V層 ぶい褐色土(7.5YR5/4) | IV層よりやや暗い。土質はIV層に近い。 |
| VI層 ぶい褐色土(7.5YR5/4) | V層に近い。所々に黄褐色の山砂含む。 |
| VII層 ぶい橙色土(7.5YR7/4) | 固くしまった土層、ロームに近い。 |

第3図 下湯原遺跡基本土層模式図

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

長野原町は群馬県北西部、吾妻郡の南西隅に位置する。町城の北部を吾妻川が東流し川を挟んで北西には草津白根山、南西には浅間山が位置する。また東部には、吾妻川の北に高間山(1,342m)や王城山(1,123m)、南には丸岩(1,124m)・菅峰(1,474m)・浅間隠山(1,757m)、鼻曲山(1,650m)などが南北に連なる(第4図)。

長野原町は、その地形的特徴から、高間及び白根の両山系と菅峰に挟まれた吾妻川流域の北部と、浅間山麓の南部とに大別される。

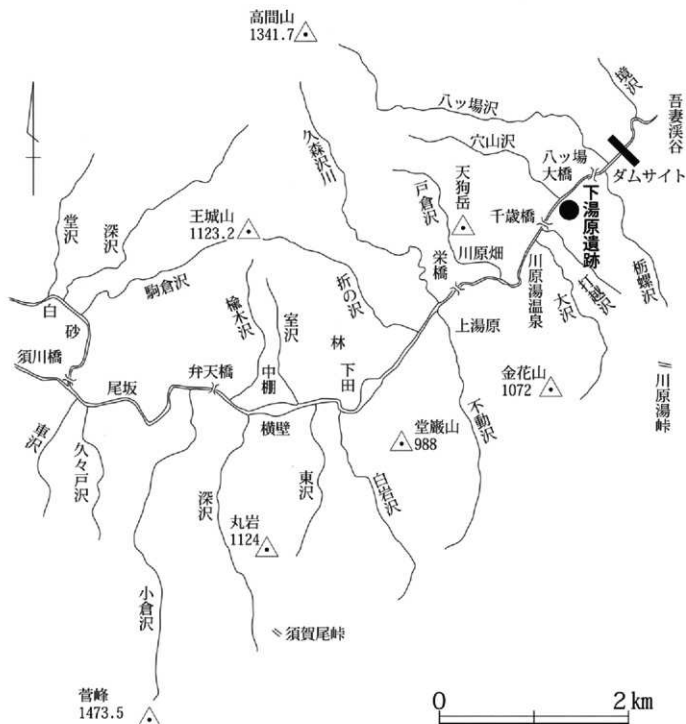
吾妻川は長野県境の鳥居峠(1,362m)付近に水源を發して東流し、町城のほぼ中央では川幅をやや広くするものの、東端では新第三紀層を刻んで吾妻渓谷を形成している。その支流は兩岸の山地から發する河川や溪流が多く、左岸には草津白根山麓から發する万座川や赤川、遅

沢川、上信越国境の白砂山麓から發する白砂川などが南流する。また右岸には浅間山麓から發する小宿川や、鼻曲川麓から發する熊川などが北流する。

流長76.2kmの吾妻川は、渋川市街付近で、全長322kmの利根川に合流する。

高間山や王城山、菅峰等約90~100万年頃前に活動していた火山であるが、現在は浸食が進みほとんど原型を留めていない。丸岩は南側を除いた三方が100mにも達する垂直の崖に囲まれ、吾妻川方面から望むと巨大な円柱状に見える特徴的な潜在円頂丘である。その形は長野原・横壁・林・川原湯・河原畑のハッ場ダム関連の5地区のどこからでも望むことができる。

吾妻川兩岸には最上位・上位・中位・下位の4段階河岸段丘が形成されている。現在の吾妻川からの平均的な比高差は、最上位段丘で約80~90m、上位段丘で約60~65m、中位段丘で約30~50m、下位段丘で約10mを測る。



第4図 下湯原遺跡周辺の地名(『長野原町の自然』長野原町 1993 図1～56を加除筆引用)

長野原町の地質に大きな影響を与えた火山は浅間山である。町城南西部の長野県境に位置し、古い方から黒斑山・仏岩・前掛山・釜山の4つの火山体で構成される標高2,568mの成層火山である。

約2万4千年前の黒斑山の山体崩壊によって応答泥流が発生した。この泥流堆積物は当時の河床を数10mの厚

さで埋め、その後の浸食によって吾妻川両岸に最上位と上位の河岸段丘が形成された。

浅間山はその後も多く火山噴出物を噴出しているが、特に町域では浅間草津黄色軽石(As-YPk: 1万6千年前)が堆積している。

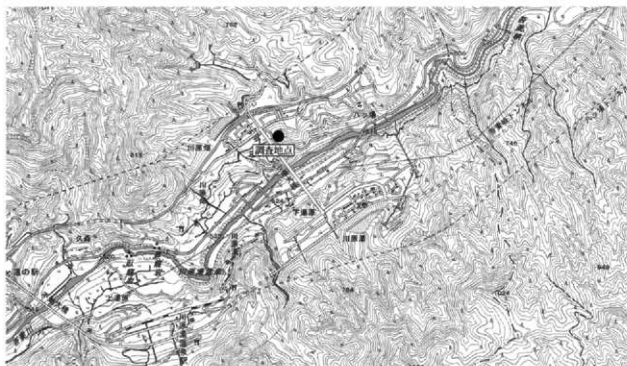
また、浅間Bテフラ(As-B: 1108年)や浅間粕川テフラ

第2章 遺跡の環境

(As-Kk:1128年)も平安時代の黒色土中に数cmの厚さで確認できる。

更に天明三年(1783年)の噴火により発生した天明泥流は、下位段丘面や中位段丘面を平均約1mの厚さで覆っている。

下湯原遺跡は、標高約512～545mの吾妻川右岸中位河岸段丘面上の大字川原湯字下湯原・新井の門・東久保に所在し、堂巖山の北東、金花山の北麓に位置する(第5図)。



第5図 遺跡位置図(国土地理院2万5千分の1地形図「長野原」平成28年8月1日発行を元に作成)

第2節 歴史的環境

下湯原遺跡では、大部分が天明泥流下の遺構である。そこで旧石器時代から近世までの遺構や遺物について概略を説明し、江戸時代を中心に周辺の遺跡について説明する。

旧石器時代

長野原町においては旧石器時代の遺物は、現在出土していない。

縄文時代

吾妻川およびその支流沿岸の段丘面、特に中・上・最上位河岸段丘及び丘陵部に多くの遺跡が分布し、それぞれの時期の集落が展開している。

早期前半の撫糸文土器などが楡木Ⅱ遺跡(15)・立馬Ⅱ遺跡(14)等で出土している。前期の遺構数は少なく、上原Ⅰ遺跡(文献44)で竪穴建物が確認されている。中期になると遺跡・遺構の数が大幅に増加する。縄文時代中期の遺構が発見された遺跡の中で大規模集落の例としては、林中原Ⅱ遺跡(文献45)・長野原一本松遺跡(22)・上ノ平Ⅰ遺跡(5)・横壁中村遺跡(9)などがあるが、後期になると集落数はやや減少する。代表的な遺跡として長野原一本松遺跡・横壁中村遺跡・林中原Ⅱ遺跡等がある。晩期になると更に遺跡数が減少する傾向が見られる。川原湯勝沼遺跡(7)では、氷Ⅱ式土器による再葬墓と考えられる遺構が検出された。

弥生時代

長野原町では、この時期の遺跡は非常に少ない。尾坂遺跡(25)では前期の再葬墓や土坑、立馬Ⅰ遺跡(14)では中期の竪穴建物と土器箱墓が調査されている。

古墳時代

長野原町では古墳は確認されていない。調査された竪穴建物も極めて少ない。上原Ⅰ遺跡(文献44)では、前期と考えられる竪穴建物が検出されている。下原遺跡(18)・上原Ⅳ遺跡(16)では、5～6世紀後半の竪穴建物が発見されている。

奈良・平安時代

奈良時代の集落は、現在までに調査されていない。平安時代(9世紀中頃)になると、長野原町の多くの地域で集落が営まれるようになる。上ノ平遺跡(5)では、皇朝十二銭の「真観永宝」や多くの灰釉陶器などが出土した。多くの遺跡で県内外との交流をうかがうことができる。中心となる時期は9～10世紀代であり、遺跡としては横壁中村遺跡(9)・楡木Ⅱ遺跡(15)があげられる。

中・近世

長野原町では、1500年代後半を中心に真田氏が吾妻地域に進出してくる。その頃の城として、羽根尾城・長野原城・林城・丸岩城・柳沢城などがある。長野原城を中心とした「長野原合戦」永禄五(1563)年を経て、同じ年に東吾妻町岩櫃城が真田氏の支配下に置かれることになる。

下湯原遺跡は、近世の畑を中心とした遺跡であり、対岸の東宮遺跡(2)や西宮遺跡(3)と異なり集落は営まれていなかった。畑の他に建物を伴う祭祀(墓地)と多くの墓地が調査されている。

これまでに発掘調査された中・近世の大型建物は、堀や石垣が調査された中世林城の他に、中・近世の掘立柱建物が68棟調査された林中原Ⅰ遺跡(文献46)・11棟調査された下田遺跡(19)・13棟調査された横壁中村遺跡(9)・34棟調査された上郷岡原遺跡(26)。近世建物を数多く調査した石川原遺跡(36)・東宮遺跡(2)・西宮遺跡(3)・尾坂遺跡(25)・町遺跡(35)・下田遺跡(19)・東吾妻町の上郷岡原遺跡(26)などがある。これらの集落には、道・井戸・水路・石垣などが確認されている遺跡も多く、天明三年段階での集落の様子が次第と明らかになってきている。調査遺跡は、今回報告の下湯原遺跡の他に尾坂遺跡(25)・上郷岡原遺跡(26)などである。

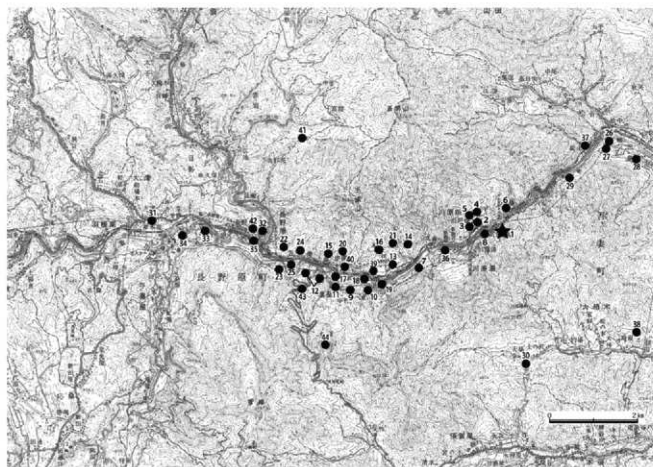
第2章 遺跡の環境

第1表 周辺の中・近世遺跡一覧

No.	遺跡名(所在地)	遺構内容	文献 No.
1	下湯原遺跡(川原湯)	(中世)掘立柱建物・竪穴遺構・土坑 (近世)道・溝・墓地・畑	本報告書
2	東宮遺跡(川原畑)	(中世)集石・墓 (近世)家・畑・石垣・道・溝・集石・井戸・土坑・炬燵・礎石・石段	2・13・31
3	西宮遺跡(川原畑)	(近世)畑・屋敷・井戸・道	38
4	三平Ⅰ・Ⅱ遺跡(川原畑)	(中・近世)掘立柱建物・土坑・焼土・集石・柱穴列・礎石・溝	12
5	上ノ平Ⅰ遺跡(川原畑)	(近世)墓・土坑	21
6	石畑遺跡(川原畑)	(近世)畑	2
7	川原湯勝沼遺跡(川原湯)	(中・近世)溝・畑・ヤックラ・道	2・5
8	西ノ上遺跡(川原湯)	(近世)畑・道	4
9	横壁中村遺跡(横壁)	(中・近世)掘立柱建物・竪穴遺構・土坑・石垣・列石・石列・石組遺構・配石・集石・石囲い遺構・溝・焼土・礎石建物・鍛冶跡・ヤックラ・墓・畑 など	3・6・9・18・20・28
10	横壁沼遺跡(横壁)	(中・近世)墓	2
11	山根Ⅲ遺跡(横壁)	(中・近世)墓 (近世)土坑	2
12	西久保Ⅰ・Ⅳ遺跡(横壁)	(中・近世)土坑 (近世)畑 等	32
13	東原Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡(林)	(近世)掘立柱建物・礎石建物・土坑・柱穴列・溝・焼土	29
14	立馬Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡(林)	(近世)掘立柱建物・ピット群・土坑・溝状遺構	7・10・24
15	楡木Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡(林)	(近世)掘立柱建物・礎石建物・石垣・集石・石列・礎石・テラス・墓・土坑・溝・焼土・湧水・畑	2・16・32
16	上原Ⅳ遺跡(林)	(近世)溝・旧河道・土坑	15
17	中棚Ⅱ遺跡(林)	(近世)畑・ヤックラ・道・石垣・墓	3・4
18	下原遺跡(林)	(近世)掘立柱建物・畑・溝・土坑・石垣・焼土・ヤックラ・石列・石組・欄列・墓・集石・水田・道	3・11
19	下田遺跡(林)	(近世)家・畑	2
20	二反沢遺跡(林)	(中世)造成・石垣 (近世)溝・畑	8
21	花畑遺跡(林)	無し	2
22	長野原一本松遺跡(長野原)	(近世)土坑・溝・暗渠・道路跡・集石土坑・竪穴遺構・欄列・集石・掘立柱建物・焼土・石列 等	1・13・17・22・25・33
23	久々戸遺跡(長野原)	(近世) 畑・ヤックラ・石垣・道・土盛り・掘立柱建物	3・4
24	幸神遺跡(長野原)	(近世)畑	15
25	尾坂遺跡(長野原)	(近世)畑・石垣	2・47
26	上郷岡原遺跡(東吾妻町三島)	(近世)家・掘立柱建物・竪穴遺構・礎石建物・土坑・墓・石組遺構・集石・焼土・井戸・畑・水田・道・溝・積石・石列・馬屋跡・便槽・火葬跡・墓	14・19・26
27	上郷A遺跡(東吾妻郡三島)	(近世)溝	4・27
28	上郷B遺跡(東吾妻郡三島)	(近世)土坑・溝・井戸	8
29	上郷西遺跡(東吾妻郡三島)	(近世)畑・道・溝	23
30	廣石A遺跡(東吾妻郡大柏木)	(近世)土坑・墓	8
31	坪井遺跡(大津)	(近世)配石遺構・集石遺構	34
32	嶋木Ⅰ遺跡(長野原)	(近世)畑	36
33	小林家屋敷跡(長野原)	(近世)吾妻の分限者小林助左衛門屋敷の一部を検出 土蔵跡・礎石建物・屋敷背後の石垣・塙白・固定白・石臼・鉄銅製品・陶磁器等	35
34	旧新井村跡(与喜屋)	(近世)石臼(餅つき用)・米瀧用石臼・五輪塔・鉈・秤	39・40
35	町遺跡(長野原)	(近世)母屋思われる建物から大量の建築部材や多くの下駄等の木製品出土。遺跡北側は畑	41
36	石川原遺跡(川原湯)	(近世)お堂・寺院・道・用水・畑・寺院から出土した密教用具等・寺院は天台宗不動院と考えられる。	42

第2表 周辺の中世城跡跡

No.	遺跡名(所在地)	①立地 ②現況 ③遺存状況 ④存続期間(推定伝承) ⑤築・在城者(推定・伝承) ⑥文献 ⑦関連地名 ⑧遺構・遺物等 ⑨備考	文献 No.
37	雁の沢の砦(東吾妻町松谷)	①山・平地 ②山林・畑 ③中等 ④16世紀 ⑤横谷氏 ⑥『加沢記』『横谷文書』 ⑦雁ヶ沢・萱刈場 ⑧堀切・腰郭 ⑨『上野志』には横谷となっている。	37
38	羽田城(大柏木城・芳の城)(東吾妻郡大柏木)	①傾斜地 ②山林・畠 ③良 ④16世紀 ⑤羽田氏・浦野氏 ⑥『関東幕注文』『下屋文書』『浦野文書』『長純寺文書』『高崎近郷百姓由来書』『佐藤文書』 ⑦羽田 ⑧堀・堀切・土橋・戸口・堅堀・土居・腰郭・符郭 ⑨	37
39	林城(林)	①崖地 ②山林 ③不良 ④不明 ⑤ ⑥ ⑦城 ⑧ ⑨	37
40	中棚の砦(林中棚)	①段丘上 ②宅地・畠 ③不良 ④不明 ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨	37
41	長野原館(中之条町赤岩(旧六合村))	①高原 ②山林 ③良 ④不明 ⑤ ⑥ ⑦字新左衛門 ⑧ ⑨長野氏の隠棲地と伝えられている。	37
42	長野原城(長野原)	①山 ②山林、墓地、社地 ③良 ④16世紀 ⑤湯本氏・常田氏 ⑥ 熊谷文書・生島足島起請文・加沢記 ⑦城山・箱岩・字古城址 ⑧堀切・土居・腰郭・堅堀 ⑨畑	37
43	横壁城(柳沢城)(横壁)	①丘と山 ②山林・畠 ③中等 ④16世紀 ⑤横壁玄蕃 ⑥加沢記 ⑦字地藏台・ジョウヒラ ⑧郭面・堀・土居 ⑨	37
44	丸屋城(丸岩城)(横壁)	①山 ②山林 ③良 ④16世紀 ⑤ ⑥歴代古案 ⑦字堂石丸山 ⑧堀切・土居・戸口 ⑨頭状山容を示す	37



第6図 中世及び天明氾流下の遺跡分布図(国土地理院5万分の1の地形図「草津」を元に作成)

文献

- 1 『長野原一本松遺跡(1)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集 2002
- 2 『ハツ場ダム発掘調査集成(1)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第2集 2002
- 3 『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第3集 2003
- 4 『久々戸遺跡・中棚Ⅱ(2)遺跡・西ノ上遺跡・上郷A遺跡』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第4集 2005
- 5 『川原沼沼田遺跡(2)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第6集 2005
- 6 『横壁中村遺跡(3)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第7集 2006
- 7 『立馬Ⅱ遺跡』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第8集 2006
- 8 『上郷B遺跡・廣石A遺跡・二反沢遺跡』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第9集 2006
- 9 『横壁中村遺跡(4)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第10集 2006
- 10 『立馬Ⅰ遺跡』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第11集 2006
- 11 『下原遺跡Ⅱ』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第12集 2007
- 12 『三平Ⅰ・Ⅱ遺跡』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第13集 2007
- 13 『長野原一本松遺跡(2)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第15集 2007
- 14 『上郷阿原遺跡(1)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第16集 2007
- 15 『山根Ⅲ遺跡(2)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第17集 2008
- 16 『榑木遺跡(1)(平安時代・中近世編)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第18集 2008
- 17 『長野原一本松遺跡(3)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第19集 2008
- 18 『横壁中村遺跡(6) 一土坑編-』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第20集 2008
- 19 『上郷阿原遺跡(2)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第21集 2008
- 20 『横壁中村遺跡(7)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第22集 2008
- 21 『上ノ平Ⅰ遺跡』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第23集 2008
- 22 『長野原一本松遺跡(4)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第24集 2008
- 23 『上郷西遺跡』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第25集 2008
- 24 『久馬Ⅲ遺跡』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第26集 2009
- 25 『長野原一本松遺跡(5)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第28集 2009
- 26 『上郷阿原遺跡(3)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第31集 2009
- 27 『上郷A遺跡』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第32集 2009
- 28 『横壁中村遺跡(10) 一古代・中世・近世編Ⅰ-』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第33集 2010
- 29 『東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第35集 2010
- 30 『東宮遺跡(2) 一遺構・建築部材編-』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第36集 2011
- 31 『東宮遺跡(2) 一遺物編-』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第38集 2012
- 32 『榑木Ⅰ遺跡・上原Ⅳ遺跡・西久保Ⅳ遺跡』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第39集 2012
- 33 『長野原一本松遺跡(6)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第40集 2013
- 34 『坪井遺跡Ⅱ』 長野県埋蔵文化財調査報告書 第7集 長野県町教育委員会 2000
- 35 『小林家屋敷跡』 長野県埋蔵文化財調査報告書 第12集 長野県町教育委員会 2005
- 36 『町内遺跡V』 長野県埋蔵文化財調査報告書 第15集 長野県町教育委員会 2005
- 37 『群馬県の中世城館跡』 群馬県教育委員会 1988
- 38 『西宮遺跡(1)・西宮岩陰遺跡』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第54集 2017
- 39 『長野原町の遺跡』 長野県埋蔵文化財調査報告書 第1集 長野県町教育委員会 1990
- 40 『緑よみがえった町跡原』 あさそ社 上州路文庫⑥ 1982
- 41 『町遺跡』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第45集 2015
- 42 『遺跡は今(24)』 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2016
- 43 『下田遺跡(2)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第52集 2017
- 44 『上原Ⅰ遺跡』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第46集 2013
- 45 『林中原Ⅱ遺跡(1)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第47集 2016
- 46 『林中原Ⅰ遺跡』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第43集 2014
- 47 『尾坂遺跡(2)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第48集 2016

第3章 発見された遺構と遺物

第1節 時代別の概要

今回報告する各調査区は、天明泥流下の面を1面とし、1面よりも古い遺構確認面を2面、更に下層の面を3面・4面として調査を進めた。

調査期間が3か年度にわたり、各調査区の距離が離れているために、天明泥流に覆われた1面よりも古い時代の2面・3面・4面に関しては、確実な鍵層となる軽石が存在しなかったため、全ての調査区において同じ面の調査を行ったとは言えず、特に2面・3面に関しては、各区の検出遺構の時期にずれが生じている。

しかしおむね共通する時代認識としては、時代が確実な1面は江戸時代天明三(1783)年の地表面、2面は天明泥流以前の江戸時代から中世を含んで平安時代まで、3面は縄文時代から中世、4面は縄文時代及びそれ以前の時代となっている。

1 1面の調査

天明三(1783)年の浅間山の噴火は、新暦の5月8日または9日(以下日付は全て新暦)から始まり、数か月にわたり幾度も噴火を繰り返し軽石を降下させた。

8月に入ると噴火も大きくなり、遺跡周辺は、噴煙で昼間も暗くなり、提灯が必要であったという。

8月5日午前10時頃にはそれまで最大の噴火があり、浅間山の東南東方向を中心に大量の軽石を堆積させた。

この噴火後に、鬼押し溶岩や山体の一部が土石なだれとなって浅間山北麓を高速で流下、直撃を受けた鎌原村では2～10mも埋まってしまい、住民の約8割にあたる477名が犠牲になった。この土石なだれを「鎌原土石なだれ」と呼ぶ。

鎌原土石なだれは、吾妻川に流れ込んで泥流となった。泥流は吾妻川から利根川を流下し、千葉県銚子の太平洋に達した。これを「天明泥流」と呼ぶ。天明泥流は140もの村に被害を与え、およそ1,500名の犠牲者を出した。

天明泥流は、下湯新遺跡遺跡の各区で、最大2m前後、

最小0.3m前後も堆積した。

遺跡内からは、ほぼ全ての調査区で天明泥流が確認されており、天明泥流を剥くと、下から泥流でバックされた天明三年の畑の畝及びサクが現れる。

サクの中には天明三年の浅間山A軽石(As-A)が入り、その上を天明泥流が覆っているため、重機及び人力で泥流のみを丁寧に除去すると、畑の畝部分は褐色の土壌が見え、サクは軽石によって白く筋状で検出することから耕作方向や単位などの構造を確認しやすい。

また各区の畑の中には、肥料置き場と考えられる、いわゆる「平坦面」と呼ばれる窪みが存在しており、更に耕作時に利用されていた溝や道などの施設が検出された。

2 2面の調査

D1区・2区・3区、D3区①②更にE7区から畑・土坑・溝・集石・竪穴建物・遺物集中地点・墓・焼土などの遺構が検出されており、特にD2区で検出された遺物集中地点、及び一部の土坑、溝から平安時代の土師器・須恵器の破片が出土しており、竪穴建物からは灰輪陶器碗を含む平安時代の土器が多数出土している。

3 3面の調査

D1区・2区・3区及びD3区②では、3面が調査され、土坑・ビット・畑・掘立柱建物などの遺構が検出されているが、確実な遺物が出土していないため時期を特定することは困難である。

4 4面の調査

既に報告されているA～C・E区の様相を見ると、遺跡北西端に位置するA区(A1区・A2区)において、縄文前期後半の土器片を出土する竪穴状遺構や、前期～後期の土器片を出土する土坑、中期・後期の土器片を伴い屋外炉と推定される焼土が検出された。

今回報告の地点において縄文時代に想定される遺構は、D区(D2区)においてやはり屋外炉と推定される焼土が2か所、土坑が4基、ビットが1基検出されたが、焼土1か所が縄文土器片を伴っている他は、遺構外から

後期称名寺式と中期加曾利E式の土器片が数点検出されたのみであり、竪穴建物など集落遺構は検出されなかった。

しかし、屋外炉などの生活の痕跡が残っていたことから、縄文時代中・後期には人々の生活が行われていたことを示している。

D2区以外で4面が調査されたのはD1区のみだが、D1区の4面においては、風倒木が検出されたのみで、縄文時代に伴う遺構は検出されなかった。

第2節 各区の様相

各区における1～4の調査面において、検出された遺構の時代にずれが生じているため、遺跡全体における検出遺構の様相を、調査面を基準にして示すのは難しい。

従って各区の様相をD1区から開始して、D2区・D3区・D3区①・D3区②・E5区・E7区・G区の順で示し、且つ各区において時期的に統一された遺構面である天明泥流下の1面から開始して、それぞれの区ごとに2面・3面・4面と下層の面を示していくことにした。

更に各区の面の成立時期に関しては、検出された遺構の時代で示すこととし、区ごとに異なる可能性がある。

1 D1区1面の遺構(第7～10図、PL.3)

D1区1面では調査区全域から天明泥流下の畑が検出された。

畑の畝・サクの方向は、地形により若干のずれは見られるものの、ほぼ同じ角度で並びN-69°～71°-Eで揃っている。

畝幅は15cm～20cm、サク幅は畝よりわずかに広く20cm～25cmで連続してほぼ等間隔に並んでいる。

同一畑面のサクの端部は、同じ位置に並んで切れているため、D1区では調査区を南北に断ち割るように、サクの切れ目で作られた分割線が4条見られる。すなわちD1区では区画された畑面が5面見られるのである。ここで確認された畑の東西幅は、広い所で18.8m、狭い所で9.0mある。

また、D1区の東端部北側には、地形が弱い段を持って北に下がっており、この段の部分が畝・サクの方向に

沿って並行する、東西方向に伸びる畑の空白地帯となっている。

この周辺で、畑面の上に残った植物の圧痕を検出した。(第10図、PL.3)圧痕は長さ20～30cmの細長いものが並んで検出されたが、植物の種類等に関しては不明である。

A～D4条の畑の断面図を見ると、Aは上記した畑の段の部分に境に上の畑・下の畑に分かれた様子が確認できるが、B～Dでは南から北へ向かって畑面が緩やかに下がっていく状況が認識できる。

恐らく畝・サクの耕作方向は、土壌・作物の流失を防ぐために、この地形斜面に対して直行するように作られたのであろう。

平坦面は、区の西部に6基、中央部に3基、北東端部に1基の計10基が確認された。(第9・10図)

前述した畑を区画する4条の畑の分割線及び区画された畑面を見ると、西端部区画線の西側の畑面については、大部分が調査区外になるため詳細は不明である。これを除いて東に向かって畑面を見ていくと、幅の広い畑、狭い畑、広い畑の順に並んでいる。

広い面は狭い面の倍以上の幅を持つが、この広い面の中央部分にのみ平坦面は作られており、狭い畑面には存在しない。

更にD1区北東端部を南北に分割する地形の緩い段に接して平坦面が1基作られているが、西にある9基の平坦面とは立地及び形状が若干異なるようである。

D1区西側に作られた6基、及び中央部に作られた3基の平坦面は、区画線で分割された畑面の中央部分に、おおむね6m間隔で、等間隔に1列に並んでおり、西側の平坦面と中央部の平坦面との間隔は、およそ30mである。

また、中央部の平坦面と東端部の平坦面の間隔もおおよそ30mである。

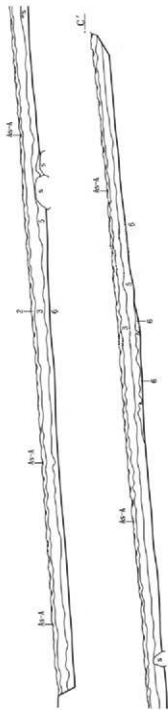
第9・10図に示した平坦面の図面を見ると、第9図の1～6号が区の西側の6基並んだ平坦面で、7・8号と第10図の9号が中央部に3基並んだ平坦面である。

また第10図の10号は東端部の平坦面である。

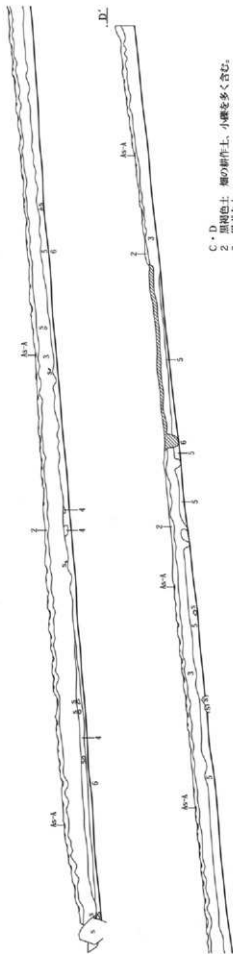
西側・中央部分の1～9号平坦面は、中央部分の溝のみが確認され、周囲を囲む溝は検出できなかった。

これら平坦面の中央溝の周囲を見ると、畝・サクが切れて存在しない部分があり、この形から1・2・4・6・

C. 1/325.0m



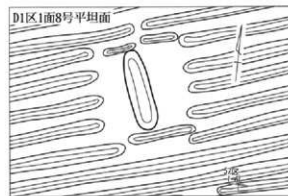
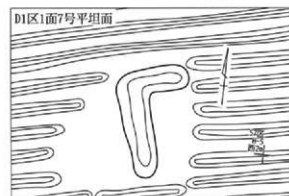
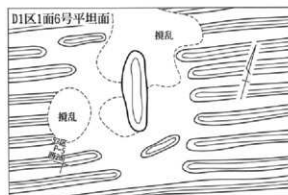
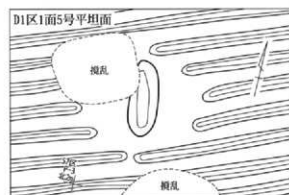
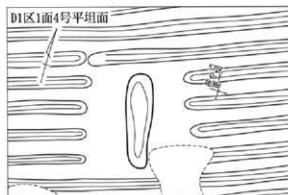
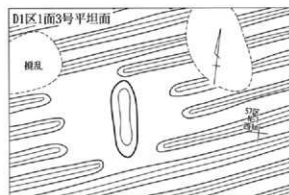
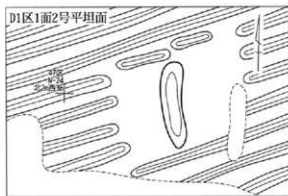
D. 1/327.0m



- C・D
 2 黒褐色土 細の断片土、小礫を多く含む。
 3 黒ゴケ土 一部に炭分が付着している。
 4 砂礫層
 5 黒褐色土 白色灰子・褐色陶子をわずかに含む。
 6 ロー、2次重積層 As・PVAをわずかに含む。

0 1:80 2m

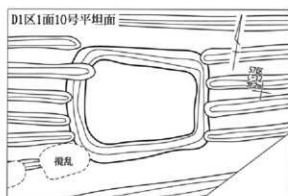
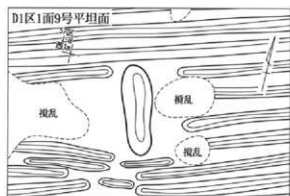
第8図 D1区1面C・D土層断面図



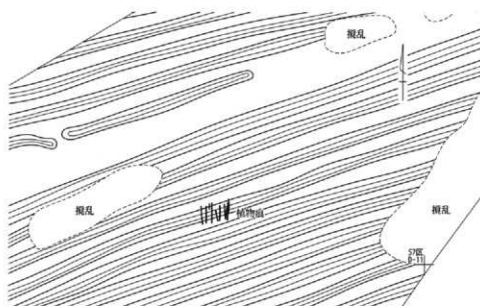
0 1:80 2m

第9図 D1区1面1～8号平坦面

第3章 発見された遺構と遺物



0 1:60 2m



0 1:60 2m

第10図 D1区1面9・10号平坦面、植物痕確認面

7・8・9号平坦面は隅丸方形の溝、3・5号平坦面は
円形の溝に囲まれていたと推定される。

また東端部の10号平坦面は、西側・中央部と逆に中央
の溝が存在せず隅丸方形の区画のみが残っている。

2 D1区2面の遺構(第11~15図、PL. 3~6)

D1区2面は天明泥流以前の江戸時代の面として捉えられており、やはり近世を中心とした時代面となる。1~9号土坑と1~5号溝、1~3号集石の他、天明泥流以前の畑が検出された。

調査区の北西端部には、天明泥流以前に耕作されていたと考えられる畑が存在する。1面の畑と異なり、調査区北西端部にサクが10数条残存しているのみであり、畑の構造等を認識することはできない。

更に畝・サクが面的に連続していないため、サク端部の切れているラインを元に1面のように畑の大きさを見ることはできない。

2面の畑で注目されるのは、畝・サクの向きが1面と比較して90°異なる点であろう。すなわち畝・サクの耕作された方向は、畑の等高線に直行して作られているため、連続する畝・サクの乗っている地形は、北へ向かって下がっているのである。

更に畝幅を計測してみると、1面の畑と比較して倍近く広いことから、1面の畑とは異なる作物を栽培していたことが推定される。

また、畑面から遺物が出土していないことから、2面の畑が耕作された時代を特定することはできない。

溝は1号溝から5号溝まで5条確認された。

1号溝は検出面からの深さが約9cmと浅く、平面形状もU字形に折れ曲がっているため、畑等で使われた水路とは考えにくい。また2号溝は、深さは18cmあるが、遺構の大部分が北側の調査区外に存在するため、詳細は不明である。

3号溝は幅15cm、深さ14cmで長さは調査区内で9.12mを計測し、5号溝は幅12cm、深さ14cm、長さは9.05mを計測する。このように規模がほぼ同一の両溝であるが、注目すべきは掘削されている方位が、3号溝でN-15°-W。5号溝でN-14°-Wとはほぼ同じであることが上げられる。

この方位は、2面の畑の掘削方位がN-28°-Wであることを考慮すれば、かなり近いと言えよう。しかし、3号・5号溝が掘削された地点は、2面畑が検出された北西端部と異なり、調査区の南端であること。また畑のある北端にまで溝が連続していないことから、両者を結

び付けるのは困難であろう。

また4号溝は、掘削された方向がN-84°-Wで、2号・5号溝と大きく異なっている。

土坑は1号から9号まで9基確認された。

1号土坑は他の土坑と若干離れた位置に掘削されているが、2号から9号土坑は調査区東側の南端に、集中して存在する。

1号土坑は円形の平面形状であるが、2号から9号土坑は平面が隅丸方形あるいは隅丸長方形で、調査区南端から帯状に重複して立地している。

出土遺物が無いので、遺構の時期は特定できないが、7~9号土坑は検出面からの深さが82~98cmあり、他の土坑と異なる特徴を持っている。

これらの土坑の上には、帯状に大小の石を集めた集石が存在する。

(1)土坑

1号土坑(第12図、PL. 4)

位置 グリッド名 57区H-8

主軸方位 N-25°-W

重複 無し

規模 長軸0.54m×短軸0.50m×深さ0.23m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底の底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

2号土坑(第12図、PL. 4)

位置 グリッド名 57区G-8

主軸方位 N-75°-E

重複 3号土坑・1号集石

規模 長軸1.56m×短軸1.15m×深さ0.29m

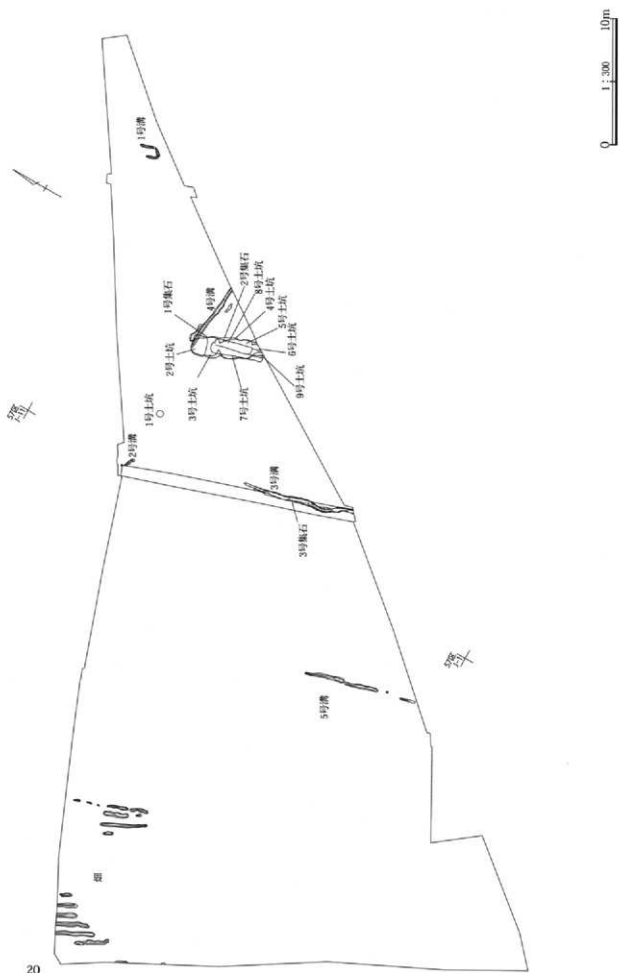
形状 不整形

底面及び断面形状 平底の気味の底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

3号土坑(第12図、PL. 4)



第11圖 D1区之面全体圖

位置 グリッド名 57区F・G-8

主軸方位 N-63°-E

重複 2・4・7・8号土坑・1号集石

規模 長軸1.70m×短軸-×深さ0.29m

形状 不整形

底面及び断面形状 -

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

4号土坑(第12図、PL. 4)

位置 グリッド名 57区F-8、G-7・8

主軸方位 N-70°-E

重複 3・5・7・8号土坑・2号集石

規模 長軸1.66m×短軸-×深さ0.39m

形状 不整形

底面及び断面形状 -

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

5号土坑(第12図、PL. 4)

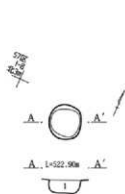
位置 グリッド名 57区F-7・8、G-7

主軸方位 N-67°-E

重複 4・6・7・8・9号土坑・2号集石

規模 長軸1.48m×短軸-×深さ0.48m

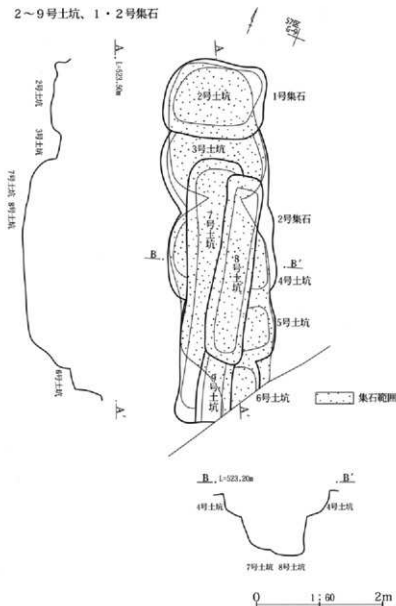
1号土坑



1号土坑A

1 にふい褐色土 砂礫を少し含み、やや灰色を呈する。

2～9号土坑、1・2号集石



第12図 D1区2面1～9号土坑、1・2号集石

形状 不整形
 底面及び断面形状 —
 遺物出土状況 無し
 備考 所属時期 不明

6号土坑(第12図、PL. 4)

位置 グリッド名 57区F-7
 主軸方位 N-25°-W
 重複 5・7・8・9号土坑・2号集石
 規模 長軸—×短軸0.88m×深さ0.41m
 形状 不整形
 底面及び断面形状 —
 遺物出土状況 無し
 備考 所属時期 不明

7号土坑(第12図、PL. 4)

位置 グリッド名 57区F・G-7・8
 主軸方位 N-18°-W
 重複 3・4・5・6・8・9号土坑・2号集石
 規模 長軸4.20m×短軸0.80m×深さ0.82m
 形状 隅丸長方形
 底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに直線的に立ち上がる。
 遺物出土状況 無し
 備考 所属時期 不明

8号土坑(第12図、PL. 4)

位置 グリッド名 57区F-7・8、G-8
 主軸方位 N-13°-W
 重複 3・4・5・6・7・9号土坑・2号集石
 規模 長軸2.96m×短軸0.62m×深さ0.92m
 形状 隅丸長方形
 底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに直線的に立ち上がる。
 遺物出土状況 無し
 備考 所属時期 不明

9号土坑(第12図、PL. 4)

位置 グリッド名 57区F-7
 主軸方位 N-13°-W

重複 5・6・7・8号土坑・2号集石
 規模 長軸(0.94)m×短軸0.54m×深さ0.98m
 形状 隅丸長方形
 底面及び断面形状 南側の端部は調査区外となる。
 遺物出土状況 無し
 備考 所属時期 不明

(2)溝

1号溝(第13図、PL. 4)

位置 グリッド名 57区D-11
 主軸方位 N-20°-W
 重複 無し
 規模 全長2.82m×幅0.10m×深さ0.09m
 底面及び断面形状 U字型に折れ曲がる。
 遺物出土状況 無し
 備考 所属時期 不明

2号溝(第13図、PL. 5)

位置 グリッド名 57区I・J-8
 主軸方位 N-68°-W
 重複 無し
 規模 全長(1.04)m×幅0.13m×深さ0.18m
 底面及び断面形状 北西端部が調査区外である。
 遺物出土状況 無し
 備考 所属時期 不明

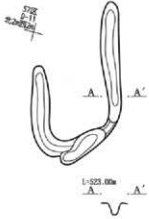
3号溝(第13図、PL. 5)

位置 グリッド名 57区H-4・5、I-5・6
 主軸方位 N-15°-W
 重複 3号集石
 規模 全長(9.12)m×幅0.15m×深さ0.14m
 底面及び断面形状 北へ向かってほぼ直線的に伸びるが、南端部は調査区外である。
 遺物出土状況 無し
 備考 所属時期 不明

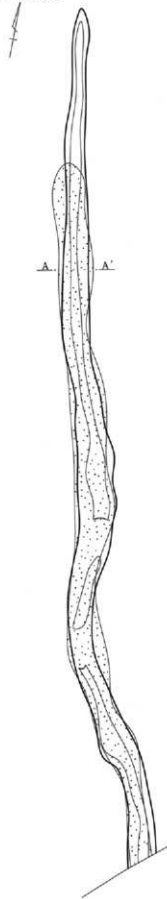
4号溝(第14図、PL. 4・5)

位置 グリッド名 57区E・F・G-8
 主軸方位 N-84°-W

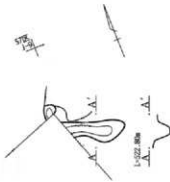
1号溝



3号溝・3号集石



2号溝



3号集石
A 1.523.10m A'



3号溝

3号溝・3号集石A

1 黄褐色土 砂礫を大量に含む。

集石範囲

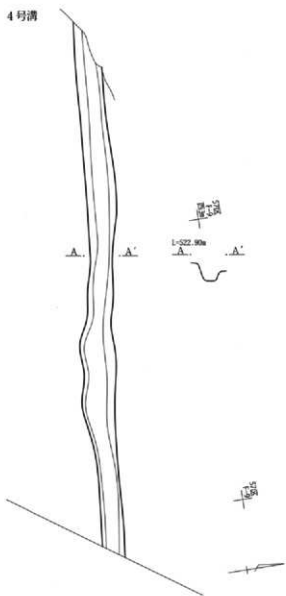


SIZE 1/4 北南20m

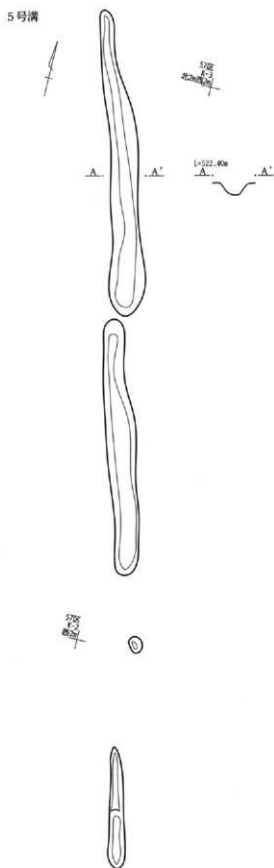
0 1:40 1m

第13図 D1区2面1~3号溝、3号集石

4号溝



5号溝



5号溝(北から)

0 1:40 1m

第14図 D1区2面4・5号溝

重複 無し

規模 全長(5.68)m×幅0.23m×深さ0.19m

底面及び断面形状 東西方向に直線的に伸びるが、両端部は調査区外である。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

5号溝(第14図、PL. 5)

位置 グリッド名 57区K-1~4

主軸方位 N-14°-W

重複 無し

規模 全長9.05m×幅0.12m×深さ0.14m

底面及び断面形状 北北西に伸びる長大な溝であるが、2か所浅い部分があり、3分割されている。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

(3)畑

2面畑(第15図、PL. 6)

位置 グリッド名 57区P-6、O~R-5、R-3・4

畝の方位 N-28°-W

重複 無し

畝幅 32~48cm

備考 1面で検出された畑と比較すると畝の方向が異なり、1面の畝幅が16~24cmであるのに対し、32~48cmと倍の広さを持つ。栽培作物が異なる可能性も考えられる。

畑が営まれていた時期は天明泥流以前であるが、遺物が伴っていないので緻密な耕作時期を確定することはできない。

(4)集石

1号集石(第12図、PL. 4・5)

位置 グリッド名 57区F・G-8

主軸方位 N-25°-W

重複 2・3・7・8号土坑

規模 長さ2.10m×幅1.45m

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

2号集石(第12図、PL. 4・5)

位置 グリッド名 57区F・G-7・8

主軸方位 N-25°-W

重複 4~9号土坑

規模 長さ(3.30)m×幅1.45m

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

3号集石(第13図、PL. 5)

位置 グリッド名 57区H-4・5、I-5・6

主軸方位 N-17°-W

重複 3号溝

規模 長さ(7.40)m×幅0.2m

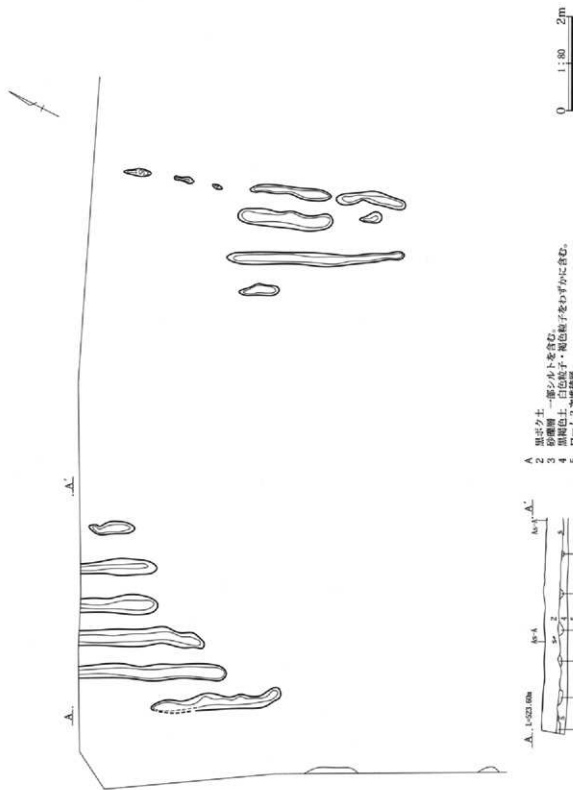
遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明



3号集石 調査風景

27



3 D1区3面、4・5面の遺構 (第16～22図、PL. 6～12)

D1区3面は、火山灰などが面の上に堆積していないため時期を確定することができない。しかし覆土中に古代・中世の遺物片が混入していることから、古代から中世の面である。

3面からは10～46・48～62号の52基の土坑を検出した。

これらは調査区の北を流れる吾妻川に直交する形で掘削されているものが多く、いずれも幅の狭い溝状の構造を示す。

他の遺構は1号ピット、4号溝及び1・2号墓を検出した。これらはD1区の中央部に集中して分布し、区の東側及び西側は遺構の分布が希薄である。

D区4面・5面は縄文時代を中心とする面であるが、風倒木以外は検出しなかった。

(1)土坑

10号土坑(第17図、PL. 7)

位置 グリッド名 57区F-10

主軸方位 N-16°-W

重複 無し

規模 長軸1.96m×短軸1.02m×深さ0.49m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 底は平坦で、ほぼ垂直に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明。

11号土坑(第17図、PL. 7)

位置 グリッド名 57区G-7・8

主軸方位 N-18°-W

重複 無し

規模 長軸3.40m×短軸0.52m×深さ0.64m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 底は平坦で、立ち上がりに丸みを持ち、ほぼ垂直に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

12号土坑(第17図、PL. 7)

位置 グリッド名 57区H-8

主軸方位 N-31°-W

重複 無し

規模 長軸1.40m×短軸0.80m×深さ0.11m

形状 不整形。

底面及び断面形状 底は平坦で気味で、浅い。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

13号土坑(第17図、PL. 7)

位置 グリッド名 57区H-7

主軸方位 N-18°-W

重複 無し

規模 長軸1.80m×短軸0.80m×深さ0.20m

形状 隅丸長方形。

底面 底は平坦で気味で、やや広がりながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

14号土坑(第17図、PL. 7)

位置 グリッド名 57区H-I-7

主軸方位 N-15°-W

重複 15号土坑が新しい

規模 長軸1.54m×短軸0.48m×深さ0.44m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 底は平坦で気味で、丸みを持って垂直気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

15号土坑(第17図、PL. 7)

位置 グリッド名 57区H-I-6・7

主軸方位 N-15°-W

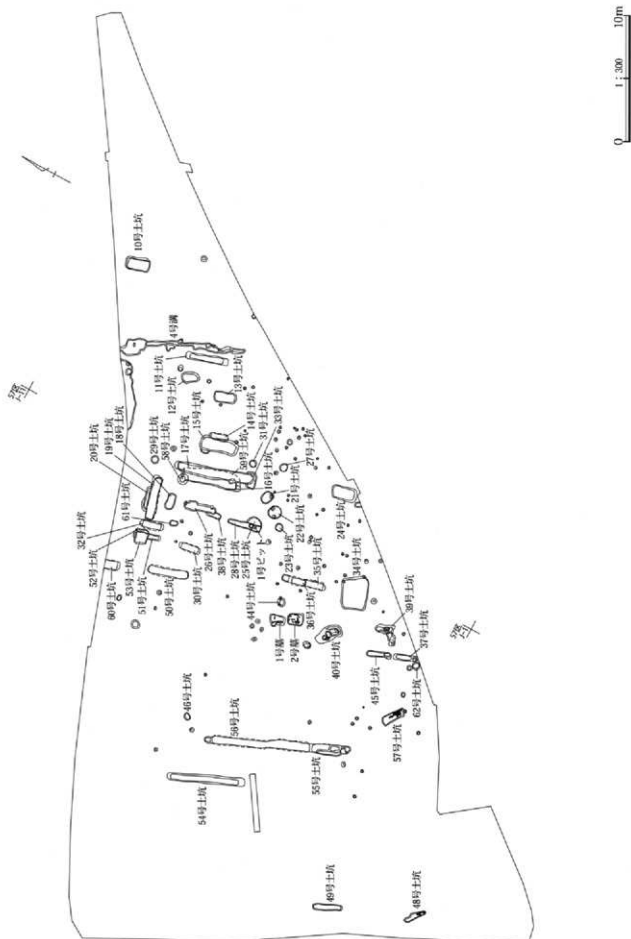
重複 14号土坑が古い

規模 長軸3.06m×短軸1.18m×深さ0.44m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 底は平坦で気味で、垂直気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し



第16図 D1区3面全体図

備考 所属時期 不明

16号土坑(第17図、PL. 7)

位置 グリッド名 57区I・J-6・7

主軸方位 N-13°-W

重複 17・59号土坑より新しく、58号土坑より古い

規模 長軸4.88m×短軸1m×深さ0.79m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 底は平坦気味。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明。

17号土坑(第17図、PL. 7)

位置 グリッド名 57区I-6・7

主軸方位 N-13°-W

重複 16・33・59号土坑が新しい

規模 長軸4.08m×短軸1m×深さ0.99m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 底は平坦気味で、少し底部分がオーバーハングしている。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

18号土坑(第17図、PL. 7)

位置 グリッド名 57区J-7

主軸方位 N-81°-E

重複 無し

規模 長軸1.32m×短軸0.62m×深さ0.11m

形状 不整形

底面及び断面形状 底は平坦で緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

19号土坑(第18図、PL. 8)

位置 グリッド名 57区J・K-7

主軸方位 N-75°-E

重複 20号土坑が古い

規模 長軸3.63m×短軸0.66m×深さ0.63m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 底は平坦でコーナーは丸みを持ち、

わずかに広がりながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

20号土坑(第18図、PL. 8)

位置 グリッド名 57区J・K-7

主軸方位 N-75°-E

重複 19号土坑が新しい

規模 長軸2.00m×短軸(0.28)m×深さ0.24m

形状 不整形。

底面及び断面形状 底は平坦で垂直気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

21号土坑(第18図、PL. 8)

位置 グリッド名 57区I-5

主軸方位 N-61°-W

重複 無し

規模 長軸1.00m×短軸0.80m×深さ0.12m

形状 楕円形

底面及び断面形状 緩やかに立ち上がり、検出面からの深さは浅い。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

22号土坑(第18図、PL. 8)

位置 グリッド名 57区I-5

主軸方位 N-41°-W

重複 無し

規模 長軸1.10m×短軸1.02m×深さ0.41m

形状 楕円形

底面及び断面形状 緩やかに外反気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

23号土坑(第18図、PL. 8)

位置 グリッド名 57区I・J-5

主軸方位 N-45°-E

重複 無し

規模 長軸0.66m×短軸0.62m×深さ0.13m

形状 楕円形

底面及び断面形状 緩やかに立ち上がり、検出面からの深さは浅い。平坦気味の底面から垂直気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し。

備考 所属時期 不明

24号土坑(第18図、PL. 8)

位置 グリッド名 57区H・4

主軸方位 N-15°-W

重複 無し

規模 長軸1.98m×短軸1.04m×深さ0.34m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 底部は平坦で、やや広がりを持ちながら緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

25号土坑(第18図、PL. 8)

位置 グリッド名 57区J-5

主軸方位 N-11°-W

重複 28号土坑・ビット1

規模 長軸1.26m×短軸(0.60)m×深さ0.11m

形状 楕円形

底面及び断面形状 底は平坦で、やや広がりを持ちながら緩やかに立ち上がる。西半をビット1と28号土坑に破壊されている。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

26号土坑(第18図、PL. 8)

位置 グリッド名 57区J-6・7

主軸方位 N-18°-W

重複 38号土坑が近い

規模 長軸2.56m×短軸0.57m×深さ0.19m

形状 不整形

底面及び断面形状 底は平坦で、やや広がりを持ちながら緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

27号土坑(第18図、PL. 8)

位置 グリッド名 57区H・I-5

主軸方位 N-61°-W

重複 無し

規模 長軸0.67m×短軸0.60m×深さ0.35m

形状 楕円形

底面及び断面形状 底は平坦で、やや広がりを持ちながら直線的に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

28号土坑(第18図、PL. 8)

位置 グリッド名 57区J-5・6

主軸方位 N-11°-W

重複 25号土坑より新しく、ビット1より古い。

規模 長軸2.68m×短軸0.38×深さ0.17m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 底は平坦で、やや広がりながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

29号土坑(第18図、PL. 9)

位置 グリッド名 57区I・J-8

主軸方位 N-43°-E

重複 無し

規模 長軸0.68m×短軸0.63m×深さ0.09m

形状 楕円形

底面及び断面形状 部は平坦で、やや広がりながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

30号土坑(第18、PL. 9)

位置 グリッド名 57区K-6

主軸方位 N-9°-W

重複 無し

規模 長軸1.72m×短軸0.48m×深さ0.58m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 底は平坦で、緩やかに立ち上がった

後、ややすばりながら立ち上がり、検出面前で少し広がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

31号土坑(第18図、PL. 9)

位置 グリッド名 57区I-6

主軸方位 N-44°-W

重複 無し

規模 長軸0.60m×短軸0.58m×深さ0.16m

形状 楕円形

底面及び断面形状 底部は平坦気味で、やや広がりながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

32号土坑(第18図、PL. 8・9)

位置 グリッド名 57区K-7

主軸方位 N-15°-W

重複 無し

規模 長軸1.92m×短軸0.47m×深さ0.55m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 底は平坦で、緩やかに立ち上がった後、ややすばりながら立ち上がる。平面形態・主軸方位・断面形態・土坑の規模は、30号土坑とよく似ている。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

33号土坑(第17図、PL. 7)

位置 グリッド名 57区I-6

主軸方位 N-71°-E

重複 59号土坑が新しい

規模 長軸1.26m

形状 不整形。

底面及び断面形状 底は平坦で、少し広がりながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

34号土坑(第19図、PL. 9)

位置 グリッド名 57区J-3

主軸方位 N-66°-E

重複 無し

規模 長軸2.70m×短軸2.10m×深さ0.51m

形状 隅丸長方形。

底面及び断面形状 底は平坦に掘られており、端部は緩やかで、少し広がりながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

35号土坑(第19図、PL. 9)

位置 グリッド名 57区J-3・4

主軸方位 N-14°-W

重複 36号土坑が新しい

規模 長軸(1.84)m×短軸0.48m×深さ0.48m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 平坦な底から緩やかな端部を経て垂直気味に立ち上がる。東側の壁は少し内側すばまって立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

36号土坑(第19図、PL. 9)

位置 グリッド名 57区J-4

主軸方位 N-14°-W

重複 35号土坑が古い

規模 長軸(1.90)m×短軸0.44m×深さ0.57m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 平坦な底から緩やかな端部を経て内側にすばりながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

37号土坑(第19図、PL. 9)

位置 グリッド名 57区K-1・2

主軸方位 N-20°-W

重複 無いが、北西に隣接する45号土坑と規模、形状共に酷似している南西端部に大型の礫がある。

規模 長軸(1.54m)×短軸0.44m×深さ0.26m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 平坦な気味な底から緩やかに内湾しながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

38号土坑(第18図、PL. 8)

位置 グリッド名 57区J-6

主軸方位 N-6°-W

重複 26号土坑が新しい

規模 長軸1.26m×短軸0.44 m×深さ0.20m

形状 隅丸長方形。

底面及び断面形状 平坦な気味な底から緩やかに外反しながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

39号土坑(第19図、PL. 9)

位置 グリッド名 57区J-2

主軸方位 N-23°-W

重複 無し

規模 長軸1.56m×短軸0.60 m×深さ0.39m

形状 不整形。

底面及び断面形状 平坦な気味な底から緩やかな段を持って、少し外反しながら立ち上がる。南西に大型の礫がある。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

40号土坑(第19図、PL. 10)

位置 グリッド名 57区K-3

主軸方位 N-55°-W

重複 無し

規模 長軸2.20m×短軸0.78 m×深さ0.66m

形状 不整形

底面及び断面形状 平坦気味な底から緩やかに立ち上がるが、中央にやや深い穴を持つ。土坑の南東部分には大型の礫が存在するが、これは自然礫であろう。

遺物出土状況 実測できる遺物はない。

備考 所属時期 不明

44号土坑(第19図、PL. 10)

位置 グリッド名 57区K-4

主軸方位 N-52°-E

重複 無し

規模 長軸0.66m×短軸0.60 m×深さ0.14m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平坦気味な底から緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは浅い。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

45号土坑(第19図、PL. 9・10)

位置 グリッド名 57区K-2

主軸方位 N-20°-W

重複 無いが、北西に隣接する37号土坑と規模、形状共に類似している。南西端部に大型の礫があるのも共通している。

規模 長軸(1.48)m×短軸0.40 m×深さ0.13m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 平坦な気味な底から緩やかに内湾しながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

46号土坑(第19図、PL. 10)

位置 グリッド名 57区N-5

主軸方位 N-40°-E

重複 無し

規模 長軸0.58m×短軸0.46 m×深さ0.11m

形状 楕円形。

底面及び断面形状 平坦な気味な底から垂直気味に立ち上がる。検出面からの深さは浅い。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

48号土坑(第19図、PL. 10)

位置 グリッド名 47区O-24

主軸方位 N-50°-W

重複 無し

規模 長軸1.85m×短軸0.30 m×深さ0.13m

形状 不整形

底面及び断面形状 底は少し起伏を持ち、わずかに広がりながら立ち上がる。炭化物を面的に多く含んでいる。48号土坑の北西に、遺構の規模や主軸方位がほぼ同じで、面的に炭化物が検出された57号土坑が存在する。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

49号土坑(第19図、PL. 10)

位置 グリッド名 47区 P-25・57区 P-1

主軸方位 N-26°-W

重複 無し

規模 長軸2.32m×短軸0.42m×深さ0.10m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 平坦気味の底から少し開き気味で立ち上がる。検出面からの深さは浅い。東に存在する37・45号土坑と遺構規模・主軸方位が類似している。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

50号土坑(第20図、PL. 10)

位置 グリッド名 57区 K・L-6・7

主軸方位 N-19°-W

重複 無し

規模 長軸3.26m×短軸0.54m×深さ0.82m

形状 隅丸長方形。

底面及び断面形状 平坦な底から緩やかに、垂直気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

51号土坑(第20図、PL. 10)

位置 グリッド名 57区 K-7

主軸方位 N-17°-W

重複 52・53号土坑が古い

規模 長軸2.18m×短軸0.40m×深さ0.29m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 平坦な底から緩やかに、やや内湾しながら垂直気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

52号土坑(第20図、PL. 10)

位置 グリッド名 57区 K-7

主軸方位 N-17°-W

重複 51号土坑が新しい

規模 長軸(1.06)m×短軸(0.20)m×深さ0.19m

形状 不整形(大部分が51号土坑に破壊されているため詳細は不明)

底面及び断面形状 平坦気味な底から緩やかに、立ち上がる。

遺物出土状況 無し。

備考 所属時期 不明

53号土坑(第20図、PL. 10)

位置 グリッド名 57区 K-7

主軸方位 N-17°-W

重複 51号土坑が新しい

規模 長軸1.03m×短軸1.00m×深さ0.39m

形状 不整形。

底面及び断面形状 平坦な底から緩やかに垂直気味に立ち上がり、検出面付近で少し外反する。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

54号土坑(第20図、PL. 11)

位置 グリッド名 57区 N・O-3・4

主軸方位 N-25°-W

重複 無し

規模 長軸6.18m×短軸0.60m×深さ0.80m

形状 隅丸長方形。遺構の幅に対して長さが極めて長い。

底面及び断面形状 平坦な底から緩やかに垂直気味にやや開きながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

55・56号土坑(第20図、PL. 11)

位置 グリッド名 55号土坑：57区 M-1～3

56号土坑：57区 N-3・4、M-3

主軸方位 N-24°-W

第3章 発見された遺構と遺物

重複 55・56号土坑が重複しているが、遺構の境が不明であるため、長軸に関しては両土坑を合わせた数値を示す。

54号土坑の南東に平行している。

規模 長軸11.70m(55・56号土坑を合わせた数値)

55号土坑 短軸0.62m×深さ0.61m

56号土坑 短軸0.50m×深さ0.53m

形状 隅丸長方形。平面プランが遺構の幅に対して長い。

底面及び断面形状

55号土坑 平坦な底から緩やかに垂直気味に立ち上がる。

56号土坑 平坦な底から緩やかに内湾しながら立ち上がる。検出面の手前から緩やかに外反する。

遺物出土状況 実測できる遺物はない。

備考 所属時期 不明

57号土坑(第20図、PL. 11)

位置 グリッド名 57区L-1

主軸方位 N-24°-W

重複 無し

規模 長軸2.10m×短軸0.60m×深さ0.25m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 やや膨らみを持つ底から緩やかに垂直気味に立ち上がる。炭が大量に出土しており、南西に存在する48号土坑と似る。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

58号土坑(第17図、PL. 7)

位置 グリッド名 57区J-7

主軸方位 N-10°-E

重複 17号土坑が近い

規模 長軸0.80m×短軸0.46m×深さ0.18m

形状 楕円形

底面及び断面形状 17号土坑の上層で重複し、東壁はほぼ直立するが、西壁はなだらかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

59号土坑(第17図、PL. 7)

位置 グリッド名 57区I-6・7

主軸方位 N-18°-W

重複 16号土坑より旧く、17・33号土坑より新しい

規模 長軸1m×短軸0.86m×深さ0.23m

形状 隅丸長方形

底面 平坦な底で、緩やかに直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

60号土坑(第20図、PL. 11)

位置 グリッド名 57区L-7・8

主軸方位 N-14°-W

重複 無し

規模 長軸(1.20m)×短軸0.62m×深さ0.63m

形状 隅丸方形

底面及び断面形状 平坦な底で、緩やかに直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

61号土坑(第21図、PL. 11)

位置 グリッド名 57区J・K-7

主軸方位 N-19°-W

重複 無し

規模 長軸0.68m×短軸0.38m×深さ0.12m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 平坦気味の底から、やや外反しながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

62号土坑(第21図、PL. 11)

位置 グリッド名 57区K-1

主軸方位 N-46°-W

重複 無し

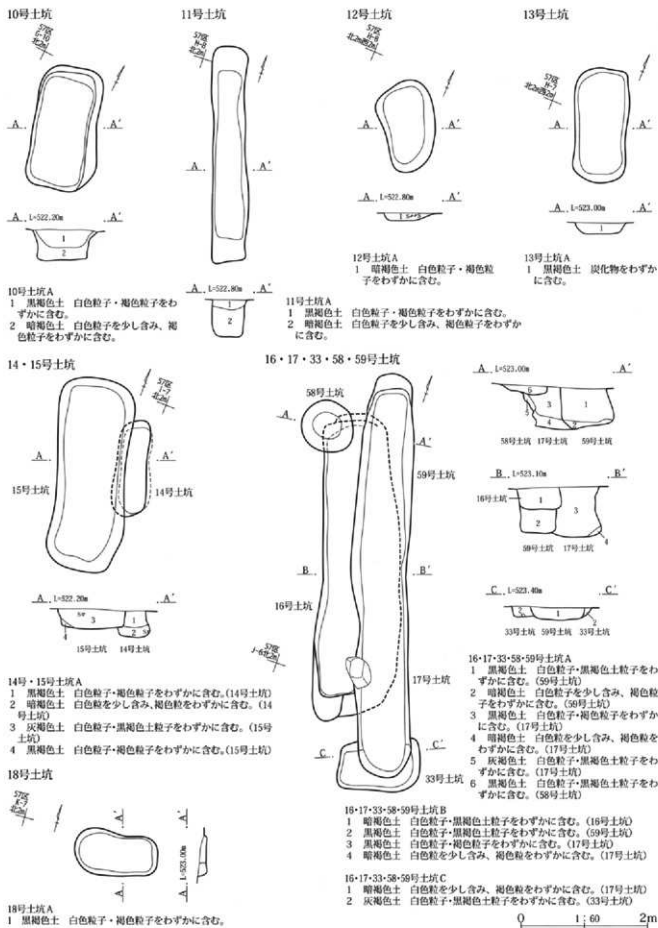
規模 長軸0.58m×短軸0.57m×深さ0.14m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平坦気味の底から、南東は直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

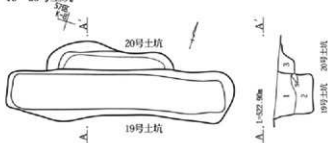
備考 所属時期 不明



第17図 D1区3面土坑(1)

第3章 発見された遺構と遺物

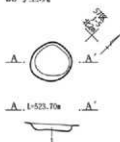
19・20号土坑



19・20号土坑A

- 1 暗褐色土 白色粒子を少し含み、褐色粒子をわずかに含む。(19号土坑)
- 2 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。(19号土坑)
- 3 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。(20号土坑)

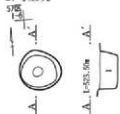
23号土坑



23号土坑A

- 1 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。

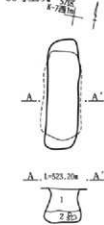
27号土坑



27号土坑A

- 1 暗褐色土 白色粒子を少し含み、褐色粒をわずかに含む。炭化物を少し含む。

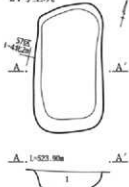
30号土坑



30号土坑A

- 1 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。
- 2 暗褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。

24号土坑



24号土坑A

- 1 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。

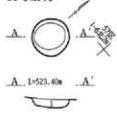
29号土坑



29号土坑A

- 1 暗褐色土 白色粒子を少し含み、褐色粒をわずかに含む。

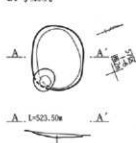
31号土坑



31号土坑A

- 1 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。

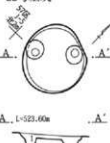
21号土坑



21号土坑A

- 1 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。

22号土坑



22号土坑A

- 1 暗褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。

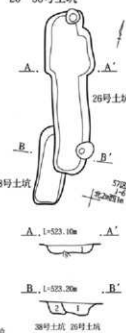
25・28号土坑・1号ピット



25・28号土坑・1号ピットA

- 1 暗褐色土 白色粒子を少し含み、褐色粒子をわずかに含む。(28号土坑)
- 2 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。(28号土坑)
- 25・28号土坑・1号ピットB
- 1 暗褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。(1号ピット)
- 2 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。(25号土坑)

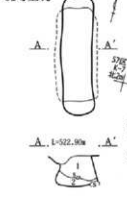
26・38号土坑



26・38号土坑A

- 1 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。(26号土坑)
- 2 暗褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。(38号土坑)
- 26・38号土坑B
- 1 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。(26号土坑)
- 2 暗褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。(38号土坑)

32号土坑



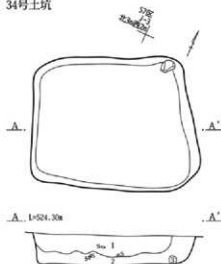
32号土坑A

- 1 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。
- 2 暗褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。

第18図 D1区3面土坑(2)

0 1; 60 2m

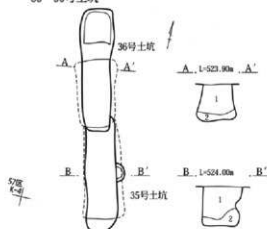
34号土坑



34号土坑A

- 1 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。
2 暗褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。

35・36号土坑



35・36号土坑A

- 1 暗褐色土 白色粒子を少し含み、褐色粒をわずかに含む。(36号土坑)

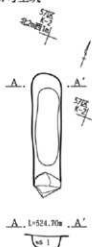
- 2 黒褐色土 白色粒子・褐色粒をわずかに含む。(36号土坑)

35・36号土坑B

- 1 暗褐色土 白色粒子・褐色粒をわずかに含む。(35号土坑)

- 2 黒褐色土 白色粒子・褐色粒をわずかに含む。(35号土坑)

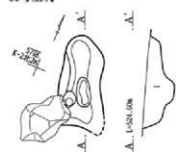
37号土坑



37号土坑A

- 1 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。

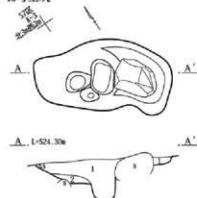
39号土坑



39号土坑A

- 1 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。

40号土坑

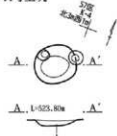


40号土坑A

- 1 暗褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。

- 2 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。

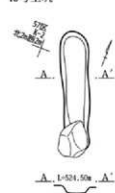
44号土坑



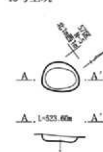
44号土坑A

- 1 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。

45号土坑



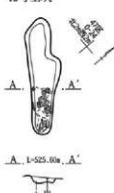
46号土坑



46号土坑A

- 1 暗褐色土 白色粒子を少し含み、褐色粒をわずかに含む。

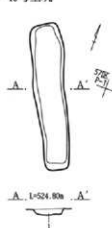
48号土坑



48号土坑A

- 1 暗褐色土 白色粒子を少し含み、褐色粒をわずかに含む。炭化物を少し含む。

49号土坑



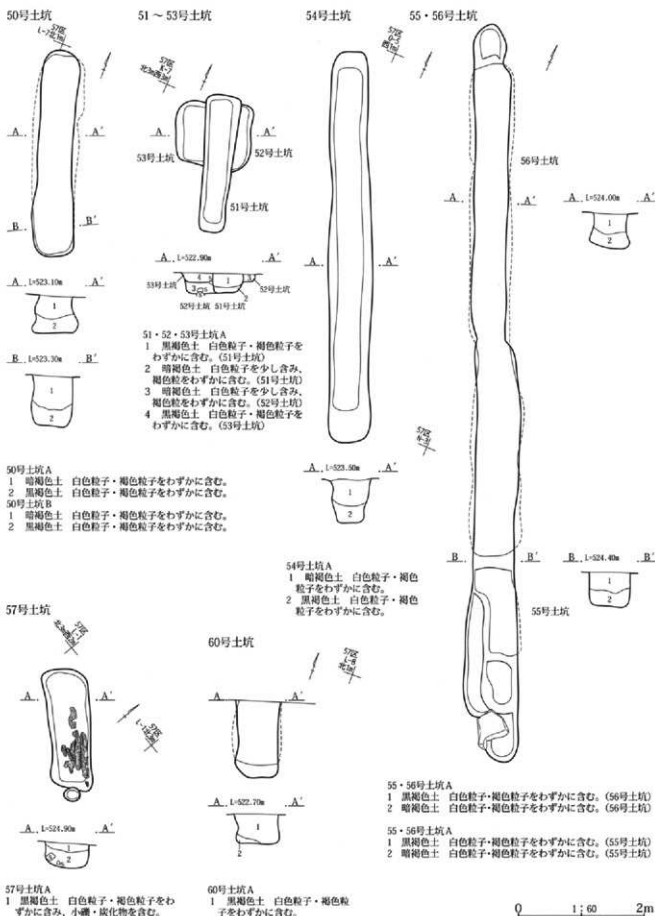
49号土坑A

- 1 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。



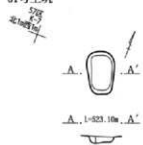
第19図 D1区3面土坑(3)

第3章 発見された遺構と遺物



第20図 D1区3面土坑(4)

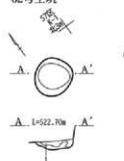
61号土坑



61号土坑A

1 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。

62号土坑



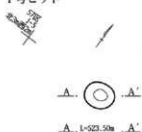
62号土坑A

1 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む、炭化物を少し含む。
2 暗褐色土 白色粒子を少し含む、褐色粒をわずかに含む。

1号ピットA

1 暗褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。

1号ピット



(2) 溝

4号溝(第21図、PL.11)

位置 グリッド名 57区G-7~9・H-8・9

主軸方位 N-27°-W

重複 無し

規模 全長(10.02)m×幅0.24m×深さ0.16m

形状 平面は直線的でなく、底も平坦ではない。D1区の北西端部から区を横断するように伸びるが、調査区内で立ち上がり続かない。

底面及び断面形状 浅い部分、深い部分があり、安定していない。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

(3) ピット

1号ピット(第21図、PL.8)

位置 グリッド名 57区J-5

主軸方位 N-68°-E

重複 28号土坑・25号土坑が近い

規模 長径0.32m×短径0.26m×深さ0.21m

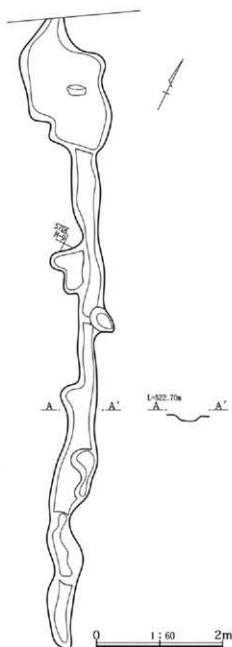
形状 楕円形

底面及び断面形状 丸みを持った底から、少し開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

4号溝



第21図 D1区3面土坑(5)、4号溝、1号ピット

1号墓



1号墓A

- 1 暗褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。
2 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。

2号墓



2号墓A

- 1 暗褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。
2 黒褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。
3 暗褐色土 白色粒子・褐色粒子をわずかに含む。

0 1:20 50cm

第22図 D1区3面1・2号墓

(4)墓

1号墓(第22図、PL.11・12)

位置 グリッド名 57区K-4

主軸方位 N-13.5°-W

重複 無し

規模 長径1.27m×短径0.74×深さ0.38m

形状 隅丸方形。

底面及び断面形状 平坦な床から垂直気味に立ち上がる。南に2号墓が隣接している。

遺物出土状況 人骨は横臥屈葬と考えられ、副葬品は無い。

備考 所属時期 不明

2号墓(第22図、PL.12)

位置 グリッド名 57区K-4

主軸方位 N-23°-W

重複 無し

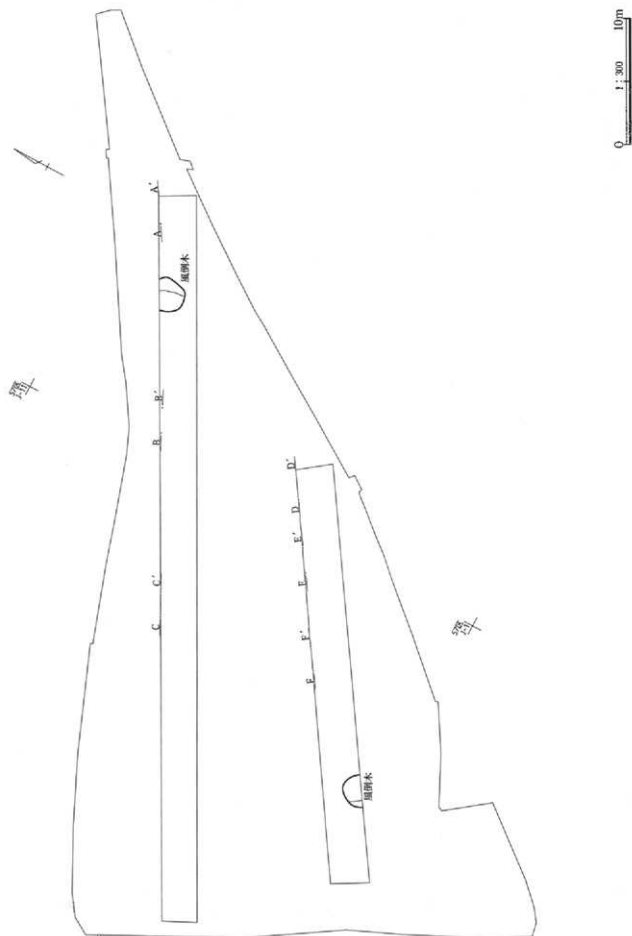
規模 長径1.29m×短径0.96×深さ0.30m

形状 隅丸方形

底面及び断面形状 平坦な床から垂直気味に立ち上がる。北に1号墓が隣接している。

遺物出土状況 人骨は横臥屈葬と考えられ、副葬品は見られず、出土した遊離歯の計測値が小さいことから女児と推定される。

備考 所属時期 不明

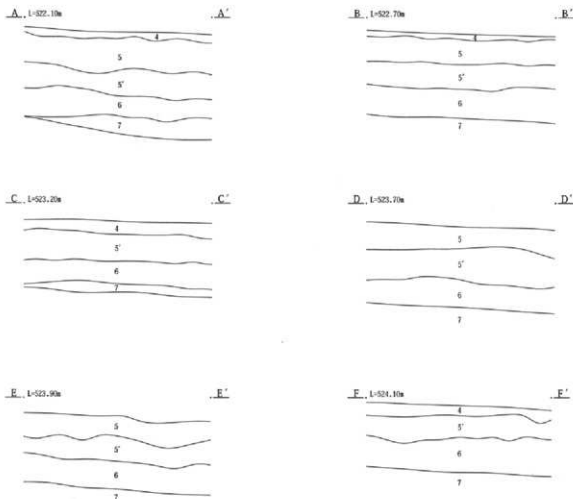


第23図 D1区4・5面全体図

第3章 発見された遺構と遺物

D 1区4・5面の遺構確認のために調査区の長軸方向に2本、幅3mのトレンチを入れ、更にロームに達するまでA～Fまでの6トレンチを入れて調査を行ったが、風倒木が2基確認できたのみで、遺構は検出されなかった。

また、風倒木に関しては周辺から遺物が出土していないため、時期を確定することはできない。



D-1区A～F

- 1 表土 現代の耕作土。
- 2 天明泥流
- 3 As-A 発泡のよい白色軽石、径2～4mm大の軽石が主体。(第1面)
- 4 暗褐色土 白色粒子を少し含む、褐色粒子をわずかに含む。鉄分が付着している。As-A畑の耕作土。(第2面)
- 5 灰褐色土 白色粒子及び褐色粒子・黒褐色土粒子をわずかに含む、砂礫を少量含むやや砂質の層。5'層をベースとする。(第3面)
- 5' 灰褐色土 南斜面からの崩落土で砂礫層。一部に鉄分が付着している。
- 6 黒褐色土 白色粒子と褐色粒子をわずかに含む、褐色土粒と炭化を少し含む。一部で暗褐色を呈する。(第4面)
- 7 ローム質土 南斜面方向からの土砂崩落に伴うロームの二次堆積層。As-YPrをわずかに含む。(第5面)

0 1:40 1m

第24図 D1区4・5面基本土層

4 D2区1面の遺構(第25～28図、PL.12・13)

D2区1面からも調査区全域から天明泥流下の烟跡が確認された。

烟の畝・サクの伸びる方向は、D1区同様ほぼ同じ角度で並び、 $N-72^{\circ}-E$ で揃っている。

畝幅は20cm～25cm、サク幅は20cm前後で畝の方がわずかに広い。しかし各区における畝幅及びサク幅の違いは、畝の残存状況とかわかってくる問題で、烟の構造上の違いを示しているとは考えにくい。畝・サクはやはり連続してほぼ等間隔に並んでいる。

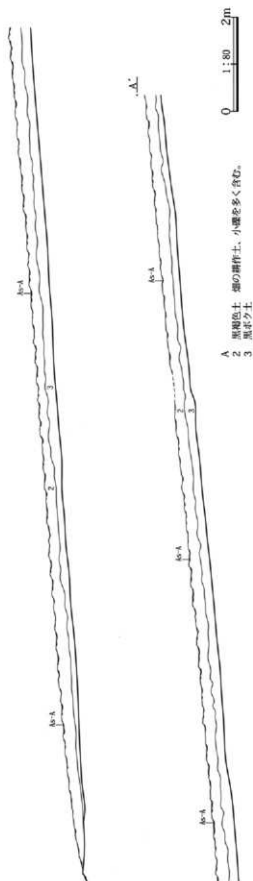
烟の幅は広い所で17.4m、狭い所で9.0mあり、D1区同様に広い烟・狭い烟で、2倍近い差がある。

サクの切れ目の分割線は調査区内に4条見られるが、西端部の分割線は、途中で位置を変えている。この分割線の位置変換部分は後世の破壊で確認ができないため、なぜ、どのように位置が変わったのかは判別できない。

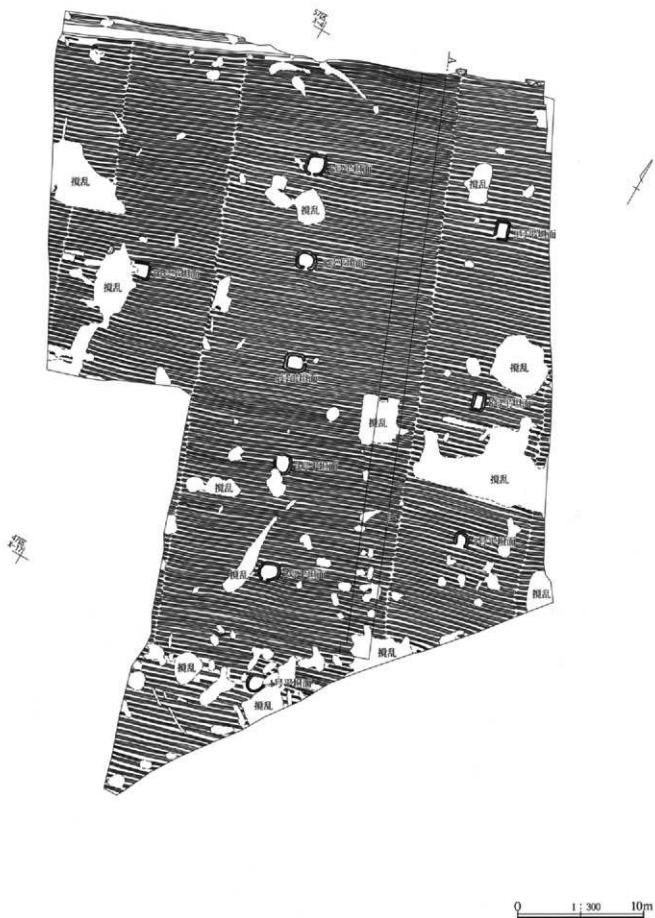
平坦面は分割線で5分割された畑面の、西から2番目の区画面で1基(10号平坦面)、3番目の区画面で6基(1～6号平坦面)、4番目の区画面で3基(7～9号平坦面)の計10基が確認された。これらのうち1・2号平坦面は円形に溝が巡るが、3～10号平坦面は、隅丸方形に近い形で溝が巡っている。

西端の区画面及び東端の区画面は、調査区端部であり掘削・調査された面積が他の区画と比較して極端に狭かったため、平坦面を確認することはできなかった。

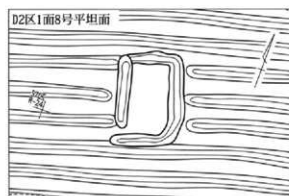
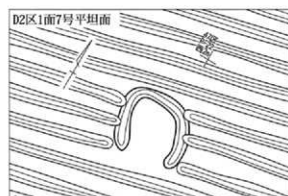
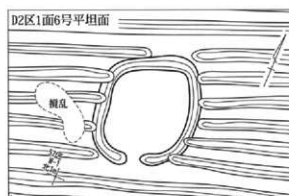
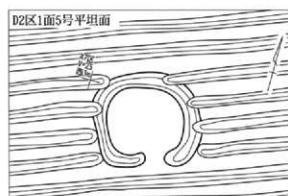
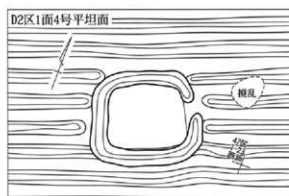
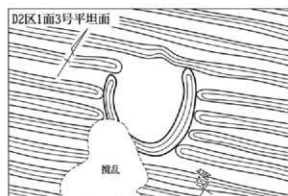
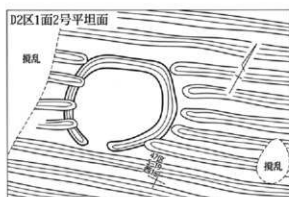
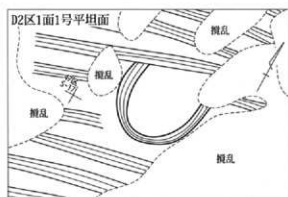
D2区の天明泥流下の畑からは、瀬戸・美濃陶器すり鉢、端反皿、在地系土器、内耳鍋が出土している。(第126図 A下畑1～3)



第25図 D2区1面A土層断面図

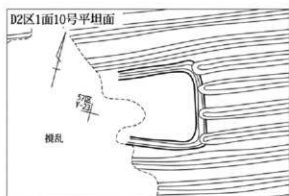


第26図 D2区1面全体図



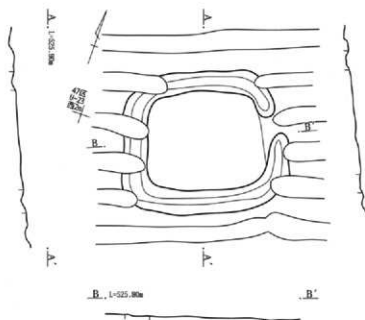
0 1:60 2m

第27圖 D2区1面1～8号平坦面

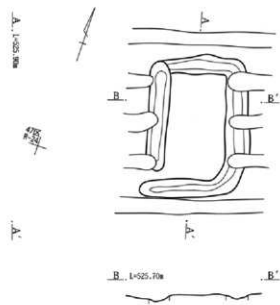


0 1:60 2m

4号平坦面



8号平坦面



0 1:40 1m

第28図 D2区1面9・10号平坦面、4・8号平坦面平・断面図

5 D2区2面の遺構(第29～32図、PL.13～15)

D2区2面からは、1～3号溝、1～10号焼土、1号遺物集中の他、天明泥流以前の畑が検出された。

遺物集中からは土師器甕、須恵器坏・椀(第126図遺物集中-1～12、PL.62)が出土している。

(1) 溝

1号溝(第30図、PL.13)

位置 グリッド名 47区V-22・23、W-22

主軸方位 N-50°-W

重複 無し

規模 全長7.80m×幅0.06m×深さ0.14m

底面及び断面形状 細くL字型に折れ曲がる形状で、掘り込みも浅い。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

2号溝(第30図、PL.14)

位置 グリッド名 47区R-21・22、S-21～23

主軸方位 N-24°-W

重複 無し

規模 全長9.00m×幅0.50m×深さ0.17m

底面及び断面形状 南東方向に直線的に伸びるが、検出面からの掘り込みがやや浅いため、寸断された形で連続し、一部は隣接するD3区②の2面へ続く。東に隣接する3号溝と並行している。溝幅の広い北西端部で断面を見ると、西側の部分が深く円形の掘方で、弱い段を持って東へ緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

3号溝(第31図、PL.14)

位置 グリッド名 47区O-19・20、P-19～22、Q-22～24、R-24・25、57区R-1・2、S-1～4、T-3・4

主軸方位 N-24°-W

重複 無し

規模 全長(43.8)m×幅0.60m×深さ0.36m

底面及び断面形状 調査区を南東方向に縦断して直線的

に伸び、一部は隣接するD3区②の2面へ連続する。遺構の主軸方位は西に隣接する2号溝と並行しており、3号溝を境として2面で検出された畑の畝の方向が90度変わる。畑に伴って存在した溝であろう。断面をみると、丸みを持った底面から緩やかに立ち上がっている。

遺物出土状況 瀬戸・美濃産の陶器皿(近世)(第126図3溝-1、PL.62)

備考 所属時期 江戸

(2) 畑

畑(第31図、PL.14)

位置 グリッド名 47区P-21・22、Q・R-21～23、

主軸方位 N-26°-W

重複 無し

規模 残存状態の良い3号溝の西側で見ると、畝間の平坦部分の幅が60cm前後あり、1面の畑と比べるとかなり広い。従って天明泥流で埋没した1面の畑とは、異なる作物を栽培していた可能性が高い。また3号溝の西側と東側で畝の方向が90度異なり、2号溝の西側にも、残存状態は悪いが同じ方向の畝状の窪みが検出されたことから、これらの溝は畑に伴う施設であったと推定される。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 検出された畑との位置関係や主軸方向の共通性などから、同時に存在していたことが予想される3号溝から、瀬戸・美濃産の皿が出土し、江戸時代の遺構と考えられていることから、2面畑も江戸時代の畑で、泥流埋没以前に営まれていたことが予想される。

(3) 焼土

1号焼土(第32図、PL.14)

位置 グリッド名 47区P・Q-18

主軸方位 N-60°-E

重複 無し

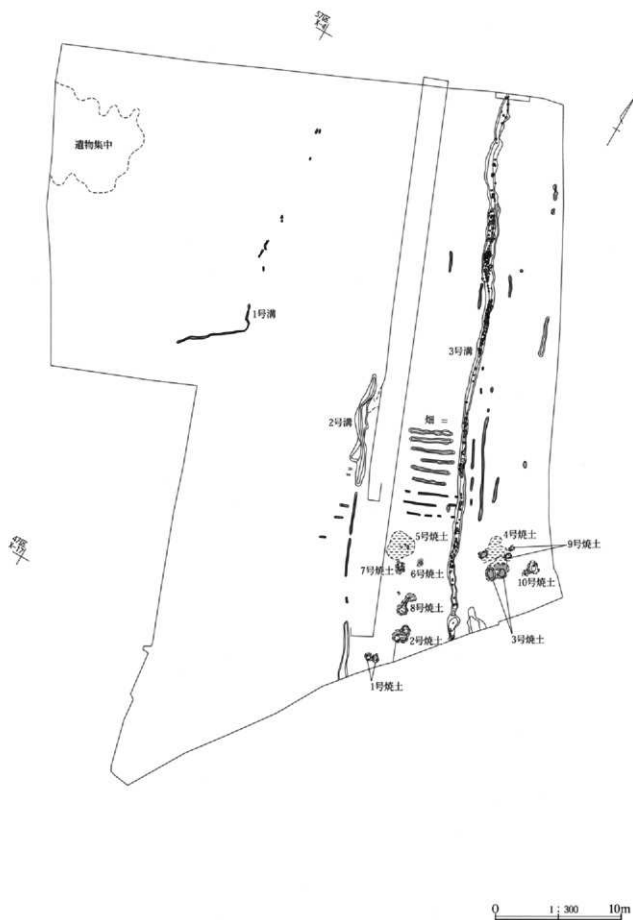
規模 長軸1.18m×短軸0.26m

形状 不整形

底面及び断面形状 不定形でやや窪む。

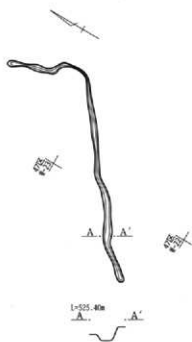
遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明



第29図 D2区2面全体図

1号溝



2号溝



A., 1-525.70m A'

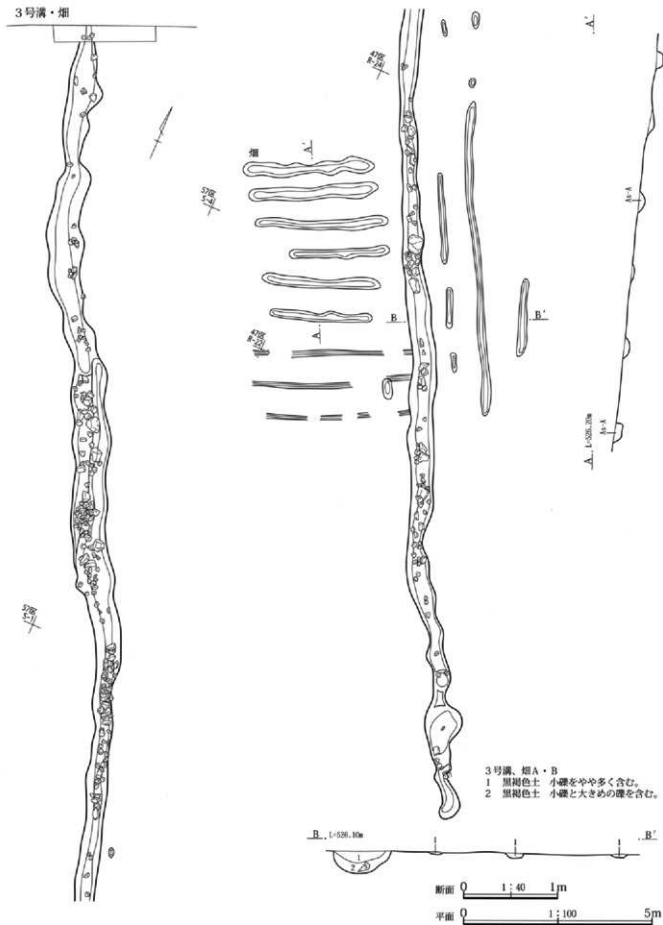
2号溝A
1 黒褐色土 小礫を含む。

断面 0 1:40 1m

平面 0 1:100 5m

第30図 D2区2面1・2号溝

3号溝・畑



第31図 D2区2面3号溝、畑

2号焼土(第32図、PL.14)

位置 グリッド名 47区P-19

主軸方位 N-19°-E

重複 無し

規模 長軸1.60m×短軸0.80m×深さ0.24m

形状 不整形

底面及び断面形状 平底気味で緩やかに立ち上がる。浅い窪み。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

3号焼土(第32図、PL.14)

位置 グリッド名 47区O-21

主軸方位 N-41°-E

重複 無し

規模 長軸1.90m×短軸1.12m×深さ0.20m

形状 不整形

底面及び断面形状 平底気味で緩やかに立ち上がる。浅い窪み。4・9号焼土と隣接する。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

4号焼土(第32図、PL.14)

位置 グリッド名 47区O・P-21・22

主軸方位 N-36°-E

重複 無し

規模 長軸2.12m×短軸0.96m×深さ0.23m

形状 不整形

底面及び断面形状 平底気味で緩やかに立ち上がる。浅い窪み。3・9号焼土と隣接する。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

5号焼土(第32図、PL.14)

位置 グリッド名 47区Q-21・22

主軸方位 N-40°-E

重複 無し

規模 長軸2.34m×短軸1.54m×深さ0.14m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味で緩やかに立ち上がる。極

めて浅い窪み。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

6号焼土(第32図、PL.15)

位置 グリッド名 47区Q-20

主軸方位 N-9°-W

重複 無し

規模 長軸0.68m×短軸0.43m×深さ0.08m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味で緩やかに立ち上がる。極めて浅い窪み。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

7号焼土(第32図、PL.15)

位置 グリッド名 47区Q-20

主軸方位 N-27°-W

重複 無し

規模 長軸1.00m×短軸0.62m×深さ0.20m

形状 不整形

底面及び断面形状 若干の凹凸を持つ底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

8号焼土(第32図、PL.15)

位置 グリッド名 47区P・Q-19・20

主軸方位 N-15°-E

重複 無し

規模 長軸1.98m×短軸0.40m×深さ0.20m

形状 不整形

底面及び断面形状 平底気味で緩やかに立ち上がる。浅い窪み。中心が2か所存在する。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

9号焼土(第32図、PL.15)

位置 グリッド名 47区O-20・21

主軸方位 N-12°-W

重複 無し

規模 長軸1.32m×短軸0.40m×深さ0.13m

形状 不整形

底面及び断面形状 平底気味で緩やかに立ち上がる。浅い窪み。3号焼土・4号焼土と隣接している。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

10号焼土(第32図)

位置 グリッド名 47区O・N-21・22

主軸方位 N-17°-E

重複 無し

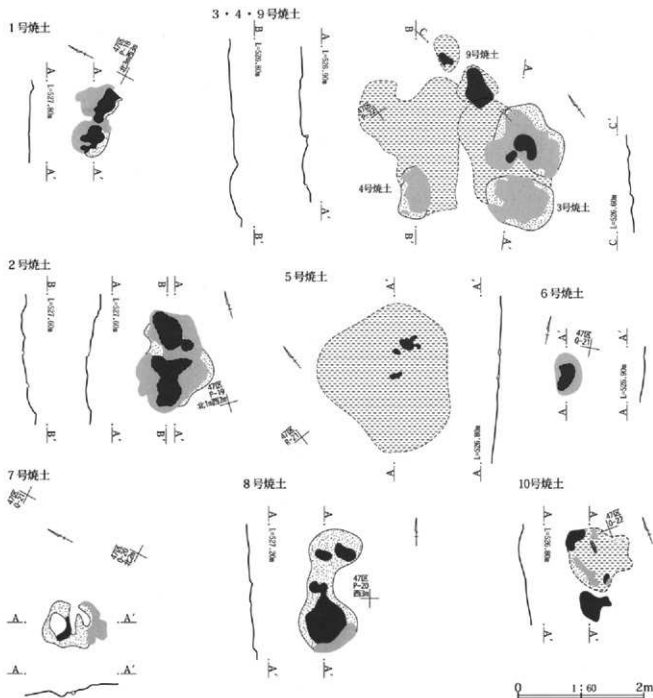
規模 長軸1.50m×短軸0.30m×深さ0.20m

形状 不整形

底面及び断面形状 平底気味で緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明



第32図 D2区2面焼土

6 D2区3面の遺構(第33~42図、PL.16~23)

D2区の3面からは、1・3・5・8・10・12~15号土坑と1~32号ピット、1・2号掘立、1号墓、畑と、1~7号竪壇状遺構が検出されている。当初土坑と考えていた4・9・11・16・18号土坑は、直線的に等間隔に並んでいることから、掘立柱建物であることが判明した。従って、土坑番号を欠番とし、2号掘立柱建物のP1~5として扱うことになった。

(1)掘立柱建物

1号掘立柱建物(第34図、PL.16・17)

位置 グリッド名 47区R~T-15~17

主軸方位 N-77°-E

重複 無し

規模 1間(3.80~4.00m)×5間(10.00m)+半間廂(0.80m)

形状 長方形、東西方向が長く、東に半間の廂が付く。

柱穴 D2区南西の山際で確認された。規模的には南北の1間が幅広く2間分あるため、2間×5間と同じと捉えることもできるが、実際は1間×5間の東西に長い建物で東側に廂が付いている。A1区の3号掘立柱建物よりも若干小さいが、ほぼこれに匹敵する大きさを持つ。主軸の方向は、東西に長いものと、南北に長いもので90度違うが、こちらの遺構はかなり北に向かって傾斜している土地に建てられており、南北方向ではかなり大規模な造成を行わないと平坦な土地を用意することができない。そうした土地の制約によるものと考えられる。南側の廂の柱穴は、調査区外であるため確認されなかった。

建物の大きさは、東西約10m、南北3.8m~4.0mで、横幅は1間の長さが縦幅の2間分ある。

北西側のP7は、他のピットと比べて浅いが、礎が底面に顔を出しており、充分な強度があったと考えられる。他の柱穴は深さ約40~50cm程あり、ほぼ一定していた。P14は深さ14cmでP13に近いものであり、廂を支える柱と考えた。P13と対峙する位置のP1の東側の1本は、山際で確認できなかった。

P1とP2の間200cm、P2とP3の間220cm、P3とP4の間185cm、P4とP5の間215cm、P5とP6の間

210cm、P6とP7の間380cm、P7とP8の間215cm、P8とP9の間215cm、P9とP10の間185cm、P10とP11の間195cm、P11とP12の間200cm、P12とP13の間80cm、P13とP14の間205cm、P12とP14の間205cm、P1とP14の間200cm、P1とP12の間390cm、P2とP11の間385cm、P3とP10の間395cm、P4とP9の間400cm、P5とP8の間400cm、P6とP7の間380cmを計測する。

備考 所属時期 遺物が出土していないため不明である。が、柱間や主軸方向などから、中世のものと考えられる。

P1

位置 グリッド名 47区R-16

主軸方位 N-67°-E

重複 無し

規模 長径0.30m×短径0.28m×深さ0.40m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底から緩やかに直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 中世

P2

位置 グリッド名 47区R-16

主軸方位 N-29°-E

重複 無し

規模 長径0.28m×短径0.26m×深さ0.46m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底から緩やかに直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 中世

P3

位置 グリッド名 47区S-16

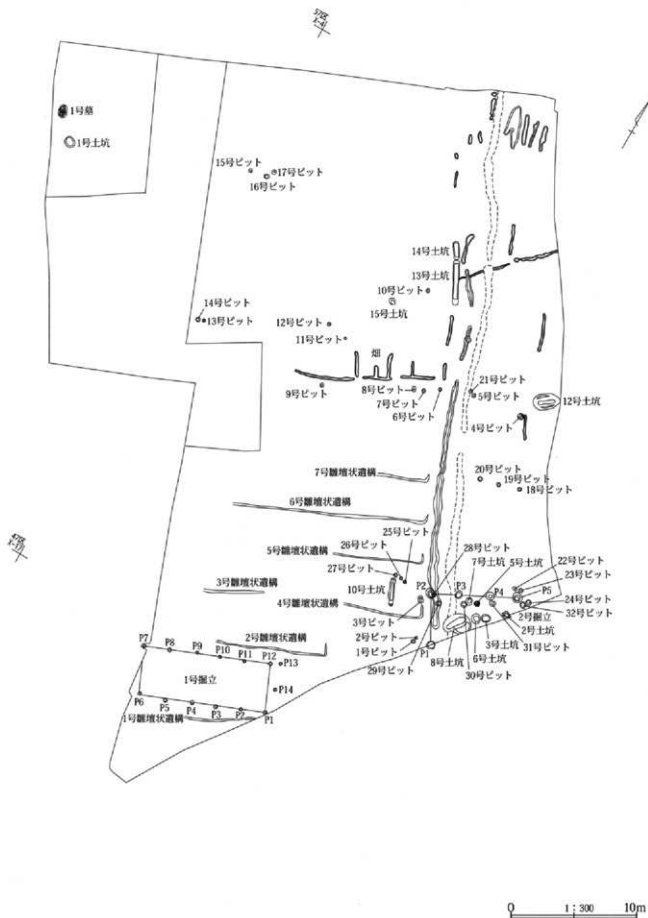
主軸方位 N-20°-W

重複 無し

規模 長径0.35m×短径0.31m×深さ0.47m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底から緩やかに直立気味に立ち上がる。



第33図 D2区3面全体図

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 中世

P 4

位置 グリッド名 47区S-16

主軸方位 N-19°-W

重複 無し

規模 長径0.36m×短径0.28m×深さ0.30m

形状 楕円形

底面及び断面形状 やや丸みを持った底から少し膨らみを持って立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 中世

P 5

位置 グリッド名 47区S・T-15

主軸方位 N-35°-W

重複 無し

規模 長径0.33m×短径0.31m×深さ0.39m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底から緩やかに直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 中世

P 6

位置 グリッド名 47区T-15

主軸方位 N-17°-E

重複 無し

規模 長径0.30m×短径0.26m×深さ0.34m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底から緩やかに直立気味に立ち上がる。P 6はP 1～P 5までの直線的な並びから若干外にずれるので、断面を点線で示した。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 中世

P 7

位置 グリッド名 47区T-16

主軸方位 N-47°-W

重複 無し

規模 長径0.33m×短径0.30m×深さ0.55m

形状 楕円形。

底面及び断面形状 底に平たい自然礫があり、そこから膨らみを持って立ち上がる。他のビットより掘方が浅いが、礫があるため柱が沈まず安定していたのであろう。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 中世

P 8

位置 グリッド名 47区T-16

主軸方位 N-40°-W

重複 無し

規模 長径0.28m×短径0.26m×深さ0.38m

形状 楕円形

底面及び断面形状 底に平坦な自然礫があり、そこから緩やかに直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 中世

P 9

位置 グリッド名 47区S-17

主軸方位 N-16°-E

重複 無し

規模 長径0.24m×短径0.23m×深さ0.44m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底から緩やかに直立気味に立ち上がる。P 9はP 7・8、P 10～12を結んだ直線から主軸がずれるので、断面を点線で記した。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 中世

P 10

位置 グリッド名 47区S-17

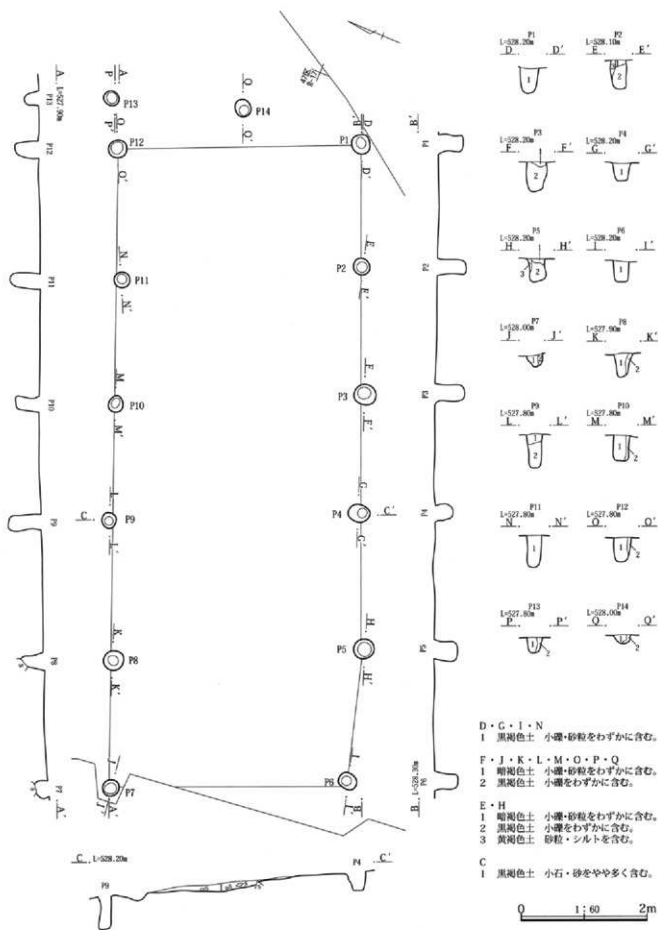
主軸方位 N-75°-E

重複 無し。

規模 長径0.26m×短径0.24m×深さ0.40m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底から緩やかに直立気味に立ち上がる。



第34図 D2区3面1号掘立柱建物

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 中世

P 11

位置 グリッド名 47区S-17

主軸方位 N-20°-W

重複 無し

規模 長径0.25m×短径0.24m×深さ0.51m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底から緩やかに直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 中世

P 12

位置 グリッド名 47区R-17

主軸方位 N-29°-W

重複 無し

規模 長径0.30m×短径0.28m×深さ0.39m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平坦底気味の底から緩やかに、わずかに膨らみを持って直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 中世

P 13

位置 グリッド名 47区R-17

主軸方位 N-13°-E

重複 無し

規模 長径0.24m×短径0.22m×深さ0.24m

形状 楕円形

底面及び断面形状 やや丸みを持った底から緩やかに直立気味に立ち上がる。廂と考えられる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 中世

P 14

位置 グリッド名 47区R-17

主軸方位 N-50°-W

重複 無し

規模 長径0.28m×短径0.24m×深さ0.14m

形状 楕円形

底面及び断面形状 やや丸みを持った底から緩やかに立ち上がる。廂と考えられる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 中世

2号掘立柱建物(第35図、PL 18)

位置 グリッド名 47区N・O-20・21、P-19・20

主軸方位 N-64°-E

重複 第33図を見ると、ピット2の上を北西方向へ溝が重複している。この溝は2面で確認された3号溝に溝幅も掘削された方位もよく似ていたため、第29図の図と重ねてみたところ、溝と溝の間が1m弱の間隔で併行していることがわかった。これは道の両脇に存在する側溝になる可能性が考えられる。

従って、2号掘立柱建物は溝と重複しており、溝の方が新しい。

規模 1間(4.15m)×3間(6.8m)

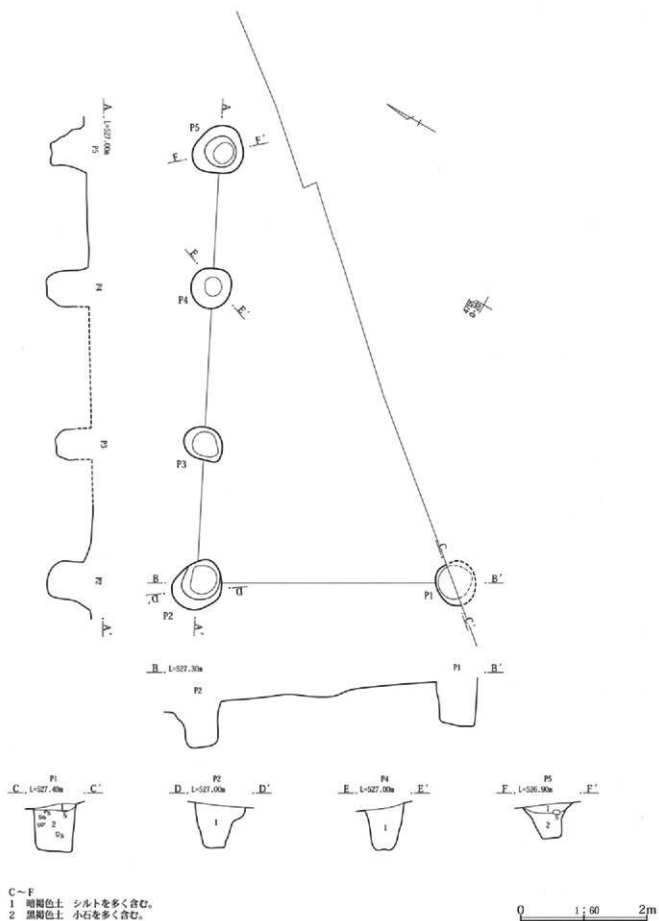
形状 長方形(東西方向が長い)

柱穴 D2区南西の山際で検出された。規模的には南北の1間が幅広く2間分あり、2間×3間の建物と同じと捉えることもできるが、実際は1間×3間の東西に長い建物で、北に向かって傾斜している土地に建てられており、南北方向ではかなり大規模な造成を行わないと平坦な土地を用意することができない。そうした土地の制約により、東西に長くなったと考えられる。1号掘立柱建物とはほぼ平行する10m程北東で確認された。両社はほぼ同時期のものと考えられる。直径70～80cm、深さ60～70cmの大型の柱穴が並ぶ。柱の太さも他の建物と違い、かなり重量感のある高い建物が建っていたと考えられ、通常の住宅や付属建物などではなく、他のもの、具体的には寺院や神社のような特殊な建物であった可能性も考えられる。北列の内側に並ぶピット列は、小規模で深さも浅く、立替前の柱穴列の可能性も考えられる。

建物の大きさは、東西約6.8m、南北4.15mで、横幅は1間の長さが縦幅の2間分ほどある。

P1とP2の間415cm、P2とP3の間215cm、P3とP4の間250cm、P4とP5の間215cmを計測する。

備考 所属時期 遺物が出土していないが、柱間や主軸



- C～F
 1 暗褐色土 シルトを多く含む。
 2 黒褐色土 小石を多く含む。

方向などから中世のものと考えられる。

P 1

位置 グリッド名 47区O・P-19

主軸方位 N-49°-E

重複 無し

規模 長径0.70m×短径0.60m×深さ0.79m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底から直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 中世

P 2

位置 グリッド名 47区P-20

主軸方位 N-48°-W

重複 無し

規模 長径0.82m×短径0.70m×深さ0.73m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底から緩やかに直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 中世

P 3

位置 グリッド名 47区O・P-20

主軸方位 N-10°-W

重複 無し

規模 長径0.64m×短径0.52m×深さ0.33m

形状 楕円形

底面及び断面形状 やや凹凸があるが平底気味の底から直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 中世

P 4

位置 グリッド名 47区O-20・21

主軸方位 N-25°-W

重複 無し

規模 長径0.64m×短径0.62m×深さ0.75m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底から直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 中世

P 5

位置 グリッド名 47区N-21

主軸方位 N-46°-W

重複 無し

規模 長径0.80m×短径0.76m×深さ0.57m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底からやや広がりを持って直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 中世

(2)土坑

1号土坑(第36図、PL.19)

位置 グリッド名 48区B-24

主軸方位 N-65°-W

重複 無し

規模 長軸0.87m×短軸0.75m×深さ0.19m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平坦気味の底から、やや開きながら立ち上がる。

遺物出土状況 土師器甕の胴下半～底部の破片が出土。(第127図-1土1、PL.62)

備考 所属時期 遺物の時期は平安。

2号土坑(第36図、PL.19)

位置 グリッド名 48区N・O-20

主軸方位 N-53°-W

重複 無し

規模 長軸(0.58)m×短軸0.48m×深さ0.15m

形状 楕円形

底面及び断面形状 緩やかな段を持つ底から反気味に立ち上がる。炭が見られる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

3号土坑(第36図、PL. 19)

位置 グリッド名 47区O-20

主軸方位 N-60°-W

重複 無し

規模 長軸0.72m×短軸0.63m×深さ0.11m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平坦気味の底から、緩やかにやや直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

5号土坑(第36図、PL. 19)

位置 グリッド名 47区O-20

主軸方位 N-6°-W

重複 無し

規模 長軸0.46m×短軸0.44m×深さ0.20m

形状 楕円形

底面及び断面形状 やや膨らみを持つ底から、緩やかに垂直気味に立ち上がる。覆土に大・小の礫が多い。

遺物出土状況 実測できる遺物は無し。

備考 所属時期 不明

6号土坑(第36図、PL. 19)

位置 グリッド名 47区O-20

主軸方位 N-34°-W

重複 無し

規模 長軸0.80m×短軸0.70m×深さ0.13m

形状 楕円形

底面及び断面形状 少し丸みを持つ底から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

7号土坑(第36図、PL. 19)

位置 グリッド名 47区O-20

主軸方位 N-21°-W

重複 30号ピットと重複し、7号土坑の方が古い

規模 長軸0.60m×短軸0.50m×深さ0.22m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平坦な底から緩やかに外反気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

8号土坑(第36図、PL. 19)

位置 グリッド名 47区O-19、O・P-20

主軸方位 N-48°-W

重複 無し

規模 長軸2.20m×短軸1.60m×深さ0.40m

形状 不整形

底面及び断面形状 緩やかに波打つような段を持ち、外反気味に立ち上がる。覆土に一部礫を含む。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

10号土坑(第36図、PL. 19)

位置 グリッド名 47区Q-19・20

主軸方位 N-25°-W

重複 無し

規模 長軸2.24m×短軸0.34m×深さ0.71m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 平坦気味な底から緩やかに、やや開きながら垂直気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

12号土坑(第36図、PL. 20)

位置 グリッド名 47区P-24・25

主軸方位 N-49°-E

重複 無し

規模 長軸2.17m×短軸1.25m×深さ1.02m

形状 不整形

底面及び断面形状 土坑中心部に、主軸に沿う形で深い部分があり、そこから弱い段を持ち、大きく開きながら内湾気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

13号土坑(第36図、PL. 20)

位置 グリッド名 47区R・S-25、57区S-1

主軸方位 N-55°-W

重複 無し

規模 長軸3.54m×短軸0.40m×深さ0.37m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 平坦な底から緩やかに、わずかに内湾しながら垂直に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

14号土坑(第36図)

位置 グリッド名 57区S-1

主軸方位 N-33°-W

重複 無し

規模 長軸1.46m×短軸0.40m×深さ0.17m

形状 隅丸方形

底面及び断面形状 平坦気味の底から、緩やかに外反気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

15号土坑(第36図、PL. 20)

位置 グリッド名 47区T-24

主軸方位 N-48°-W

重複 無し

規模 長軸0.53m×短軸0.46m×深さ0.08m

形状 不整形

底面及び断面形状 丸みを持った底から緩やかに外反気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

(3)ピット

1号ピット(第37図、PL. 20)

位置 グリッド名 47区P-19

主軸方位 N-84°-W

重複 無し

規模 長径0.34m×短径0.28m×深さ0.45m

形状 楕円形

底面及び断面形状 底に自然礫と考えられる礫が存在しているため、底面の形が不明瞭である。断面中位まで弱く内湾し、そこから緩やかに外反する。隣接する2号ピットと断面形状が異なる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

2号ピット(第37図、PL. 20)

位置 グリッド名 47区P-19

主軸方位 ー

重複 無し

規模 長径0.23m×短径0.21m×深さ0.49m

形状 円形

底面及び断面形状 平坦な底から緩やかに直線的に立ち上がる。隣接する1号ピットと断面形状が異なる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

3号ピット(第37図、PL. 20)

位置 グリッド名 47区P-20

主軸方位 N-51°-E

重複 無し

規模 長径0.42m×短径0.40m×深さ0.44m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平坦な底から緩やかに外反しながら立ち上がる。断面に柱痕が観察でき、小礫を含む。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

4号ピット(第37図、PL. 20)

位置 グリッド名 47区P-24

主軸方位 N-54°-E

重複 無し

規模 長径0.55m×短径0.47m×深さ0.24m

形状 楕円形

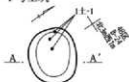
底面及び断面形状 V字型に掘られており、壁は東側に大きく広がっている。東壁検出面付近に炭が見られる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

第3章 発見された遺構と遺物

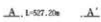
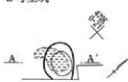
1号土坑



1号土坑A

1 黒褐色土 小石をわずかに含む。

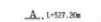
2号土坑



2号土坑A

1 黒褐色土 砂粒を少し含む。
2 暗褐色土 やや大型の石を底に多く含む。

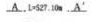
3号土坑



3号土坑A

1 黒褐色土 小石をやや多めに含む。

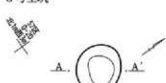
5号土坑



5号土坑A

1 黒褐色土 土には小石を含み、大型の円礫を多く含む。

6号土坑



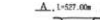
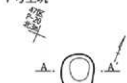
6号土坑A

1 黒褐色土 小石を少し含む。

7号土坑A

1 黒褐色土 小石をやや多めに含む。砂を含む。

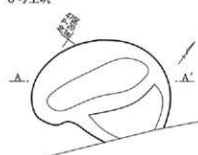
7号土坑



8号土坑A

1 黒褐色土 シルトをわずかに含む。
2 黒褐色土 石を少し含む。砂粒を含む。
3 黒褐色土 小石、やや大型の円礫を大量に含む。砂粒を含む。
4 黒褐色土 細砂粒、小石をわずかに含む。黒褐色土をブロック状に含む。
5 ロームを主体とし、黒褐色土ブロックを含む。
6 黒褐色土 円礫・砂粒を大量に含む。

8号土坑



8号土坑A



10号土坑



10号土坑A

1 黒褐色土 小石をわずかに含む。
2 暗褐色土 小石、砂粒をわずかに含む。

12号土坑



12号土坑A

1 黒褐色土 砂粒を少し含む。
2 暗褐色土 砂粒を含む。
3 黒褐色土 砂粒と小石を含む。

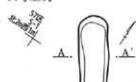
13号土坑



13号土坑A

1 黒褐色土 小石をやや多めに含む。
2 黒褐色土 小石と砂粒を含む。

14号土坑



14号土坑A

1 黒褐色土 小石を多く含む。

15号土坑



15号土坑A

1 黒褐色土 小石を少し含む。



第36図 D2区3面土坑

5号ピット(第37図、PL.20)

位置 グリッド名 47区Q-24

主軸方位 N-3°-W

重複 無し

規模 長径0.34m×短径0.32m×深さ0.35m

形状 楕円形

底面及び断面形状 底は中心部が円形に深くなっており、弱い段を持って東側の壁は、ほぼ垂直に立ち上がるが、西側の壁は、段を持ちながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

6号ピット(第37図、PL.20)

位置 グリッド名 47区R-23・24

主軸方位 N-33°-W

重複 無し

規模 長径0.30m×短径0.22m×深さ0.34m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平坦気味の底からわずかに内湾しながら立ち上がる。縦方向に分層されていることから、柱痕が一部残っているのかもしれない。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

7号ピット(第37図、PL.21)

位置 グリッド名 47区R-23

主軸方位 N-23°-W

重複 無し

規模 長径0.34m×短径0.28m×深さ0.13m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平坦気味の底からわずかに外反しながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

8号ピット(第37図、PL.21)

位置 グリッド名 47区R-23

主軸方位 N-27°-W

重複 無し

規模 長径0.46m×短径0.30m×深さ0.36m

形状 楕円形

底面及び断面形状 わずかに丸みを持つ底から緩やかに直立気味に立ち上がり、検出面前で緩く外反する。覆土が縦方向に分層されているので、柱痕が一部残っている可能性も考えられる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

9号ピット(第37図、PL.21)

位置 グリッド名 47区T-22

主軸方位 N-19°-W

重複 無し

規模 長径0.38m×短径0.29m×深さ0.26m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸みを持つ底からわずかに内湾気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

10号ピット(第37図、PL.21)

位置 グリッド名 47区S-25

主軸方位 N-32°-W

重複 無し

規模 長径0.35m×短径0.28m×深さ0.46m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸みを持つ底から内湾気味に立ち上がり、検出面前で内湾しながら広がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

11号ピット(第37図、PL.21)

位置 グリッド名 47区T-23

主軸方位 N-50°-W

重複 無し

規模 長径0.22m×短径0.17m×深さ0.16m

形状 楕円形

底面 丸みを持つ底から少し広がりがりながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

12号ピット(第38図、PL. 21)

位置 グリッド名 47区R-17

主軸方位 N-28°-W

重複 無し

規模 長径0.30m×短径0.27m×深さ0.16m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平坦な底から緩やかに直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

13号ピット(第38図、PL. 21)

位置 グリッド名 47区R-17

主軸方位 N-44°-E

重複 無し

規模 長径0.26m×短径0.24m×深さ0.16m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平坦な底から緩やかにわずかに内湾して立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

14号ピット(第38図、PL. 21)

位置 グリッド名 47区R-17

主軸方位 N-78°-W

重複 無し

規模 長径0.38m×短径0.34m×深さ0.37m

形状 楕円形

底面及び断面形状 少し丸みを持った底から緩やかに、わずかに広がりながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

15号ピット(第38図、PL. 21)

位置 グリッド名 47区W-25

主軸方位 N-50°-W

重複 無し

規模 長径0.32m×短径0.28m×深さ0.34m

形状 楕円形

底面及び断面形状 やや傾きを持つが平坦気味の底か

ら、緩やかに直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

16号ピット(第38図、PL. 21)

位置 グリッド名 47区W-25

主軸方位 N-60°-E

重複 無し

規模 長径0.41m×短径0.34m×深さ0.13m

形状 楕円形

底面及び断面形状 膨らみを持つ底から広がって立ち上がる。検出面からの深さは浅い。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

17号ピット(第38図、PL. 21)

位置 グリッド名 57区W-1

主軸方位 N-15°-W

重複 無し

規模 長径0.37m×短径0.34m×深さ0.34m

形状 楕円形

底面及び断面形状 尖り気味の底から弱く開きながら立ち上がり、南西側の立ち上がりのみ段を持つ。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

18号ピット(第38図、PL. 21)

位置 グリッド名 47区O・P-23

主軸方位 N-75°-W

重複 無し

規模 長径0.34m×短径0.28m×深さ0.13m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸みを持った底から開きながら立ち上がる。検出面からの深さは浅い。ピット19・ピット20と直線的に並び、底面の深さも共通している。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

19号ピット(第38図、PL. 21)

位置 グリッド名 47区O・P-22・23

主軸方位 N-79°-W

重複 無し

規模 長径0.35m×短径0.32m×深さ0.09m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸みを持った底から開きながら立ち上がる。検出面からの深さは浅い。ピット18・ピット20と直線的に並び、底面の深さも共通している。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

20号ピット(第38図、PL. 21)

位置 グリッド名 47区P-22

主軸方位 N-11°-W

重複 無し

規模 長径0.38m×短径0.36m×深さ0.11m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸みを持った底から開きながら立ち上がる。検出面からの深さは浅い。ピット18・ピット19と直線的に並び、底面の深さも共通している。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

21号ピット(第38図、PL. 21)

位置 グリッド名 47区Q-24

主軸方位 N-68°-W

重複 無し

規模 長径0.28m×短径0.27m×深さ0.31m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸みを持った底から緩やかに、直線的に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

22号ピット(第38図、PL. 22)

位置 グリッド名 47区O-21

主軸方位 N-78°-E

重複 無し

規模 長径0.37m×短径0.27m×深さ0.29m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸みを持った底から緩やかに、弱い

段を持って立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

23号ピット(第38図、PL. 22)

位置 グリッド名 47区O・N-21

主軸方位 N-78°-E

重複 無し

規模 長径0.34m×短径0.30m×深さ0.35m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸みを持った底から緩やかに、弱い段を持って立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

24号ピット(第38図、PL. 22)

位置 グリッド名 47区N-21

主軸方位 N-11°-W

重複 無し

規模 長径0.48m×短径0.45m×深さ0.17m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平坦気味の底から緩やかに立ち上がる。断面で見ると、北西側の壁のみ直立気味である。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

25号ピット(第38図、PL. 22)

位置 グリッド名 47区Q-20

主軸方位 N-69°-W

重複 無し

規模 長径0.28m×短径0.25m×深さ0.23m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸みを持った底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

26号ピット(第38図、PL. 22)

位置 グリッド名 47区Q-20

主軸方位 N-4°-E

第3章 発見された遺構と遺物

重複 無し

規模 長径0.27m×短径0.26m×深さ0.13m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平坦気味の底から緩やかに、わずかに外反しながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

27号ピット(第38図、PL. 22)

位置 グリッド名 47区Q-20

主軸方位 N-5°-E

重複 無し

規模 長径0.30m×短径0.29m×深さ0.16m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平坦気味の底から緩やかに、わずかに広がりながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

28号ピット(第39図、PL. 22)

位置 グリッド名 47区P-20

主軸方位 N-22°-W

重複 2号掘立柱建物のP2と重複し、28号ピットの方が古い

規模 長径0.36m×短径0.24m×深さ0.39m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平坦気味の底から緩やかに膨らみを持って立ち上がる。上半は2号掘立柱建物のピット2と重複しており削平を受けているため不明である。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

29号ピット(第39図、PL. 22)

位置 グリッド名 47区P-20

主軸方位 N-62°-W

重複 無し

規模 長径0.44m×短径0.38m×深さ0.33m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平坦気味の底から緩やかに立ち上がる。縦方向の層が見られるが、ピットの端部なので、柱

痕とは考えにくい。29号ピットは、30・31・32号ピットと直線的に並び、2号掘立柱建物の2～5号ピットと平行な位置関係である。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

30号ピット(第39図、PL. 22)

位置 グリッド名 47区O-20

主軸方位 N-28°-W

重複 7号土坑が古い

規模 長径0.47m×短径0.48m×深さ0.30m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平坦気味の底からわずかに膨らみを持って立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

31号ピット(第39図、PL. 22)

位置 グリッド名 47区O-20

主軸方位 N-46°-W

重複 無し

規模 長径0.46m×短径0.48m×深さ0.20m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸みを持った底から広がりながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

32号ピット(第39図、PL. 22)

位置 グリッド名 47区N-21

主軸方位 N-46°-W

重複 無し

規模 長径0.51m×短径0.45m×深さ0.28m

形状 楕円形

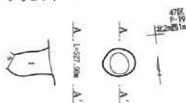
底面及び断面形状 平坦気味の底から緩やかに、やや広がりがりながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

第2節 各区の様相

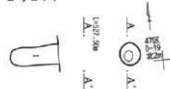
1号ビット



1号ビットA

1 黒褐色土 小石を含む。

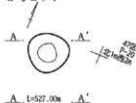
2号ビット



2号ビットA

1 黒褐色土 小石・砂粒を含む。

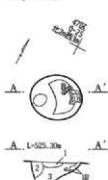
3号ビット



3号ビットA

1 黒褐色土 礫を含む。
2 黒褐色土 礫をやや多く含み、砂粒を含む。

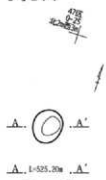
4号ビット



4号ビットA

1 黒褐色土 黒褐色土 シルトをわずかに含む。
2 黒褐色土 砂粒を含む。
3 黒褐色土 炭化物を含む。

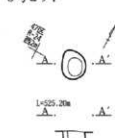
5号ビット



5号ビットA

1 黒褐色土 砂粒を含む。

6号ビット



6号ビットA

1 黒褐色土 小石を含む。
2 黒褐色土 炭化物を含む。

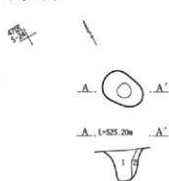
7号ビット



7号ビットA

1 黒褐色土 小石を含む。
2 砂粒を含む。

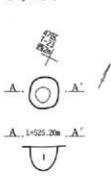
8号ビット



8号ビットA

1 黒褐色土 小石・砂粒を含む。
2 黒褐色土 シルトを含む。

9号ビット



9号ビットA

1 黒褐色土 小石をわずかに含む。

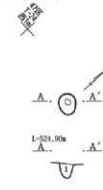
10号ビット



10号ビットA

1 黒褐色土 砂粒を少し含む。

11号ビット



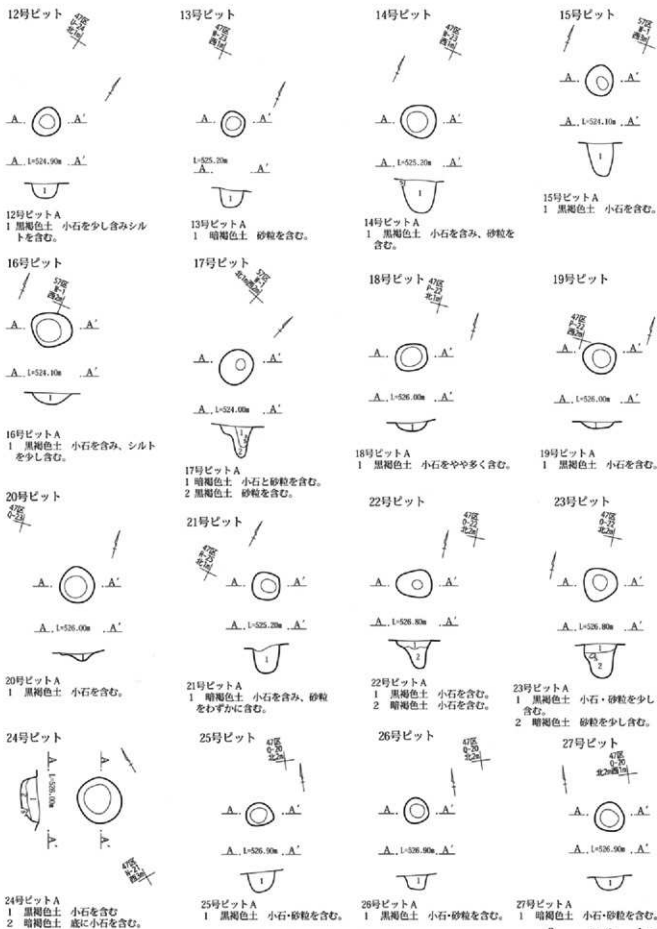
11号ビットA

1 暗褐色土 小石を含む。

0 1:40 1m

第37図 D2区3面ビット(1)

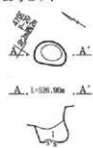
第3章 発見された遺構と遺物



第38図 D2区3面ビット(2)

0 1:40 1m

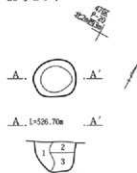
28号ビット



28号ビットA

1 黒褐色土 小石を底に含む。

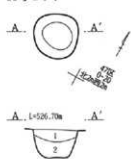
29号ビット



29号ビットA

1 黒褐色土 小石を含む。
 2 暗褐色土 小石を含む。
 3 黒褐色土 シルトをわずかに含む。

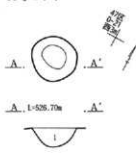
30号ビット



30号ビットA

1 黒褐色土 小石・砂粒を含む
 2 砂粒を多く含む。

31号ビット



31号ビットA

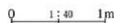
1 黒褐色土 小石・砂粒を含む。

32号ビット

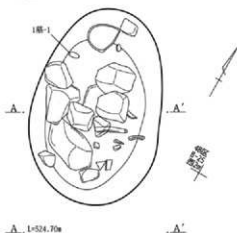


32号ビットA

1 黒褐色土 小石・砂粒を含む。



1号墓

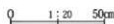


.A., L=1524.70m .A'



1号墓A

1 黒褐色土 大型の角礫と、砂粒を多く含む。



(4)墓

1号墓(第39図、PL.22・23)

位置 グリッド名 48区B-24・25

主軸方位 N-46°-W

重複 無し

規模 長径0.80m×短径0.76m×深さ0.57m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平坦気味の底からやや広がりを持って直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 人骨、古銭(祥符通寶 第127図-1墓1、PL.62)

備考 所属時期 祥符通寶の初鋳造年は、中国宋の時代1008年であるが、中・近世に日本では中国より大量に銭を輸入しているので、この年代と墓の年代は異なる。

(5)畑

3面畑(第40図、PL.23)

位置 グリッド名 47区R-23～25、S-23・24、T-22・23、U-22

主軸方位 N-64°-W・N-24°-W

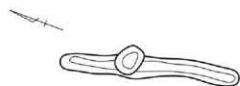
重複 無し

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 天明泥流以前、南に並ぶ1～7号畑壇状遺構と方位がほぼ同じであり、同一時期かもしれない。

第39図 D2区3面ビット(3)、1号墓

加



壁

壁



3面壁 A・B

1 赭褐色土 小石と砂粒を多量に含む。

0 1:60 2m

第40图 D2区3面壁

(6) 離壇状遺構

D2区では1～7号の7基の離壇状遺構が検出された。これは吾妻川に向かって緩やかに傾斜する斜面地を3～4m幅で段状に平らに造成したものである。

離壇状遺構の方向は、同じ3面に存在する1・2号掘立や、少し北西に離れた畑の軸線とほぼ一致している。

また1号掘立は、1号離壇と2号離壇の間にちょうど入った形で存在しているので、これらの遺構は全て関連しているものと推定される。

1号離壇状遺構(第41図)

位置 グリッド名 47区R-16、S-15・16

主軸方位 N-29°-W

重複 無し

規模 長軸5.67m(調査区外に伸びている)

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

2号離壇状遺構(第41図)

位置 グリッド名 47区Q-18、R-17・18、S-17

主軸方位 N-23°-W

重複 無し

規模 長軸8.85m×短軸1.07m

遺物出土状況 無し

備考 1号掘立柱建物の南にほぼ並行している。

所属時期 不明

3号離壇状遺構(第41図)

位置 グリッド名 47区S・T-18

主軸方位 N-29°-W

重複 無し

規模 長軸4.90m

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

4号離壇状遺構(第42図)

位置 グリッド名 47区P-19・20、Q-19

主軸方位 N-20°-W

重複 無し

規模 長軸6.33m×短軸1.04m

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

5号離壇状遺構(第42図)

位置 グリッド名 47区P-20、Q-20・21、R-20

主軸方位 N-24°-W

重複 無し

規模 長軸7.20m×短軸0.90m

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

6号離壇状遺構(第41・42図)

位置 グリッド名 47区Q-21、R-20・21、S-20、T-19・20

主軸方位 N-25°-W

重複 無し

規模 長軸15.43m×短軸0.90m

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

7号離壇状遺構(第42図)

位置 グリッド名 47区Q-22、R-21・22

主軸方位 N-22°-W

重複 無し

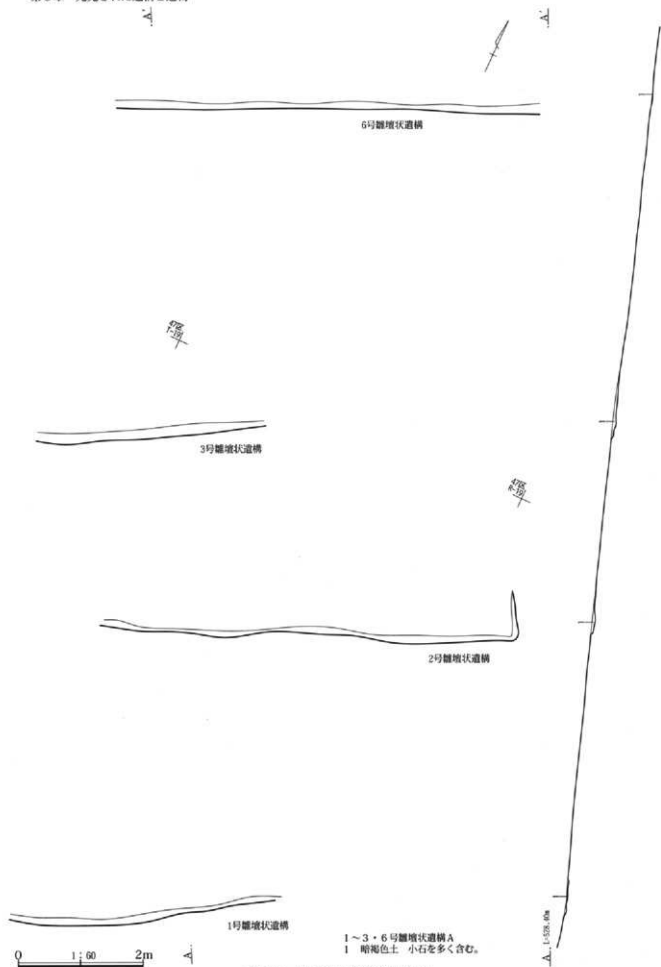
規模 長軸4.12m×短軸0.69m

遺物出土状況 無し

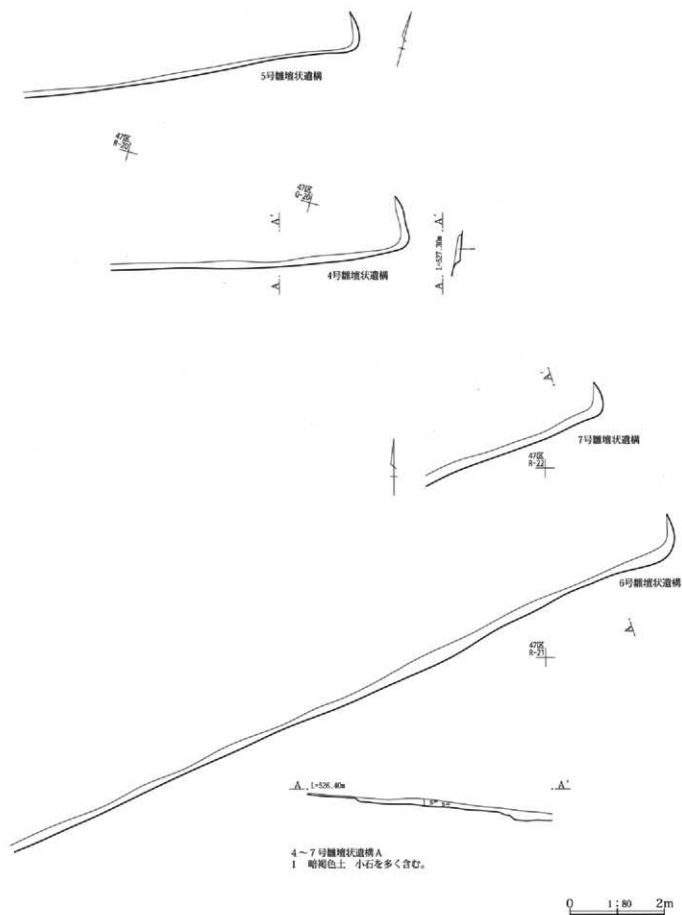
備考 所属時期 不明

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明



第41図 D2区3面離壇状遺構(1)



第42図 D2区3面雌壇状遺構(2)

7 D2区4面の遺構(第43・44図、PL.24・25)

土器を伴う縄文時代の遺構は、D2区4面で確認されている。しかし、2区以外で4面及び5面が調査されたのはD1区のみで、その結果風倒木が検出されただけにとどまり、縄文時代の遺構は存在しなかった。

『下湯原遺跡(1)』においては、A1区で縄文時代前期後半の竪穴状遺構が1基検出された他、縄文前期後半から中期・後期前半の土器を伴う土坑が22基検出された。またA2区では縄文時代の窪地1基と土坑5基、焼土遺構4基が検出された。土坑の時期は2基が中期中葉から後葉、3基が後期前半のものである。

今回報告の地点では、D2区4面において屋外炉と推定される11・12号焼土、17～21号土坑、33号ピットが検出されたが、竪穴建物は検出されておらず、確実に縄文土器を伴うのは焼土1か所のみである。

(1)土坑

17号土坑(第44図、PL.24)

位置 グリッド名 47区Q-18

主軸方位 N-45°-E

重複 無し

規模 長軸1.07m×短軸0.12m×深さ0.35m

形状 楕円形

底面及び断面形状 弱い2段構造に立っており、深い部分の底は平坦気味である。

遺物出土状況 実測し得る遺物は出土しなかった。

備考 所属時期 時期は特定できない。

19号土坑(第44図、PL.24)

位置 グリッド名 47区R-18・19

主軸方位 N-60°-E

重複 無し

規模 長軸0.82m×短軸0.72m×深さ0.28m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平坦気味である。

遺物出土状況 実測し得る遺物は出土しなかった。

備考 所属時期 時期は特定できない。

20号土坑(第44図、PL.24)

位置 グリッド名 47区O-19・20

主軸方位 N-36°-E

重複 無し

規模 長軸2.22m×短軸0.60m×深さ0.46m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 弱い段を持って底がすぼまり平坦となる。

遺物出土状況 実測し得る遺物は出土しなかった。

備考 所属時期 時期は特定できない。

21号土坑(第44図、PL.24)

位置 グリッド名 47区R・S-19

主軸方位 N-60°-E

重複 無し

規模 長軸1.56m×短軸0.86m×深さ0.21m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 北西方向へ緩く傾斜している。

遺物出土状況 実測し得る遺物は出土しなかった。

備考 所属時期 時期は特定できない。

(2)ピット

33号ピット(第44図、PL.25)

位置 グリッド名 47区S-19

主軸方位 N-79°-E

重複 無し

規模 長径0.54m×短径0.48m×深さ0.59m

形状 楕円形

底面及び断面形状 深く掘り込まれており、底は平坦でない。

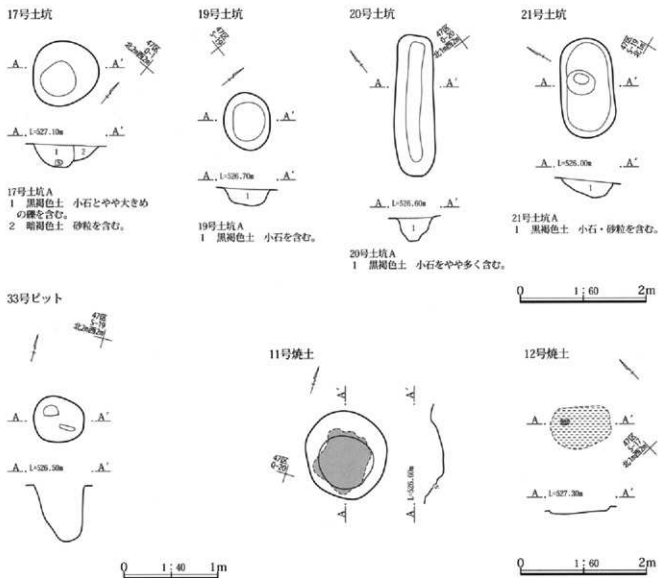
遺物出土状況 実測し得る遺物は出土しなかった。

備考 所属時期 時期は特定できない。



第43図 D2区4面全体図

第3章 発見された遺構と遺物



第44図 D2区4面土坑、ピット、焼土

(3) 焼土

11号焼土(第44図、PL.25)

位置 グリッド名 47区P-19・20

主軸方位 N-16°-W

重複 無し

規模 長軸1.40m×短軸1.28m×深さ0.27m

形状 楕円形

底面及び断面形状 緩やかな窪みを持ち、焼土は埋土の上面に集中している。

遺物出土状況 実測し得る遺物は出土しなかった。

備考 所属時期 時期は特定できない。

12号焼土(第44図、PL.25)

位置 グリッド名 47区S-17

主軸方位 N-49°-W

重複 無し

規模 長軸0.96m×短軸0.64m×深さ0.13m

形状 楕円形

底面及び断面形状 底は平坦で、上面に焼土、下面に灰が見られる。

遺物出土状況 称名寺Ⅱ式の深鉢口縁部と頸部の破片が出土した。(第127図-12焼1・2、PL.62)

備考 所属時期 縄文後期初頭

8 D3区1面の遺構(第45・46図、PL.25・26)

D3区1面は北東から南西に伸びる調査区で、全面に天明泥流下畑が展開しているが、区の北東端部中央付近から南西方向に向かって、畝・サクが切れた帯状の空白地帯が存在する。恐らく畑耕作の際に利用された道であろう。道の幅は60cm前後で踏み固められており、畑のサクの端部は道手前で止まっている。

この道の北側と南側では、畝・サクの入る向きが異なっており、道の南に3条存在するサクの切れ目による畑の分割線も、道を境にして北へ続いていることから、道の南北で何らかの耕作単位の違いが存在したものと推定される。

更に調査区北東端部付近には、区をS字状に横断する溝が存在する。この溝は、2面で確認された1号溝である。溝が調査区の北東壁に当たる手前では、溝の北壁を保護するように、平たい角礫を列状に並べて配置している。溝の他の部分には、石の配置は認められない。

畑は溝を境に畝・サクの角度を変えると共に、畝及びサクの間隔も変化している。ただし、上記の道は溝を超えた北東側にも存在しているので、溝・道共に畑に伴う

施設であったことが分かる。

前述した道の南側の畑には、畑の単位を分割する分割線が3条存在し、南西端部の畑を除く畑の幅は、15.6m・14.4m・19.0mである。

畝・サクの伸びる方向は、微地形の変化によって細かく異なるが、 $N-35^{\circ}-E$ から $N-71^{\circ}-E$ の範囲に収まっている。

細かく見ていくと、溝の西側で道の北の区画では、畝・サクの角度は $N-56^{\circ}-E$ で、畝の幅は20cm前後である。道を挟んだ南側では畝・サクの角度は $N-71^{\circ}-E$ で、北東に向かって少し角度を変えており、溝の手前では $N-60^{\circ}-E$ で、畝の幅は道の北側と同様20cm前後である。

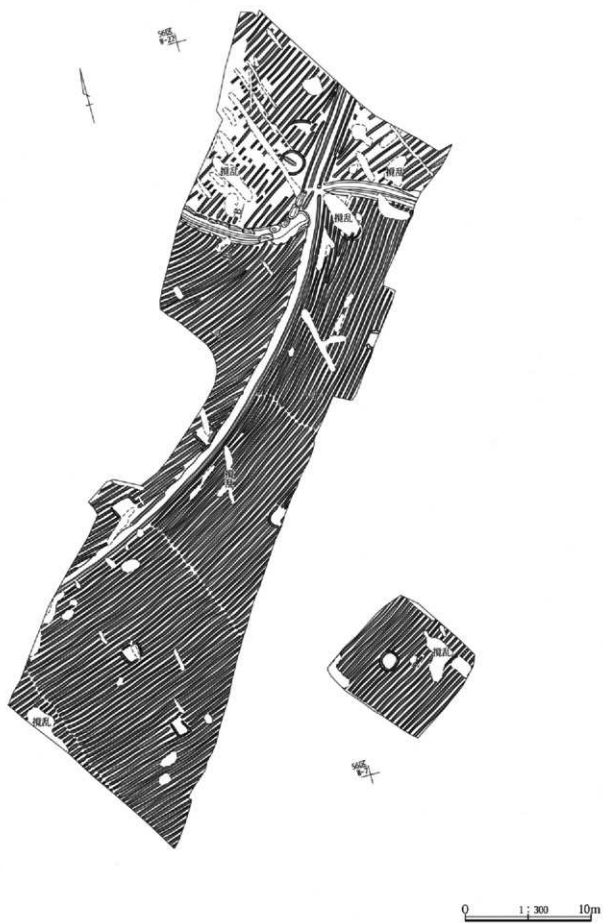
溝の東側で道の北の畑は、畝・サクの角度は $N-56^{\circ}-E$ で溝の西側とあまり変わらないが、畝の幅は30～50cmとかなり広い。溝の東側で道の南の畑は、畝・サクの角度が $N-35^{\circ}-E$ で、畝の幅は30～70cmと更に広い。

泥流下畑からは、肥前磁器、染付碗(第127図-A下畑1、PL.62)が出土している。

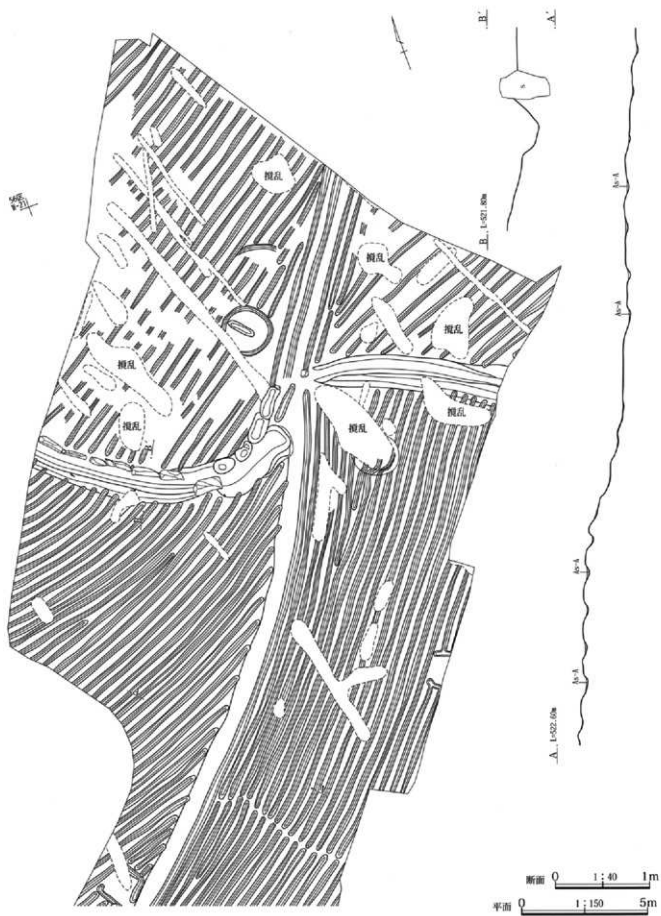
平坦面は道の北、溝の西に隅丸方形のものが1基、道の南及び溝の東の北側円形のものが1基ずつ計3基存在する。



1号溝に配置された礫



第45図 D3区1面全体図



第46图 D3区1面拡大図

9 D3区2面の遺構(第47～50図、PL.26・27)

D3区2面では、1～3号土坑と1～5号溝が確認された。

(1) 土坑

1号土坑(第48図、PL.26)

位置 グリッド名 56区X・Y-13

主軸方位 N-57°-E

重複 無し

規模 長軸2.86m×短軸0.58m×深さ0.48m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明、同一形状を持つ2号土坑・3号土坑と主軸方位が90°異なる。

2号土坑(第48図、PL.26)

位置 グリッド名 56区W・X-13

主軸方位 N-37°-W

重複 無し

規模 長軸3.06m×短軸0.46m×深さ0.40m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明、同一形状の3号土坑と主軸方位がほぼ同じで直線的に並び、1号土坑とは方位が約90°異なる。

3号土坑(第48図、PL.26)

位置 グリッド名 56区V-11・12、W-12・13

主軸方位 N-28°-W

重複 無し

規模 長軸6.14m×短軸0.48m×深さ0.77m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明、同一形状の2号土坑と主軸方位がほぼ同じで直線的に並び、1号土坑とは方位が約90°異なる。

(2) 溝

1号溝(第49図、PL.26)

位置 グリッド名 57区R-17、S・U・V・W-17・18、T-18

主軸方位 N-81°-W

重複 無し

規模 全長(20.20)m×幅0.60m×深さ0.78m

底面及び断面形状 2面で確認された溝であるが、1面でも溝としての機能を残して、泥流下の畑の中に存在する。調査区を東西(南東から北西)に横断する溝で、調査区中央付近で2条に分岐している。またこの分岐点付近からS字型にくねった平面形状を示す。溝の北西端部付近の南壁には、溝の方向に沿った形で木材が出土している。また1面になると、調査区西壁から東に向かって角礫を並べて壁の保護材としている。

遺物出土状況 木材

備考 所属時期 不明

2号溝(第49図、PL.26)

位置 グリッド名 57区T-18・19、U-18

主軸方位 N-29°-E

重複 無し

規模 全長3.94m×幅0.15m×深さ0.02m

底面及び断面形状 極めて浅い溝で、3号溝にほぼ並行する。

遺物出土状況 無し

3号溝(第49図、PL.26・27)

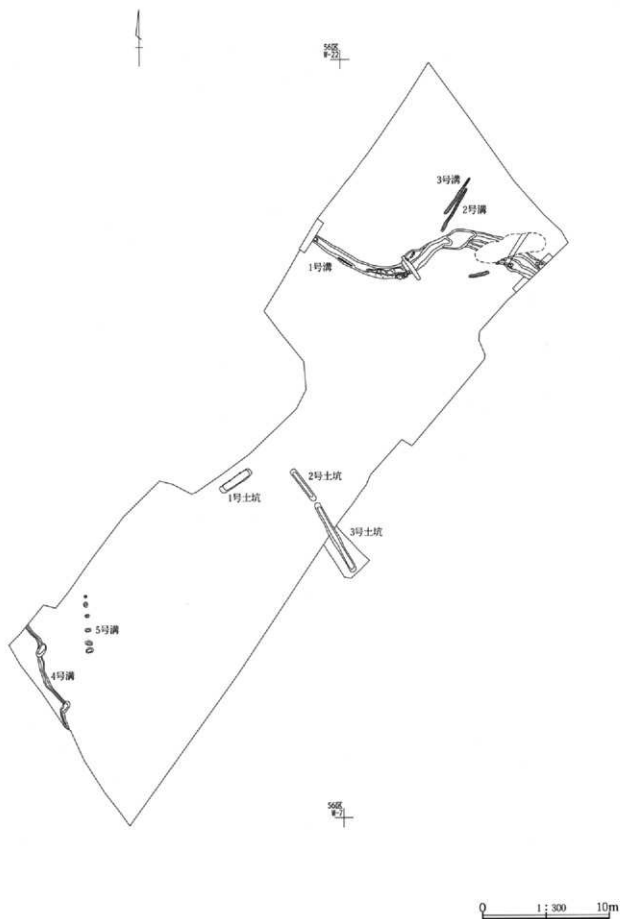
位置 グリッド名 57区T-18・19

主軸方位 N-34°-E

重複 無し

規模 全長3.46m×幅0.15m×深さ0.01m

底面及び断面形状 極めて浅い溝で、2号溝にほぼ並行する。



第47図 D3区2面全体図

遺物出土状況 無し

4号溝 (第50図、PL.27)

位置 グリッド名 57区C-8~10、D-9・10

主軸方位 N-21°-E

重複 無し

規模 全長(9.10) m×幅0.24m×深さ0.28m

底面及び断面形状 調査区の北西端部を斜めに伸びる溝で、楕円形で土坑状の掘り込み(2か所)を境に少し折れ曲がる。

遺物出土状況 無し

5号溝 (第50図、PL.27)

位置 グリッド名 57区B-10、C-10・11

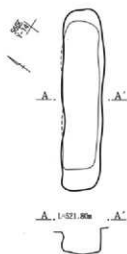
主軸方位 N-6°-W

重複 無し

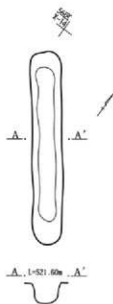
規模 全長(10.54) m×幅0.26m×深さ0.20m

底面及び断面形状 4号溝と並ぶように存在するが、大部分が削平され、溝底の深い部分だけが土坑状に残り、南北方向に並んでいる。

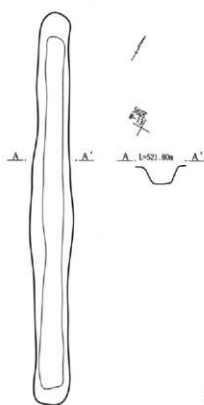
1号土坑



2号土坑



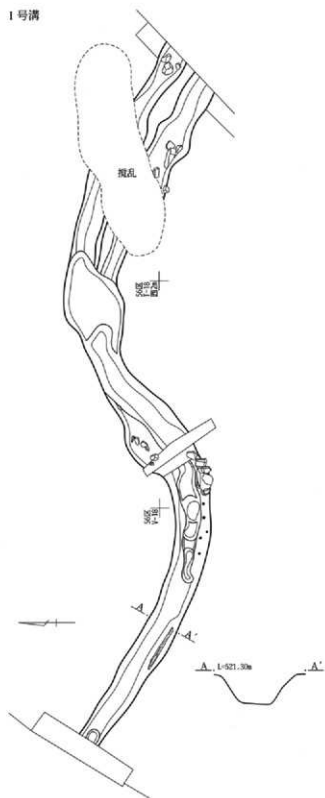
3号土坑



0 1:60 2m

第48図 D3区2面土坑

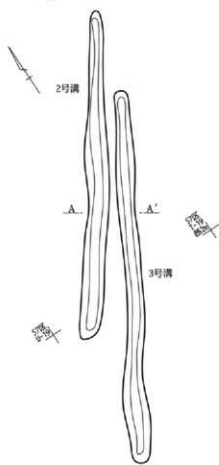
1号溝



断面 0 1:40 1m

平面 0 1:100 5m

2・3号溝

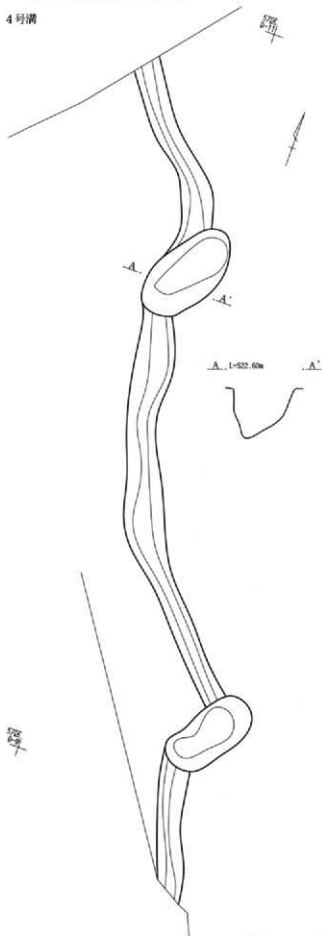


断面 0 1:40 1m

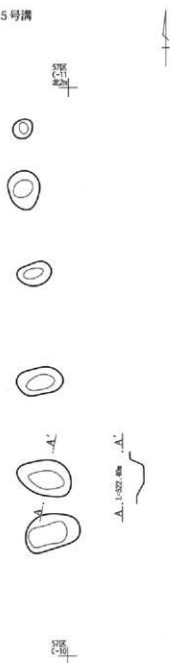
0 1:40 1m

第49図 D3区2面1～3号溝

4号溝



5号溝



第50図 D3区2面4～5号溝

10 D3区3面の遺構(第51～55図、PL.27～31)

27年度調査のD3区からは、3面の遺構として4～9号土坑と1～6号ピット、6～17号溝が検出された。

(1)土坑

4号土坑(第52図、PL.28)

位置 グリッド名 56区X-13

主軸方位 N-69°-E

重複 無し

規模 長軸0.88m×短軸0.42m×深さ0.16m

形状 不整形

底面及び断面形状 平坦気味な底から緩やかに、わずかに外反しながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

5号土坑(第52図、PL.28・30)

位置 グリッド名 57区B-9

主軸方位 N-35°-W

重複 無し

規模 長軸0.62m×短軸0.56m×深さ0.12m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

6号土坑(第52図、PL.28・30)

位置 グリッド名 57区B-10

主軸方位 N-46°-E

重複 無し

規模 長軸0.48m×短軸0.40m×深さ0.10m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底気味の底から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

7号土坑(第52図、PL.28・30)

位置 グリッド名 57区C-11

主軸方位 N-27°-E

重複 無し

規模 長軸0.62m×短軸0.58m×深さ0.17m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底気味の底から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

8号土坑(第52図、PL.28・29)

位置 グリッド名 56区W・X-17

主軸方位 N-39°-E

重複 無し

規模 長軸0.80m×短軸0.78m×深さ0.17m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底気味の底から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

9号土坑(第52図、PL.28・29)

位置 グリッド名 56区T-19・20

主軸方位 N-2°-W

重複 8号溝・17号溝より新しい

規模 長軸3.06m×短軸0.56m×深さ0.51m

形状 隅丸方形

底面及び断面形状 平底気味の底から緩やかに垂直気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

(2)溝

6号溝(第52図、PL.28)

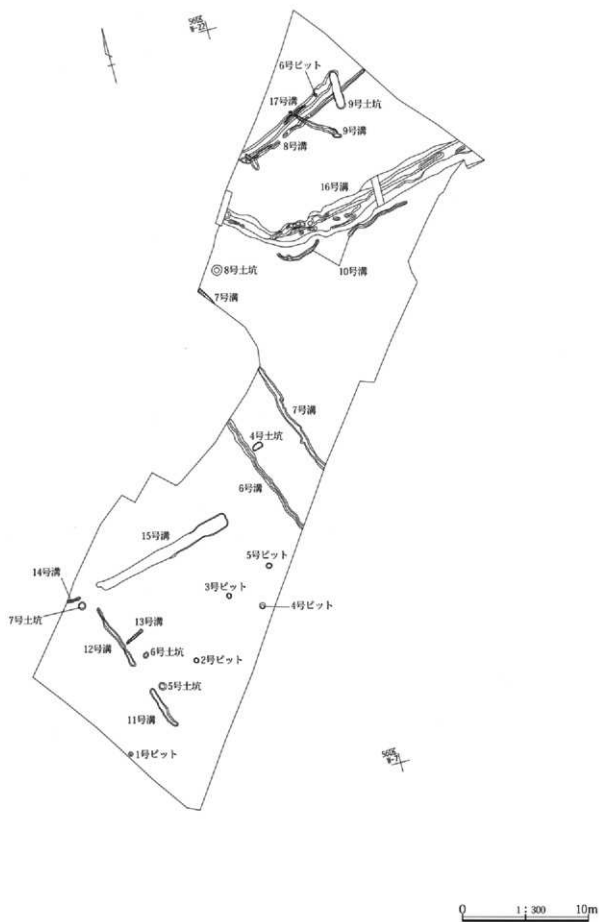
位置 グリッド名 56区W-12・13、X-14

主軸方位 N-20°-W

重複 無し

規模 全長(10.54)m×幅0.26m×深さ0.20m

底面及び断面形状 やや尖り気味であるが底面から緩や



第51図 D3区3面全体図

かに立ち上がりV字型に広がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

7号溝(第52図、PL.28)

位置 グリッド名 56区V-12・13、W-12～15

主軸方位 N-21°-W

重複 無し

規模 全長(9.66)m×幅0.28m×深さ0.23m

底面及び断面形状 やや尖り気味であるが底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

8号溝(第53図、PL.28・29)

位置 グリッド名 56区V・W-19

主軸方位 N-74°-E

重複 9号土坑・9号溝が新しい

規模 全長(12.2)m×幅0.28m×深さ0.30m

底面及び断面形状 丸みを持った底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 在地系の内耳鉢が破片で出土している。(第127図-8溝1、PL.62)

備考 所属時期 出土遺物の時期は中世である。

9号溝(第53図、PL.29)

位置 グリッド名 56区T・U-19

主軸方位 N-49°-W

重複 8・17号溝が古い

規模 全長4.16m×幅0.16m×深さ0.14m

底面及び断面形状 丸みを持った底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

10号溝(第53図、PL.29)

位置 グリッド名 56区T・U-17

主軸方位 N-75°-E

重複 無し

規模 全長5.36m×幅0.22m×深さ0.24m

底面及び断面形状 丸みを持った底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

11号溝(第53図、PL.30)

位置 グリッド名 57区B-8・9

主軸方位 N-20°-W

重複 無し

規模 全長3.58m×幅0.36m×深さ0.06m

底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

12号溝(第54図、PL.30)

位置 グリッド名 57区B-10・11、C-11

主軸方位 N-18°-W

重複 無し

規模 全長5.46m×幅0.16m×深さ0.11m

底面及び断面形状 やや尖り気味の底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

13号溝(第54図、PL.30)

位置 グリッド名 57区B-10

主軸方位 N-65°-E

重複 無し

規模 全長1.68m×幅0.18m×深さ0.06m

底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

14号溝(第54図、PL.30)

位置 グリッド名 57区C-11

主軸方位 N-84°-E

重複 無し

規模 全長(1.14)m×幅0.16m×深さ0.07m

底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

15号溝(第54図、PL. 30)

位置 グリッド名 56区Y-12

主軸方位 N-76°-E

重複 無し

規模 全長11.58m×幅0.65m×深さ0.10m

底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに、やや開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

16号溝(第54図、PL. 29・30)

位置 グリッド名 56区R-18、S~W-17・18

主軸方位 N-75°-E

重複 無し

規模 全長(22.62)m×幅0.92m×深さ0.93m

底面及び断面形状 多少の凹凸はあるが平底気味の底面から緩やかに、やや開き気味に立ち上がる。覆土中に礫がやや多く見られる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

17号溝(第53図、PL. 29)

位置 グリッド名 56区T-20、U-19・20、V・W-19

主軸方位 N-64°-E

重複 8号溝より新しく、9号土坑・9号溝より古い

規模 全長10.56m×幅0.56m×深さ0.47m

底面及び断面形状 丸底の底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

(3)ピット

1号ピット(第55図、PL. 32)

位置 グリッド名 57区C-8

主軸方位 N-40°-W

重複 無し

規模 長径0.35m×短径0.33m×深さ0.17m

形状 楕円形

丸みを持つ底面からやや開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

2号ピット(第55図)

位置 グリッド名 57区A-9・10

主軸方位 N-37°-W

重複 無し

規模 長径0.42m×短径0.38m×深さ0.08m

形状 楕円形

底面及び断面形状 南西端部がやや深く、南東方向に向かって緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

3号ピット(第55図)

位置 グリッド名 56区Y-11

主軸方位 N-45°-W

重複 無し

規模 長径0.42m×短径0.38m×深さ0.09m

形状 楕円形

底面及び断面形状 ピット中央部分がわずかにく、端部は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

4号ピット(第55図)

位置 グリッド名 56区X-10

主軸方位 N-35°-W

重複 無し

規模 長径0.48m×短径0.46m×深さ0.18m

形状 楕円形

底面及び断面形状 南西側の壁はやや直立気味で、平坦な底面を経て北東側は少し緩やかに立ち上がる。

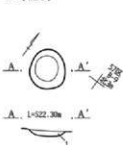
遺物出土状況 無し

4号土坑



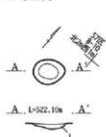
4号土坑A
1 黒褐色土 小石を少し含む。

5号土坑



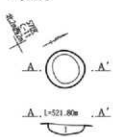
5号土坑A
1 黒褐色土 小石・砂粒をわずかに含む。

6号土坑



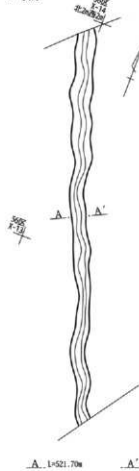
6号土坑A
1 暗褐色土 砂粒を少し含む。

7号土坑



7号土坑A
1 暗褐色土 小石をわずかに含む。

6号溝



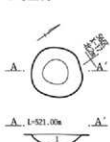
A. 1.521.70m A'

7号溝



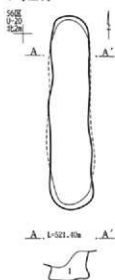
A. 1.521.50m A'

8号土坑



8号土坑A
1 暗褐色土 小石を少し含む。

9号土坑



9号土坑A
1 暗褐色土 小石と砂粒をわずかに含む。

0 1:60 2m

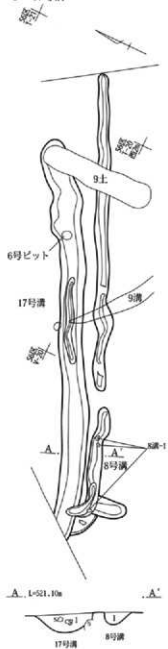
断面 0 1:40 1m

平面 0 1:100 5m

第52図 D3区3面土坑、6・7号溝

第3章 発見された遺構と遺物

8・17号溝



17号溝・8号溝A

17号溝

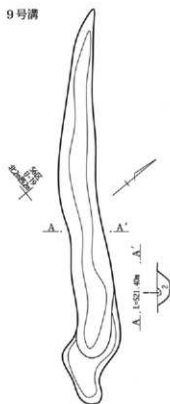
1 黒褐色土 大小の礫をやや多く含む。

8号溝

1 黒褐色土 小石を含む。



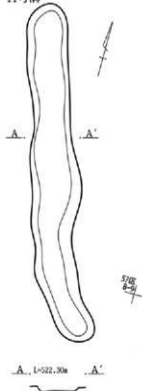
9号溝



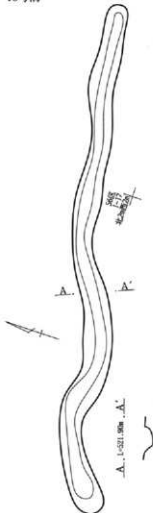
9号溝A

1 黒褐色土 白色粒子を多量に含む。

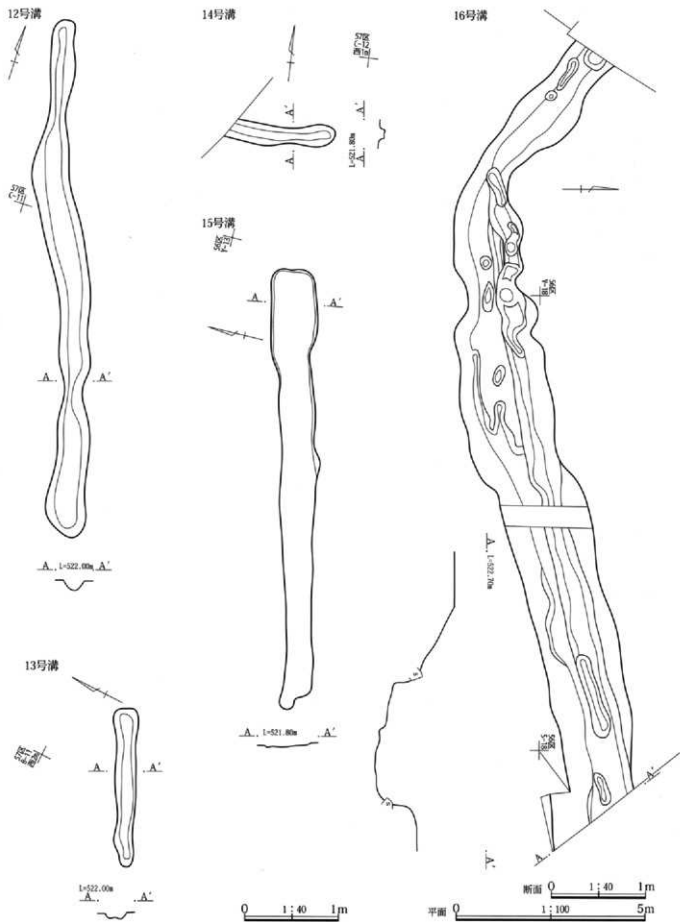
11号溝



10号溝



第53図 D3区3面8～11・17号溝



第54図 D3区3面12～16号溝

備考 所属時期 不明

5号ピット(第55図)

位置 グリッド名 56区X-11

主軸方位 N-49°-W

重複 無し

規模 長軸0.46m×短軸0.44m×深さ0.09m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平坦気味の底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

6号ピット(第55図)

位置 グリッド名 56区U-20

主軸方位 N-38°-W

重複 無し

規模 長軸0.26m×短軸0.22m×深さ0.08m

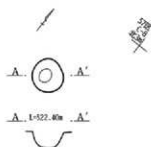
形状 楕円形

底面及び断面形状 やや平坦気味の底部から緩やかに立ち上がる。

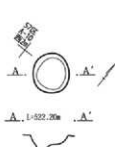
遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

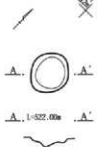
1号ピット



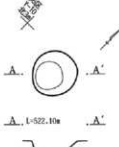
2号ピット



3号ピット



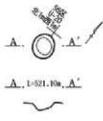
4号ピット



5号ピット



6号ピット



0 1:40 1m

第55図 D3区3面ピット

II D3区①1面の遺構 (第56～67図、PL.31～35)

D3区①面からは、1号建物とそれに伴う礎石・ピット・囲炉裏・1・2号焼土、更に1号建物に近接する厩とそれに付属する1・2号便槽、2号建物、天明泥流下の畑、1～6号平坦面、石垣、集石、ヤックラなどが検出された。

(1)建物

1号建物(第58～61図、PL.31～33)

位置 グリッド名 48区I-17・18、J・K-16・17・18、M-16・17

主軸方位 N-72°-E

重複 無し

規模 長辺14.2m×短辺7.0m×深さ0.05m

遺物出土状況 わずかに出土

備考 所属時期 天明泥流で埋没。

建物の構造 6間×2.5間の礎石建物で西側が土間と考えられるが、不明な点が多い。また、全ての礎石は残っておらず、柱の位置はピットで確認できる。

建物中央部分には囲炉裏があり、周囲には雨落ち溝が巡っている。

建物の西に接して厩があり、建物の道・石垣との間に1面、建物の南側で土手との間に1面畑があるが、周囲の畑と比較して、畝・サクの広さが異なり、サクの向きが建物の主軸とほぼ一致することから、屋敷地内の畑が存在する可能性がある。また、1号建物と南の畑の間には、軽石がかき集められた箇所がある。軽石降下から泥流埋没までの間に、除去したのであろう。

礎石とピット 礎石が残っている部分とピットで建物の構造を見ると1間の間隔は約1.6mで、南北ピットの中央部分のみ0.4mと狭い。

囲炉裏・焼土 囲炉裏は建物中央に1か所、焼土は囲炉裏の西側に2か所検出された(1号焼土・2号焼土)。焼土も囲炉裏と同様の施設であったことが予想される。

囲炉裏(第59図、PL.32) 囲炉裏は建物中央付近で検出された。1.0m×1.5mの隅丸方形を呈し、焼土・灰が残っ

ている。

1号焼土(第60図、PL.33)

規模 長軸1.16m×短軸0.92m×深さ0.35m

形状 不整形

遺物出土状況 無し

2号焼土(第60図、PL.33)

規模 長軸1.08m×短軸0.60m×深さ0.22m

形状 楕円形

遺物出土状況 無し

厩及び便槽 厩は1号建物の南西に接しており、厩の方形区画の東端で1号建物の雨落ち溝は止まる。また北西端部は擾乱で壊され、厩の南西側は調査区外である。1号建物の東西方向の方位と厩の方位は一致する。

便槽は厩に伴う施設であり、2基確認された。

厩(第61図)

位置 グリッド名 48区L-16、M・N-15・16

主軸方位 N-20°-W

重複 無し

規模 長軸4.35m×短軸(3.80)m×深さ0.19m

形状 隅丸方形

底面及び断面形状 南西端部は調査区外である。隅丸方形の区画が周囲より10cm余り高い。2間×2間の上屋を持つと思われるが、明確なピットなどは確認されていない。大小の便槽(便槽1・便槽2)が南北に位置し、桶の板材が部分的に確認されている。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 天明泥流で埋没。

便槽1(第61図、PL.33)

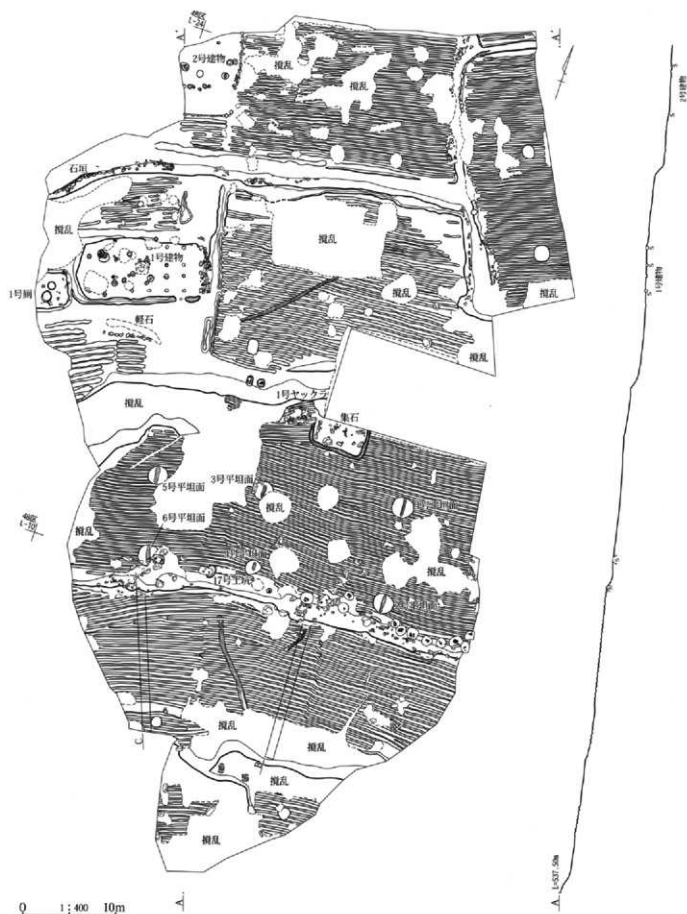
重複 無し

規模 直径0.87m×深さ0.46m

形状 円形

底面及び断面形状 平底の底面からほぼ垂直に立ち上がる。

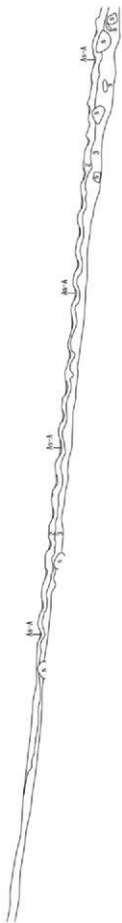
遺物出土状況 無し



第56図 D3区①1面全体図、A土層断面図

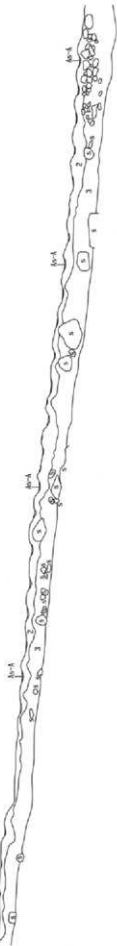
B. 1:500.200

B.



C. 1:500.200

C.



- B・C
 1 礫石As-A
 2 黒褐色土 大明面耕作土
 3 黄褐色土 緑芝苔ローム



第57図 D3区①面B・C土層断面図

便槽2 (第61回, PL. 33)

重複 無し

規模 直径1.2 m×深さ0.58m

形状 ほぼ円形

底面及び断面形状 平底の底面からほぼ垂直に立ち上がる。2基ある便槽の大型の方で、桶の木材が一部残る。

遺物出土状況 無し

2号建物 (第62・63回, PL. 34)

位置 グリッド名 48区 J・K-21～24、L-22・23、M

主軸方位 N-20°-W

重複 無し

規模 長軸(8.30)m×短軸(6.60)m×深さ0.15m

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 天明泥流で埋没。

建物の東側及び南側に石列が存在し、畑地との間をこれで面している。建物の北半及び西半は、削られているため規模は不明である。掘立柱建物と考えられるが、柱穴はしっかり残っていない。囲炉裏の痕跡と考えられる焼土痕や灰が、建物内に数か所見られる。

(2)天明泥流下の畑

天明泥流下の畑は、建物や集石がある場所と、地形の高低が変化する土手部分以外の全面から検出されている。

調査区の北から南に向かって地形が下がっているが、畑の面を水平に保つため、地形の変換点を土手として段構造を取っている。

すなわち調査区の北端で1号建物の北側に1段、1号建物の南にある畑の南に1段、6基の平坦面が並ぶ畑面の南に1段、更に南の攪乱の中に1段の計4段の土手が存在している。

当然土手の部分は畑の畝・サクが存在しないため、平面図を見ると空白の帯状に見えるが、一番北側の土手の1号建物に近い部分には、後述する石垣が存在する。

この石垣の南には、土手に沿うように畑や建物に伴う道が存在しており、この道は調査区の東側に伸びてでT字に交差する。従ってこの道の東西・南北では畑の単位

が異なっているのが分かる。

この東西方向の道から2号建物に向かって、畑のサクが幅30～40cmにわたって南北に切れている部分がある。2号建物に向かう道であろうか。

畝・サクの幅や配置は、調査区全域でほぼ共通するが、1号建物の南西に近接する畑のみが、サクの幅がわずかに広い。また畑の構造を見ると、D1区から3区で見られたサクの端部を揃えて作った畑の分割線は、この区では存在しない。

畝・サクの方位は、調査区南側でN-50°-EからN-65°-E、北側でN-66°-EからN78°-Eである。畝幅は10～30cmで、サク幅は20～35cmを計測する。

平坦面は区の中央部南寄りに、東西に並ぶ3基の列が南北に2列存在し、計6基作られている。平面は全て円形である。詳細は後述する。

畑の幅は、畑の分割線が存在しないため計測しにくい。2号建物の東側で、地形の変換点で畝・サクが切れる地点までは23.8mあり、全体的に広い単位で耕作を行っていることが分かる。

ここで1面の畑で検出された1号～6号の6基の平坦面に関して比較を行う。(第64回)

平坦面はいずれも畑の耕作後に設置されている。

円形部分の直径は、1～3・5・6号平坦面は2m前後、4号平坦面は約1.5mで、中央部に、幅0.2～0.3mの細長い溝が掘られている。

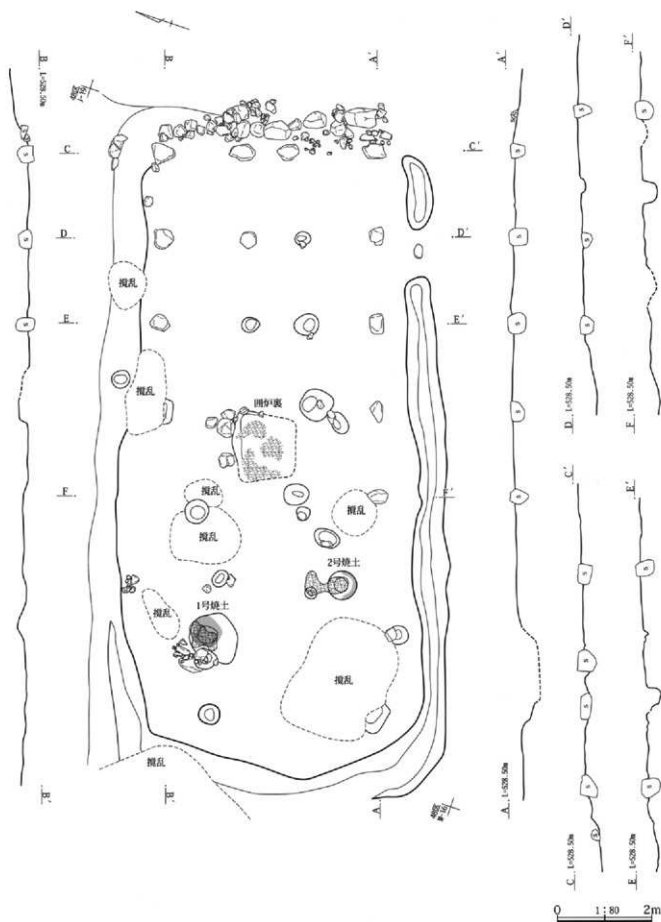
この溝が掘削方位は1号～5号がほぼ南北方向で、6号のみ少し西にずれている。

このように1号から6号の各平坦面は、畑の畝・サクが作られた上から設置されたものであり、円の形は真円にはならないが、平面的な大きさや内側に掘られた溝の形や方位などに強い共通性を持っていることなどから、それぞれが同じ機能を持つ施設であったと予想される。

(3)石垣

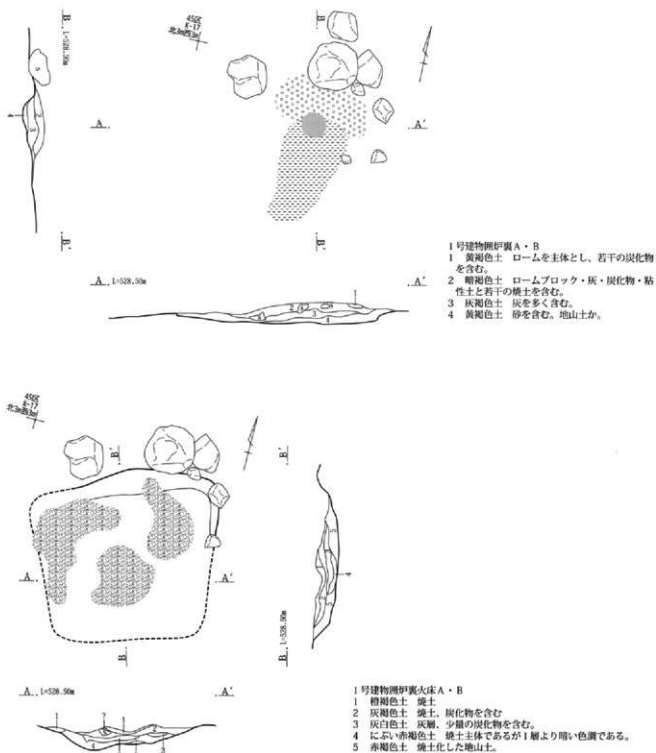
調査区北端に見られる土手の西端で検出された。破壊されている部分を含めて長さ13mほど確認したが、残存状態が良いのは西端の数mのみであった。

比較的大型の礫を用いて、石の平坦面を表にして積み上げている。石垣の上、土手の北側は道になっており、



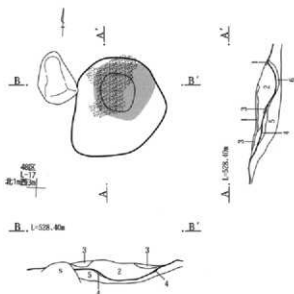
第58図 D3区①1面1号建物

第3章 発見された遺構と遺物



第59図 D3区①1面1号建物囲炉裏、火床

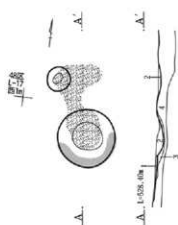
1号焼土



1号焼土(灰集中) A・B

- 1 暗褐色土
- 2 灰白色灰 木灰・炭化物・薄い焼土層が、十数枚ラミナ状に堆積している。
- 3 にぶい赤褐色土 炭化物・若干の焼土の混入。
- 4 暗褐色土 地山土主体で礫を含む。
- 5 にぶい黄褐色土 地山土。
- 6 にぶい赤褐色土 焼土化した地山、上部にやや硬化した灰層を認める。

2号焼土



2号焼土(灰集中) A

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物の混入。
- 2 灰白色灰 灰層に若干の炭化物を含む。
- 3 暗褐色土 地山土と炭化物の混入。若干の焼土を含む。
- 4 にぶい黄褐色土 地山土。

0 1:40 1m

第60図 D3区①1面1号建物1・2号焼土

西側に存在する沢に向かって下っていくと考えられる。石垣も地形の傾斜に伴って、西に行くほど高く積まれている。

石垣(第65図、PL.33)

位置 グリッド名 48区K-20、L-19・20、M・N-18・19

主軸方位 N-60°-E

重複 無し

規模 13.6m

底面及び断面形状 裏込めを持たずに石を積んでいる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 天明泥流で埋没。

(4) 集石

調査区中央部東寄りで見出された。方形に礫が残っており、集積した状況はあまり見られないが、この部分に

畑は存在しない。遺構の北側は、現在の建物の基礎により壊されている。

集石の周りには、浅い溝がコの字状に巡っている。

集石(第66図、PL.35)

位置 グリッド名 48区D・E-14・15

主軸方位 N-86°-W

重複 畑より新しい

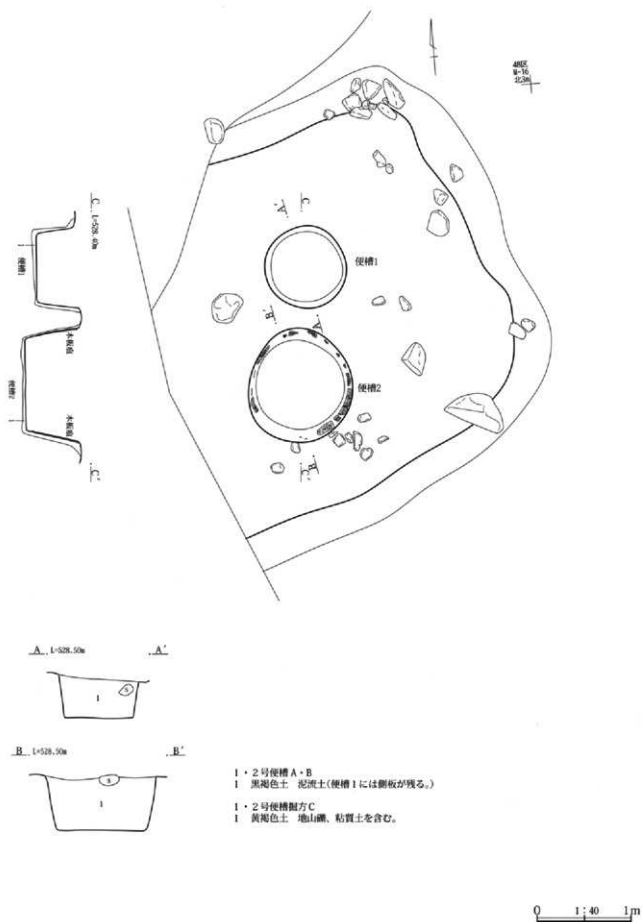
規模 長さ6.17m×幅(3.25)m×深さ0.07m

遺物出土状況 無し

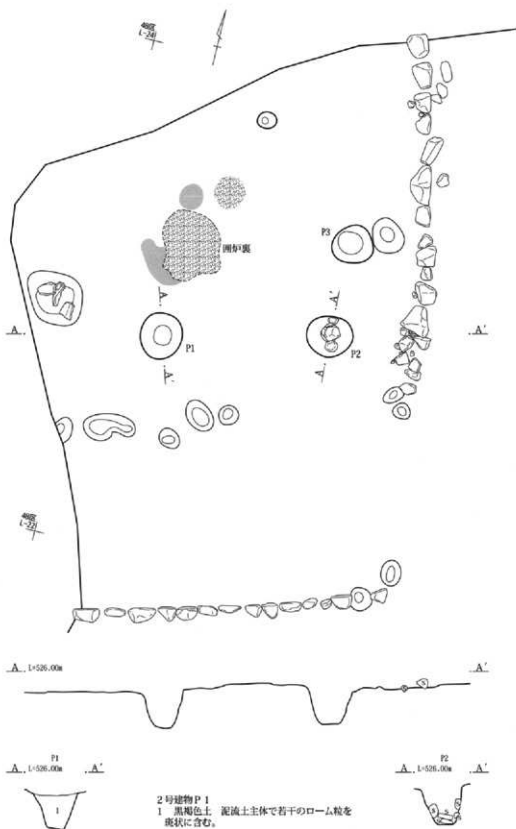
備考 所属時期 天明泥流で埋没。

(5) ヤックラ

集石の西に隣接して検出された。周囲の石を集めたものであるが、ヤックラの部分には畑面が存在せず、畝・サクは石をよけているようである。

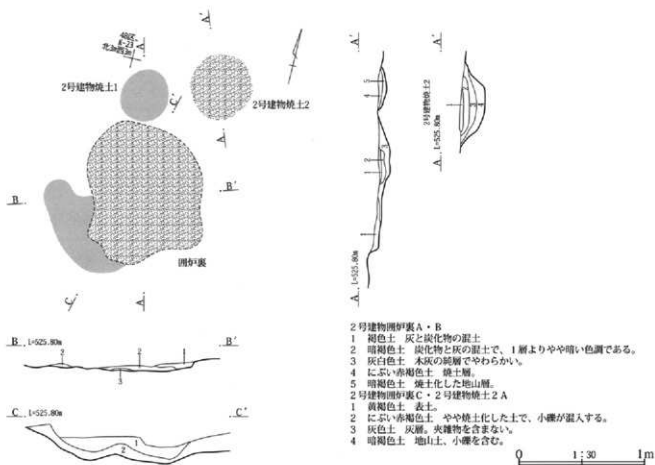


第61図 D3区①1面副、1・2号便槽



第62図 D3区①1面2号建物

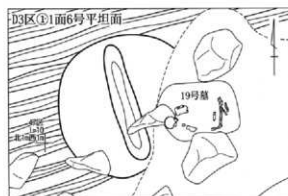
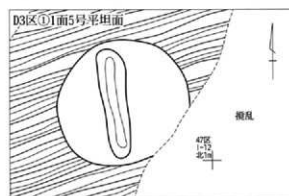
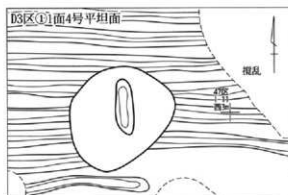
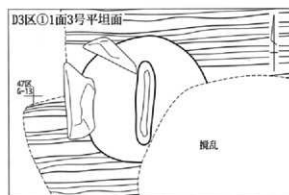
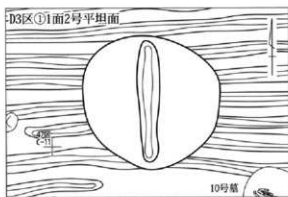
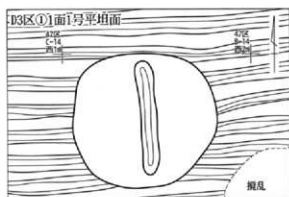
第3章 発見された遺構と遺物



第63図 D3区①1面2号建物囲郭

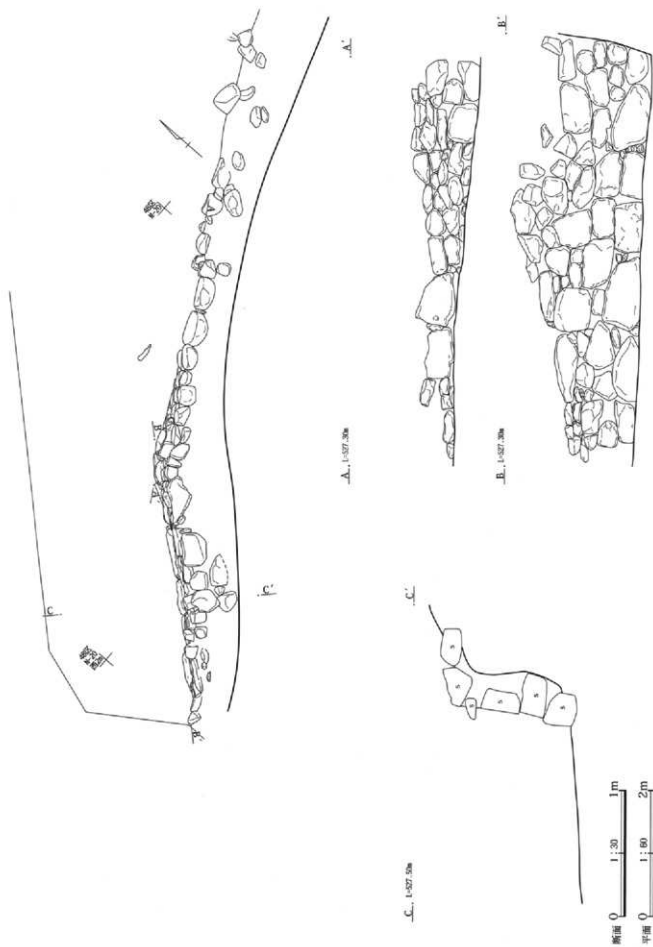


2号建物全景 南から

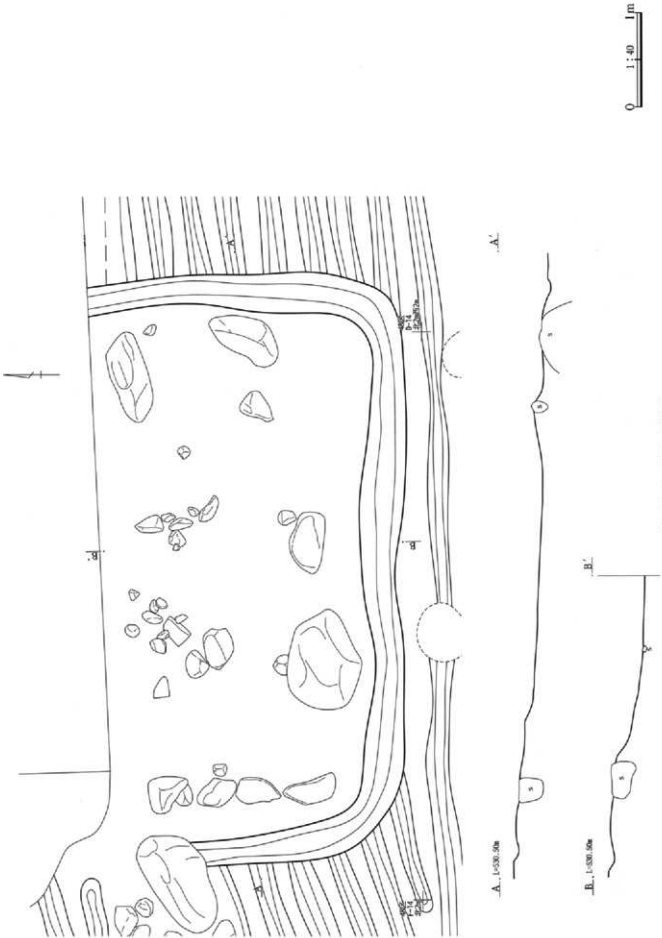


0 1:60 2m

第64图 D3区①1面1~6号平坦面



第65図 D3区①面石垣



第66圖 D 3区①1面集石

第3章 発見された遺構と遺物

ヤックラ(第67図、PL. 35)

位置 グリッド名 48区E・F-14・15

主軸方位 N-69°-E

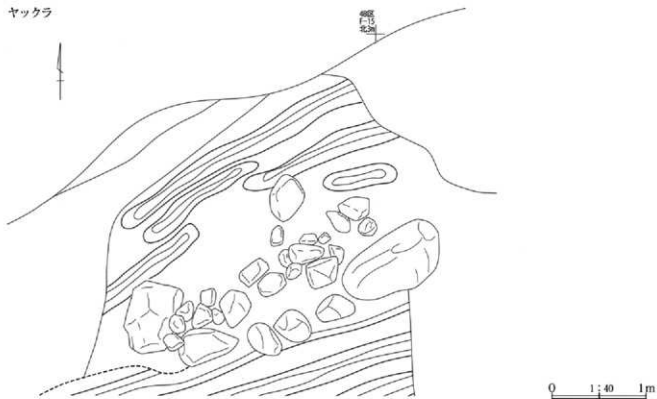
重複 畑より新しい

規模 長軸3.45m×短軸1.62m

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 天明泥流で埋没。

ヤックラ



第67図 D3区①1面ヤックラ



D3区①全景 東から

12 D3区①2面の調査 (第68～78図、PL.35～42)

D3区①2面では1号竪穴建物の他、1～12・14～16号土坑と1～30号ピット、5・6号墓、3・4号焼土、炭化材が確認された。

(1) 竪穴建物

1号竪穴建物(第69・70図、PL.36～38)

位置 グリッド名 48区C・D-23・24

主軸方位 N-15°-W

重複 無し

規模 長軸5.80m×短軸5.60m×深さ0.38m

形状 隅丸方形

底面及び断面形状 D3区①2面北西側で検出。掘り方の底に炭化物・焼土・小礫を含む黄褐色土(土層の6層)を薄く平らに敷いた後に固めて床面としている。

カマド 北壁中央で検出された。両袖で袖石・天井石・支脚が残存しており、特に袖石は、竈の袖部分に並べて置かれている。煙道は少し住居外に突出する。

貯蔵欠 1.0m×0.8mの隅丸方形で、貯蔵欠の主軸は住居の主軸と異なる。

ピット ピットは床面で3基、床下で1基確認された。その間隔は、南北間2.35m東西間2.65mで、東西間の方が少し広い。

遺物出土状況 遺物はカマド・貯蔵欠周辺及びピット2周辺より多く出土した。

口縁部の断面が「コの字」の土師器甕や須恵器杯・椀類が多く出土している。また、灰輪碗の出土も認められることから、9世紀代後半の年代が与えられる。(第127図-1 竪1～3、第128図-1 竪4～16、第129図-1 竪17-21、PL.62・63)

備考 所属時期 9世紀後半

(2) 土坑

1号土坑(第71図、PL.38)

位置 グリッド名 48区E-23

主軸方位 N-55°-W

重複 無し

規模 長軸1.54m×短軸1.48m×深さ0.31m

形状 楕円形

底面及び断面形状 弱く窪みを持った底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

2号土坑(第71図、PL.38)

位置 グリッド名 48区G-18

主軸方位 N-50°-W

重複 3号土坑が旧い

規模 長軸1.76m×短軸1.16m×深さ0.76m

形状 不整形

底面及び断面形状 平底気味の底面から弱く段を持って立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

3号土坑(第71図、PL.38)

位置 グリッド名 48区G-18

主軸方位

重複 2号土坑が新しい

規模 -

形状 -

底面及び断面形状 大部分が2号土坑に埋されているため、詳細は不明である。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

4号土坑(第72図)

位置 グリッド名 48区C-24・25

主軸方位 N-30°-W

重複 無し

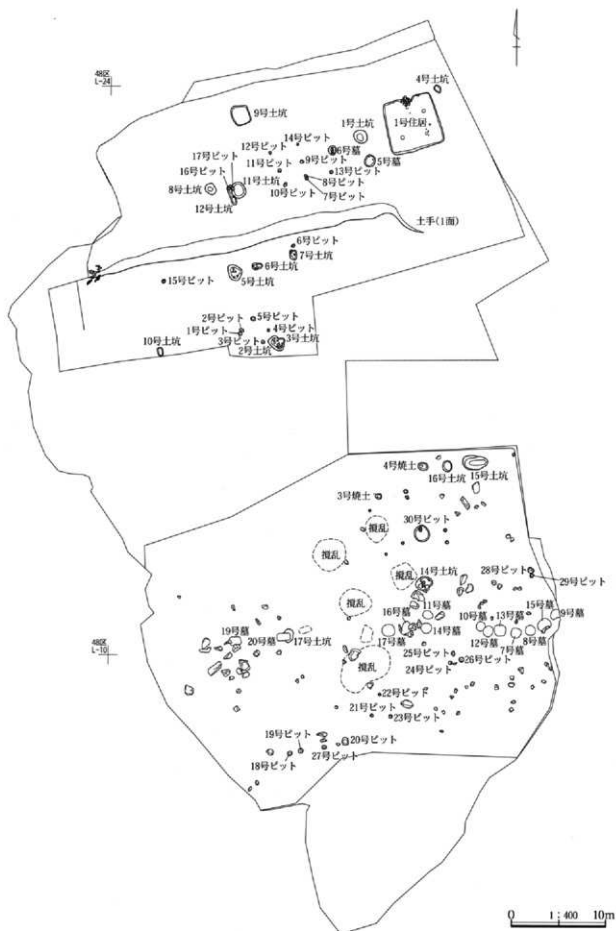
規模 長軸0.90m×短軸0.75m×深さ0.26m

形状 不整形

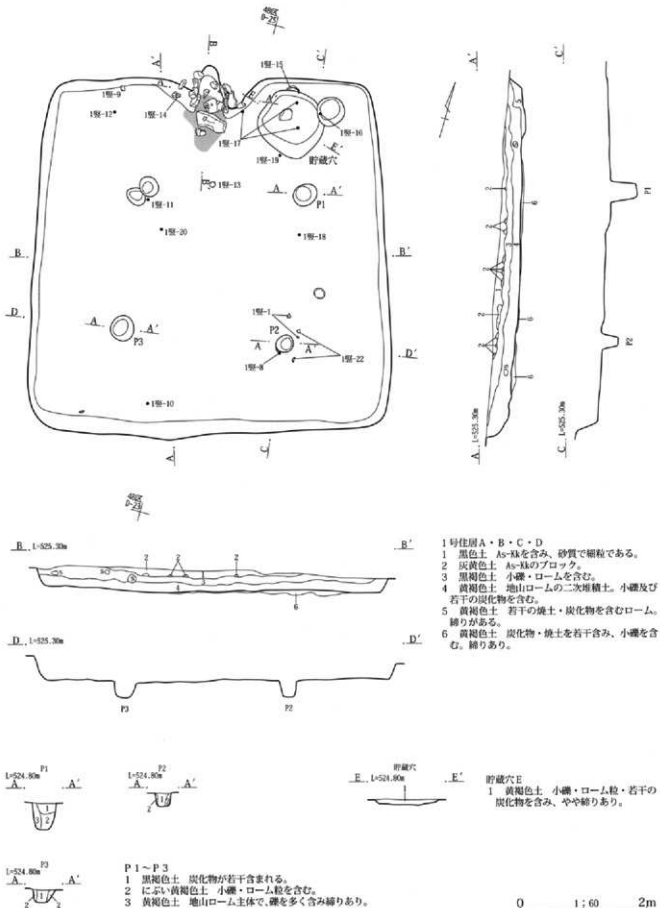
底面及び断面形状 丸底気味の底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

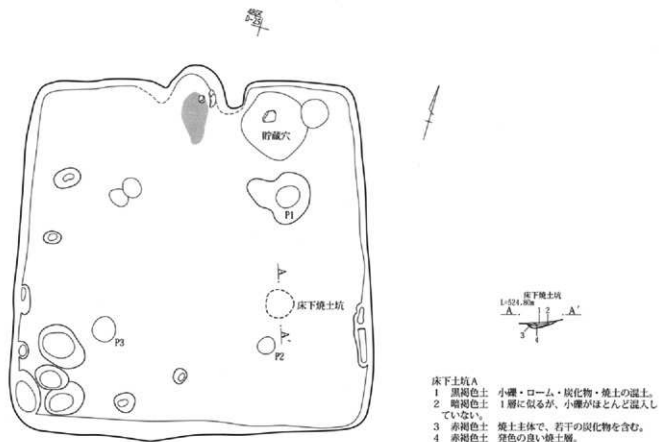
備考 所属時期 不明



第68図 D3区①2面全体図

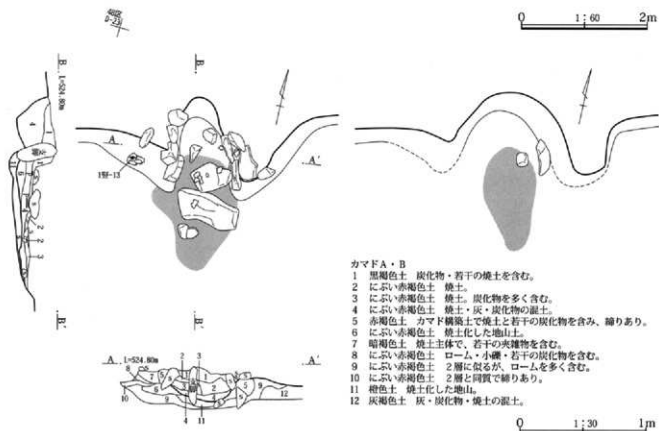


第69図 D3区①2面1号壑穴建物



床下土坑A

- 1 黒褐色土 小礫・ローム・炭化物・焼土の混土。
- 2 暗褐色土 1層に似るが、小礫がほとんど混入していない。
- 3 赤褐色土 焼土主体で、若干の炭化物を含む。
- 4 赤褐色土 発色の良い焼土層。



カマド A・B

- 1 黒褐色土 炭化物・若干の焼土を含む。
- 2 にぶい赤褐色土 焼土。
- 3 にぶい赤褐色土 焼土。炭化物を多く含む。
- 4 にぶい赤褐色土 焼土・灰・炭化物の混土。
- 5 赤褐色土 カマド構築土で焼土と若干の炭化物を含み、礫りあり。
- 6 にぶい赤褐色土 焼土化した地山土。
- 7 暗褐色土 焼土主体で、若干の夾雑物を含む。
- 8 にぶい赤褐色土 ローム・小礫・若干の炭化物を含む。
- 9 にぶい赤褐色土 2層に似るが、ロームを多く含む。
- 10 にぶい赤褐色土 2層と同質で礫りあり。
- 11 褐色土 焼土化した地山。
- 12 灰褐色土 灰・炭化物・焼土の混土。

第70図 D3区②面1号竪穴建物・カマド

5号土坑(第72図、PL. 38)

位置 グリッド名 48区H-19・20

主軸方位 N-52°-W

重複 無し

規模 長軸1.78m×短軸1.45m×深さ0.60m

形状 不整形

底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに立ち上がる。底面付近には小礫が見られる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

6号土坑(第72図)

位置 グリッド名 48区G・H-20

主軸方位 N-78°-E

重複 無し

規模 長軸1.08m×短軸0.58m×深さ0.22m

形状 不整形

底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに立ち上がる。底面付近には小礫が見られる。

遺物出土状況 (第125図-1 竪1~3)

備考 所属時期 不明

7号土坑(第72図)

位置 グリッド名 48区G-20

主軸方位 N-6°-W

重複 無し

規模 長軸1.00m×短軸0.76m×深さ0.27m

形状 不整形

底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに立ち上がる。底面付近には小礫が見られる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

8号土坑(第72図、PL. 38)

位置 グリッド名 48区I-22

主軸方位 N-50°-W

重複 無し

規模 長軸1.24m×短軸0.93m×深さ0.42m

形状 不整形

底面及び断面形状 丸底気味の底面から緩やかに立ち上

がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

9号土坑(第72図、PL. 39)

位置 グリッド名 48区H-23・24

主軸方位 N-50°-W

重複 無し

規模 長軸2.36m×短軸2.10m×深さ0.46m

形状 隅丸方形

底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに、やや直立気味に立ち上がる。底面付近に小礫がわずかに見られる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

10号土坑(第72図、PL. 39)

位置 グリッド名 48区J-17・18

主軸方位 N-13°-W

重複 無し

規模 長軸0.90m×短軸0.58m×深さ0.24m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに、少し広がりを持って立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

11号土坑(第72図、PL. 39)

位置 グリッド名 48区H-22

主軸方位 N-27°-W

重複 12号土坑より新しく、17号ピットより古い。

規模 長軸1.65m×短軸1.48m×深さ0.42m

形状 隅丸方形

底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに、外反気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明。

12号土坑(第72図、PL. 39)

位置 グリッド名 48区H-21・22

主軸方位 N-17°-W

重複 11号土坑、16・17号ピットより古い。
規模 長軸2.12m×短軸0.54m×深さ0.19m
形状 隅丸長方形
底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに、外反気味に立ち上がる。
遺物出土状況 無し
備考 所属時期 不明。

14号土坑(第72図、PL.39)

位置 グリッド名 48区C-11・12
主軸方位 N-53°-W
重複 無し
規模 長軸1.38m×短軸1.05m×深さ0.41m
形状 楕円形
底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに、わずかに広がりながら直線的に立ち上がる。
遺物出土状況 無し
備考 所属時期 不明

15号土坑(第73図、PL.39)

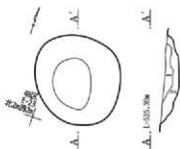
位置 グリッド名 48区A-15、B-14・15
主軸方位 N-85°-E

重複 無し
規模 長軸2.64m×短軸1.33m×深さ0.37m
形状 不整形
底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに立ち上がる。平面形状は東西方向に長いやや崩れた楕円構造を持つが、西半部の検出面付近に弱い段を持つ。
遺物出土状況 無し
備考 所属時期 不明

16号土坑(第73図、PL.39)

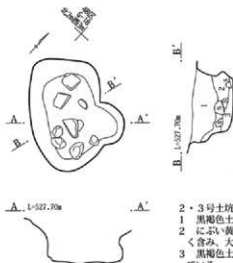
位置 グリッド名 48区B・C-14・15
主軸方位 N-6°-W
重複 無し
規模 長軸1.15m×短軸0.97m×深さ0.22m
形状 楕円形
底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに立ち上がる。北側検出面付近に弱い段を持つ。
遺物出土状況 無し
備考 所属時期 不明

1号土坑

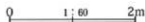


- 1号土坑A
 1 黒褐色土
 2 黒褐色土 小石を含む。

2・3号土坑

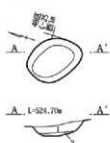


- 2・3号土坑B
 1 黒褐色土 小礫と若干のローム粒を含む。
 2 にぶい黄褐色土 1層に似るが、ロームをやや多く含む、大型の礫を含む。
 3 黒褐色土 炭化物と灰の層。地山の砂礫が混入している。



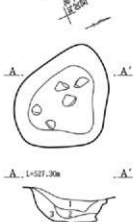
第71図 D3区①2面土坑(1)

4号土坑



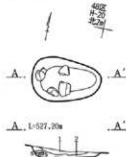
- 4号土坑A
1 暗褐色土 地山の黄褐色土を含む。
2 黒色土 炭化物質。

5号土坑



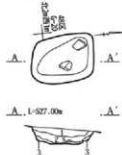
- 5号土坑A
1 黒褐色土 小礫と少量の炭化物を含む。
2 黒褐色土 炭化物を含む。
3 黄褐色土 ロームブロック、小礫を含む。

6号土坑



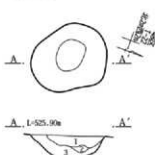
- 6号土坑A
1 黒褐色土 礫を含む。
2 にぶい赤褐色土 礫と地山の土粒を含む。

7号土坑



- 7号土坑A
1 黒褐色土 ローム粒・小礫を含む。
2 黒褐色土 1層に比べ、ロームの含有量が少ない。
3 黒褐色土 地山のローム粒・ロームブロックを含み、小礫を含む。

8号土坑



- 8号土坑A
1 黒褐色土 小石が混入している。
2 黒褐色土 小粒の炭が所々に混ざっている。
3 茶褐色土 石が混入している。

9号土坑



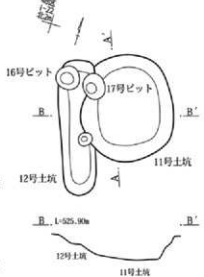
- 9号土坑A・B
1 黒褐色土 小礫・ロームを多く含む。
2 黄褐色土 1層と比べ、ロームを多く含み、やや大きな礫が混入している。

10号土坑



- 10号土坑A
1 黒褐色土 小石が混入する。
2 黒褐色土 茶褐色土や石が混入する。

11・12号土坑



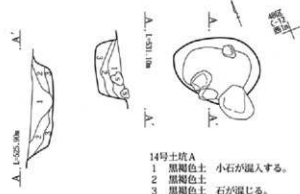
12号土坑

B. 1:525.90m

12号土坑

11号土坑

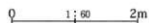
14号土坑



- 14号土坑A
1 黒褐色土 小石が混入する。
2 黒褐色土
3 黒褐色土 石が混入する。

11号土坑A

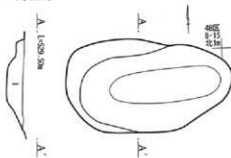
- 1 黒褐色土 ローム粒・小礫を含む。
2 黒褐色土 1層よりローム粒の混入が少ない。
3 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック・小礫が混入する。



第72図 D3区①2面土坑(2)

第3章 発見された遺構と遺物

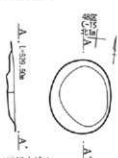
15号土坑



15号土坑A

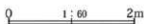
1 黒褐色土 ローム粒・小礫を含む。

16号土坑



16号土坑A

1 黒褐色土 ローム粒・礫をわずかに含む。



第73図 D3区①2面土坑(3)

(3)ピット

1号ピット(第74図)

位置 グリッド名 48区H-18

主軸方位 N-50°-W

重複 無し

規模 長径0.40m×短径0.38m×深さ0.52m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、わずかに開き気味に立ち上がる。柱穴痕あり。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

2号ピット(第74図)

位置 グリッド名 48区H-18

主軸方位 N-50°-W

重複 無し

規模 長径0.48m×短径0.34m×深さ0.47m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

3号ピット(第74図)

位置 グリッド名 48区G-18

主軸方位 N-40°-W

重複 無し

規模 長径0.40m×短径0.36m×深さ0.45m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、開き気味に立ち上がる。断面に柱痕あり。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

4号ピット(第74図)

位置 グリッド名 48区G-18

主軸方位 N-24°-E

重複 無し

規模 長径0.30m×短径0.28m×深さ0.07m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、わずかに開き気味に立ち上がる。断面に柱痕あり。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

5号ピット(第74図)

位置 グリッド名 48区H-18

主軸方位 N-30°-W

重複 無し

規模 長径0.48m×短径0.46m×深さ0.10m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

6号ピット(第74図)

位置 グリッド名 48区G-20

主軸方位 N-53°-E

重複 無し

規模 長径0.40m×短径0.26m×深さ0.40m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 丸底の底面から、垂直気味にやや外反しながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

7号ピット(第74図、PL.40)

位置 グリッド名 48区F-22

主軸方位 N-57°-E

重複 無し

規模 長径0.32m×短径0.30m×深さ0.41m

形状 不整形

底面及び断面形状 丸底の底面から、開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

8号ピット(第75図、PL.40)

位置 グリッド名 48区F-22

主軸方位 N-52°-W

重複 無し

規模 長径0.30m×短径0.28m×深さ0.28m

形状 不整形

底面及び断面形状 丸底の底面から、開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

9号ピット(第75図、PL.40)

位置 グリッド名 48区F-22・23

主軸方位 N-51°-W

重複 無し

規模 長径0.38m×短径0.32m×深さ0.28m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、開き気味に立ち上

がる。断面に柱痕あり。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

10号ピット(第75図、PL.40)

位置 グリッド名 48区G-22

主軸方位 N-29°-E

重複 無し

規模 長径0.46m×短径0.30m×深さ0.44m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

11号ピット(第75図、PL.40)

位置 グリッド名 48区G-22

主軸方位 N-12°-W

重複 無し

規模 長径0.36m×短径0.36m×深さ0.30m

形状 不整形

底面及び断面形状 丸底の底面から、開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

12号ピット(第75図、PL.40)

位置 グリッド名 48区G-23

主軸方位 N-29°-E

重複 無し

規模 長径0.32m×短径0.28m×深さ0.27m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、やや開き気味に立ち上がる。断面に柱痕が見られる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

13号ピット(第75図、PL.40)

位置 グリッド名 48区F-22

主軸方位 N-20°-W

重複 無し

規模 長径0.36m×短径0.34m×深さ0.36m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、やや開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

14号ピット(第75図、PL.40)

位置 グリッド名 48区G-23

主軸方位 N-52°-W

重複 無し

規模 長径0.24m×短径0.26m×深さ0.28m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底の細い底面から、開き気味に立ち上がり、弱い段を持って垂直気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

15号ピット(第75図、PL.40)

位置 グリッド名 48区J-19

主軸方位 N-42°-E

重複 無し

規模 長径0.42m×短径0.38m×深さ0.33m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、少し開き気味に立ち上がり、中段から垂直気味になる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

16号ピット(第75図、PL.40)

位置 グリッド名 48区H-22

主軸方位 N-40°-W

重複 無し

規模 長径0.37m×短径0.36m×深さ0.37m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、少し開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

17号ピット(第75図、PL.40)

位置 グリッド名 48区H-22

主軸方位 N-34°-W

重複 無し

規模 長径0.42m×短径0.33m×深さ0.45m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

18号ピット(第75図、PL.40)

位置 グリッド名 48区G-7

主軸方位 -

重複 無し

規模 長径0.47m×短径0.47m×深さ0.32m

形状 円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、開き気味に立ち上がり、緩やかな段を持って角度を変えて垂直気味の壁に変化する。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

19号ピット(第75図、PL.40)

位置 グリッド名 48区F-7

主軸方位 -

重複 無し

規模 長径0.50m×短径0.50m×深さ0.17m

形状 円形

底面及び断面形状 丸底気味の底面から、緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

20号ピット(第75図、PL.40)

位置 グリッド名 48区E-7

主軸方位 N-6°-E

重複 無し

規模 長径0.80m×短径0.64m×深さ0.34m

形状 不整形

底面及び断面形状 平底気味の底面から、緩やかに開きながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

21号ピット(第75図、PL.40)

位置 グリッド名 48区D・E-8

主軸方位 N-38°-W

重複 無し

規模 長径0.34m×短径0.30m×深さ0.34m

形状 楕円形

底面及び断面形状 やや平底気味の底面から、緩やかに垂直気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

22号ピット(第76図、PL.40)

位置 グリッド名 48区D-8・9

主軸方位 N-24°-W

重複 無し

規模 長径0.30m×短径0.26m×深さ0.23m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底気味の底面から、緩やかに開きながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

23号ピット(第76図、PL.41)

位置 グリッド名 48区D-8

主軸方位 N-6°-W

重複 無し

規模 長径0.38m×短径0.34m×深さ0.36m

形状 楕円形

底面及び断面形状 やや丸底の底面から、緩やかに開きながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

24号ピット(第76図、PL.41)

位置 グリッド名 48区B-9

主軸方位 N-64°-W

重複 無し

規模 長径0.40m×短径0.34m×深さ0.40m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底で尖り気味の底面から、緩やかに開きながら立ち上がる。底面付近の壁に、やや大型の自然礫が見られる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

25号ピット(第76図、PL.41)

位置 グリッド名 48区B-9

主軸方位 N-14°-W

重複 無し

規模 長径0.52m×短径0.34m×深さ0.40m

形状 不整形

底面及び断面形状 丸底の底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

26号ピット(第76図、PL.41)

位置 グリッド名 48区B-9

主軸方位 ー

重複 無し

規模 長径0.50m×短径0.50m×深さ0.46m

形状 円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、緩やかに弱い段を持って開きながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

27号ピット(第76図、PL.41)

位置 グリッド名 48区F-7

主軸方位 N-75°-W

重複 無し

規模 長径0.48m×短径0.44m×深さ0.23m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

28号ビット(第76図、PL.41)

位置 グリッド名 48区Y-12

主軸方位 N-66°-W

重複 無し

規模 長径0.66m×短径0.56m×深さ0.58m

形状 不整形

底面及び断面形状 丸底の底面から、緩やかに立ち上がる。底面に自然礫があるため、段を持っている。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

29号ビット(第76図、PL.41)

位置 グリッド名 47区Y-12

主軸方位 N-38°-E

重複 無し

規模 長径0.45m×短径0.37m×深さ0.38m

形状 不整形

底面及び断面形状 平底気味の底面から、緩やかに開きながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

30号ビット(第76図、PL.41)

位置 グリッド名 48区C-13

主軸方位 N-5°-W

重複 無し

規模 長径0.52m×短径0.34m×深さ0.36m

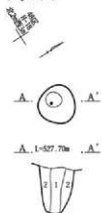
形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、緩やかに得率気味に立ち上がる。床面から壁にかけて自然礫が存在する。

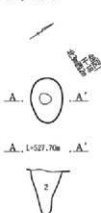
遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

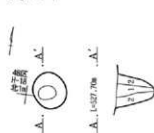
1号ビット



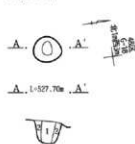
2号ビット



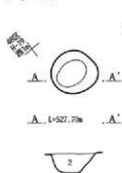
3号ビット



4号ビット



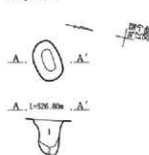
5号ビット



1～5号ビットA

- 1 黒色土 砂質でやや軟質であり、やや黒味がある(柱跡)
- 2 暗褐色土 ローム・若干の礫を含む。

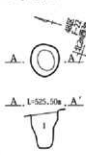
6号ビット



6号ビットA

- 1 暗褐色土 小礫・若干のロームを含む。
- 2 にぶい黄褐色土 ローム粒を多く含む。

7号ビット



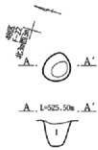
7号ビットA

- 1 黒褐色土 若干の炭化物・小礫を含む
- 2 黄褐色土 小礫・地山の黄褐色土粒を含む。

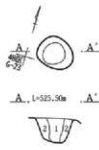


第74図 D3区①2面ビット(1)

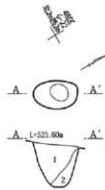
8号ビット



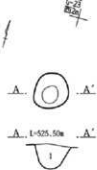
9号ビット



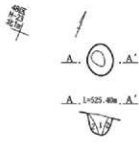
10号ビット



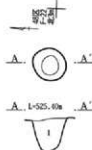
11号ビット



12号ビット



13号ビット



8～13号ビットA

- 1 黒褐色土 若干の炭化物・小礫を含む
- 2 黄褐色土 小礫・地山の黄褐色土粒を含む。

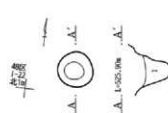
14号ビット



15号ビット



16号ビット



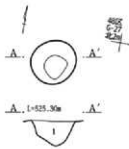
17号ビット



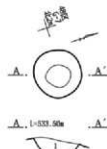
14・15号ビットA

- 1 黒褐色土 砂礫を含み、やや軟質で黒味がある。
- 2 暗褐色土 礫を含み、地山が主体である。

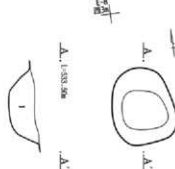
18号ビット



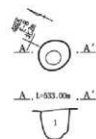
19号ビット



20号ビット



21号ビット



21号ビットA

- 1 黒褐色土 所々に小石が混ざる。

16・18・19・20号ビットA

(17ビットは平面のみ)

- 1 黒褐色土

0 1:40 1m

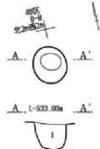
第75図 D3区①2面ビット(2)

第3章 発見された遺構と遺物

22号ピット

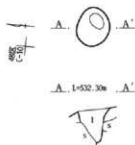


23号ピット



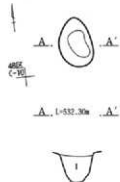
22・23号ピットA
1 黒褐色土

24号ピット



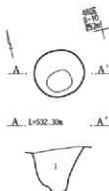
24号ピットA
1 黒褐色土

25号ピット



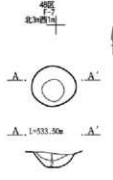
25号ピットA
1 黒褐色土

26号ピット



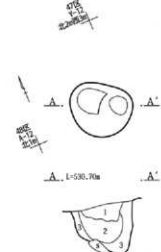
26号ピットA
1 黒褐色土 小石が混じる。

27号ピット



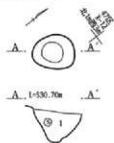
27号ピットA
1 黒褐色土 小石が混じる。
2 黒褐色土

28号ピット



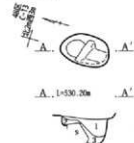
28号ピットA
1 黒褐色土
2 黒褐色土 石が混じる。
3 黒褐色土 小石が混じる。

29号ピット



29号ピットA
1 黒褐色土 小石が混じる。

30号ピット



30号ピットA
1 黒褐色土
2 茶褐色土 石が混じる。
3 黒褐色土 小石が混じる。

0 1:40 1m

第76図 D3区①2面ピット(3)

(4) 墓

5号墓(第77図、PL. 42)

位置 グリッド名 48区D・E-22・23

主軸方位 N-24°-E

重複 なし

規模 長径1.25m×短径1.08m×深さ0.28m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底の底面から、緩やかに開きながら立ち上がる。掘り込みは浅い。

遺物出土状況 人骨片が出土

備考 所属時期 不明 天明泥流より古い。中世か。

6号墓(第77図、PL. 42)

位置 グリッド名 48区F-23

主軸方位 N-25°-W

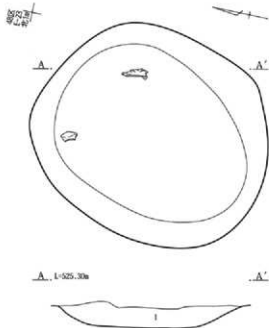
重複 なし

規模 長径0.97m×短径0.83m×深さ0.25m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底気味の底面から、緩やかに開きながら立ち上がる。

5号墓



5号墓A

1 黒褐色土 礫・地山土粒を含む。

(5) 焼土

3号焼土(第78図、PL. 42)

位置 グリッド名 48区C-14・15

主軸方位 N-80°-W

重複 無し

規模 長径0.68m×短径0.56m×深さ0.15m

形状 楕円形

底面及び断面形状 浅い。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

4号焼土(第78図、PL. 42)

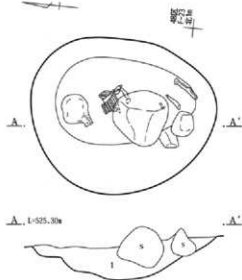
位置 グリッド名 48区D-14

主軸方位 N-76°-W

重複 無し

規模 長径1.09m×短径0.82m×深さ0.08m

6号墓



5号墓A

1 黒褐色土 小礫を多く含む、若干の黄色粒を含む。

0 1:20 50cm

第77図 D3区①2面5・6号墓

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底気味で凹凸を持つ底面から、緩やかに広がりながら立ち上がる。掘り込みは浅い。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

重複 無し

規模 0.5～0.6m

形状 —

底面及び断面形状 細の耕作土下から確認された。礫と共に長さ0.5～0.6m程度の炭化材が見られる。若干の焼土は伴うが、灰などは見られない。明確な遺構は確認できなかった。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

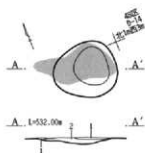
(6)炭化材

炭化材(第78図)

位置 グリッド名 48区L-19・20

主軸方位 —

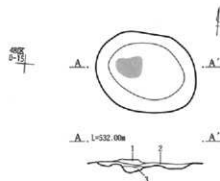
3号焼土



3号焼土A

- 1 赤褐色土 焼土。
- 2 黒褐色土 若干の焼土・灰・ローム粒を含む軟質土。

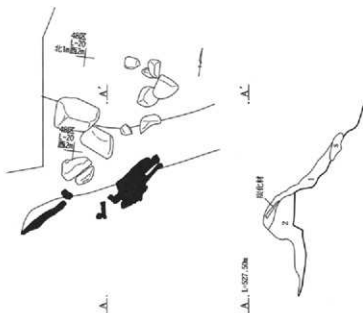
4号焼土



4号焼土A

- 1 暗赤褐色土 発色の悪い焼土。
- 2 黒褐色土 ロームを多く含み、軟質である。
- 3 にぶい黄褐色土 ロームが主体で、少量の焼土を含む。

0 1:40 1m



グリッド48区L-20炭化材A

- 1 黒色土 炭化物片若干の焼土を含む。
- 2 暗褐色土 小礫を含む。

0 1:40 1m

第78図 D3区①2面3・4号焼土、炭化材

13 D3区②1面の遺構

(第79～83図、PL.42・43)

D3区②は道路の下の調査であり、遺跡内を縦断する形で存在しているため、27年度調査のD3区の南西端部に連結しており、北は27年度調査のD1・2区、南はやはり27年度調査のE5・7区と接している。

D3区②1面は、他の調査区同様ほぼ全面から天明泥流下畑が検出されている他、3・4号道、7～13号平坦面、集石、木杵が検出された。

(1) 道

3号道(第81図、PL.42)

位置 グリッド名 47区O-17・18、N-17～19

主軸方位 N-17°-W

重複 無し

規模 長軸17.00m×幅0.20～0.50m

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 天明泥流で埋没。

4号道(第81図、PL.43)

位置 グリッド名 47区Q-10～12、R-11～14

主軸方位 N-30°-W

重複 無し

規模 長軸8.60m×幅0.20～0.40m

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 天明泥流で埋没。

(2) 天明泥流下の畑

今回報告する遺跡の中央部分を北西から南東に貫く形で存在するので、畝・サクの端部で形成された畑の分割線は、区の北東端部から南西端部まで7条確認できる。また北東端部から6条目の分割線の上は、踏み固められており、道(4号道)であったと考えられ、4号道(6条目の分割線)から北東に向かい5条目の分割線の手前には、道がもう一条(3号道)存在する。

それぞれの分割線によって分けられた畑の幅は、北東から16.2m・17.5m・8.8m・16.0m・24.0m・9.3mで

あるが、調査区の北に抜けていないので分かりにくいだが、3号道の東にも一部分割線があるので、この部分と5条目の分割線までの幅は5.0mである。

全体図(第79図)を見ると、畝・サクの幅は調査区南西端部付近で一部広がっているが、これは攪乱によって上面が削られたため幅が異なって見えるためであり、図で見えるほど顕著ではない。これは、調査区の南西に続くD3区①の畝・サクの幅が、D3区②のものに比べて顕著ではないことから証明される。しかしここでは、図面上に見られる数値を記載しておきたい。

畝幅は12cm～32cm、サク幅は18cm～26cmで、畝・サクの方位はN-70～76°-Eである。

平坦面は7～13号平坦面が確認された。(第82図、PL.43)

残存状態の悪いものもあるが、全て平面形状は円形であったと考えられる。

(3) 集石

集石(第83図、PL.43)

位置 グリッド名 47区V・W-17・18

主軸方位 N-55°-E

重複 畑より新しい

規模 長さ1.8m×幅1.80m×深さ0.18m

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 天明泥流で埋没。

(4) 木杵

調査区南西部で、畑の6番目の分割線(4号道)と7番目の分割線の間で、6番目の分割線に近い地点の調査区南北中央付近で検出された。

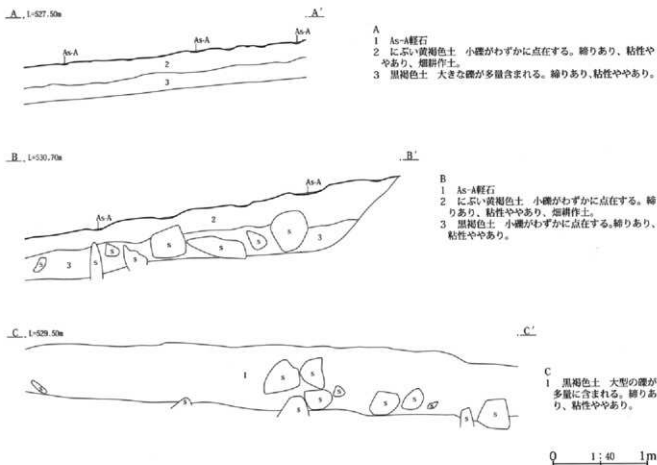
木杵の構造は1.10m×1.18mの方形で、ほぼ垂直な掘り方を持つ土坑で、深さは47cmある。

土坑の検出面(天明泥流堆積面)付近に、木材を並べて配置している。

木材の残存状況を観察すると、太さが7～10cm前後で、長さは1.0～1.10mを計測し、南北方向に9本等間隔に並べて配置され、木材の先端部も木で繋がっている。また、木材は、方形土坑の上端部を覆っているのみで



第79图 D3区①面全体图



第80図 D3区②1面A～C土層断面図

あり、土坑の掘方側面や底面からは検出できなかった。従って、この木材は土坑の蓋のような機能を持っていたのであろう。

また木枠が検出された地点では、畑のサクが完全に止まっており、方形土坑の二辺の角度は畝・サクの角度と完全に一致していることから、畑と木枠は同一時期に存在していたことが分かる。

畑に伴う施設であったと推定されるが、他の遺跡で同様の類例が認められないため、土坑を含めた木枠の機能に関しては不明である。

木枠(第83図、PL.43)

位置 グリッド名 47区R-12・13

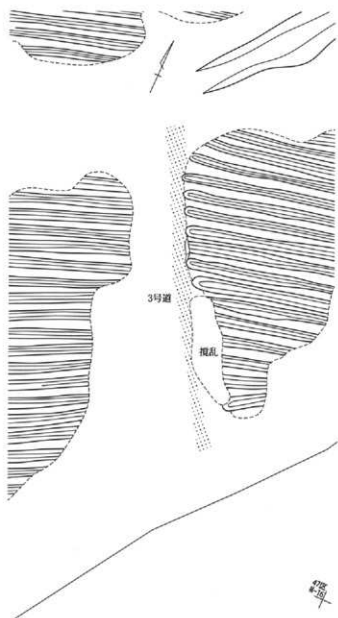
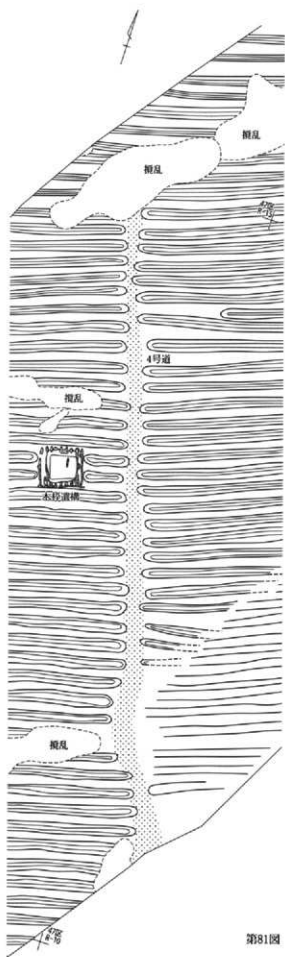
主軸方位 N-18°-W

重複 無し

規模(木枠範囲) 長辺1.10m×短辺1.18m×深さ0.47m

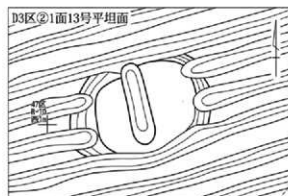
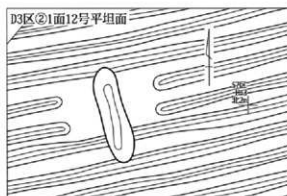
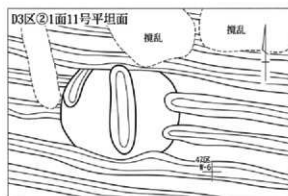
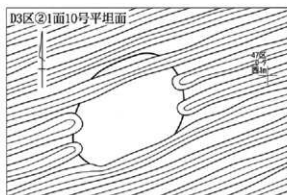
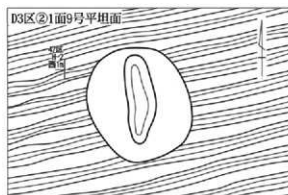
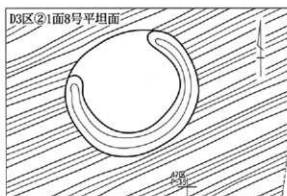
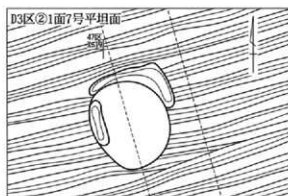
遺物出土状況 無し

備考 所属時期 天明泥流で埋没。



0 1:100 5m

第81図 D3区②1面3・4号道

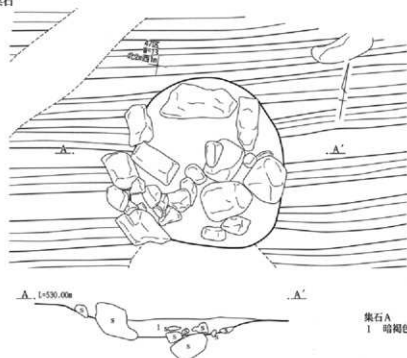


0 1:60 2m

第82図 D3区②1面7～13号平坦面

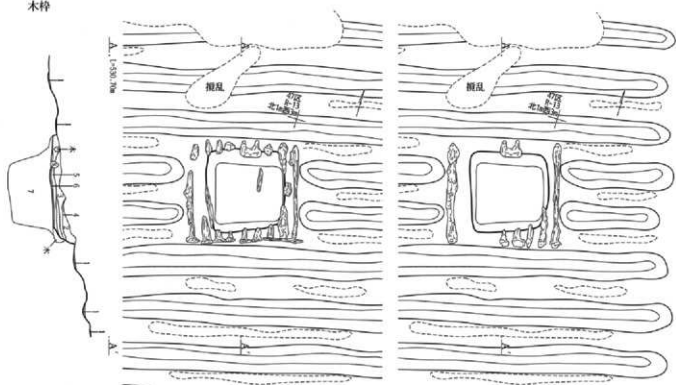
第3章 発見された遺構と遺物

集石



集石A
1 暗褐色土 大小の礫を多量に含む。締りはあまりない。

木枠



木枠A
1 As-A
2 にぶい黄褐色土 径10cm大の礫が点在する。締りややあり、砂が混じりさらさらしている。
3 暗褐色土 締りややあり、粘性ややあり、やや粘土質。
4 にぶい黄褐色土 砂礫層。締りややあり。
5 暗褐色土 やや砂混じり。締りややあり。
6 暗褐色土 粘土質で締りややあり、粘性ややあり。
7 黒褐色土 小礫を多量に含む。締りあり、粘性ややあり。

0 1:40 1m

第83図 D3区②1面集石、木枠

14 D3区②2面の遺構 (第84～92図、PL.43～49)

D3区②2面では、18号土坑、23～28号土坑、30～32号土坑、38～45号土坑、1～11号溝と36～45号ピット及び5・6号焼土が検出された。

これらの遺構の中で、45号ピットは38号土坑と重複関係にあり、38号土坑の方が新しい。平面図は38号土坑の図面に併記している。

(1) 土坑

18号土坑(第86図、PL.43)

位置 グリッド名 47区V-18・19

主軸方位 N-23°-W

重複 無し

規模 長軸5.64m×短軸1.14m×深さ0.47m

形状 隅丸長方形

底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに広がりながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

23号土坑(第86図、PL.44)

位置 グリッド名 47区J・K-24

主軸方位 N-30°-E

重複 無し

規模 長軸1.38m×短軸0.76m×深さ0.48m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底気味の底面から緩やかに広がりながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

24号土坑(第86図、PL.44)

位置 グリッド名 47区J-23

主軸方位 N-80°-W

重複 無し

規模 長軸0.96m×短軸0.60m×深さ0.79m

形状 楕円形

底面及び断面形状 東壁は直立的で壁下から急激に斜めに立ち上がり、検出面付近でわずかに直立する。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

25号土坑(第86図、PL.44)

位置 グリッド名 47区M-19

主軸方位 N-40°-W

重複 無し

規模 長軸0.84m×短軸0.46m×深さ0.18m

形状 不整形

底面及び断面形状 北西壁は弱い段を持って垂直的な立ち上がりであるが、南東側は平坦な段を持ち、外反的に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

26号土坑(第86図、PL.44)

位置 グリッド名 47区Q-15

主軸方位 N-22°-W

重複 無し

規模 長軸1.37m×短軸0.70m×深さ0.38m

形状 隅丸方形

底面及び断面形状 平底気味の底面からやや緩やかに広がりながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

27号土坑(第86図、PL.44)

位置 グリッド名 47区R-14

主軸方位 N-65°-W

重複 無し

規模 長軸0.55m×短軸0.32m×深さ0.15m

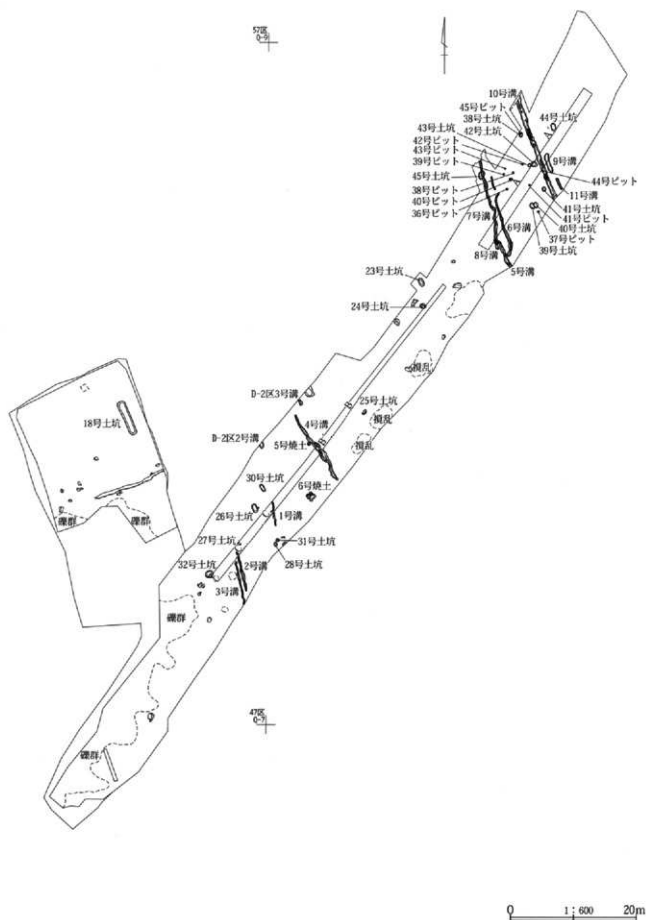
形状 不整形

底面及び断面形状 平底気味の底面からやや緩やかに広がりながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

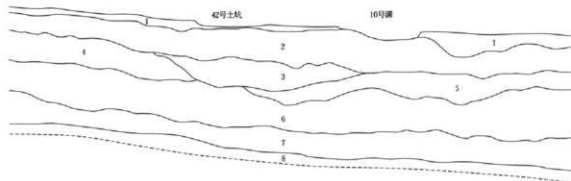
28号土坑(第86図、PL.44)



第84図 D3区②面全体図

北壁 A, L=524.30m

A'

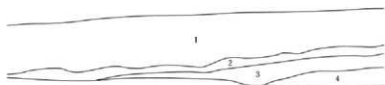


北壁 A

- 1 褐色土 第2面確認面。灰褐色土を含む。締り弱く粘性あり。
- 2 灰褐色土 腐乱鉄分を多量に含み、黄褐色粒を少量含む。締り弱く粘性あり。
- 3 黒褐色土 ローム粒を少量含み、1cm大の礫を少量含む。締りあり、粘性強い。
- 4 にぶい黄褐色土 橙色粒・小礫を少量含む。締り・粘性あり。
- 5 灰黄褐色土 5～10cmの礫を含み、色味は明るい。締りややあり、粘性あり。
- 6 灰黄褐色土 砂質土。大小の礫を多量に含む。締りやや弱く粘性強い。
- 7 黒褐色土 黄褐色粒を多量に含み、赤色礫を多量に含む。締り・粘性あり。
- 8 にぶい黄褐色土 ローム漸移層。締りややあり、粘性あり。

東 B, L=528.30m

B'

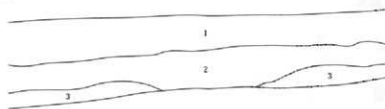


東 B

- 1 黄褐色土 黒褐色土が部分的にわずかに混じり、小礫を多量に含み、焼土粒・炭化物をわずかに含む。締りあり、粘性ややあり。
- 2 黄褐色土 明黄褐色土が多量に混じり、小礫・焼土粒・炭化物をわずかに含む。締りあり、粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 黒褐色土が部分的に混入し、焼土粒・炭化物・小礫をわずかに含む。締りややあり、粘性あり。
- 4 暗褐色土 明黄褐色土が全体に混入し、焼土粒・炭化物をわずかに含む。締りあり、粘性ややあり。

西 C, L=529.80m

C'



西 C

- 1 黄褐色土 小礫を多量に含む。締りあり、粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 黒褐色土が混入し、焼土粒・炭化物をわずかに含む。締りあり、粘性あり。
- 3 明黄褐色土 暗褐色土と黒褐色土が混じり合う。焼土粒・炭化物・小礫をわずかに含む。締りややあり、粘性あり。

0 1:40 1m

第85図 D3区②2面A～C土層断面図

第3章 発見された遺構と遺物

位置 グリッド名 47区P-14
主軸方位 N-15°-W
重複 無し
規模 長軸0.70m×短軸0.50m×深さ0.26m
形状 不整形
底面及び断面形状 丸底気味の底面から緩やかに立ち上がる。
遺物出土状況 無し
備考 所属時期 不明

30号土坑(第86図、PL.44)

位置 グリッド名 47区Q-16
主軸方位 N-33°-W
重複 無し
規模 長軸1.28m×短軸0.50m×深さ0.38m
形状 不整形
底面及び断面形状 平底気味の底面から直線的に広がって立ち上がる。
遺物出土状況 無し
備考 所属時期 不明

31号土坑(第86図、PL.45)

位置 グリッド名 47区P-14
主軸方位 N-83°-W
重複 無し
規模 長軸0.54m×短軸0.46m×深さ0.18m
形状 楕円形
底面及び断面形状 丸底気味の底面から緩やかに立ち上がる。
遺物出土状況 無し
備考 所属時期 不明

32号土坑(第87図、PL.45)

位置 グリッド名 47区S-12・13
主軸方位 N-51°-W
重複 無し
規模 長軸1.24m×短軸1.02m×深さ0.66m
形状 楕円形
底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し
備考 所属時期 不明

38号土坑(第87図、PL.45)

位置 グリッド名 57区F・G-5
主軸方位 N-3°-W
重複 45号ピットが古い
規模 長軸0.75m×短軸0.50m×深さ0.16m
形状 楕円形
底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに立ち上がる。
遺物出土状況 無し
備考 所属時期 不明。

39号土坑(第87図、PL.45)

位置 グリッド名 57区F-2
主軸方位 N-21°-W
重複 40号土坑が古い
規模 長軸1.00m×短軸0.68m×深さ0.21m
形状 楕円形
底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに立ち上がる。
遺物出土状況 無し
備考 所属時期 不明。

40号土坑(第87図、PL.45)

位置 グリッド名 57区F-2
主軸方位 N-21°-W
重複 39号土坑
規模 長軸0.90m×短軸(0.60m)×深さ0.14m
形状 楕円形
底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに立ち上がる。
遺物出土状況 無し
備考 所属時期 不明。39号土坑より古い。

41号土坑(第87図、PL.45)

位置 グリッド名 57区E・F-3
主軸方位 N-32°-W
重複 無し

規模 長軸0.68m×短軸0.61m×深さ0.24m
 形状 楕円形
 底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに立ち上がる。
 遺物出土状況 無し
 備考 所属時期 不明。

42号土坑(第87図、PL. 45)

位置 グリッド名 57区F-4
 主軸方位 N-48°-W
 重複 無し
 規模 長軸0.94m×短軸0.86×深さ0.15m
 形状 不整形
 底面及び断面形状 円形の底面から緩やかに立ち上がる。
 遺物出土状況 無し
 備考 所属時期 不明。

43号土坑(第87図、PL. 45)

位置 グリッド名 57区F-4
 主軸方位 N-29°-W
 重複 無し
 規模 長軸0.52m×短軸0.50m×深さ0.19m
 形状 楕円形
 底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに立ち上がる。
 遺物出土状況 無し
 備考 所属時期 不明。

44号土坑(第87図、PL. 45)

位置 グリッド名 57区E-5
 主軸方位 N-10°-W
 重複 無し
 規模 長軸1.20m×短軸0.74m×深さ0.19m
 形状 楕円形
 底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに立ち上がる。
 遺物出土状況 無し
 備考 所属時期 不明。

45号土坑(第87図)

位置 グリッド名 57区H-3
 主軸方位 N-18°-E
 重複 7号溝
 規模 長軸1.35m×短軸0.86m×深さ0.22m
 形状 楕円形
 底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに立ち上がる。
 遺物出土状況 無し
 備考 所属時期 不明。7号溝より古い。

(2)溝

1号溝(第88図、PL. 45・46)

位置 グリッド名 47区P-14・15
 主軸方位 N-8°-W
 重複 無し
 規模 全長3.90m×幅1.40m×深さ0.16m
 底面及び断面形状 底面が平底気味の部分と、やや尖った部分がある。
 遺物出土状況 無し
 備考 所属時期 不明

2号溝(第88図、PL. 46)

位置 グリッド名 47区Q-12・13、R-13
 主軸方位 N-12°-W
 重複 無し
 規模 全長6.34m×幅0.18m×深さ0.10m
 底面及び断面形状 丸底気味の底面からわずかに広がりながら立ち上がる。
 遺物出土状況 無し
 備考 所属時期 不明

3号溝(第88図、PL. 46)

位置 グリッド名 47区Q-11・12、R-12・13
 主軸方位 N-12°-W
 重複 無し
 規模 全長7.00m×幅0.14m×深さ0.12m
 底面及び断面形状 南半部は丸底気味の底面からわずかに広がりながら立ち上がる。北半部はやや尖り気味の底面形状を示す。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

4号溝(第88図、PL.46)

位置 グリッド名 47区N-16～18、O-17～19

主軸方位 N-33°-W

重複 無し

規模 全長12.34m×幅0.36m×深さ0.25m

底面及び断面形状 断面図B・Cが入る溝の中央部付近が、両端部と比較して少し太くなっているが、全体的には丸底気味の底面から緩やかに立ち上がる断面形状を示している。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

5号溝(第89図、PL.46・47)

位置 グリッド名 47区G-25、57区G-1

主軸方位 N-24°-W

重複 無し

規模 全長4.55m×幅0.28m×深さ0.20m

底面及び断面形状 丸底気味の底面からやや緩やかに広がり気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

6号溝(第89図、PL.47)

位置 グリッド名 47区G-25、57区G-1～3、H-3

主軸方位 N-16°-W

重複 無し

規模 全長21.46m×幅0.20m×深さ0.45m

底面及び断面形状 丸底の底面から緩やかに垂直気味に立ち上がる。溝幅の広い部分では段掘になっている。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

7号溝(第89図、PL.47)

位置 グリッド名 47区G-1・2、H-1～4

主軸方位 N-14°-W

重複 45号土坑・8号溝が旧い

規模 全長13.90m×幅0.22m×深さ0.33m

底面及び断面形状 丸底の底面から緩やかに立ち上がる。覆土に小礫を含む。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

8号溝(第90図、PL.47)

位置 グリッド名 47区G-25、57区G・H-1

主軸方位 N-25°-W

重複 7号溝が新しい

規模 全長1.72m×幅0.20m×深さ0.14m

底面及び断面形状 丸底気味の底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

9号溝(第90図、PL.47・48)

位置 グリッド名 57区E-2～4、F-3～6

主軸方位 N-12°-W

重複 無し

規模 全長3.20m×幅0.56m×深さ0.07m

底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

10号溝(第90図、PL.48)

位置 グリッド名 57区E-2～4

主軸方位 N-21°-W

重複 44号ピットが新しい

規模 全長8.56m×幅0.56m×深さ0.25m

底面及び断面形状 丸底気味の底面から緩やかに立ち上がる。底面にやや凹凸が多い。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

11号溝(第90図、PL.48)

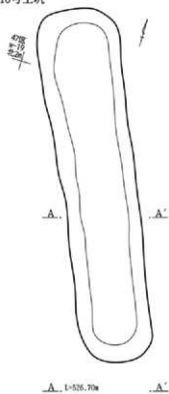
位置 グリッド名 57区E-3

主軸方位 N-23°-W

重複 無し

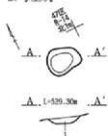
規模 全長1.96m×幅0.28m×深さ0.11m

18号土坑



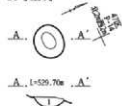
D 3区②2面 18号土坑A
1 暗褐色土 大小の礫を多量に含む。締りはあまりなし。集石土坑。

27号土坑



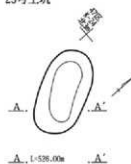
3区②2面 27号土坑A
1 暗褐色土 黄褐色土がわずかに混じる。締りあまりなし、粘性ややあり。

31号土坑



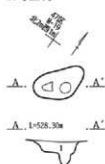
D 3区②2面 31号土坑A
1 暗褐色土 黄褐色土がわずかに混じる。締りあまりなし、粘性ややあり。

23号土坑



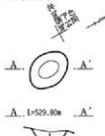
D 3区②2面 23号土坑A
1 暗褐色土 1~3mm大の軽石粒を微量に含む(1%)。締りあり、粘性ややあり。
2 暗褐色土 小礫をわずかに含む。締りあり、粘性ややあり。

25号土坑



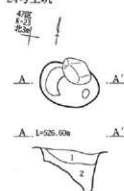
D 3区②2面 25号土坑A
1 暗褐色土 小礫がわずかに混じる。締りあり、粘性ややあり。

28号土坑



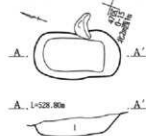
D 3区②2面 28号土坑A
1 暗褐色土 黄褐色土がわずかに混じる。締りあまりなし、粘性ややあり。

24号土坑



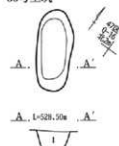
D 3区②2面 24号土坑A
1 暗褐色土 黄褐色土が部分的にわずかに混じる。締りあり、粘性ややあり。
2 暗褐色土 黄褐色土が混じる。小〜大礫を部分的に含む。締りあり、粘性ややあり。

26号土坑



D 3区②2面 26号土坑A
1 暗褐色土 小〜拳大の礫をわずかに含む。締りがある。粘性はややあり。

30号土坑

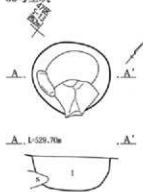


D 3区②2面 30号土坑A
1 暗褐色土 小礫を多量に含む。締りあり、粘性ややあり。



第86図 D 3区②2面土坑(1)

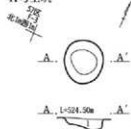
32号土坑



D 3区②2面 32号土坑A

- 1 暗褐色土 黒褐色土が部分的に混じり、小～拳大の礫が点在する。締りあり、粘性ややあり。

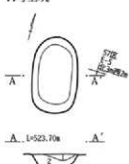
41号土坑



D 3区②2面 41号土坑A

- 1 褐灰色土 ローム小ブロックを少し含む。締り・粘性ややあり。

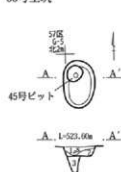
44号土坑



D 3区②2面 44号土坑A

- 1 黒褐色土 濃い黄褐色土を含み、黄褐色を微量に含む。締りあり、粘性強い。
- 2 灰黄褐色土 ローム小ブロック・ローム粒を多量に均質に含み、1～3cmの大的礫を含む。締りあり、粘性強い。

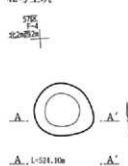
38号土坑



D 3区②2面 38号土坑・45号ビットA

- 1 褐灰色土 大型の礫を含み、酸化鉄分を少量含む。締り・粘性あり。(38号土坑)
- 2 灰黄褐色土 濃い或褐色土を含み、酸化鉄分を著しく含む。締り・粘性あり。(38号土坑)
- 3 褐灰色土 酸化鉄を含み、締り・粘性あり、重積する45号ビットの埋土。(45号ビット)

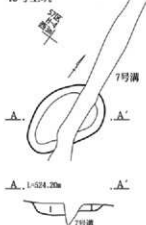
42号土坑



D 3区②2面 42号土坑A

- 1 褐灰色土 ローム小ブロック・ローム粒を少量、酸化鉄を多量に含み、小礫を含む。締り・粘性あり。

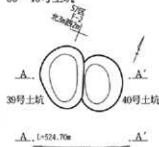
45号土坑



D 3区②2面 45号土坑A

- 1 暗褐色土 小礫・1～3mmの軽石をわずかに含む。締りあり、粘性ややあり。

39・40号土坑



D 3区②2面 39・40号土坑A

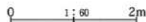
- 1 褐灰色土 礫を多量に含み、底にローム小ブロック・ローム粒を多量に含む。締りややあり、粘性あり。(39号土坑)
- 2 褐灰色土 小礫を少量含み、締り・粘性あり。(40号土坑)

43号土坑



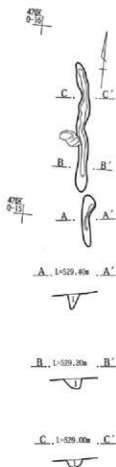
D 3区②2面 43号土坑A

- 1 褐灰色土 大礫を含み、ローム粒を少量含む。締り・粘性あり。3層と共に43号土坑埋土。
- 2 灰黄褐色土 1cm大の礫を少量含み、ローム粒を均質に含む。締り・粘性あり。

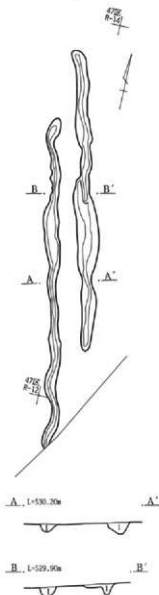


第87図 D 3区②2面土坑(2)

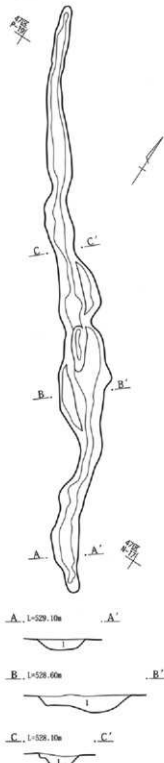
1号溝



2・3号溝



4号溝



1号溝

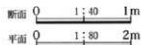
- A 1 黒褐色土 黄褐色土が部分的にわずかに混じる。締りあり、粘性ややあり。
 B 1 黒褐色土 黄褐色土が部分的にわずかに混じり、小礫もわずかに混じる。締りあり、粘性ややあり。
 C 1 黒褐色土 黄褐色土が部分的にわずかに混じり、小礫もわずかに混じる。締りあり、粘性ややあり。

2・3号溝

- A 1 黒褐色土 褐色土が部分的に混じり、小礫もわずかに混じる。締りあり、粘性ややあり。
 B 1 黒褐色土 黄褐色土が部分的にわずかに混じり、小礫もわずかに混じる。締りあり、粘性ややあり。

4号溝

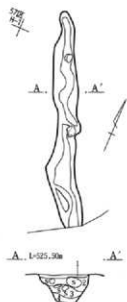
- A 1 黒褐色土 黄褐色土が混じり合い、小～拳大の礫が点在する。締りあり、粘性ややあり。
 B 1 黒褐色土 黄褐色土が混じり合い、小～拳大の礫が多量に含まれる。締りあり、粘性ややあり。
 C 1 黒褐色土 黄褐色土が混じり合い、小～拳大の礫が点在する。締りあり、粘性ややあり。



第88図 D3区②2面1～4号溝

第3章 発見された遺構と遺物

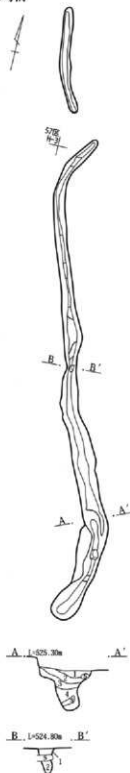
5号溝



5号溝A

- 1 ぶい黄褐色土 ローム粒を少量含む、径5mm大の小礫を含む。締りあり、粘性あり。
- 2 褐色土 5～15cm大の礫を含む、ローム粒を少量含む。締り弱く、粘性あり。
- 3 黒褐色土 砂質土。10～15cm大の礫を含む。締りあり、粘性なし。
- 4 灰黄褐色土 砂質土。1～3cm大の礫を含む。水成堆積層で、締り弱く、粘性なし。

6号溝



6号溝A

- 1 暗褐色土 1cm大礫を含む。締り弱く、粘性弱い。
- 2 黒褐色土 砂質土。締りあり、粘性弱い。
- 3 灰黄褐色土 砂質土。ローム小ブロックを含む。締りあり、粘性弱い。
- 4 褐色土 砂質土。水成堆積層で締りあり、粘性なし。

6号溝B

- 1 ぶい黄褐色土 ローム小ブロック・ローム粒を含む。締り弱く、粘性あり。
- 2 ぶい黄褐色土 ローム小ブロック・大ブロックを多量に含む。締りやや弱く、粘性強い。

7号溝A

- 1 暗褐色土 10cm大の礫を含む。締り弱く、粘性弱い。
- 2 明黄褐色土 砂主体で、大型の礫を含む。締り弱く、粘性弱い。
- 3 褐色土 締り弱く、粘性あり。

7号溝

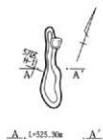


断面 0 1:40 1m

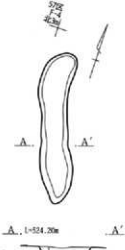
平面 0 1:80 2m

第89図 D3区②2面5～7号溝

8号溝



9号溝



8号溝A

1 灰黄褐色土 上層にローム粒・ローム小ブロックを含む。IPを少量含む。5cm大の礫を含む。締りやあり、粘性強い。

9号溝A

1 にぶい黄褐色土 ローム小ブロック・ローム粒を含む。3～5cm大の礫を含む。やや砂質土で締りあり、粘性弱い。

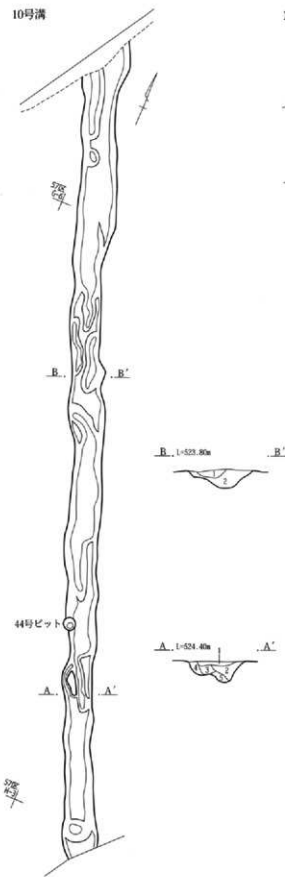
10号溝A

- 1 褐色土 黄褐色粒を少量含む。締り弱く、粘性弱い。
- 2 灰黄褐色土 砂質土で小礫・黒褐色土を含む。締りややあり、粘性なし。
- 3 にぶい黄褐色土 砂質土で大型の礫を含む。締りあり、粘性なし。
- 4 黒褐色土 砂質土で1～3cm大の礫を含む。締りあり、粘性なし。
- 5 灰黄褐色土 2層に類似しているが、色味は明るい。大型の礫を含む。締りあり、粘性なし。

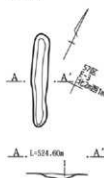
11号溝A

1 にぶい黄褐色土 黒褐色土を含み、ローム小ブロック・ローム粒を含む。締りややあり、粘性あり。

10号溝



11号溝



B, L=523.80m

A, L=524.40m

断面 0 1:40 1m

平面 0 1:80 2m

第90図 D3区②2面8～11号溝

底面及び断面形状 丸底気味の底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

(3)ピット

36号ピット(第91図、PL.49)

位置 グリッド名 57区G-3

主軸方位 N-15°-E

重複 無し

規模 長径0.32m×短径0.30m×深さ0.37m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、緩やかにわずかに開きながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

37号ピット(第91図、PL.49)

位置 グリッド名 57区F-2

主軸方位 N-27°-E

重複 無し

規模 長径0.32m×短径0.30m×深さ0.33m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底面から、緩やかにわずかに垂直気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

38号ピット(第91図、PL.49)

位置 グリッド名 57区G-3

主軸方位 N-7°-E

重複 無し

規模 長径0.33m×短径0.24m×深さ0.34m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、緩やかにわずかに開きながら垂直気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

39号ピット(第91図、PL.49)

位置 グリッド名 57区G-3

主軸方位 N-21°-E

重複 無し

規模 長径0.29m×短径0.27m×深さ0.33m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底面から、緩やかにわずかに開きながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

40号ピット(第91図、PL.49)

位置 グリッド名 57区G-3

主軸方位 N-73°-E

重複 無し

規模 長径0.52m×短径0.44m×深さ0.60m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底面から、緩やかにわずかに開きながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

41号ピット(第91図、PL.49)

位置 グリッド名 57区F-3

主軸方位 N-63°-W

重複 無し

規模 長径0.25m×短径0.24m×深さ0.42m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、緩やかに垂直気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

42号ピット(第92図、PL.49)

位置 グリッド名 57区F-4

主軸方位 N-72°-W

重複 無し

規模 長径0.28m×短径0.26m×深さ0.26m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底面から、緩やかにわずかに

かに開きながら立ち上る。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

43号ピット(第92図、PL.49)

位置 グリッド名 57区G-4

主軸方位 N-53°-E

重複 無し

規模 長径0.24m×短径0.22m×深さ0.29m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、緩やかにわずかに開きながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

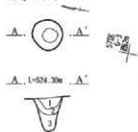
備考 所属時期 不明

44号ピット(第92図、PL.49)

位置 グリッド名 57区F-3

主軸方位 -

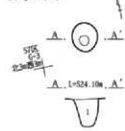
36号ピット



36号ピットA

- 1 灰黄褐色土 しぶい黄褐色土を含み、小礫を含む。締りややあり、粘性あり。
- 2 褐色土 1~3cm大の礫を含む。酸化鉄分を少量含む。締りややあり、粘性あり。
- 3 褐色土 色味はやや暗く、酸化鉄分の沈着が著しい。締り強く、粘性あり。

39号ピット

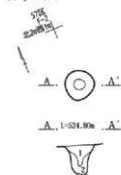


39号ピットA

- 1 褐色土 黄褐色粒を少量含み、小礫・酸化鉄分を含む。締りややあり、粘性あり。

0 1:40 1m

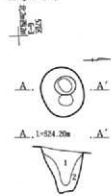
37号ピット



37号ピットA

- 1 灰黄褐色土 黄褐色粒を微量に含む。小礫を含む。締りややあり、粘性弱い。
- 2 しぶい黄褐色土 小礫・ローム粒を多量に含む。締り強く、粘性あり。

40号ピット



40号ピットA

- 1 黒褐色土 しぶい黄褐色土・炭化物・小礫がわずかに混じる。締りあり、粘性ややあり。
- 2 しぶい黄褐色土 小礫がわずかに混じる。締り・粘性あり。

重複 10号溝が旧い

規模 長径0.26m×短径0.26m×深さ0.38m

形状 円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、垂直気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

45号ピット(第87図、PL.45)

位置 グリッド名 57区F-4

主軸方位 N-27°-E

重複 38号土坑が新しい

規模 長径0.25m×短径0.23m×深さ0.42m

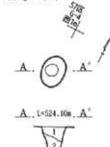
形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底の底面から、緩やかにわずかに開きながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

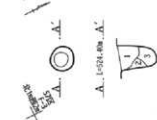
38号ピット



38号ピットA

- 1 灰黄褐色土 1cm大の礫を多量に含む。締りやや弱く、粘性あり。
- 2 しぶい黄褐色土 3~5cm大の礫を含む。やや砂質土。酸化鉄分を含む。締り・粘性あり。

41号ピット



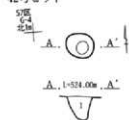
41号ピットA

- 1 灰黄褐色土 ロームブロック及びローム粒を多量に含む。大型の礫を少し含む。締り・粘性あり。
- 2 しぶい黄褐色土 ローム小ブロック及びローム粒を多量に含む。締り・粘性あり。
- 3 しぶい黄褐色土 ローム大ブロックを含む。締り・粘性あり。

第91図 D3区②2面ピット(1)

第3章 発見された遺構と遺物

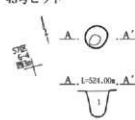
42号ピット



42号ピットA

1 褐灰色土 小礫を含む。締りややあり、粘性あり。

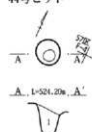
43号ピット



43号ピットA

1 褐灰色土 小礫を含む。締りややあり、粘性あり。

44号ピット



44号ピットA

1 黒褐色土 締りあり、粘性ややあり。



(4) 焼土

5号焼土(第92図、PL.49)

位置 グリッド名 48区O-18

主軸方位 N-46°-W

重複 無し

規模 長軸0.40m×短軸0.35m×深さ0.08m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底面から、緩やかに広がりながら立ち上がる。掘り込みは浅い。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

6号焼土(第92図、PL.49)

位置 グリッド名 48区O-15・16

主軸方位 N-80°-E

重複 無し

規模 長軸1.50m×短軸1.20m×深さ0.25m

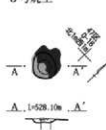
形状 不整形

底面及び断面形状 平底気味の底面から、緩やかに広がりながら立ち上がる。掘り込みやや深く、3基の穴が組み合わさったような平面形状を示す。焼土中に炭化物が含まれている。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

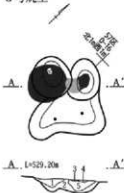
5号焼土



5号焼土A

1 褐色土 黒褐色土がわずかに混じる。締りあり、粘性ややあり。
2 黒褐色土 黒褐色土と黄褐色土が混る層。小礫をわずかに含む。締りあり、粘性ややあり。

6号焼土



6号焼土A

1 暗褐色土 黒褐色土が部分的に混じり、炭化物をわずかに含む。締りあり、粘性ややあり。
2 暗褐色土 小礫をわずかに含む。締りあり、粘性ややあり。
3 褐色土 暗褐色土が混入し、焼土小ブロックを多量に、炭化物をわずかに含む。締りあり、粘性ややあり。
4 暗褐色土 焼土粒・炭化物をわずかに含む。締りあり、粘性ややあり。
5 暗褐色土 黒褐色土が部分的に混入し、小礫をわずかに含む。締りあり、粘性ややあり。



第92図 D3区②2面ピット(2)、5・6号焼土

15 D3区②3面の調査 (第93～96図、PL.50～52)

D3区②3面では1号掘立柱建物、19～22号土坑、33～37号土坑と31～35号ピット、7号焼土、21号墓の調査が行われた。

(1)掘立柱建物

1号掘立柱建物(第94図、PL.50)

位置 グリッド名 47区X・Y-16・17

主軸方位 N-20°-W

重複 無し

規模 1間(1.5m)×1間(2.6m)・庇1間(0.44m)

形状 長方形(南北方向が長く、南端に庇が付く)

柱穴 D3区②の建物が建っていた跡地の区画で検出された。

規模的には南北の1間が幅広く、東西の1間が狭い1間×1間の建物であるが、南端に1間分の庇が付く。

ピットは直径0.28m～0.32mで、建物の東西は1.5m、南北は2.6mで、南端に0.44mの庇が付くため、南北に長い平面形状を示す。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

P1

位置 グリッド名 47区X・Y-17

主軸方位 N-4°-E

重複 無し

規模 長径0.32m×短径0.30m×深さ0.17m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底から緩やかに直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

P2

位置 グリッド名 47区X-16

主軸方位 N-31°-W

重複 無し

規模 長径0.30m×短径0.26m×深さ0.36m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底から緩やかに直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

P3

位置 グリッド名 47区X-16

主軸方位 N-53°-W

重複 無し

規模 長径0.31m×短径0.27m×深さ0.20m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底気味の底から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

P4

位置 グリッド名 47区Y-16

主軸方位 N-27°-W

重複 無し

規模 長径0.24m×短径0.22m×深さ0.14m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

P5

位置 グリッド名 47区Y-16

主軸方位 N-45°-E

重複 無し

規模 長径0.32m×短径0.28m×深さ0.28m

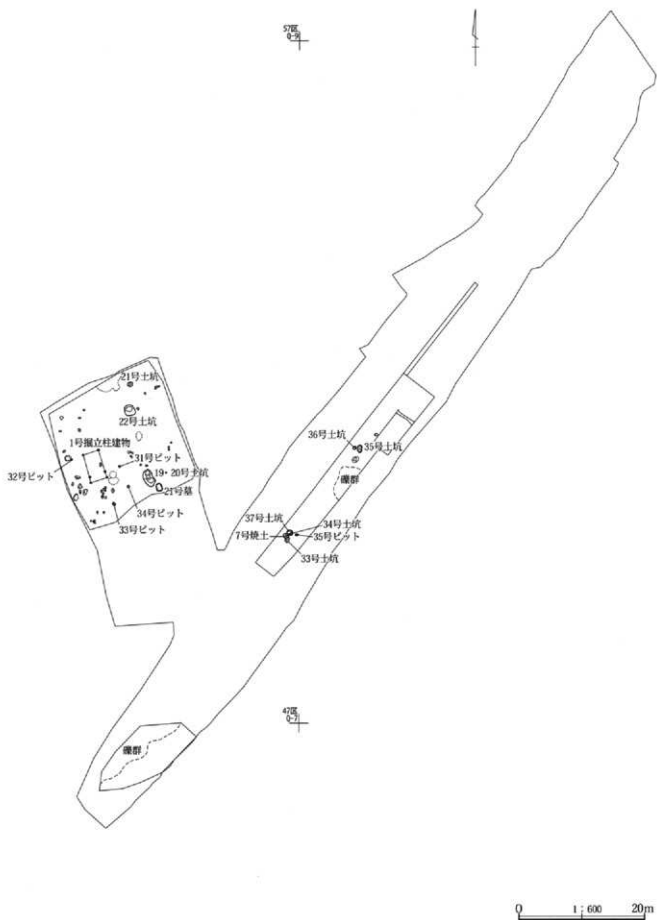
形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

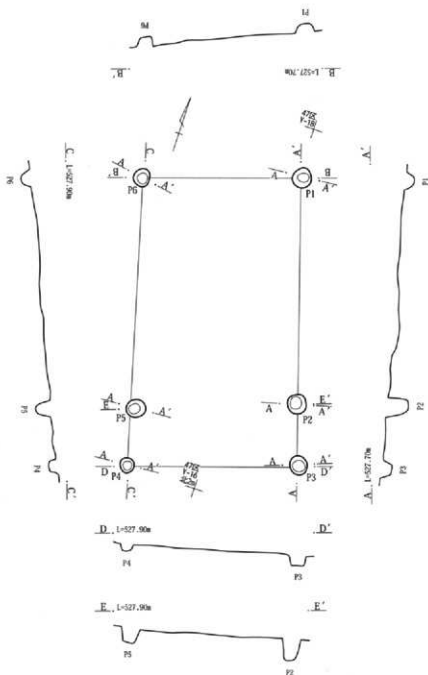
備考 所属時期 不明

P6



第93図 D3区②3面全体図

第2節 各区の様相



P 1
1 黒褐色土 1~5mmの軽石をごくわずかに含む。締りややあり、粘性ややあり。



P 2
1 黒褐色土 1~2mmの軽石をごくわずかに、小礫わずかに含む。締りあり、粘性ややあり。



P 3
1 黒褐色土 にぶい黄褐色土と小礫をわずかに含む。締りあり、粘性ややあり。



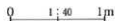
P 4
1 黒褐色土 にぶい黄褐色土と小礫がわずかに混じる。締りあり、粘性ややあり。



P 5
1 黒褐色土 にぶい黄褐色土がわずかに混じる。締りあり、粘性ややあり。



P 6
1 黒褐色土 にぶい黄褐色土が部分的に混じる。小礫をわずかに含む。締り・粘性ややあり。



第94図 D3区②3面1号掘立柱建物

位置 グリッド名 47区Y-17
主軸方位 N-11°-E
重複 無し
規模 長径0.28m×短径0.25m×深さ0.17m
形状 楕円形
底面及び断面形状 丸底気味の底から緩やかに立ち上がる。
遺物出土状況 無し
備考 所属時期 不明

(2)土坑

19号土坑(第95図、PL.51)
位置 グリッド名 47区V・W-16・17
主軸方位 N-23°-W
重複 20号土坑・7号溝が古い
規模 長軸2.15m×短軸1.45m×深さ0.45m
形状 不整形
底面及び断面形状 中央に楕円形の深い部分があり、そこから広がり気味に立ち上がる。20号土坑の大部分は、19号土坑によって掘削されている。
遺物出土状況 無し
備考 所属時期 不明

20号土坑(第95図、PL.51)
位置 グリッド名 47区V・W-16・17
 遺構の大部分が19号土坑に破壊されているため数値が取れない。

21号土坑(第95図、PL.51)
位置 グリッド名 47区W-20
主軸方位 N-34°-W
重複 無し
規模 長軸0.78m×短軸0.75m×深さ0.33m
形状 不整形
底面及び断面形状 丸底気味の底部から緩やかに立ち上がる。
遺物出土状況 無し
備考 所属時期 不明

22号土坑(第95図)
位置 グリッド名 47区W-19
主軸方位 N-19°-W
重複 無し
規模 長軸1.70m×短軸1.54m×深さ0.40m
形状 不整形
底面及び断面形状 平底気味だが凹凸を持つ底面から、広がりながら立ち上がる。
遺物出土状況 無し
備考 所属時期 不明

33号土坑(第95図、PL.51)
位置 グリッド名 47区Q-14
主軸方位 N-32°-E
重複 7号焼土が新しい
規模 長軸0.96m×短軸0.66m×深さ0.42m
形状 楕円形
底面及び断面形状 平底気味の底部から緩やかに、直線的に広がりながら立ち上がる。覆土は検出面まで水平堆積である。
遺物出土状況 無し
備考 所属時期 不明

34号土坑(第95図、PL.51)
位置 グリッド名 47区Q-14
主軸方位 N-45°-E
重複 7号焼土・37号土坑が新しい
規模 長軸0.87m×短軸(0.27)m×深さ0.19m
形状 不整形
底面及び断面形状 詳細は不明である。
遺物出土状況 無し
備考 所属時期 不明

35号土坑(第95図、PL.51)
位置 グリッド名 47区N-17・18
主軸方位 N-2°-E
重複 無し
規模 長軸1.20m×短軸0.68m×深さ0.15m
形状 不整形
底面及び断面形状 平底気味の底部から緩やかに、広が

りながら立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

36号土坑(第95図、PL. 51)

位置 グリッド名 47区N-17

主軸方位 N-26°-E

重複 無し

規模 長軸0.52m×短軸0.50m×深さ0.34m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底部から緩やかに、直線気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

37号土坑(第95図、PL. 51)

位置 グリッド名 47区Q-14

主軸方位 N-45°-E

重複 34号土坑より新しく、7号焼土より古い

規模 長軸0.72m×短軸(0.80)m×深さ0.25m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底部から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

(3)ピット

31号ピット(第96図、PL. 51)

位置 グリッド名 47区W-16

主軸方位 N-42°-W

重複 無し

規模 長径0.30m×短径0.27m×深さ0.28m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底部から緩やかに、直線的に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

32号ピット(第96図、PL. 51)

位置 グリッド名 48区A-17

主軸方位 N-50°-W

重複 無し

規模 長径(0.23)m×短径0.24m×深さ0.18m

形状 楕円形

底面及び断面形状 ピットの西に接して大型の自然礫があり、丸底の底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

33号ピット(第96図、PL. 51)

位置 グリッド名 47区X-15

主軸方位 N-37°-W

重複 無し

規模 長径0.55m×短径0.37m×深さ0.10m

形状 楕円形

底面及び断面形状 底面に平らな自然礫があり、緩やかに弱く外反する。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

34号ピット(第96図、PL. 52)

位置 グリッド名 47区W-16

主軸方位 N-10°-W

重複 無し

規模 長径0.41m×短径0.38m×深さ0.20m

形状 楕円形

底面及び断面形状 底面西端が深く、東に向かって直線的に浅くなる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

35号ピット(第96図、PL. 52)

位置 グリッド名 47区Q-14

主軸方位 N-50°-W

重複 無し

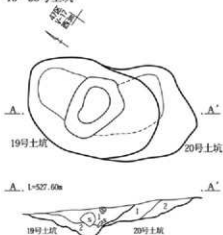
規模 長径0.39m×短径0.37m×深さ0.18m

形状 楕円形

底面及び断面形状 平底気味の底面から緩やかに立ち上がる。

第3章 発見された遺構と遺物

19・20号土坑



19号土坑A

1 黒褐色土 炭化物をわずかに含む。大小の亜円礫を多量に含む。締りあり。

2 にふい・黄褐色土 小礫をわずかに含む。締りあり。

20号土坑A

1 黒褐色土 にふい・黄褐色土がわずかに混じる。締りあり。
2 黒褐色土 にふい・黄褐色土が多く混じり合う。小礫を多量に含む。締りあり。

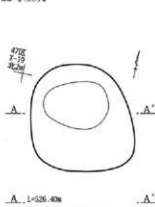
21号土坑



21号土坑A

1 暗褐色土 にふい・黄褐色土がわずかに混じる。大小の礫を多量に含む。締りあり、粘性ややあり。

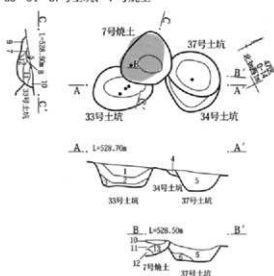
22号土坑



22号土坑A

1 暗褐色土 小礫をわずかに含む。締りあり、粘性ややあり。
2 暗褐色土 小礫～多大の礫を多量に含む。締りあり、粘性ややあり。
3 黄褐色土 小礫をわずかに含む。締りややあり。

33・34・37号土坑、7号焼土



33・34・37号土坑・7号焼土A・B・C

1 黒褐色土 炭化物、焼土小ブロック、焼土粒を少量含む。遺物がある。締りはやや弱く、粘性強い。(33号土坑)

2 にふい・黄褐色土 ローム粒を多量に、炭化物を少量、焼土粒微量含む。締り・粘性あり。(33号土坑)

3 灰黄褐色土 小礫を少量含む。締り・粘性あり。(33号土坑)

4 黒褐色土 ロームブロックと小礫を含む。締りややあり、粘性あり。(34号土坑)

5 にふい・黄褐色土 小～大礫・炭化物を少量含む。締り・粘性あり。(37号土坑)

6 にふい・黄褐色土 5層より礫を多く含み、5mm大の黄褐色粒を少量含む。5層より締りがあり、粘性あり。(37号土坑)

7 にふい・赤褐色土 焼土ブロック・焼土粒を多量に含む。締りややあり、粘性弱い。(7号焼土)

8 灰黄褐色土 焼土小ブロック・焼土粒を少量・ローム粒を多量に含み、小礫を含む。締りあり、粘性強い。(7号焼土)

9 にふい・黄褐色土 小礫を含み、ローム粒少量含む。締りややあり、粘性あり。(7号焼土)

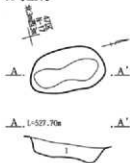
10 暗褐色土 5mm大の黄褐色粒を少量含む。締りやや弱く、粘性あり。(7号焼土)

11 褐色土 焼土粒を主体に、炭化物を少量含み、小礫を含む。締りあり、粘性ややあり。(7号焼土)

12 褐色土 11層より焼土粒・炭化物を少量含む。締りあり、粘性強い。(7号焼土)

13 にふい・黄褐色土 ローム小ブロック・ローム粒を含み、炭化物を微量に含む。締りあり、粘性あり。(7号焼土)

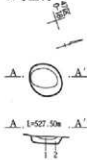
35号土坑



35号土坑A

1 にふい・黄褐色土 ロームブロック・小ブロックとローム粒を底面に多量に含み、小礫を少量含む。ボソボソして崩れやすく粘性弱い。

36号土坑



36号土坑A

1 暗褐色土 ローム小ブロック・ローム粒を少量含む。締りやや弱く粘性あり。
2 にふい・黄褐色土 大型の礫を含み、5mm大の黄褐色粒を少量含む。締りあり、粘性弱い。

0 1:60 2m

第95図 D3区②3面土坑、7号焼土

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

(4) 焼土

7号焼土(第95図、PL. 51)

位置 グリッド名 47区Q-14

主軸方位 N-52°-W

重複 33・37号土坑が旧い

規模 長軸0.78m×短軸0.44m×深さ0.24m

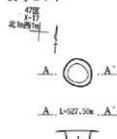
形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底気味の底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

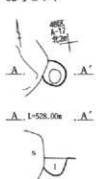
31号ピット



31号ピットA

1 黒褐色土 にぶい黄褐色土が部分的に混じる。縞りあり、粘性ややあり。

32号ピット



32号ピットA

1 黒褐色土 にぶい黄褐色土が部分的に混じる。炭化物・小礫をわずかに含む。縞りあり。

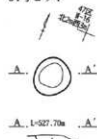
33号ピット



33号ピットA

1 黒褐色土 にぶい黄褐色土が部分的に混じる。縞りややあり、粘性ややあり。

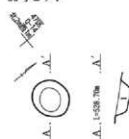
34号ピット



34号ピットA

1 黒褐色土 にぶい黄褐色土が部分的に混じる。小礫が多い。縞りあり、粘性ややあり。

35号ピット

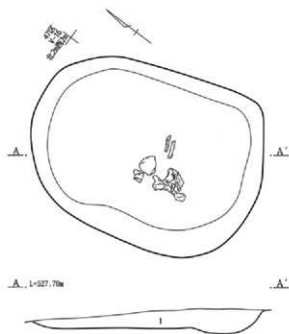


35号ピットA

1 にぶい黄褐色土 径約1cmの小礫を少量含む。縞り・粘性あり。

0 1:40 1m

21号墓



21号墓A

1 暗褐色土 小礫を多量に含む。縞りややあり。

(5) 墓

21号墓(第96図、PL. 52)

位置 グリッド名 47区U・V-15

主軸方位 N-21°-W

重複 無し

規模 長径1.24m×短径0.92m×深さ0.12m

形状 楕円形

底面及び断面形状 丸底気味の底面から緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 墓の中央部に腰骨他の一部が少し残っているのみである。

備考 所属時期 不明

0 1:20 50cm

第96図 D3区②3面ピット、21号墓

16 E 5区の遺構(第97・98図、PL.52・53)

(1) 畑

E 5区は大部分に後世の攪乱が大きく入っているため全体の構造がつかみにくいが、1面では天明泥流下の畑が検出されている。他の調査区で検出された畑と異なり、畝・サク端部の畑の分割線が調査区を横断しておらず、いずれも途中で止まっている。更に畑を分割する道や溝などの遺構も検出しなかったため、畑の単位を区画することが難しい。(PL.53)

畑の畝幅は20cmから45cmで、サク幅は20～30cmを計測し。畑の幅が計測できる地点で計った幅は、12.0mから21.0mと差が開いている。

畝・サクの方位は、調査区南西部付近でN-77°-E、北東部付近でN-72°-Eとあまり変わらない。(第129図-E 5 A下畑1、PL.63)

泥流下の畑からは瀬戸・美濃陶器皿(第129図-A下畑1、PL.63)、石造物宝塔(第129図-泥流中1、PL.63)が出土している。

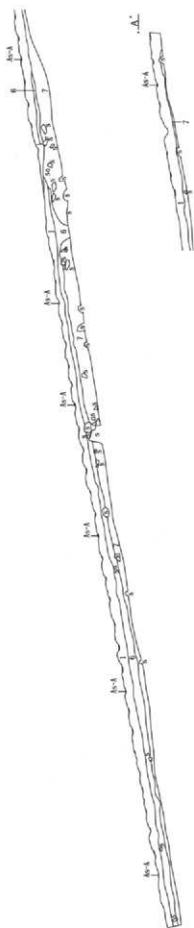


E 5区全景 北東から

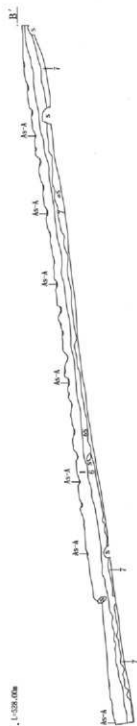


第97図 E5区全体図

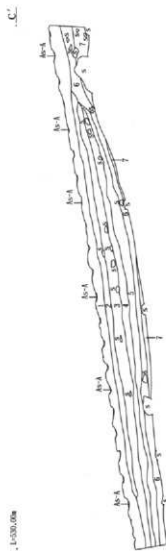
A. 1:333.0m



B. 1:338.0m



C. 1:330.0m



- A~C
 1 黒褐色土 白色粘土・小石を多く含む。
 2 黒褐色土 小石・砂粒を含む。
 3 に式、黒褐色土 黒子が細かくしまり、粘性が強い。
 4 に式、黒褐色土 黒色の山砂をわずかに含む。
 5 に式、黒褐色土 所々に黒褐色の山砂を含む。
 6 に式、黒褐色土 固くしまった土層、ロームに近い。
 7 ローム。



第388図 E5区A・B・C土層断面図

17 E7区1面の遺構(第99～112図、PL.54～57)

E7区1面は調査区の南東部が山に接しており、山の裾の縁が帯状に続いている。山の斜面と遺跡面の接点よりやや山寄りが掘削されて道が作られ、道の北西に接して石垣、更に溝が作られている。天明泥流下畑は、この溝の北西側に展開している。

1号道、1～3号墓、1～3号平坦面、天明泥流下の畑、石垣、ヤックラ、粘土採掘坑が検出された。

(1) 道

1号道(第104・105図、PL.56)

位置 グリッド名 47区Y-1～47区C-14

南に存在する山の裾に沿った形で、裾の下端部のやや上を削って作られており、隣接する1号溝と並走する。また、道の南側の斜面の一部には、後述する石垣が作られて道が崩落しないように保護している。

主軸方位 N-54°-E

規模 所々後世の攪乱によって失われている部分があり、山際の地形によって曲線の部分はあるが、直線的な長さは79mある。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 天明泥流で埋没。

(2) 溝

1号溝(第106～108図、PL.56)

位置 グリッド名 47区W-3～46区U-23

南に存在する山の裾に沿った形で作られており、隣接する1号道と並走する。

主軸方位 N-54°-E

規模 所々後世の攪乱によって失われている部分があり、山際の地形によって曲線の部分はあるが、直線的な長さは136.8mある。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 天明泥流で埋没。

(3) 墓

1号墓(第109図、PL.56・57)

位置 グリッド名 47区S-5

主軸方位 N-74°-E

重複 無し

規模 長径(1.03)m×短径(0.70)m×深さ0.05m

形状 隅丸方形か?

底面及び断面形状 検出面からの掘り込みは極めて浅い。

遺物出土状況 煙管、鉄釘、人骨(第129図E7-1墓1～7、PL.63)

備考 所属時期 天明泥流以前

2号墓(第106図、PL.57)

位置 グリッド名 47区R・S-5

主軸方位 N-67°-E

重複 2号粘土採掘坑が旧い

規模 長径0.91m×短径0.83m×深さ1.03m

形状 隅丸方形

底面及び断面形状 平底の底面から垂直に立ち上がる。底面には桶底と考えられる板材がわずかに残存している。

遺物出土状況 煙管、鉄釘、銅製革留具、人骨(第129図E7-2墓1、第130図E7-2墓2～6、PL.63・64)

備考 所属時期 天明泥流以降

3号墓(第109図、PL.57)

位置 グリッド名 47区R-12

主軸方位 N-48°-E

重複 無し

規模 長径0.137m×短径0.76m×深さ0.28m

形状 隅丸方形

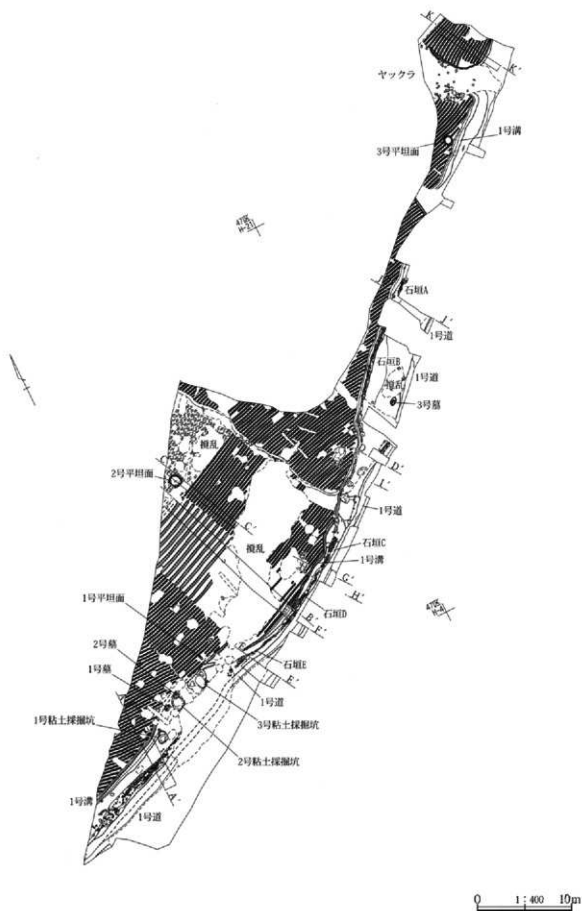
底面及び断面形状 平底の底面からわずかに開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況 人骨(頭骨・胴部の一部・足)。座棺と考えられ、足を曲げた状態で埋葬された状況が分かる。

備考 所属時期 天明泥流以前

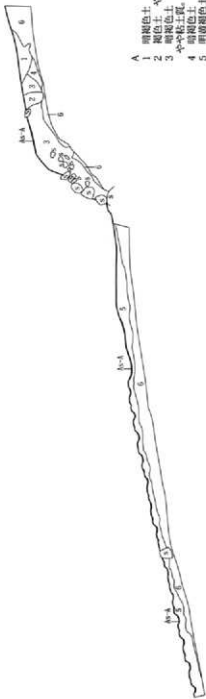
(4) 天明泥流下の畑

E7区は北東から南西に長く伸びる調査区で、東半は比較的細い調査区が続き北にE5区と接している。E5



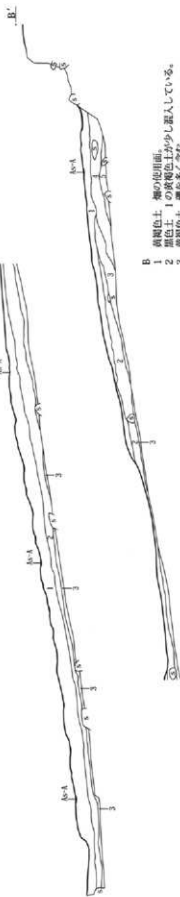
第99図 E7区1面全体図

A.



- A
- 1 暗褐色土、軽石等を少量含む。
 - 2 褐色土、やや多量の腐葉を含む。
 - 3 暗褐色土、腐葉を多く含む。石道の裏込めも含まれる。
 - 4 やや粘土質。
 - 5 暗褐色土、腐葉の碎屑土。
 - 6 明褐色土、粘質土、粘土採掘屑の土と同じ。

.B., 1:500.0m



- B
- 1 暗褐色土、海の塩漬面。
 - 2 暗褐色土、1の暗褐色土が少し混入している。
 - 3 暗褐色土、腐葉を多く含む。
 - 4 暗褐色土、2層より粘けがあり、3cm程度の腐葉を大量に含む。
 - 5 暗褐色土、1・3層より大層の腐葉を含む。

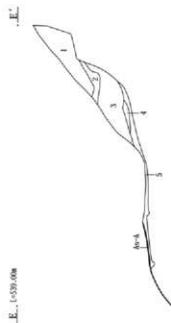
0 1:80 2m

第100図 E7区1面A・B土層断面図

.A., 1:500.0m



- C
- 1 黄褐色土 漆の使用面。
 - 2 黒色土
 - 3 黄褐色土 1層よりも漆を多く含む。



- D
- 1 灰土
 - 2 褐色土 1cm程度の漆を含む。漆の使用面。
 - 3 黄褐色土 大型の漆を含む。上面が平らなため、石版設置時の使用面と考えられる。
 - 4 褐色土 砂質で漆を大量に含む。
 - 5 黄褐色土 自然漆を含む。



- E
- 1 褐色土 褐色の珪石を少量含む。
 - 2 褐色土 褐色土のブロックが少量混入し、漆を含む。
 - 3 黄褐色土 褐色の漆を少量含む。
 - 4 黄褐色土 砂や漆を少量含む。
 - 5 天明風流



- F
- 1 灰土
 - 2 褐色土 大型の漆が混入している。
 - 3 天明風流
 - 4 細かい黄褐色土 漆を少量含む、粘性がある。



第101図 E7区1面C～F土層断面図

G, 1-539.00m

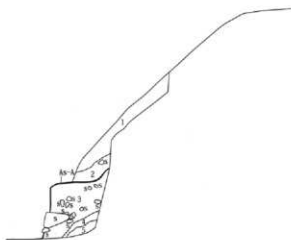
.G'



- G
1 表土1
2 表土2
3 天明泥流

H, 1-540.00m

.H'



- H
1 表土
2 天明泥流
3 As-A
4 暗褐色土 大型の礫を含む。石垣の嵩込めも含まれる。
5 黒色土 粘質で礫を大量を含む。

I, 1-537.00m

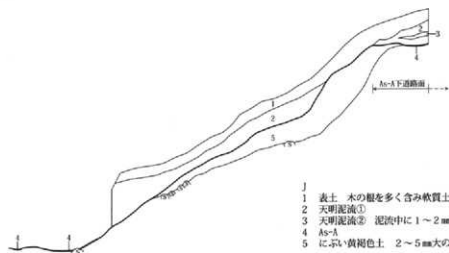
.I'



- I
1 明黄褐色土 道の使用面。As-Aを微量含む。
2 褐色土
3 砂質土 ブロック状に堆積している。
4 暗褐色土 石垣が組まれた時の使用面。

J, 1-537.00m

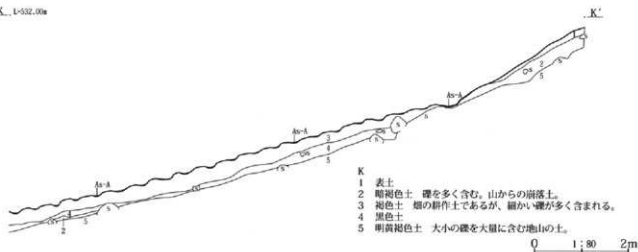
.J'



- J
1 表土 木の根を多く含む軟質土。
2 天明泥流①
3 天明泥流② 泥流中に1~2mm大の砂粒を大量に含む層。
4 As-A
5 濃い黄褐色土 2~5mm大の砂粒を多く含む、5cm前後の小石を少し含む。

0 1:80 2m

第102図 E7区1面G~J土層断面図



第103図 E7区1面K土層断面図

区と接する調査区中央部から三角形に面積が広がり、D3区②と北に接するため、前述の両区同様に天明泥流下の畑が検出された。

まず畝・サク端部の畑の分割線の状況を見ていきたい。

調査区北東端部の畑はすぐヤックラで分割されているが、ヤックラの西側にも直線的ではないが畝・サク端部が存在するため、ヤックラを挟んだ東西で畑面を分割したい。

ヤックラの東にある畑は、6.4mほど続いて調査区外になってしまう。

ヤックラの西の畑は、南西に存在する細い溝の手前で空白地帯があるが、これは攪乱なので溝までを1単位としたい。この溝は、北のE5区にも続くが途中で存在しなくなり、その代わりに畝・サク端部の分割線が存在する。従って、この溝で区画するのは間違いではないだろう。畑の幅は16.5mである。

溝の南東には最初の石垣付近に畝・サク端部の分割線が存在する。畑の幅は10.0mである。

分割線の南西にはしばらく畑面を区画するラインが存在しないが、E5区が無くなり調査区が北に広がった地点付近に1条存在する。畑の幅は33.8mである。

分割線より南西を見ると、次の畑の幅12.6mの地点で新たな分割線が見られる。この分割線を境に畝・サクの幅が異なった畑が存在する。畝サクの幅が異なる畑の幅は11.6mである。

更に南西に進むと分割線を境に畝・サクの幅が元に戻る。戻った畑の幅は10.3mである。この畑の西にある分

割線を最後に、E7区の天明泥流下畑の畑の分割は確認できなくなる。

畝・サクの幅を見ると、一部幅が広がった地点を除くとほぼ同一で、畝が30cm前後、サクが15～20cmである。幅が変わる地点は、畝が45～60cm、サクが40～50cmである。畝・サクの向きは、大部分でN-73°-E、調査区北西端部の畝の傾きが変わる地点で、N-88°-Eを計測する。

(5) 平坦面

平坦面は3基確認されている(第109図)。残存状態の違いはあるが、いずれも円形平坦面であると考えられる。

(6) 石垣

石垣は調査区南部に存在する斜面の、少し上がった所に存在する道を保護するために築かれている。

残存状態があまり良くなく、所々が後世の攪乱に寸断されているため、本来1列に連続しているはずの石垣が、5列に分割されている。

ここでは石垣A～石垣Eとして扱う。また平面・断面図に関しては、最も残存状態が良好であった石垣Bの一部を第108図に記載している。

石垣A

位置 グリッド名 47区C・D-16

主軸方位 N-46°-E

重複 無し

規模 長軸(8.0)m×高さ1.08m

形状

底面及び断面形状

遺物出土状況 無し。

備考 所属時期 天明泥流で埋没

石垣B(第110図、PL.56)

位置 グリッド名 47区E-14・15、F-13・14、G-12・13、H-11・12、I-9・10

主軸方位 N-39°-E

重複 無し

規模 長軸(28.4)m×高さ2.66m

形状 最下段に大型の礫を用い、上段には比較的小型の礫を積み上げている。

底面及び断面形状

遺物出土状況 無し。

備考 所属時期 天明泥流で埋没

石垣C

位置 グリッド名 47区J-8・9、K-7・8

主軸方位 N-40°-E

重複 無し

規模 長軸8.6m×高さ1.28m

形状

底面及び断面形状

遺物出土状況 無し。

備考 所属時期 天明泥流で埋没

石垣D

位置 グリッド名 47区K-7、L・M-6・7

主軸方位 N-58°-E

重複 無し

規模 長軸8.2m×高さ1.26m

形状

底面及び断面形状

遺物出土状況 無し。

備考 所属時期 天明泥流で埋没

石垣E

位置 グリッド名 47区M・N-6、O・P-5・6

主軸方位 N-68°-E

重複 無し

規模 長軸(49.2)m×高さ1.26m

形状

底面及び断面形状

遺物出土状況 無し。

備考 所属時期 天明泥流で埋没

(7) ヤックラ

天明泥流下で確認された。やや大型の礫及び小礫を集めているが、畑の畝・サクを破壊しているのではなく、サクの端部がヤックラを避けて存在していることから、天明泥流下の畑を耕作する際に既に存在していて石を移動しなかったか、耕作地を開墾する際に出た石を集めたものと推定される。

ヤックラ(第111図、PL.57)

位置 グリッド名 46区U・V-21・22、W-21～23、X-22～24

主軸方位 N-52°-W

重複 無し

規模 長軸14.5m×短軸4.0～7.8m

形状 不定形

底面及び断面形状 全面に礫が散乱し、北端と南端の一部にやや大型の礫が見られる。

遺物出土状況 無し。

備考 所属時期 天明泥流で埋没

(8) 粘土採掘坑

土坑は、E7区の南西端部付近に3基集中して作られている。土坑の底面にAs-Aが堆積し、天明泥流で埋没していることから天明三(1783)年には穴が開いていた。

1号粘土採掘坑(第112図)

位置 グリッド名 47区T-4

主軸方位 N-5°-E

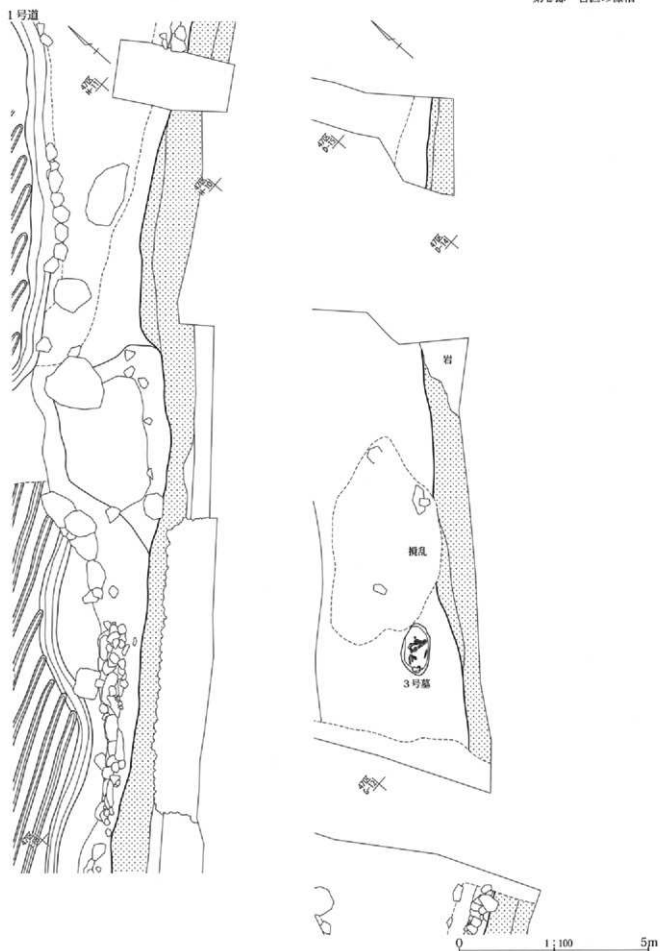
第3節 発見された道構と遺物

1号道

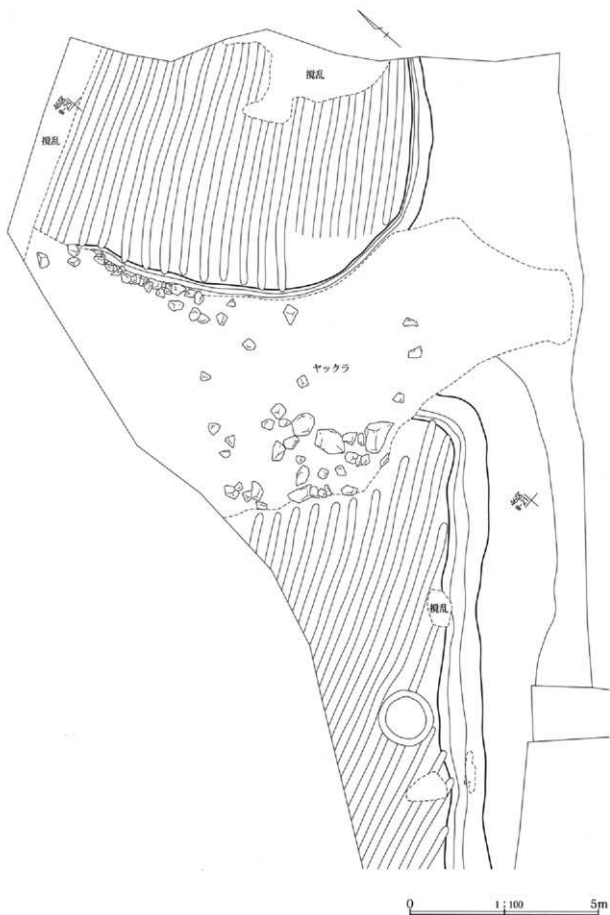


0 1:100 5m

第104図 E7区1面1号道(1)

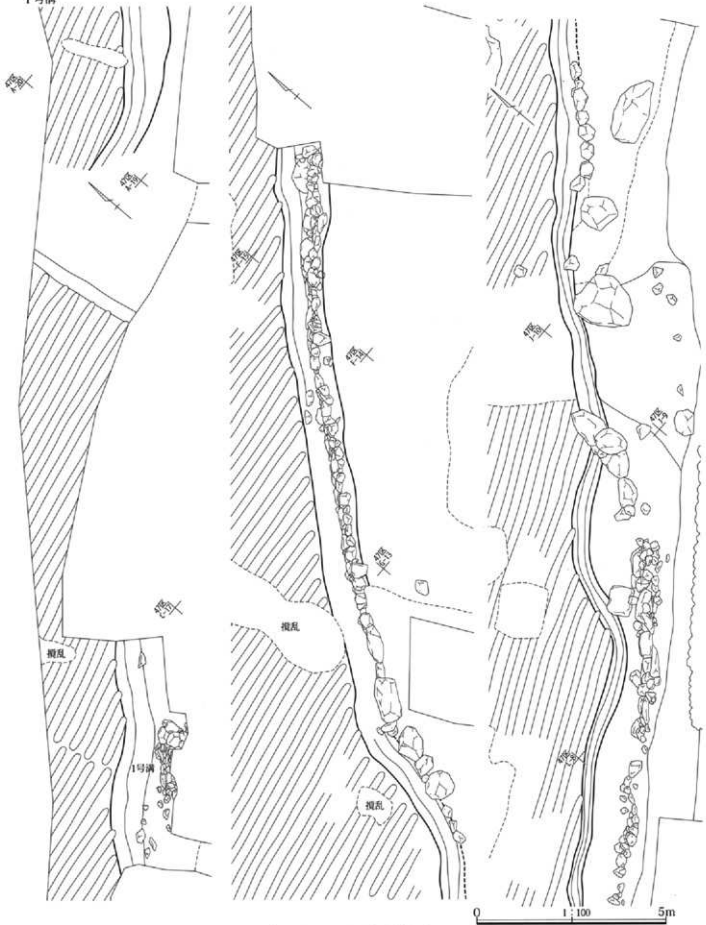


第105図 E7区1面1号道(2)



第106図 E7区1面1号溝(1)

1号溝



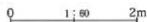
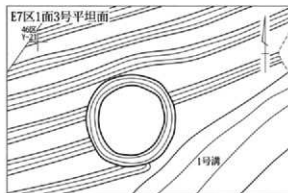
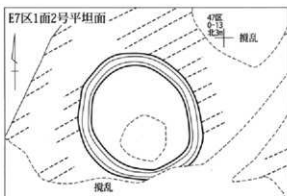
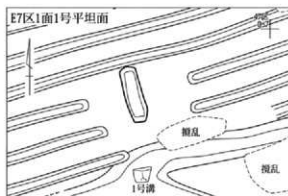
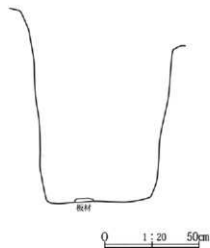
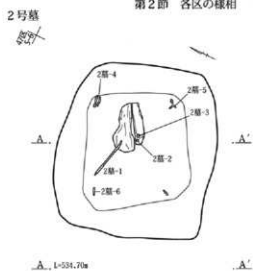
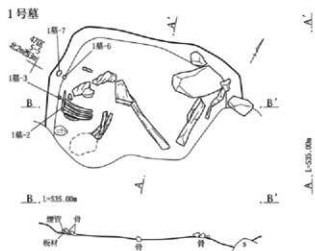
第107図 E7区1面1号溝(2)

第3節 発見された遺構と遺物

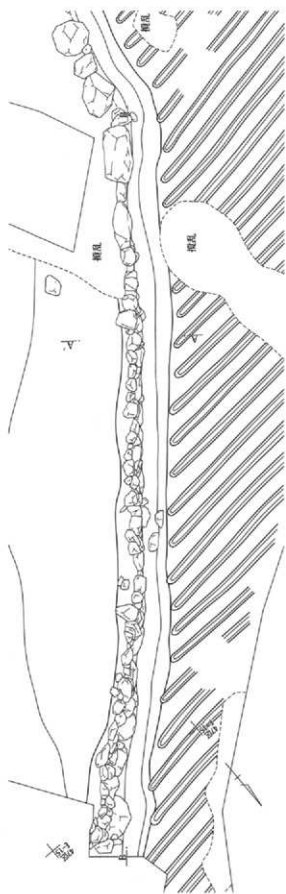
1号溝



第108図 E7区1面1号溝(3)



第109图 E7区1面1~3号墓、1~3号平坦面



A. 1/333.00m

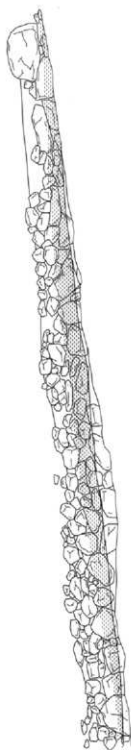
A'



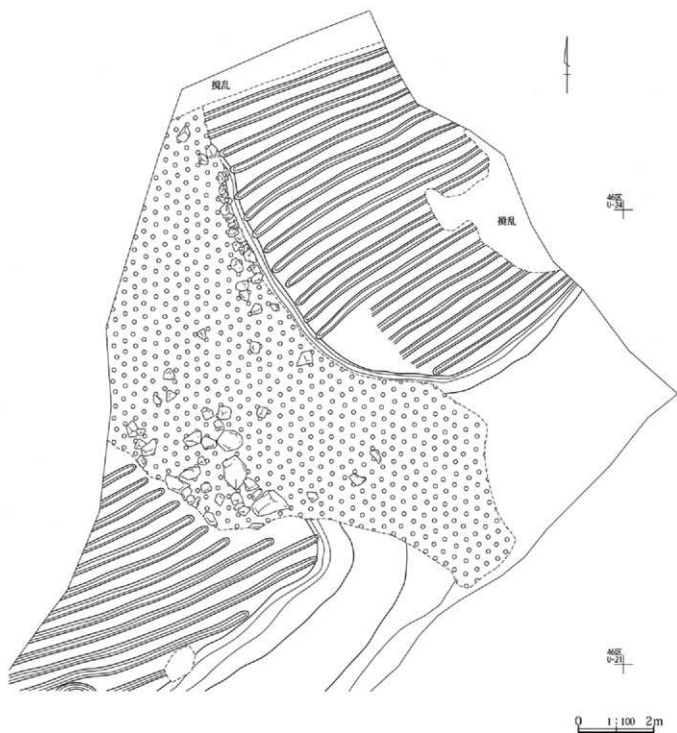
1 には、黄褐色土。2～5mmの小石と、5～10mmの石を多く含み、石組の裏込めである。

B. 1/333.00m

B'



第110図 E7区1面石垣B



第111図 E7区1面ヤックラ

第3節 発見された遺構と遺物

重複 無し

規模 長軸2.30m×短軸1.50m×深さ0.44m

形状 不定形

底面及び断面形状 底面にAs-Aが堆積している。平底気味の底面から緩やかに開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 天明泥流で埋没

2号粘土探掘坑(第112図)

位置 グリッド名 47区R・S-5

主軸方位 N-27°-W

重複 2号墓(2号粘土探掘坑が古い。)

規模 長軸2.40m×短軸1.95m×深さ0.14m

形状 楕円形

底面及び断面形状 底面にAs-Aの堆積している。平底気

味の底面から緩やかに開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 天明泥流で埋没

3号粘土探掘坑(第112図)

位置 グリッド名 47区Q・R-5・6

主軸方位 N-20°-W

重複 無し。

規模 長軸3.55m×短軸2.50m×深さ0.40m

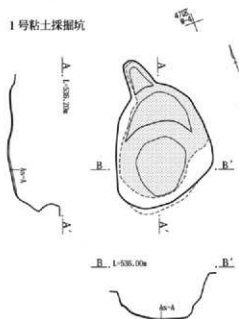
形状 不整形

底面及び断面形状 底面にAs-Aが堆積している。掘り方が浅いので確認しにくい。平底気味の底面から緩やかに開き気味に立ち上がる。

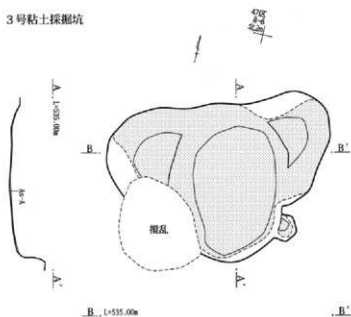
遺物出土状況 無し

備考 所属時期 天明泥流で埋没

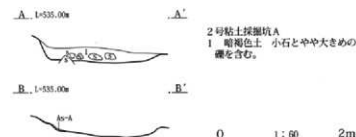
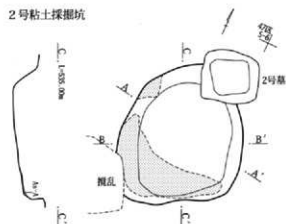
1号粘土探掘坑



3号粘土探掘坑



2号粘土探掘坑



2号粘土探掘坑A
1 暗褐色土 小石とやや大きめの礫を含む。



18 E7区2面の遺構(第113~115図、PL.57・58)

E7区2面では1~4号溝が調査された。いずれの溝も調査区の南壁に沿うように分布している。

(1)溝

2号溝(第114図、PL.57)

位置 グリッド名 47区U-2・3、V-2

主軸方位 N-55°-E

重複 無し

規模 全長(8.40)m×幅0.40m×深さ0.42m

底面及び断面形状 調査区を北東から南西に抜ける溝である。北側より南側の方が溝の幅が広い。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

3号溝(第114図、PL.57・58)

位置 グリッド名 47区U-2、V・M-1・2

主軸方位 N-73°-E

重複 4号溝が新しい

規模 全長11.2m×幅0.40m×深さ0.54m

底面及び断面形状 調査区を東西に延びる溝である。北半は4号溝により失われている。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

4号溝(第114・115図、PL.58)

位置 グリッド名 47区A-1、N-5

主軸方位 N-68°-E

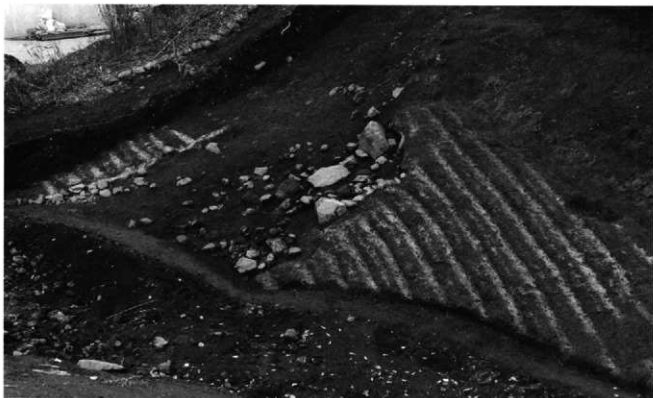
重複 3号溝が古い

規模 全長44.96m×幅0.68m×深さ0.19m

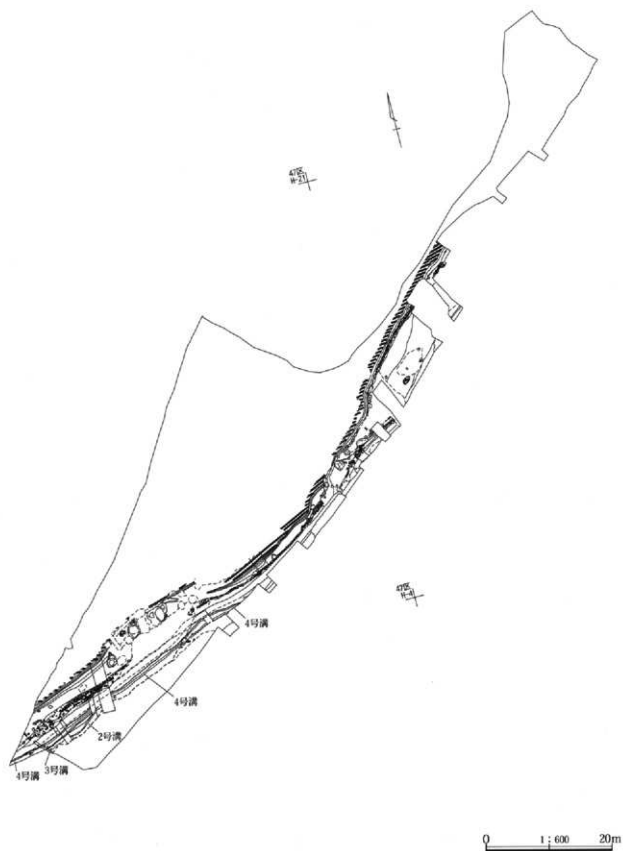
底面及び断面形状 調査区を東西に延びる溝である。3号溝と重複しており、3号溝を切る。溝の断面は北壁よりも南壁の方が広い。

遺物出土状況 無し

備考 所属時期 不明

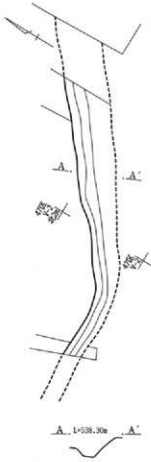


E7区泥流下畑とヤックラ(北西から)

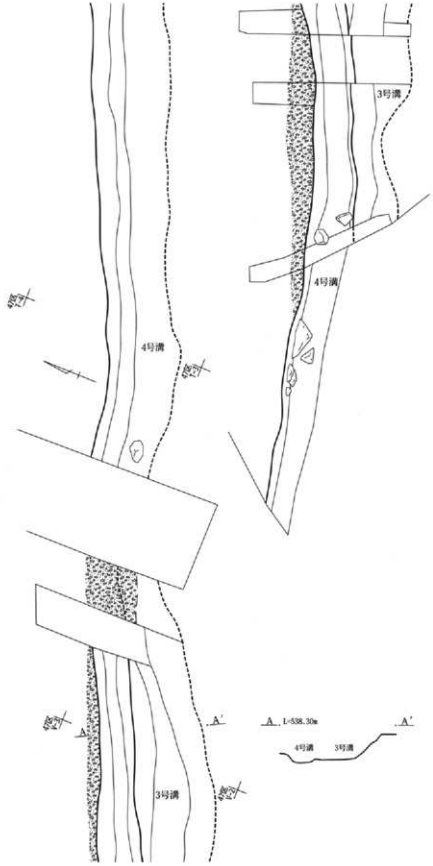


第113図 E7区2面全体図

2号溝



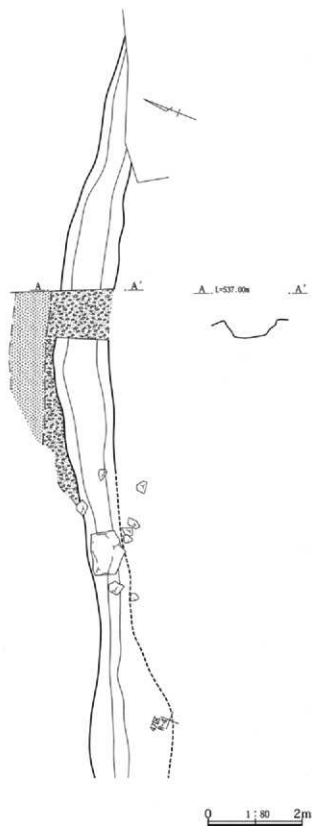
3・4号溝



第114図 E7区2面2~4号溝

第3節 発見された道構と遺物

4号溝



第115図 E7区2面4号溝

19 G区1面の遺構(第116～122図、PL.58・59)

G区は今回報告の下湯原遺跡調査区の中では北東端部に位置し、平成29年度に調査が行われた。

調査区の南西には、平成27年度調査の下湯原遺跡F区が続き、北西にはC2区及びC3区が近接する。(群馬県埋蔵文化財調査事業団『下湯原遺跡(1)』2018)

調査区の大部分は後世の擾乱を受けたが、天明泥流が堆積している範囲は、As-Aの下から畑が検出された。

G区の北西に吾妻川、南東に山の斜面が存在するため、地形は南東から北西に向かって傾斜している。そのため、畑地を作る際に土地の平坦化を行ったため、吾妻川の方角へ向かって階段状の高低差が認められる。

また、調査区を北半と南半に分けて調査が行われたが、北側調査区の南東端部で溝が1条検出された。

(1) 溝

溝は南北に分かれる調査区の北の区南端で検出された。調査区の南東壁に沿うように弧を描きながら西へ向かって掘削されており、深度も深いことから、畑に水を引くために掘削された水路であったと推定される。

1号溝(第119図、PL.59)

位置 グリッド名 83区D-5、E-4・5、F・G-3・4、H~K-3

主軸方位 N-70°-E

重複 無し

規模 全長28.00m×幅0.20m×深さ1.20m

底面及び断面形状 比較的細く丸底の底面から直ぐに横に広がり、垂直気味に立ち上がる。

遺物出土状況 近世陶磁器の破片が出土した。

備考 所属時期 天明泥流で埋没

(2) 天明泥流下の畑(第120～122図、PL.59)

G区調査区北半、東側の畑の耕作土には、山崩れの土砂が含まれており、山崩れが発生した後に畑を造成しなおした可能性が考えられる。また、水路も作られていることから、天明三年までに畑を造成する際に地形を、耕

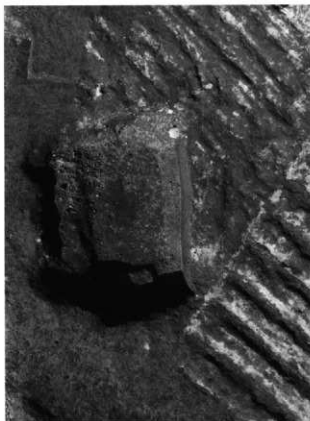
作に合わせて改変し、計画的な土地利用を行っていたことが分かる。

G区北半も南半も天明泥流下畑の畝・サク幅や方向について統一性を持っており、畝幅は0.20～0.35m、サク幅は0.20～0.25mで、耕作の方向はN-82°-Eである。

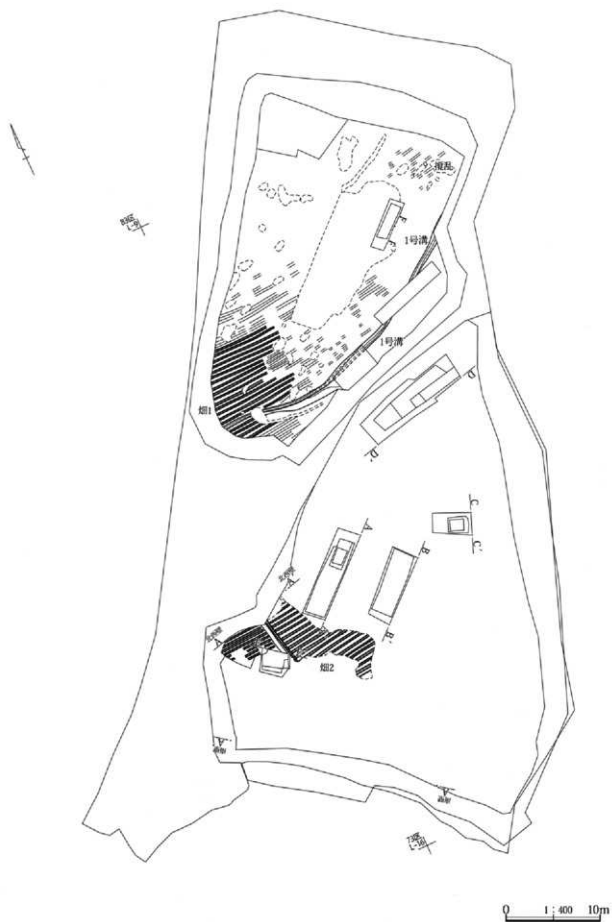
畑の幅は後世の擾乱によって寸断されているため、計測することができない。調査区南半に見られる溝状の区画が唯一畑の範囲を知る資料である。溝の両端はサクの端部が残っているため、ここが畑面の区画線であることが分かる。(第120図)

20 G区2・3面の遺構(第123～125図、PL.60・61)

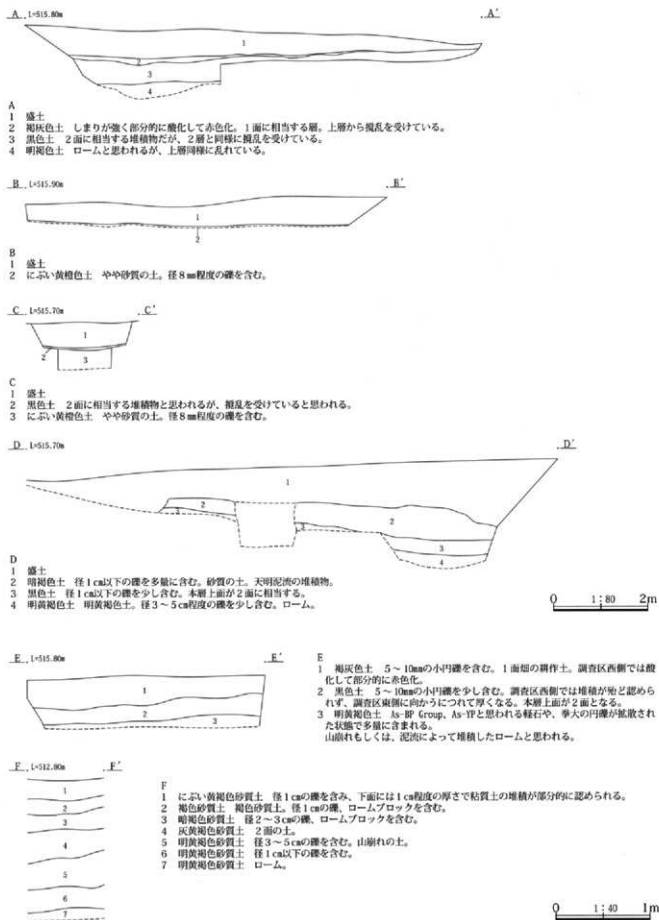
G区では1面の調査終了後トレンチを入れて、下面の遺構存在確認を行ったが、1面より下からは検出されなかった。



G区空撮 南から

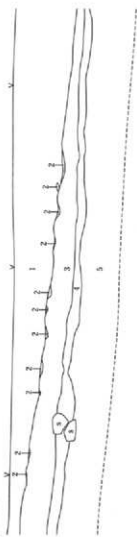


第116図 C区1面全体図

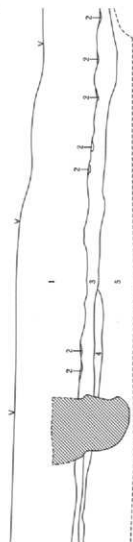


第117図 G区1面A~F土層断面図

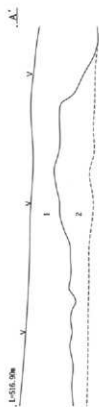
南壁 A、1-518.0m



南壁 A



北西壁 A、1-518.0m



北西壁 A
1 盛土
2 間層色土

10～20cm次の距角礫を多量に含む、天明紀炭堆積物。

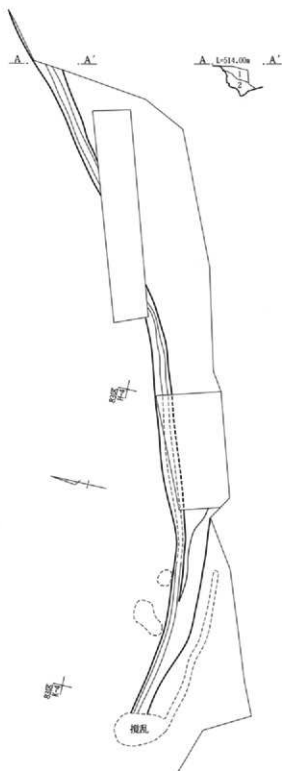
10～20cm次の距角礫を多量に含む天明紀炭堆積物。

- 1 間層色土
- 2 As-Aの純堆積層、礫の層間に埋積
- 3 間層色土、厚5～10cmの小円礫を含む、1面礫の断片を含む
- 4 間層色土、厚5～10cmの小円礫を少し含む、調査区西側では礫層が殆ど認められず、調査区東側に向かうにつれて厚くなる。本層上面が2層となる
- 5 明層層色土 As-B Group、As-Cと想われる軽石や、準粒度の円礫が散在した状態で多量に含まれる。山崩れ、もしくは泥流によって堆積したロームと思われる。



第118図 G区1面南壁A、北西壁A土層断面図

1号溝



1号溝 A

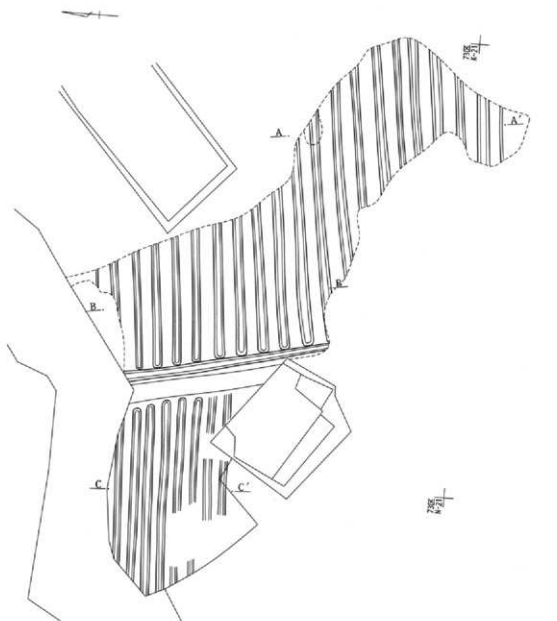
1 盛土

2 暗褐色土 天明泥濁堆積物。本層下面にAs-Aの堆積が認められる。

0 1:150 5m

第119図 G区1面1号溝

第3節 発見された道構と遺物



A. 1:516.50m

B. 1:515.90m

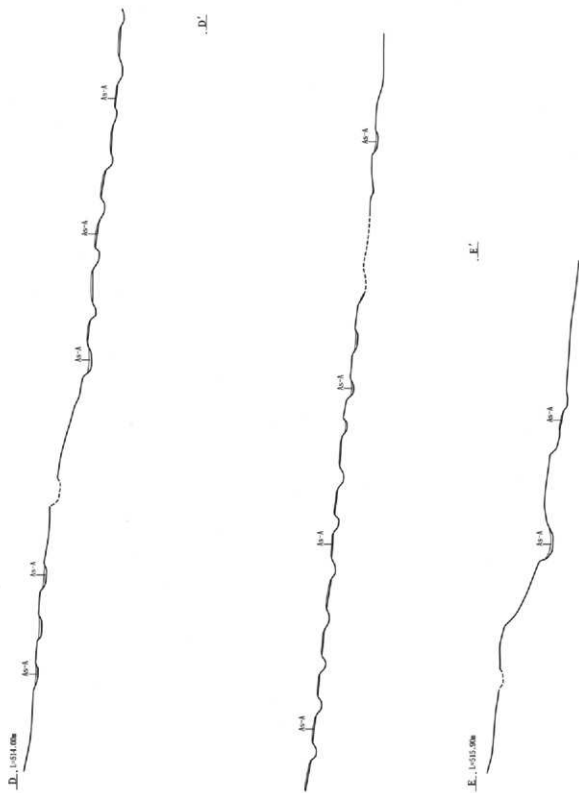
C. 1:515.70m



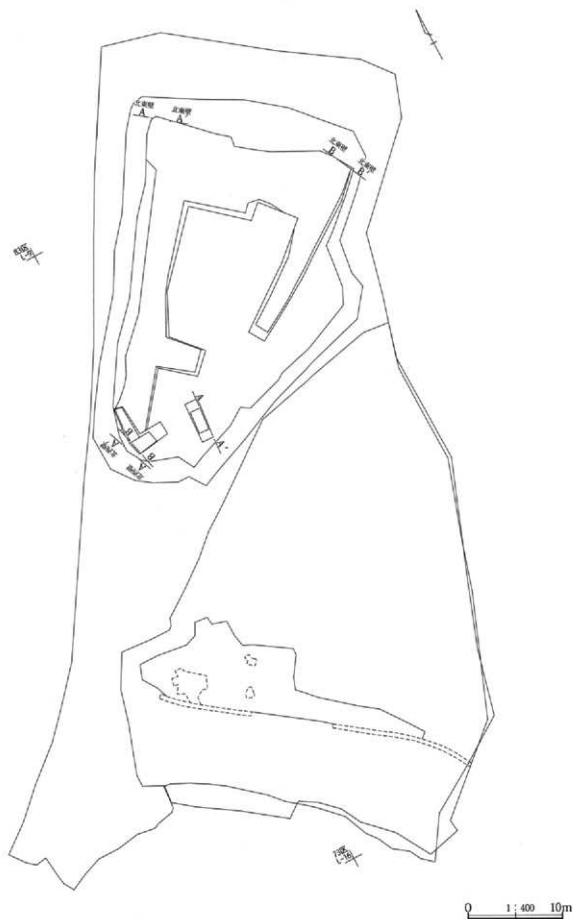
第120図 C区1面知1



第121図 G区1面増2



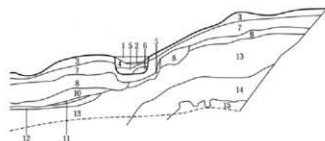
第122図 G区I面灰土層断面図



第123図 G区2面全体図

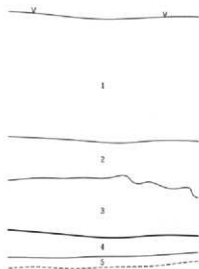
第3節 発見された遺構と遺物

A, 1-513.90m



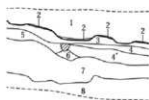
- A
- 1 暗褐色土 径10～20cm大の亜角礫を多量に含む。天明泥流堆積物。
 - 2 As-Aの純堆積層。畑の畝間に堆積している。
 - 3 灰褐色土 砂礫の混じり。斑鉄が含まれる。耕作土。
 - 4 にぶい黄褐色土 やや礫りのある土。
 - 5 灰黄褐色土 シルト質に礫砂を含む。帯水堆積土。
 - 6 明黄褐色砂礫層 流出土砂。
 - 7 にぶい黄褐色土 4層に似る。帯水堆積土。
 - 8 にぶい黄褐色土 7層より砂多い。砂礫土。
 - 9 明黄褐色砂礫層 流出土砂。
 - 10 灰黄褐色土
 - 11 炭化物層 黒色部分が上部に1cmほど残り、下部は灰白灰質。
 - 12 黒褐色土 粘性・締りあり。
 - 13 灰黄褐色土 小礫混じる。
 - 14 暗褐色土 小礫混じる砂礫土。

北東壁
A, 1-513.80m



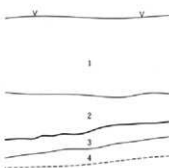
- 北東壁A
- 1 盛土
 - 2 盛土(天明泥流が混入)
 - 3 暗褐色土 径10～20cm大の亜角礫を多量に含む。天明泥流堆積物。
 - 4 灰黄褐色砂質土 径8mm程度の礫、黄褐色～にぶい黄褐色の粒子を多く含む。
 - 5 明黄褐色土 やや砂質。黄褐色細粒を含む。

B, 1-513.90m



- B
- 1 暗褐色土 径10～20cm程度の大きさの亜角礫を多量に含む。天明泥流堆積物。
 - 2 As-Aの純堆積層。畑の畝間に堆積している。
 - 3 灰褐色土 砂礫の混じり。斑鉄が含まれる。耕作土。
 - 4 にぶい黄褐色土 砂礫が混じる。As-A下畑の耕作土の基層。
 - 4' にぶい黄褐色土 5層の境層土。やや黄色い。
 - 5 明黄褐色砂礫層 流出土砂。
 - 6 灰黄褐色砂質土 7層より小礫少なく、黄褐色シルトブロックを含む。
 - 7 灰黄褐色砂質土 小礫混じり。粘性弱く、やや砂質。砂礫土。
 - 8 明黄褐色砂礫層 やや砂質。黄褐色細粒を含む。

北東壁
B, 1-514.90m



- 北東壁B
- 1 盛土
 - 2 暗褐色土 径10～20cm程度の大きさの亜角礫を多量に含む。天明泥流堆積物。
 - 3 灰黄褐色砂質土 径8mm程度の礫、黄褐色～にぶい黄褐色の粒子を多く含む。
 - 4 黒褐色砂質土 径8mm程度の礫、黄褐色～にぶい黄褐色の粒子を多く含む。

0 1:40 1m

第124図 G区2面A・B、北東壁A・B土層断面図

北西壁
A, L-516.60m北西壁
A

1



2



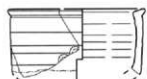
北西壁A

- 1 盛土
2 暗褐色土: 10~20cm大の歪角礫を多量に含む。天明泥流堆積物。
3 As-Aの純堆積層。畑の畝間に堆積している。

0 1:40 1m

第125図 G区3面北西壁A土層断面図

第3節 発見された遺構と遺物



D 1区2面1



D 2区トレ1 (1/2)



D 2区トレ2 (1/2)



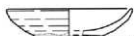
D 2区A下層1



D 2区A下層2 (1/4)



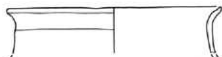
D 2区A下層3 (1/4)



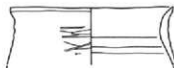
D 2区2面3号溝1



D 2区2面遺物集中1



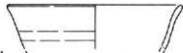
D 2区2面遺物集中2



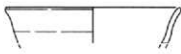
D 2区2面遺物集中3



D 2区2面遺物集中4



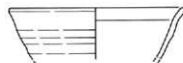
D 2区2面遺物集中5



D 2区2面遺物集中6



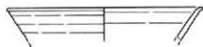
D 2区2面遺物集中8



D 2区2面遺物集中9



D 2区2面遺物集中7



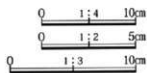
D 2区2面遺物集中10



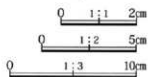
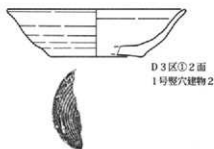
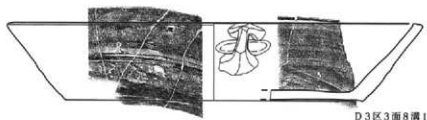
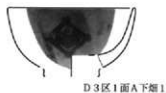
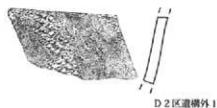
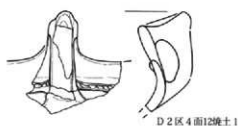
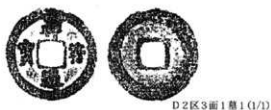
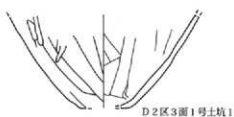
D 2区2面遺物集中11



D 2区2面遺物集中12

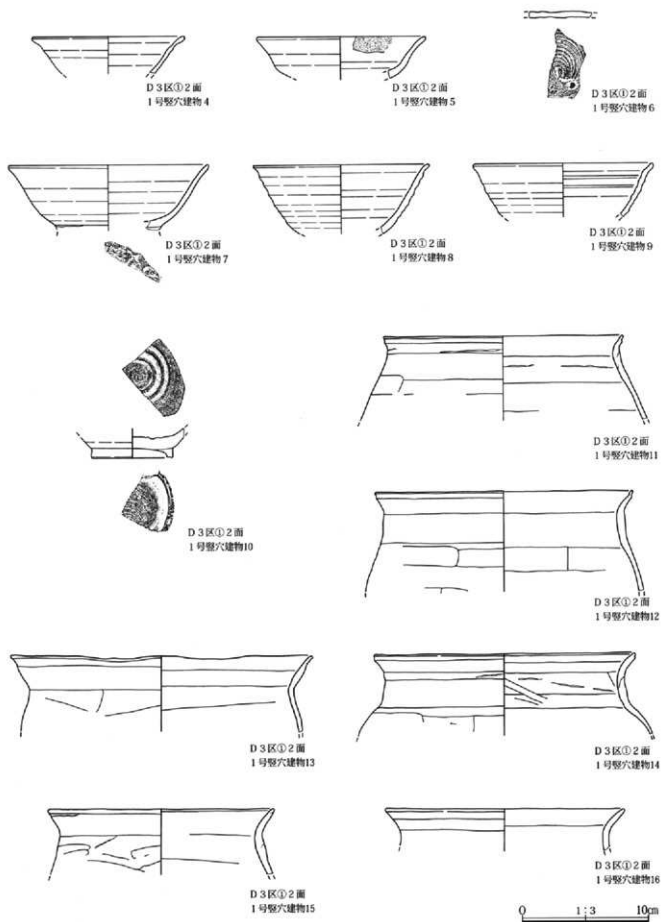


第126図 D 1・2区出土遺物



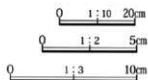
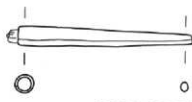
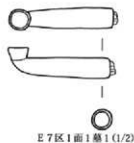
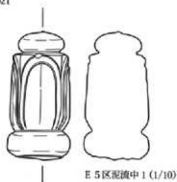
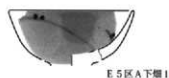
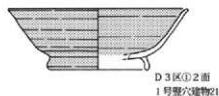
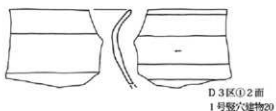
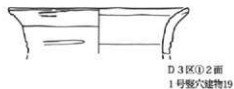
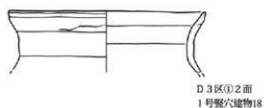
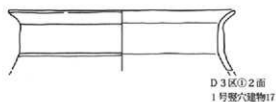
第127図 D 2・3区・3区①出土遺物

第3節 発見された遺構と遺物



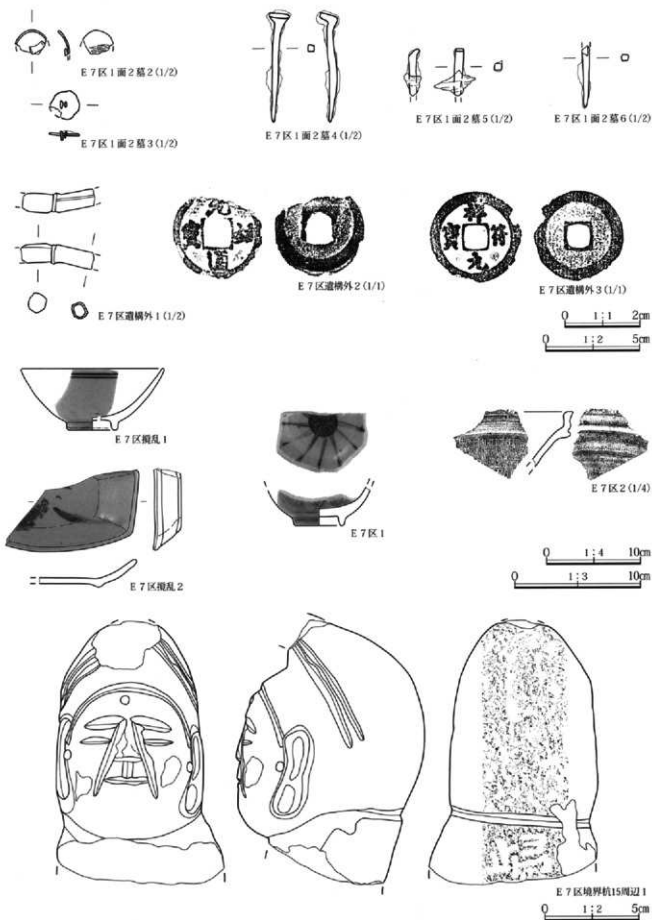
第128図 D 3区②出土遺物

第2節 各区の様相

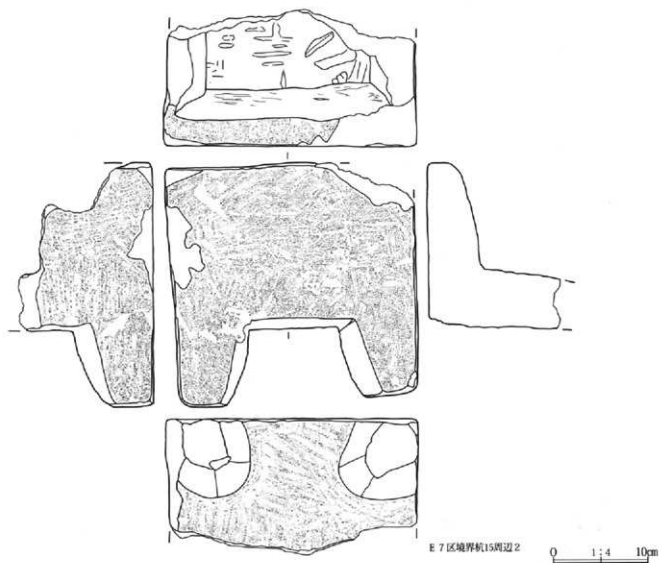


第129図 D 3区①、E 5・7区出土遺物

第3節 発見された遺構と遺物



第130図 E 7区出土遺物



第131図 E 7区出土遺物

第3表 土坑一覽

調査区	遺構	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	位置(グリッド)	形状	重複遺構等
D1区2面	1号土坑	0.54	0.50	0.23	N-25°-W	34-57-H-8	楕円形	
	2号土坑	1.56	1.15	0.29	N-75°-E	34-57-G-8	不整形	3号土坑・1号集石
	3号土坑	1.70	—	0.29	N-63°-E	34-57-F-G-8	不整形	2・4・7・8号土坑、1号集石
	4号土坑	1.66	—	0.39	N-70°-E	34-57-F-8、G-7・8	不整形	3・5・7・8号土坑、2号集石
	5号土坑	1.48	—	0.42	N-67°-E	34-57-F-7・8、G-7	不整形	4・6・9・7・8・9号土坑、2号集石
	6号土坑	—	0.88	0.41	N-25°-W	34-57-F-7	不整形	5・9・7・8号土坑、2号集石
	7号土坑	4.20	0.80	0.82	N-18°-W	34-57-F・G-7・8	隅丸長方形	3・4・5・6・8・9号土坑、2号集石
	8号土坑	2.96	0.62	0.92	N-13°-W	34-57-F-7・8、G-8	隅丸長方形	3・4・5・6・7・9号土坑、2号集石
	9号土坑	(0.94)	0.54	0.98	N-13°-W	34-57-F-7	隅丸長方形	5・6・7・8号土坑、2号集石
D1区3面	10号土坑	1.96	1.02	0.49	N-16°-W	34-57-F-10	隅丸長方形	
	11号土坑	3.40	0.52	0.64	N-18°-W	34-57-G-7・8	隅丸長方形	
	12号土坑	1.40	0.80	0.11	N-31°-W	34-57-H-8	不整形	
	13号土坑	1.80	0.80	0.20	N-18°-W	34-57-H-7	隅丸長方形	
	14号土坑	1.54	0.48	0.44	N-15°-W	34-57-H-1・7	隅丸長方形	15号土坑
	15号土坑	3.06	1.18	0.44	N-15°-W	34-57-H-1・6・7	隅丸長方形	14号土坑
	16号土坑	4.88	—	0.79	N-13°-W	34-57-I・J-6・7	隅丸長方形	17・58・99号土坑
	17号土坑	4.08	—	0.99	N-13°-W	34-57-I-6・7	隅丸長方形	16・33・99号土坑
	18号土坑	1.32	0.62	0.11	N-81°-E	34-57-J-7	不整形	
	19号土坑	3.63	0.66	0.63	N-75°-E	34-57-J-K-7	隅丸長方形	20号土坑
	20号土坑	2.00	(0.28)	0.24	N-75°-E	34-57-J-K-7	不整形	19号土坑
	21号土坑	1.00	0.80	0.12	N-61°-W	34-57-I-5	楕円形	
	22号土坑	1.10	1.02	0.41	N-41°-W	34-57-I-5	楕円形	
	23号土坑	0.66	0.62	0.13	N-45°-E	34-57-I・J-5	楕円形	
	24号土坑	1.96	1.04	0.34	N-15°-W	34-57-H-4	隅丸長方形	
	25号土坑	1.26	(0.60)	0.11	N-11°-W	34-57-J-5	楕円形	28号土坑、1号ビット
	26号土坑	2.56	0.57	0.19	N-18°-W	34-57-J-6・7	不整形	38号土坑
	27号土坑	0.67	0.60	0.35	N-61°-W	34-57-H-1・5	楕円形	
	28号土坑	2.68	0.38	0.17	N-11°-W	34-57-J-5・6	隅丸長方形	25号土坑、1号ビット
	29号土坑	0.68	0.63	0.09	N-43°-E	34-57-I・J-8	楕円形	
	30号土坑	1.72	0.48	0.58	N-9°-W	34-57-K-6	隅丸長方形	
	31号土坑	0.60	0.58	0.16	N-44°-W	34-57-I-6	楕円形	
	32号土坑	1.92	0.47	0.55	N-15°-W	34-57-K-7	隅丸長方形	
	33号土坑	1.26	—	—	N-71°-E	34-57-I-6	不整形	59号土坑
	34号土坑	2.70	2.10	0.51	N-66°-E	34-57-J-3	隅丸長方形	
	35号土坑	(1.84)	0.48	0.48	N-14°-W	34-57-J-3・4	隅丸長方形	36号土坑
	36号土坑	(1.90)	0.44	0.57	N-14°-W	34-57-J-4	隅丸長方形	35号土坑
	37号土坑	(1.54)	0.44	0.26	N-20°-W	34-57-K-1・2	隅丸長方形	
	38号土坑	1.26	0.44	0.20	N-6°-W	34-57-J-6	隅丸長方形	26号土坑
	39号土坑	1.56	0.60	0.39	N-23°-W	34-57-I-2	不整形	
	40号土坑	2.20	0.78	0.66	N-55°-W	34-57-K-3	不整形	
	41号土坑	欠番						1号墓に変更
	42号土坑	欠番						1号墓に変更
	43号土坑	欠番						2号墓に変更
44号土坑	0.66	0.60	0.14	N-52°-E	34-57-K-4	楕円形		
45号土坑	(1.48)	0.40	0.13	N-20°-W	34-57-K-2	隅丸長方形		
46号土坑	0.58	0.46	0.11	N-40°-E	34-57-N-5	楕円形		
47号土坑	欠番							
48号土坑	1.85	0.30	0.13	N-50°-W	34-47-O-24	不整形		
49号土坑	2.32	0.42	0.10	N-26°-W	34-47-P-25 34-57-P-1	隅丸長方形		
50号土坑	3.26	0.54	0.82	N-19°-W	34-57-K-L-6・7	隅丸長方形		
51号土坑	2.18	0.40	0.29	N-17°-W	34-57-K-7	隅丸長方形	52・53号土坑	
52号土坑	(1.06)	(0.20)	0.19	N-17°-W	34-57-K-7	不整形	51号土坑	
53号土坑	1.03	1.00	0.39	N-17°-W	34-57-K-7	不整形	51号土坑	
54号土坑	6.18	0.60	0.80	N-25°-W	34-57-N-O-3・4	隅丸長方形		
55号土坑	(6.70)	0.62	0.61	N-24°-W	34-57-M-1・3	隅丸長方形	56号土坑	
56号土坑	(5.00)	0.50	0.53	N-24°-W	34-57-N-3・4、M-3	隅丸長方形	55号土坑	
57号土坑	2.10	0.60	0.25	N-24°-W	34-57-L-1	隅丸長方形		
58号土坑	0.80	0.46	0.18	N-10°-E	34-57-J-7	楕円形	17号土坑	
59号土坑	—	0.86	0.23	N-18°-W	34-57-I-6・7	隅丸長方形	16・17・33号土坑	
60号土坑	(1.20)	0.62	0.63	N-14°-W	34-57-L-7・8	隅丸長方形		
61号土坑	0.68	0.38	0.12	N-19°-W	34-57-J-K-7	隅丸長方形		
62号土坑	0.58	0.57	0.14	N-46°-W	34-57-K-1	楕円形		

調査区	遺構	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	位置(グリッド)	形状	重復遺構等	
02区3面	1号土坑	0.87	0.75	0.19	N-65°-W	34-48-B-24	楕円形		
	2号土坑	(0.58)	0.48	0.15	N-53°-W	34-48-N-0-20	楕円形		
	3号土坑	0.72	0.63	0.11	N-60°-W	34-47-0-20	楕円形		
	4号土坑							2号獨立P4	
	5号土坑	0.46	0.44	0.20	N-6°-W	34-47-0-20	楕円形		
	6号土坑	0.80	0.70	0.13	N-34°-W	34-47-0-20	楕円形		
	7号土坑	0.60	0.50	0.22	N-21°-W	34-47-0-20	楕円形		
	8号土坑	2.20	1.60	0.40	N-48°-W	34-47-0-19、0-P20	不整形		
	9号土坑							2号獨立P1	
	10号土坑	2.24	0.34	0.71	N-25°-W	34-47-Q-19-20	隅丸長方形		
	11号土坑							2号獨立P5	
	12号土坑	2.17	1.25	1.02	N-49°-E	34-47-P-24-25	不整形		
	13号土坑	3.54	0.40	0.37	N-35°-W	34-47-R・S-25 34-57-S-1	隅丸長方形		
	14号土坑	1.46	0.40	0.17	N-33°-W	34-57-S-1	隅丸長方形		
	15号土坑	0.53	0.46	0.06	N-48°-W	24-47-T-24	不整形		
	16号土坑							2号獨立P2	
	17号土坑	欠番							
	18号土坑							2号獨立P3	
02区4面	17号土坑	1.07	0.12	0.35	N-45°-E	34-47-Q-18	楕円形		
	19号土坑	0.82	0.72	0.28	N-60°-W	34-47-R-18-19	楕円形		
	20号土坑	2.22	0.60	0.46	N-36°-E	34-47-0-19-20	隅丸長方形		
	21号土坑	1.56	0.86	0.21	N-60°-E	34-47-R-S-19	隅丸長方形		
03区2面	1号土坑	2.86	0.58	0.48	N-57°-E	34-56-X-Y-13	隅丸長方形		
	2号土坑	3.06	0.46	0.40	N-37°-W	34-56-W-X-13	隅丸長方形		
	3号土坑	6.14	0.48	0.77	N-28°-W	34-56-Y-11・12、 W-12・13	隅丸長方形		
03区3面	4号土坑	0.88	0.42	0.16	N-69°-E	34-56-X-13	不整形		
	5号土坑	0.62	0.56	0.12	N-35°-W	34-57-B-9	楕円形		
	6号土坑	0.48	0.40	0.10	N-46°-E	34-57-B-10	楕円形		
	7号土坑	0.62	0.58	0.17	N-27°-E	34-57-C-11	楕円形		
	8号土坑	0.80	0.78	0.17	N-39°-E	34-56-W-X-17	楕円形		
	9号土坑	3.06	0.56	0.51	N-2°-W	34-56-T-19-20	隅丸長方形		
	1号土坑	1.54	1.48	0.31	N-55°-W	34-48-E-23	楕円形		
	2号土坑	1.76	1.16	0.76	N-50°-W	34-48-G-18	不整形		
03区12面	3号土坑							2号土坑と同一	
	4号土坑	0.90	0.75	0.26	N-30°-W	34-48-C-24・25	不整形		
	5号土坑	1.78	1.45	0.60	N-52°-W	34-48-B-19、20	不整形		
	6号土坑	1.06	0.58	0.22	N-78°-E	34-48-C-B-20	不整形		
	7号土坑	1.00	0.76	0.27	N-6°-W	34-48-C-20	不整形		
	8号土坑	1.24	0.93	0.42	N-50°-W	34-48-I-22	不整形		
	9号土坑	2.36	2.10	0.46	N-50°-W	34-48-B-23・24	隅丸長方形		
	10号土坑	0.90	0.58	0.24	N-13°-W	34-48-J-17・18	隅丸長方形		
	11号土坑	1.65	1.48	0.42	N-27°-W	34-48-B-22	隅丸長方形	12号土坑、17号ビット	
	12号土坑	2.12	0.54	0.19	N-17°-W	34-48-B-21・22	隅丸長方形	11号土坑、16・17号ビット	
	13号土坑	欠番							
	14号土坑	1.38	1.05	0.41	N-53°-W	34-48-C-11・12	楕円形		
	15号土坑	2.64	1.33	0.37	N-85°-E	34-48-A-15、B-14・15	不整形		
	16号土坑	1.15	0.97	0.22	N-6°-W	34-48-B-C-14・15	楕円形		
	03区22面	18号土坑	5.64	1.14	0.47	N-23°-W	34-47-Y-18-19	隅丸長方形	
		23号土坑	1.38	0.76	0.48	N-30°-E	34-47-J-K-24	楕円形	
		24号土坑	0.96	0.60	0.79	N-80°-W	34-47-J-23	楕円形	
25号土坑		0.84	0.46	0.18	N-40°-E	34-47-M-19	不整形		
26号土坑		1.37	0.70	0.38	N-22°-W	34-47-Q-15	隅丸長方形		
27号土坑		0.55	0.32	0.15	N-65°-W	34-47-R-14	不整形		
28号土坑		0.70	0.50	0.26	N-15°-W	34-47-P-14	不整形		
29号土坑		欠番							
30号土坑		1.28	0.50	0.38	N-33°-W	34-47-Q-16	不整形		
31号土坑		0.54	0.46	0.18	N-83°-W	34-47-P-14	楕円形		
32号土坑		1.24	1.02	0.66	N-51°-W	34-47-S-12・13	楕円形		
38号土坑		0.75	0.50	0.16	N-3°-W	34-57-F-G-5	楕円形	45号ビット	
39号土坑		1.00	0.68	0.21	N-21°-W	34-57-F-2	楕円形	40号土坑	
40号土坑		0.90	(0.60)	0.14	N-21°-W	34-57-F-2	楕円形	39号土坑	
41号土坑		0.68	0.61	0.24	N-32°-W	34-57°-E-F-3	楕円形		
42号土坑		0.94	0.86	0.15	N-48°-W	34-57-F-4	不整形		
43号土坑		0.52	0.50	0.19	N-29°-W	34-57-F-4	楕円形		
44号土坑	1.20	0.74	0.19	N-10°-W	34-57-E-5	楕円形			
45号土坑	1.35	0.86	0.22	N-18°-E	34-57-B-3	楕円形	7号溝		

調査区	遺構	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方位	位置(グリッド)	形状	重複遺構等
D3区(2)3面	19号土坑	2.15	1.45	0.45	N-23°-W	34-47-V-F-16-17	不整形	20号土坑、7号溝
	20号土坑							19号土坑
	21号土坑	0.78	0.75	0.33	N-34°-W	34-47-F-20	不整形	
	22号土坑	1.70	1.54	0.40	N-19°-W	34-47-F-19	不整形	
	33号土坑	0.96	0.66	0.42	N-32°-E	34-47-Q-14	楕円形	7号礎土
	34号土坑	0.87	(0.27)	0.19	N-45°-E	34-47-Q-14	不整形	37号土坑、7号礎土
	35号土坑	1.20	0.68	0.15	N-2°-E	34-47-N-17-18	不整形	
	36号土坑	0.52	0.50	0.34	N-26°-E	34-47-N-17	楕円形	
37号土坑	0.72	(0.80)	0.25	N-45°-E	34-47-Q-14	楕円形	34号土坑、7号礎土	

第4表 ビット一覧

調査区	遺構	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	主軸方位	位置(グリッド)	形状	重複遺構等
D1区3面	1号ビット	0.32	0.26	0.21	N-80°-E	34-57-J-5	楕円形	
	1号ビット	0.34	0.28	0.45	N-84°-W	34-47-P-19	楕円形	
D2区3面	2号ビット	0.23	0.23	0.49	N-0°	34-47-P-19	円形	
	3号ビット	0.42	0.40	0.44	N-51°-E	34-47-P-20	楕円形	
	4号ビット	0.55	0.47	0.24	N-54°-E	34-47-P-24	楕円形	
	5号ビット	0.34	0.32	0.35	N-3°-W	34-47-Q-24	楕円形	
	6号ビット	0.30	0.22	0.34	N-33°-W	34-47-R-23-24	楕円形	
	7号ビット	0.34	0.28	0.13	N-23°-W	34-47-R-23	楕円形	
	8号ビット	0.46	0.30	0.36	N-27°-W	34-47-R-23	楕円形	
	9号ビット	0.38	0.29	0.26	N-19°-W	34-47-T-22	楕円形	
	10号ビット	0.35	0.28	0.46	N-32°-W	34-47-S-25	楕円形	
	11号ビット	0.22	0.17	0.16	N-50°-W	34-47-T-23	楕円形	
	12号ビット	0.30	0.27	0.16	N-28°-W	34-47-R-17	楕円形	
	13号ビット	0.26	0.24	0.16	N-44°-E	34-47-R-17	楕円形	
	14号ビット	0.38	0.34	0.37	N-78°-W	34-47-R-17	楕円形	
	15号ビット	0.32	0.28	0.34	N-50°-W	34-47-W-25	楕円形	
	16号ビット	0.41	0.34	0.13	N-60°-E	34-47-W-25	楕円形	
	17号ビット	0.37	0.34	0.34	N-15°-W	34-57-W-1	楕円形	
	18号ビット	0.34	0.28	0.13	N-75°-W	34-47-O-P-23	楕円形	
	19号ビット	0.35	0.32	0.09	N-79°-W	34-47-P-22-23	楕円形	
	20号ビット	0.38	0.36	0.11	N-11°-W	34-47-P-22	楕円形	
	21号ビット	0.28	0.27	0.31	N-68°-W	34-47-Q-24	楕円形	
	22号ビット	0.37	0.27	0.29	N-78°-E	34-47-O-21	楕円形	
	23号ビット	0.34	0.30	0.35	N-78°-E	34-47-O-W-21	楕円形	
	24号ビット	0.48	0.45	0.17	N-11°-W	34-47-N-21	楕円形	
	25号ビット	0.28	0.25	0.23	N-69°-W	34-47-Q-20	楕円形	
	26号ビット	0.27	0.26	0.13	N-4°-E	34-47-Q-20	楕円形	
	27号ビット	0.30	0.29	0.16	N-5°-E	34-47-Q-20	楕円形	
	28号ビット	0.36	0.24	0.39	N-22°-W	34-47-P-20	楕円形	2号掘立柱建物P-2
29号ビット	0.44	0.38	0.33	N-62°-E	34-47-P-20	楕円形		
30号ビット	0.47	0.48	0.30	N-28°-W	34-47-O-20	楕円形	7号土坑	
31号ビット	0.46	0.48	0.20	N-46°-W	34-47-O-20	楕円形		
32号ビット	0.51	0.45	0.28	N-46°-W	34-47-N-21	楕円形		
D2区4面	33号ビット	0.54	0.48	0.59	N-79°-E	34-47-S-19	楕円形	
	1号ビット	0.35	0.33	0.17	N-40°-W	34-57-C-8	楕円形	
D3区3面	2号ビット	0.42	0.38	0.08	N-37°-W	34-57-A-9-10	楕円形	
	3号ビット	0.42	0.38	0.09	N-45°-W	34-56-Y-11	楕円形	
	4号ビット	0.48	0.46	0.18	N-35°-W	34-56-X-10	楕円形	
	5号ビット	0.46	0.44	0.09	N-49°-W	34-56-X-11	楕円形	
	6号ビット	0.26	0.22	0.08	N-38°-W	34-56-U-20	楕円形	
	D4区(1)3面	1号ビット	0.40	0.38	0.52	N-50°-W	34-48-H-18	楕円形
2号ビット		0.48	0.34	0.47	N-50°-W	34-48-H-18	楕円形	
3号ビット		0.40	0.36	0.45	N-40°-W	34-48-C-18	楕円形	
4号ビット		0.30	0.28	0.07	N-24°-E	34-48-C-18	楕円形	
5号ビット		0.48	0.46	0.12	N-30°-W	34-48-H-18	楕円形	
6号ビット		0.40	0.26	0.40	N-53°-E	34-48-C-20	楕円形	隅丸長方形
7号ビット		0.32	0.30	0.41	N-57°-E	34-48-F-22	楕円形	
8号ビット		0.30	0.28	0.28	N-52°-W	34-48-F-22	楕円形	
9号ビット		0.38	0.32	0.28	N-51°-W	34-48-F-22-23	楕円形	
10号ビット		0.46	0.30	0.44	N-29°-E	34-48-C-22	楕円形	
11号ビット		0.38	0.36	0.30	N-12°-W	34-48-C-22	楕円形	
12号ビット		0.32	0.28	0.27	N-29°-W	34-48-C-23	楕円形	
13号ビット		0.36	0.34	0.36	N-20°-W	34-48-F-22	楕円形	
14号ビット		0.24	0.26	0.28	N-52°-W	34-48-C-23	楕円形	
15号ビット		0.42	0.38	0.33	N-42°-E	34-48-J-19	楕円形	
16号ビット		0.37	0.36	0.37	N-40°-W	34-48-H-22	楕円形	
17号ビット		0.42	0.33	0.45	N-34°-W	34-48-H-22	楕円形	

調査区	遺構	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	主軸方位	位置(グリッド)	形状	重視遺構等
	18号ピット	0.47	0.47	0.32	N-0°	34-48-G-7	円形	
	19号ピット	0.50	0.50	0.17	N-0°	34-48-F-7	円形	
	20号ピット	0.80	0.64	0.34	N-6°-E	34-48-E-7	楕円形	
	21号ピット	0.34	0.30	0.34	N-38°-W	34-48-D-E-8	楕円形	
	22号ピット	0.30	0.26	0.23	N-24°-W	34-48-D-8・9	楕円形	
	23号ピット	0.38	0.34	0.36	N-6°-W	34-48-D-8	楕円形	
	24号ピット	0.40	0.34	0.40	N-64°-W	34-48-B-9	楕円形	
	25号ピット	0.52	0.34	0.40	N-14°-W	34-48-B-9	楕円形	
	26号ピット	0.50	0.50	0.56	N-0°	34-48-B-9	円形	
	27号ピット	0.48	0.44	0.23	N-75°-W	34-48-F-7	楕円形	
	28号ピット	0.66	0.56	0.58	N-66°-W	34-48-Y-12	楕円形	
	29号ピット	0.45	0.37	0.38	N-38°-E	34-47-Y-12	楕円形	
	30号ピット	0.52	0.34	0.36	N-5°-W	34-48-C-13	楕円形	
	B3区②2面	36号ピット	0.32	0.30	0.37	N-15°-E	34-57-G-3	楕円形
37号ピット		0.32	0.30	0.33	N-27°-E	34-57-F-2	楕円形	
38号ピット		0.33	0.24	0.34	N-7°-E	34-57-G-3	楕円形	
39号ピット		0.29	0.27	0.33	N-21°-E	34-57-G-3	楕円形	
40号ピット		0.52	0.44	0.60	N-73°-E	34-57-G-3	楕円形	
41号ピット		0.25	0.24	0.42	N-63°-W	34-57-F-3	楕円形	
42号ピット		0.28	0.26	0.26	N-72°-W	34-57-F-4	楕円形	
43号ピット		0.24	0.22	0.29	N-53°-E	34-57-G-4	楕円形	
44号ピット		0.26	0.26	0.38	N-0°	34-57-F-3	円形	10号溝
45号ピット		0.25	0.23	0.42	N-27°-E	34-57-F-5	楕円形	38号土坑
B3区②3面	31号ピット	0.30	0.27	0.28	N-42°-W	34-47-W-16	楕円形	
	32号ピット	(0.23)	0.24	0.18	N-50°-W	34-48-A-17	楕円形	
	33号ピット	0.55	0.37	0.10	N-37°-W	34-47-X-15	楕円形	
	34号ピット	0.41	0.38	0.20	N-10°-W	34-47-W-16	楕円形	
	35号ピット	0.39	0.37	0.18	N-50°-W	34-47-Q-14	楕円形	

第5表 遺物観察表

採掘 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 存在率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
第12698 PL.62	D1-1	瀬戸・美濃 陶器 胎型香炉	口縁部～体部片	口 底	(10.8) -	高 -	尖雑物少量/-/ 灰黄	口唇端部は外面側が厚。直下に紋線が廻る。内外面に 反焼。	江戸時代。	
第12698 PL.62	D2-ト L1	鉄製品 釘		長 幅	2.8 1.0	厚 重	1.0 3.6	//	ほぼ全面錆に覆われている。破断面より角釘であるこ とがわかる。釘の本体は空胴状になっており一部鉄本 体も残存か。	
第12698 PL.62	D2-ト L2	鉄製品 釘		長 幅	2.5 1.1	厚 重	1.2 3.8	//	ほぼ全面を錆に覆われている。破断面より角釘である ことがわかる。釘本体は剥離するように劣化しており、 状態が悪い。	
第12698	D2-Aト 燧1	瀬戸・美濃 陶器 燧反皿	破片	口 底	(10.6) (6.0)	高 -	2.2	尖雑物少量/-/ 灰黄	口縁部は強く屈曲して外反する。高台部は低く、断面 三角形。高台内を含め反焼。	16世紀前半 ～中頃。
第12698	D2-Aト 燧2	在地系土器 内耳鍋	口縁部破片	口 底	-	高 -	-	尖雑物多量/-/ 粗	口唇端部は平坦面をなす。内面は口唇端部下で弱く屈 曲。器面は横ナデ。	中世。信濃 型。
第12698 PL.62	D2-Aト 燧3	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	口縁部破片	口 底	-	高 -	-	尖雑物少量/-/ 灰黄	口縁部は短く、受け口状を呈する。内面に線を有する。 跡焼。	17世紀前 半。
第12698 PL.62	D2-3燧 燧1	瀬戸・美濃 陶器 皿	1/4	口 底	(10.0) (5.2)	高 -	2.2	尖雑物少量/-/ 灰白	体部下平から底部にかけて回転へら削り。外面は底部 外面を除き胎焼。内面に黄灰粘。重ね焼きの痕跡。	江戸時代。
第12698	D2-遺 集1	土師器 甕	口縁部片	口	18.6			細砂粒/良好/に ぶい層	内外面とも横ナデ。	
第12698	D2-遺 集2	土師器 甕	口縁部片	口	16.8			細砂粒/良好/澄	口縁部先端は横ナデ。下位に成形時の面を残す。内面 は横ナデ。	
第12698	D2-遺 集3	土師器 小型甕	口縁部～胴部上 位片	口	12.8			細砂粒/良好/に ぶい層	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のへら削り。	
第12698 PL.62	D2-遺 集4	須恵器 杯	口縁部～底部 1/4	口 底	13.2 7.0	高 -	3.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部回転系切り離し後、 無調整。	内面磨耗。
第12698	D2-遺 集5	須恵器 杯か	口縁部～体部片	口	13.4			細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転は右回り。	
第12698	D2-遺 集6	須恵器 杯	口縁部片	口	13.6			細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転は右回り。	
第12698	D2-遺 集7	須恵器 壺	体部～高台部片	底 台	7.0 6.6			粗砂粒・細砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部回転系切り離し後、 無調整。	
第12698	D2-遺 集8	須恵器 杯	体部下位～底部 1/5	底	8.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部回転系切り離し後、 無調整。	器面割断。
第12698	D2-遺 集9	須恵器 椀か	口縁部～体部片	口	13.6			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。	器面に自然 軸。
第12698 PL.62	D2-遺 集10	須恵器 椀か	埋土 口縁部1/5	口	15.2			細砂粒/還元焰 ぎみ/黄灰	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第12698 PL.62	D2-遺 集11	須恵器 椀	埋土 底部2/3	底	6.9			細砂粒/還元焰 ぎみ/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部回転系切り離し後、 高台を貼付。その後、廻縁部に横ナデ。	内面磨耗。
第12698	D2-遺 集12	須恵器 椀	体部～高台部片	底 台	7.6 7.0			細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部切り離し後、低い高 台を貼付。	器面割断。
第12700 PL.62	D2-1土 燧1	土師器 甕	胴部下位～底部 1/5	底	4.0			細砂粒/良好/澄	胴部外面は斜縦位のへら削り、内面は斜縦位のへらナ デ。	胴部径は横 くなる可 能性あり。
第12700 PL.62	D2-1 燧1	古銭		縦 横	2.470 2.469	厚 重	0.135 2.8	//	符号遺賢。面の字は摩滅して見えづらい。郭と輪は明 輪。背は彫が浅く輪が一部不明瞭。多くの部分にさび が付着している。	
第12700 PL.62	D2-1	銅製品	一部残存	長 幅	1.7 1.7	厚 重	0.6 1.9	//	キセル火皿部。火皿中心部が潰されており、凹んでいる。 凹みの頸部にわずかな段差が確認出来る部分がある が、直接的な関係は不明である。	
第12700 PL.62	D2-1	古銭		縦 横	2.376 2.375	厚 重	0.133 1.8	//	新寛永。3つに破損している。全体に劣化が見られ、 輪と郭の一部が欠損。測っている部分も見られる。	D2区2・3 画
第12700 PL.62	D2区 -12焼1	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片					// /H	口縁部頂部に横状把手を付し、口縁に横位の筋状隆部 を施す。内外面共にやや被熱風化。	称名寺Ⅱ式
第12700 PL.62	D2区 -12焼2	縄文土器 深鉢	埋土 胴部片					// /J	沈濁区陶文を施す。内外面共に被熱風化。外面一部に 環状灰化物付着。	称名寺Ⅱ式
第12700 PL.62	D2-遺 外1	縄文土器 深鉢	胴部片					// /B	やや粗雑なLR縄文を間隔を置いて縦位施文。内外面 共にやや被熱風化。	称名寺Ⅰ式 併行
第12700 PL.62	D2-遺 外2	縄文土器 深鉢	埋土 胴部片					// /G	低平な微隆起帯施文を施し、LR縄文を充填的に施文。 内外面共にやや被熱風化。	加曾利E4 式

緯度 No.	No.	種類 器種	出土位置 埋存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第12704 PL.62	D2-遺 外3	縄文土器 深鉢	埋土 胴部片				/ / N	J字凹区画文の外縁部にL&R縄文を充満施文。外面一部に亀状凹凸物付着。内外面横位磨き。	称名寺壺1 b式	
第12704 PL.62	D2-遺 外4	縄文土器 深鉢	埋土 胴部片				/ / F	横位の亀状文を施す。内外面共に被熱炭化。	阿玉台Ⅱ式	
第12704 PL.62	D3-A-1 壺1	須恵器 染付陶	口縁部～体部	口 底	(10.0) 底	高 -	夾雑物無し/-/灰 白	体部外面に并桁網文。コンニャク判か。高台近くに磨 蝕。	天明泥流 下。	
第12704 PL.62	D3-B 1	在土系土器 鉢	埋土 1/3	口 底	(44.0) (31.4)	高 8.2	夾雑物多量。黒色 底物粒/-/焼成灰	口唇端部は平坦面をなす。体部外面は最下位にへら削 り。底部にナデ調整。	8点接合。 中世。	
第12704 PL.62	D3-1 壺1	須恵器 杯	埋土 1/2	口 底	13.3 7.3	高 4.2	細砂粒・粗砂粒、 黒色粒/還元焰/灰	口口整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整。		
第12704 PL.62	D3-1 壺2	須恵器 杯	埋土 1/4	口 底	14.2 7.5	高 3.7	細砂粒/還元焰/灰 黄	口口整形。回転は右回りか。底部は回転系切り無調 整。内面は口唇部に凹線が走る。		
第12704 PL.62	D3-1 壺3	須恵器 杯	埋土 1/5	口 底	15 7.5	高 3.3	細砂粒/還元焰/灰 黄	口口整形。回転は右回りか。底部は回転系切り無調 整。内面は口唇部に凹線が走る。		
第12804 PL.63	D3-1 壺4	須恵器 杯	埋土 口縁部小片	口	12		細砂粒/還元焰/灰 白	口口整形。回転は右回りか。		
第12804 PL.63	D3-1 壺5	須恵器 杯	埋土 口縁部小片	口	12.2		細砂粒/還元焰/灰 白	口口整形。回転方向不明。内面口縁部の一部に摺付 着か。		
第12804 PL.63	D3-1 壺6	須恵器 杯	埋土 底面小片	口	15.8 8.2	高 8.2	細砂粒・粗砂粒、 黒色粒/還元焰/灰 白	口口整形。回転は右回り。底部は回転系切り無調整。		
第12604 PL.63	D3-1 壺7	須恵器 椀	埋土 1/4	口 底	15.8 8.2	高 8.2	細砂粒・粗砂粒・ 黒/還元焰/焼灰	口口整形。回転は右回りか。底部は回転系切り後高 台を貼付。		
第12804 PL.63	D3-1 壺8	須恵器 椀	埋土 口縁部片	口	15.6		細砂粒/還元焰/灰 白	口口整形。回転は右回りか。		
第12804 PL.63	D3-1 壺9	須恵器 椀	埋土 口縁部小片	口	14		細砂粒/還元焰/灰 白	口口整形。回転方向不明。内面の口縁部上平に凹線 が2条走る。		
第12804 PL.63	D3-1 壺10	須恵器 椀	埋土 底面小片	台	6.4		細砂粒/還元焰/灰 白	口口整形。回転は右回り。底部は回転系切り。高台 は貼付。		
第12804 PL.63	D3-1 壺11	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 位小片	口	18.8		細砂粒/良好/明赤 褐	外面口縁部と内面頸部に輪積み痕が残る。口縁部から 頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面胴部はへらナデ。		
第12804 PL.63	D3-1 壺12	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 位小片	口	20.2		細砂粒/良好/褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面胴部 はへらナデ。		
第12804 PL.63	D3-1 壺13	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部上 位小片	口	23.8		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部の歪み大きい。口縁部は横ナデ、胴部はへら削 り。内面胴部はへらナデ。		
第12804 PL.63	D3-1 壺14	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 位小片	口	20.4		細砂粒/良好/明褐	内外面の頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横 ナデ、胴部はへら削り。内面胴部はへらナデ。		
第12804 PL.63	D3-1 壺15	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 位小片	口	17.8		細砂粒/良好/明赤 褐	外面頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、 胴部はへら削り。内面胴部はへらナデ。		
第12804 PL.63	D3-1 壺16	土師器 甕	埋土 口縁部小片	口	18.8		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ。		
第12904 PL.63	D3-1 壺17	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部上 位小片	口	18.0		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面胴部 はへらナデ。		
第12904 PL.63	D3-1 壺18	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 位小片	口	15.4		細砂粒/良好/赤褐	外面頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、 胴部はへら削り。内面胴部はへらナデ。		
第12904 PL.63	D3-1 壺19	土師器 甕	埋土 口縁部小片	口	14.2		細砂粒/良好/明赤 褐	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナ デ。		
第12904 PL.63	D3-1 壺20	土師器 甕	埋土 口縁部小片	口	17.0		細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面胴部 はへらナデ。		
第12904 PL.63	D3-1 壺21	灰輪陶器 椀	埋土 破片	口 底	14.2 7.6	台 高	7.6 4.8	細砂粒/還元焰/灰 白	口口整形。回転は右回りか。底部は回転へらナデ、 高台は貼付。施焼方法不詳。	大取2号 式期。
第12904 PL.63	E5-A下 壺1	瀬戸・美濃 陶器 皿	口縁部～体部	口 底	-	高 -	夾雑物微量/-/灰 白	体部外面に植物文。	18世紀。	
第12904 PL.63	E5-泥 埴中 1	石造物 宝塔	2/3	長 幅	(34.0) 13560.0	厚 -	17.0 /	粗粒輝石安山岩/ /	全体的に丁寧に加工整形する。	
第12904 PL.63	E5-中 1	在土系土器 内耳網	埋土 口縁部片	口 底	-	高 -	夾雑物多量/-/に ぶい赤褐	口唇端部は平坦面を形作る。外面、口唇直下にクシ状 工具による横線が走る。	中世。信濃 型。	
第12904 PL.63	E7-1 壺1	銅製品 キセル(鑑 前)	埋土	長 幅	5.7 1.2	厚 重	1.6 14.0	/ /	扉部分残存。つなぎ目が見えない。	

種別 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 埋存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第12988 PL.63	E7-1編 2	銅製品 キセル(吸 い口)	埋土 完形	長 9.9 厚 1.0 幅 1.0 重 14.3	//	羅字が残存。つなぎ目が不明瞭。表面の銅の残存が多く、平滑な様子が見られる。	
第12989 PL.63	E7-1編 3	鉄製品	埋土 一部欠損	長 1.3 厚 0.8 幅 1.2 重 1.5	//	木質が残存し、木目に対して垂直に打ち込まれている様子が見られる。下部は上部木質とは直角に交差する。左側にのみ木質が多く残存している。	
第12990 PL.63	E7-1編 4	鉄製品 釘	一部欠損	長 2.7 厚 0.6 幅 1.8 重 1.3	//	木質が残存している。木質に対して釘が垂直に打ち込まれる。断面はやや内側に曲がっている。	
第12991 PL.63	E7-1編 5	鉄製品 釘	完形	長 2.7 厚 0.7 幅 1.0 重 1.4	//	木質が残存している。木質に対して釘が垂直に打ち込まれる。	
第12992 PL.63	E7-1編 6	鉄製品 釘	底面 一部残存	長 2.0 厚 0.7 幅 0.9 重 1.2	//	脚部。両端が欠損している。木質層は見られない。角釘で内部が空洞化している。周囲は砂じりの土で覆われている。	
第12993 PL.63	E7-1編 7	鉄製品 釘	底面 一部残存	長 1.1 厚 0.9 幅 1.5 重 1.1	//	頭部。木質があった部分に筋が覆い、木質状の筋を形成している。	
第12994 PL.63	E7-2編 1	銅製品 キセル	埋土	長 22.7 厚 1.6 幅 1.5 重 26.4	//	火皿が欠損したキセル。扉首、羅字、吸口が一括で出土。ただし、吸口の向きは羅字の劣化により動きが不明のため不明。周囲に銅線質が絡んでいたが、直接的な関係はないと思われる。扉首の上面がへこんでいる。吸口に目状のものがある。	
第13000 PL.64	E7-2編 2	銅製品 留め具か	埋土	長 1.6 厚 0.7 幅 1.2 重 0.7	//	底部に布痕が残る。内側に繊維痕が見られ、金属部品が接着されている。金属部品は底部までは達していない。	
第13001 PL.64	E7-2編 3	銅製品 皮留具	埋土	長 1.6 厚 0.5 幅 1.5 重 0.2	//	銅製品の留金2点あり、それぞれが皮を貫通している。留金の位置は上下でハの字状に配置されている。	
第13002 PL.64	E7-2編 4	鉄製品 釘	底面	長 5.9 厚 1.3 幅 1.2 重 3.6	//	中央部に筋の塊がある。2点に分かれていたため接合。全体がややく字に曲がる。頭部に近い部分に一部凹凸状のものが見える。	
第13003 PL.64	E7-2編 5	鉄製品 釘	底面	長 2.0 厚 0.9 幅 2.2 重 1.3	//	脚部が一部縦筋。脚部に近い部分に木質が残存するが、その上部にも不明瞭な木質痕。上部は下部の木質と直角に木質が残存する。	
第13004 PL.64	E7-2編 6	鉄製品 釘	底面 一部欠損	長 3.4 厚 0.6 幅 0.7 重 0.9	//	上部は欠損している。釘内側の劣化が見られ、空洞化している部分が確認されている。断面は正方形に近い。	
第13005 PL.64	E7-2編 外1	銅製品 キセル		長 3.9 厚 1.0 幅 1.4 重 6.9	//	メッキ痕跡有り。2つの部品を接合して作られている。部品同士の接合点で向きが変化する。2つの部品はそれぞれ丸筒形状を製作時のつなぎめが見られ、そのつなぎめは連続したものでない。	
第13006 PL.64	E7-遺 外2	古銭		縦 - 厚 0.130 横 2.397 重 1.6	//	元祐通寶。元の字が一部欠損。字の一部が劣化、摩滅により見えづらい。輪と郭は明瞭だが、劣化により欠損している。郭の上がやや膨らんでいる。背の郭は上が大きく下に郭が見られない。	
第13007 PL.64	E7-遺 外3	古銭		縦 2.427 厚 0.141 横 2.422 重 2.8	//	符符元寶。面の字はやや摩滅している。郭、輪は明瞭。輪の一部が欠損。背は郭が見えない。	
第13008 PL.64	E7-遺 乱1	瀬戸・美濃 磁器か 染付皿	1/4	口 (11.2) 高 4.9 底 (3.8)	矢矧物微量/-/灰 白	外面、口縁直下に2重の圈線。	近・現代。
第13009 PL.64	E7-遺 乱2	製作地不詳 磁器 染付皿	1/3	口 - 高 2.2 底 -	矢矧物無し/-/灰 白	型づくり。内面に文様	近・現代。
第13010 PL.64	E7-1 編1	肥前磁器 染付皿	体部下位～高台 部	口 - 高 - 底 4.0	矢矧物無し/-/灰 白	体部外面に二重額目文。高台部に2重の圈線。内面に菊花状文と額目文。	18世紀中頃 ～後半。
第13011 PL.64	E7-2 編1	丹波陶器 すり鉢	口縁部片	口 - 高 - 底 -	矢矧物多量。白色 灰物/-/にぶい 黄褐色	口縁部近くの字状に屈曲して立ち上がり、外面に稜をなす。口縁部に横ナデ後クシ目を施す。	17世紀後半 ～18世紀 中頃。
第13012 PL.64	E7-1編 昇杭1	石造物 石仏	不明	長 (13.8) 厚 (10.0) 幅 (8.8) 重 1197.8	粗粒輝石安山岩/ /	丁字な成型形である。背中に文字が刻まれており「備」と判読できる。成名の一部と考えられる。	
第13013 PL.64	E7-1編 昇杭2	石造物 石製品	不明	長 (14.4) 厚 25.8 幅 26.8 重 4350.0	粗粒輝石安山岩/ /	底部に脚が二つ認められる。側面及び底面には平ノミ状の工具が明瞭に認められる。内面には平ノミ状の工具痕がわずかに残る。	

第6表 縄文土器の胎土分類

No.	分類	特徴
1	B	多量の長石粗・細砂と中～少量の石英・角閃石・雲母・赤色岩片の粗・細粒砂を含むやや緻密な胎土。
2	F	多量の円磨度の進んだ結晶片岩類・粗砂や珪質乳白色岩片の粗・細砂と雲母細砂及び少量の灰白色岩片粗・細砂を含む滑り感のあるやや緻密な胎土。
3	G	中～少量の円磨度の進んだ灰白色岩片・珪質乳白色岩片・輝石粗・細砂を含む緻密な胎土。
4	J	多量の円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色岩片及び輝石の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。

第3節 自然科学分析

下湯原遺跡の近世人骨

平成30(2018)年に刊行された調査報告書『下湯原遺跡(1)』を見てみると、A1区から6基の土坑、A2区からは1基の土坑墓、E2区では25基の墓、E4区では2基の土坑、更にE7区では2基の墓から人骨が検出され、今回の報告書で提示するD1区の2基の墓と土坑(土坑は平面図が無い)とD2区の墓からもやはり人骨が検出されている。

これらの検出された多くの人骨に、人類学的な見地からマルティンの方法(藤田 1949)などを用いて検討を加え、部位・性別・年齢・計測・年齢的特徴・病変・疾病の病歴・刀傷等の外傷・死因等の解析を行うため、遺骨鑑定に関しては人類学者の故榑崎修一郎氏に依頼した。

以下にその概要と一覧表を示す。

はじめに

下湯原遺跡は、群馬県長野原町下湯原に所在する。

(公財)群馬県埋蔵文化財調査団による発掘調査が平成27(2015)年4月～同27(2015)年12月まで実施された。

本遺跡のA区・D区・E区の3区から中近世人骨が検出されたので、以下に報告する。

1. A区出土人骨

A区では、A1区の20号・21号・22号・23号・24号・25号の土坑6基から人骨が検出されている。また、A2区の1号土坑墓の1基から人骨が検出されている。以下に、7基の出土人骨を記載する。

1. A1区出土人骨

(1)20号土坑出土人骨

①人骨の出土状況: 人骨は、長径107cm・短径71cm・深さ17cmの規模の楕円形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態: 人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を北西にした俯臥屈葬で埋葬されたと推定される。ちなみに、この俯臥屈葬は、比較的珍しい埋葬状態であり、群馬県内のみならず国内でも事例は少ない。

③副葬品: 副葬品は、検出されていない。

④人骨の出土部位: 人骨の残存状態は比較的良く、ほぼ全身骨格が検出されている。



写真1. A1区20号土坑出土下肢骨

⑤被葬者の個体数: 出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別: 四肢骨は、比較的小さく華者であるため、被葬者の性別は女性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢: 出土歯の咬耗度を観察すると、象牙質が点状に露出する程度のマルティンの2度の状態であるので、被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

(2)21号土坑出土人骨

①人骨の出土状況: 人骨は、長径117cm・短径73cm・深さ30cmの規模の隅丸長方形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態: 人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を北西にして左側を下にした横臥屈葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品: 副葬品は、検出されていない。

④人骨の出土部位: 人骨の残存状態はあまり良くないが、ほぼ全身骨格が検出されている。なお、本人骨は、頭蓋骨及び四肢骨のすべてが土圧で変形している。

⑤被葬者の個体数: 出土人骨には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別: 頭蓋骨の内、後頭部の十字隆起部の厚さは約18mmである。また、四肢骨も全体的に大きく頑丈であるため、被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢: 検出された遊離歯は6本であり、前歯のみである。これらの咬耗度を観察すると、象牙質が全面的に露出する程度のマルティンの3度の状態であ

る。恐らく、生前脱落が多い老齢であると推定される。

(3)22号土坑出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径(87)cm・短径(64)cm・深さ(7)cmの規模の楕円形土坑から出土している。但し、本墓坑の上部は削平された状態である。実際、頭蓋骨は、検出されていない。

②被葬者の埋葬状態：頭蓋骨は検出されていないが、人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を南東にした仰臥屈葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品：副葬品は、検出されていない。

④人骨の出土部位：本墓坑の上部が削平されているため、頭蓋骨及び歯は検出されていない。わずかな四肢骨片のみが検出されている。

⑤被葬者の個体数：出土四肢骨には、明瞭な重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：出土四肢骨は、全体的に小さく華奢であるため、被葬者の性別は女性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：死亡年齢推定の指標となる部位は検出されていないが、恐らく、成人であろう。

(4)23号土坑出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径113cm・短径66cm・深さ23cmの規模の楕円形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を北西にして右側を下にした横臥屈葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品：副葬品は、検出されていない。

④人骨の出土部位：保存状態はあまり良くないが、全身骨格が検出されている。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：出土四肢骨は全体的に小さく華奢であるため、被葬者の性別は女性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：避難歯は2本しか検出されていない。それらの歯の咬耗度を観察すると、象牙質が線状に露出する程度のマルティンの2度の状態である。しかしながら、恐らく生前脱落が多い老齢であると推定される。

(5)24号土坑出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径88cm・短径55cm・深さ16cmの規模の楕円形土坑から出土している。なお、本土

坑の上部はかなり削平されている状態である。

②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を北西にした横臥屈葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品：副葬品は、検出されていない。

④人骨の出土部位：保存状態は良くないが、ほぼ全身骨格が検出されている。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：出土四肢骨は全体的に小さく華奢であるため、被葬者の性別は女性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：死亡年齢推定可能な部位は検出されていない。恐らく、成人であろう。

(6)25号土坑出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径100cm・短径70cm・深さ23cmの規模の楕円形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を北西にした横臥屈葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品：副葬品は、検出されていない。

④人骨の出土部位：人骨の残存状態はあまり良くないが、ほぼ全身骨格が検出されている。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：出土四肢骨は全体的に大きく頑丈であるため、被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：避難歯は1本も検出されなかった。恐らく、生前脱落をした無歯顎であったと推定されるため、被葬者の死亡年齢は恐らく老齢であると推定される。

2. A2区出土人骨

(1)1号土坑墓出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径119cm・短径66cm・深さ54cmの規模の不整形楕円形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を北西にした横臥屈葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品：副葬品は、検出されていない。

④人骨の出土部位：人骨の残存状態は非常に悪く、ほとんどが破片である。

⑤被葬者の個体数：出土人骨の残存状態は非常に悪いが、明らかな重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：出土人骨は、全体的に小さく華奢であ

るため、被葬者の性別は女性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：年齢指標となる部位が検出されていないが、恐らく、成人であろう。但し、歯が検出されていない事から、老齢の可能性もある。

II. D区出土人骨

D区では、D1区の1号墓・42号土坑・2号墓の3基から人骨が検出されている。また、D2区の1号墓の1基から人骨が検出されている。以下に、4基の出土人骨を記載する。

1. D1区出土人骨

(1) 1号墓出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径127cm・短径74cm・深さ38cmの規模の不整形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態：出土平面図が無いため、詳細は不明である。但し、出土状況写真からは、横臥屈葬のように見える。

③副葬品：副葬品は、検出されていない。

④人骨の出土部位：人骨の残存状態は、非常に悪い。わずかな破片しか検出されていない。

⑤被葬者の個体数：人骨の残存状態が非常に悪いため、被葬者の個体数は不明である。但し、恐らく1個体であろう。

⑥被葬者の性別：人骨の残存状態が非常に悪いため、被葬者の性別は不明である。

⑦被葬者の死亡年齢：人骨の残存状態が非常に悪いため、被葬者の死亡年齢は不明である。但し、経験則としては子供の可能性が高い。薄い子供の骨がほとんど溶解して残存しなかったと推定される。

(2) 42号土坑出土人骨(平面図なし)

①人骨の出土状況：人骨は、長径93cm・短径48cm・深さ10cmの規模の楕円形土坑から出土している。本土坑の上部は、削平されている。

②被葬者の埋葬状態：出土平面図が無いため、被葬者の埋葬状態は不明である。

③副葬品：副葬品は、検出されていない。

④人骨の出土部位：人骨の残存状態は、非常に悪い。わずかな破片しか検出されていない。

⑤被葬者の個体数：人骨の残存状態が非常に悪いため、被葬者の個体数は不明である。但し、恐らく1個体であ

らう。

⑥被葬者の性別：人骨の残存状態が非常に悪いため、被葬者の性別は不明である。

⑦被葬者の死亡年齢：人骨の残存状態が非常に悪いため、被葬者の死亡年齢は不明である。但し、経験則としては子供の可能性が高い。薄い子供の骨がほとんど溶解して残存しなかったと推定される。

(3) 2号墓出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径129cm・短径96cm・深さ30cmの規模の不整形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態：出土人骨の平面図がないため、被葬者の埋葬状態は不明である。但し、出土状況写真からは、横臥屈葬のように見える。

③副葬品：副葬品は、検出されていない。

④人骨の出土部位：人骨の残存状態は非常に悪い。

⑤被葬者の個体数：人骨の残存状態は非常に悪いが、恐らく1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：出土遊離歯の歯冠計測値は比較的小さく、出土四肢骨は全体的に小さく華奢であるため、被葬者の性別は女性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：出土遊離歯の咬耗度を観察すると、象牙質が一部露出する程度のマルティンの2度の状態である。被葬者の死亡年齢は、約20歳代であると推定される。

2. D2区出土人骨

(1) 1号墓出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径79cm・短径76cm・深さ57cmの規模の楕円形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態：出土平面図が無いため被葬者の埋葬状態は不明である。但し、出土状況写真からは、横臥屈葬のように見える。

③副葬品：副葬品は検出されていない。

④人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く、遊離歯とわずかな骨片のみが検出されている。

⑤被葬者の個体数：出土遊離歯には重複部位が認められないため被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：出土遊離歯の計測値が比較的小さいため、被葬者の性別は女性(女兒)であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：出土遊離歯には乳歯が認められない。また、わずかな骨片しか検出されていない事をふま

えると、未成年であると推定される。総合的に、被葬者の死亡年齢は、約12歳であると推定される。

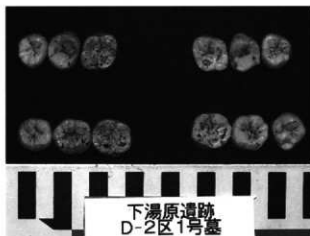


写真2. D 2 区 1 号墓出土遊離歯咬合面観

III. E 区出土人骨

E 区では、E 2 区の 1 号・2 号・3 号・4 号・5 号・6 号・7 号・8 号・9 号・10 号・11 号・12 号・13 号・14 号・15 号・16 号・17 号・18 号・19 号・22 号・23 号・24 号・25 号・26 号の 24 基の墓から人骨が検出されている。また、E 4 区の 1 号墓と 5 号土坑の 2 基から人骨が検出されている。さらに、E 7 区の 1 号と 3 号の 2 基の墓から人骨が検出されている。

1. E 2 区出土人骨

(1) 1 号墓出土人骨(1 号祭祀)

①人骨の出土状況：人骨は、長径(125)cm・短径(73)cm・深さ40cmの規模の長方形(推定)土坑から出土している。なお、本 1 号墓は、2 号墓と隣接している。さらに、本 1 号墓の上には多くの石が配石されている状態である。

②被葬者の埋葬状態：本墓坑では、成年と未成年の 2 体が検出されている。人骨の出土位置から、成年の被葬者は、頭位を北東にした横臥屈葬で埋葬されたと推定される。また、未成年は成年の頭部の脇から歯が検出されている。未成年の埋葬状態は不明である。

③副葬品：副葬品は、銭貨と煙管が検出されている。

④人骨の出土部位：成年は、ほぼ全身骨格が検出されている。未成年は、遊離歯が検出されている。

⑤被葬者の個体数：本被葬者は、成年と未成年の 2 体が埋葬されていたと推定される。

⑥被葬者の性別：成年は、後頭骨の内十字隆起部が厚く

大腿骨骨頭部が大きいため、男性であると推定される。未成年は、永久歯の大きさが比較的大きいため、男性(男子)であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：成年の永久歯の咬耗度を観察すると、象牙質が点状に露出する程度のマルティンの 2 度の状態であるので、死亡年齢は約 30 歳代～40 歳代であると推定される。未成年は、歯の萌出状態から、約 4 歳であると推定される。

(2) 2 号墓出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径161cm・短径(49)cm・深さ60cmの規模の長方形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を○にした伸展葬で埋葬されたと推定される。本被葬者は、約 3 歳の男性(男児)と推定されている。1971 年の日本人平均身長は、男子 95.3cm・女子 95.4cm である。この事からも、伸展葬の可能性が高い。

③副葬品：副葬品は、銭貨と漆椀が検出されている。

④人骨の出土部位：乳歯と永久歯の遊離歯が検出されている。

⑤被葬者の個体数：出土遊離歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は 1 個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：出土永久歯の歯冠計測値が比較的大きいため、被葬者の性別は男性(男児)であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：出土遊離歯の萌出状態から、被葬者の死亡年齢は約 3 歳であると推定される。

(3) 3 号墓出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径(104)cm・短径(46)cm・深さ(18)cmの規模の長方形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を北西に屈葬あるいは伸展葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品：副葬品は、銭貨と肥前碗が検出されている。

④人骨の出土部位：乳歯と永久歯の遊離歯が検出されている。

⑤被葬者の個体数：出土遊離歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は 1 個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：出土永久歯の歯冠計測値が比較的大きいため、被葬者の性別は男性(男児)であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：歯の萌出状態から、被葬者の死亡年齢は約 4 歳であると推定される。

(4) 4号墓出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径(103)cm・短径(57)cm・深さ13cmの規模の隅丸長方形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は頭位を北西にし、顔面部を西に向け左側を下にした横臥屈葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品：副葬品は、鉄製品が検出されている。

④人骨の出土部位：人骨は、主に頭蓋骨片と遊離歯が検出されている。

⑤被葬者の個体数：出土遊離歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：出土遊離歯の歯冠計測値が比較的大きいため、被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：出土遊離歯の咬耗度を観察すると、エナメル質のみに認められるマルティンの1度の状態であるため、被葬者の死亡年齢は約20歳代であると推定される。

⑧被葬者の古病理：

(5) 5号墓出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径115cm・短径85cm・深さ30cmの規模の不整楕円形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を北西にし顔面部を西に向け左側を下にした横臥屈葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品：副葬品は、銭貨が検出されている。

④人骨の出土部位：残存状態は非常に悪いが、全身骨格及び遊離歯が検出されている。

⑤被葬者の個体数：遊離歯には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：遊離歯の歯冠計測値は比較的大きいため、被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：出土遊離歯の咬耗度、特に第1大臼歯は、象牙質が全面に露出する程度のマルティンの3度の状態であるが、他の大臼歯はエナメル質のみのマルティンの1度の状態である。総合的に、被葬者の死亡年齢は約30歳代～40歳代であると推定される。

(6) 6号墓出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径98cm・短径41cm・深さ17cmの規模の長方形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、

頭位を北西にし左側を下にした横臥屈葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品：副葬品は、銭貨が検出されている。

④人骨の出土部位：人骨の残存状態は非常に悪いが、頭蓋骨片・遊離歯・四肢骨片が検出されている。

⑤被葬者の個体数：出土遊離歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：出土遊離歯の歯冠計測値が比較的小さいため、被葬者の性別は女性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：出土遊離歯の咬耗度を観察すると、象牙質が点状に露出する程度のマルティンの2度の状態であるため、被葬者の死亡年齢は約30歳代～40歳代であると推定される。

(7) 7号墓出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径112cm・短径58cm・深さ29cmの規模の楕円形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を南にした仰臥屈葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品：副葬品は、銭貨・煙管が検出されている。

④人骨の出土部位：人骨は、全身骨格が検出されている。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：左側頭骨の乳突起が比較的大きく、後頭骨の内隆起十字部の厚さが厚いため、被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：本人骨には、1本も遊離歯が検出されなかった。このような場合、無歯顎であった可能性が高い。同様に、頭蓋骨縫合も内板及び外板共に癒合して消失しているため、総合的に、被葬者の死亡年齢は老齢であったと推定される。

(8) 8号墓出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径82cm・短径47cm・深さ16cmの規模の楕円形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を北西にした横臥屈葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品：副葬品は、検出されていない。

④人骨の出土部位：人骨の残存状態は非常に悪いが、遊離歯及び四肢骨片が検出されている。

⑤被葬者の個体数：人骨の残存状態は非常に悪いが、出土人骨に重複部位は認められないため、被葬者の個体数

は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：出土遊離歯の歯冠計測値が比較的小さいため、被葬者の性別は女性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：出土遊離歯の咬耗度を観察すると、象牙質が露出するマルティンの2度～3度の状態であるため、被葬者の死亡年齢は約40歳代であると推定される。

(9) 9号墓出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径117cm・短径74cm・深さ44cmの規模の長方形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態：出土平面図に、人骨の位置が無いために被葬者の埋葬状態は不明である。

③副葬品：副葬品は、銭貨・甕・環が検出されている。

④人骨の出土部位：人骨は、ほぼ全身骨格が検出されている。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：四肢骨は頑丈で大きいため、被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：上下顎骨を観察すると、生前脱落が多い。総合的に、被葬者の死亡年齢は老齢であると推定される。

(10) 10号墓出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径99cm・短径55cm・深さ16cmの規模の長方形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を北西にして左側を下にした横臥屈葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品：副葬品は、銭貨が検出されている。

④人骨の出土部位：人骨の残存状態はあまり良くないが、全身骨格が検出されている。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：頭蓋骨の内、後頭骨の十字隆起部の厚さが厚く、四肢骨も比較的大きく頑丈であるため、被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：遊離歯は2本しか検出されず、しかも、咬耗度は象牙質が全面に及んでいるため、被葬者の死亡年齢は老齢であったと推定される。

⑧被葬者の古病理：

(11) 11号墓出土人骨〔近世〕

①人骨の出土状況：本墓坑の規模は不明である。しかしながら、人骨の出土位置から、坐葬であった可能性が高いため、恐らく、形状は方形あるいは円状であった可能性が高い。

②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、顔面部を南に向けた坐葬であった可能性が高い。

③副葬品：副葬品は、椀と小杯が検出されている。

④人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪いが、全身骨格が検出されている。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：出土人骨の遊離歯の歯冠計測値は比較的大きいが、四肢骨は華奢である。これは、本被葬者が未成年であるためであり、ここでは歯冠計測値を重要視し、被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：出土遊離歯の咬耗度を観察すると、ほとんど咬耗が認められないマルティンの0度の状態である。また、第3大臼歯の歯根部分が完成していないため、総合的に被葬者の死亡年齢は約12歳であると推定される。

(12) 12号墓出土人骨〔近世〕

①人骨の出土状況：人骨は、長径74cm・短径58cm・深さ28cmの規模の方形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、顔面部を西に向けた坐葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品：副葬品は、検出されていない。

④人骨の出土部位：人骨の残存状態はあまりよくないが、全身骨格が出土している。

⑤被葬者の個体数：出土人骨に重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：頭蓋骨片の骨壁は厚く、四肢骨も大きく頑丈であるため、被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：頭蓋骨縫合は、内板及び外板共に癒合して消失しかかっている状態である。また、遊離歯の咬耗度は、象牙質が点状及び面状に露出する程度のマルティンの3度の状態である。総合的に被葬者の死亡年齢は約40歳代～50歳代であると推定される。

(13) 13号墓出土人骨

①人骨の出土状況：墓坑の規模は不明である。

②被葬者の埋葬状態: 本被葬者は、未成年であるため、埋葬状態は不明である。

③副葬品: 副葬品は、銭貨と麻が検出されている。

④人骨の出土部位: 人骨は、乳歯と永久歯の遊離歯が検出されている。

⑤被葬者の個体数: 出土遊離歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別: 出土遊離歯の永久歯の歯冠計測値が比較的小さいため、被葬者の性別は女性(女兒)であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢: 出土遊離歯の萌出状態から、被葬者の死亡年齢は、約6歳～7歳であると推定される。

(14)14号墓出土人骨

①人骨の出土状況: 人骨は、長径(94)cm・短径(53)cm・深さ不明の規模の不整長方形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態: 人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を北東にし左側を下にした横臥屈葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品: 副葬品は、銭貨・籠・ガラス玉が検出されている。

④人骨の出土部位: 人骨の残存状態は悪いが、全身骨格が出土している。

⑤被葬者の個体数: 出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別: 出土遊離歯の歯冠計測値は比較的小さく、四肢骨も比較的小さく華奢であるため、被葬者の性別は女性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢: 出土遊離歯の咬耗度を観察すると、象牙質が点状に露出する程度のマルティンの2度及び3度の中間である。総合的に、被葬者の死亡年齢は約40歳代であると推定される。

(15)15号墓出土人骨

①人骨の出土状況: 人骨は、長径(110)cm・短径(55)cm・深さ不明の規模の長方形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態: 人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を北にして顔面部を東に向け左側を下にした横臥屈葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品: 副葬品は、銭貨が検出されている。

④人骨の出土部位: 全身骨格が検出されている。

⑤被葬者の個体数: 出土人骨には重複部位が認められな

いため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別: 出土歯の歯冠計測値は比較的大きく、四肢骨は全体的に大きく頑丈であるため、被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢: 出土歯の咬耗度を観察すると、象牙質が点状に露出する程度のマルティンの2度の状態である。被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

(16)16号墓出土人骨

①人骨の出土状況: 人骨は、長径(121)cm・短径(54)cm・深さ(20)cmの規模の長方形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態: 本被葬者は、未成年であると推定されている。人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を北にした伸履葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品: 副葬品は、銭貨と椀が検出されている。

④人骨の出土部位: 人骨は、頭蓋骨片・遊離歯・四肢骨片が検出されている。

⑤被葬者の個体数: 出土遊離歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別: 出土遊離歯の内、永久歯の歯冠計測値は比較的小さいため、被葬者の性別は女性(女兒)であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢: 出土遊離歯の萌出状態から、被葬者の死亡年齢は約2歳であると推定される。

(17)17号墓出土人骨

①人骨の出土状況: 人骨は、長径(88)cm・短径(63)cm・深さ(9)cmの規模の長方形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態: 人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を北にした仰臥屈葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品: 副葬品は、銭貨・椀・数珠・ガラス玉・リング等が検出されている。

④人骨の出土部位: 人骨は、ほぼ全身骨格が検出されている。

⑤被葬者の個体数: 出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別: 出土遊離歯の歯冠計測値は比較的小さいため、被葬者の性別は女性であると推定される。ただ、四肢骨は比較的小さい頑丈であるため、下肢が特に発達した女性であったと推定される。

⑦被葬者の死亡年齢: 出土遊離歯の咬耗度を観察すると象牙質が線状あるいは面をなしているマルティンの2度

と3度の中間であるため、被葬者の死亡年齢は約40歳代であったと推定される。

(18)18号墓出土人骨

- ①人骨の出土状況：人骨の出土状況は不明である。
- ②被火葬者の火葬状態：本墓抗は、火葬跡と推定される。情報不足のため、被火葬者の火葬状態は不明である。
- ③火葬人骨の出土部位：四肢骨片が検出されている。
- ④被火葬者の個体数：出土量が非常に少ないため、不明である。ただ、群馬県内では1個体が多い。
- ⑤被火葬者の性別：一部の火葬人骨は、火葬による取捨を考慮しても小さいため、女性であると推定される。
- ⑥被火葬者の死亡年齢：出土量が非常に少ないため、被火葬者の死亡年齢は不明である。恐らく、成人であろう。
- ⑦拾骨・取骨方法：火葬人骨の残存量は非常に少ないため、東日本に認められる全部拾骨及び全部取骨を行ったと推定される。

(19)19号墓出土人骨

- ①人骨の出土状況：人骨は、長径(90)cm・短径(50)cm・深さ不明の規模の長方形土坑から出土している。
- ②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を○にした横臥屈葬で埋葬されたと推定される。
- ③副葬品：副葬品は、銭貨と繊維が検出されている。繊維は、恐らく、銭貨を入れていた袋であると推定される。
- ④人骨の出土部位：人骨の残存状態は非常に悪く、頭蓋骨片と遊離歯が検出されている。
- ⑤被葬者の個体数：出土遊離歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。
- ⑥被葬者の性別：乳歯の歯冠計測値は比較的大きいため、被葬者の性別は男性(男児)であると推定される。
- ⑦被葬者の死亡年齢：乳歯のみ検出されており、歯根が破損しているため正確な死亡年齢の推定は困難であるが、恐らく、1歳(生後1年)であると推定される。

(20)21号墓出土人骨

- ①人骨の出土状況：人骨は、長径148cm・短径133cm・深さ26の規模の方形土坑から出土している。
- ②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、顔面部を北にした坐葬で埋葬されたと推定される。
- ③副葬品：副葬品は、銭貨・煙管・漆片が検出されている。
- ④人骨の出土部位：人骨の残存状態はあまりよくないが、ほぼ全身骨格が出土している。

⑤被葬者の個体数：出土人骨に重複部位は認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。但し、単葬にしては墓坑の規模が大きく、かつ、埋葬位置が墓坑の中央ではなく偏っている。

⑥被葬者の性別：出土歯の歯冠計測値が大きく、四肢骨も大きく頑丈であるため、被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：主要頭蓋骨縫合は、内板及び外板共に癒合しておらず開放の状態である。また、出土歯の咬耗度を観察すると、前歯は象牙質が点状に露出する程度のマルティンの2度の状態であるが、大臼歯はエナメル質のみのマルティンの1度の状態である。総合的に、被葬者の死亡年齢は約20歳代であると推定される。

(21)22号墓出土人骨

- ①人骨の出土状況：人骨は、長径(90)cm・短径(46)cm・深さ不明の規模の長方形土坑から出土している。
- ②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を南にした横臥屈葬で埋葬されたと推定される。
- ③副葬品：副葬品は、検出されていない。
- ④人骨の出土部位：人骨の残存状態は非常に悪く、わずかな四肢骨片のみ検出されている。
- ⑤被葬者の個体数：恐らく、1個体であると推定される。
- ⑥被葬者の性別：四肢骨が比較的大きく頑丈であるため、被葬者の性別は男性であると推定される。
- ⑦被葬者の死亡年齢：死亡年齢推定の指標となる部位が検出されていないため、推定は困難である。恐らく、成人であろう。

(22)23号墓出土人骨

- ①人骨の出土状況：人骨は、長径84cm・短径71cm・深さ22cmの規模の楕円形土坑から出土している。
- ②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、顔面部を北に向けた坐葬で埋葬されたと推定される。
- ③副葬品：副葬品は、銭貨が検出されている。
- ④人骨の出土部位：人骨の残存状態はあまりよくないが、ほぼ全身骨格が出土している。
- ⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。
- ⑥被葬者の性別：頭蓋骨の乳様突起は大きく発達しており、骨壁も厚い。しかしながら、四肢骨はそれほど大きくなく頑丈ではない。総合的に、被葬者の性別は華奢な

男性であったと推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：一部残存している下顎骨を観察すると、無歯顎の状態である。また、検出された遊離歯の数も少ないため、生前脱落が多く歯槽も閉鎖した状態の無歯顎であったと推定される。総合的に、被葬者の死亡年齢は老齢であったと推定される。

(23)24号墓出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径(110)cm・短径69cm・深さ39cmの規模の長方形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を北西にした仰臥屈葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品：副葬品は、銭貨が検出されている。

④人骨の出土部位：人骨の残存状態はあまりよくないが、ほぼ全身骨格が検出されている。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：出土遊離歯の歯冠計測値は比較的大きく、四肢骨も大きく頑丈であるため、被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：出土遊離歯の咬耗度を観察すると、象牙質が線状及び点状に露出する程度のマルティンの2度の状態である。総合的に、被葬者の死亡年齢は、約40歳代であると推定される。

(24)25号墓出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径(105)cm・短径(80)cm・深さ46cmの規模の方形に近い長方形土坑から出土している。なお、本墓坑の上には大石が多数置かれている。

②被葬者の埋葬状態：被葬者の埋葬状態は、頭位を北西にし、右側を下にした横臥屈葬である。

③副葬品：副葬品は、銭貨が検出されている。

④人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪いが、ほぼ、全身骨格が検出されている。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：頭蓋骨の骨壁は厚く、遊離歯の歯冠計測値も比較的大きく、四肢骨片も大きく頑丈であり、特に大腸骨頭が大きいことから、被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：出土遊離歯の咬耗度は、象牙質が点状に露出する程度のマルティンの2度の状態である。

総合的に、被葬者の死亡年齢は約40歳代であると推定される。

(25)26号墓出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径104cm・短径67cm・深さ36cmの規模の不整楕円形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を北西にした横臥屈葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品：副葬品は、検出されていない。

④人骨の出土部位：残存状態はあまりよくないが、ほぼ全身骨格が検出されている。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：出土歯の歯冠計測値は比較的大きいため、被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：出土歯の咬耗度を観察すると、象牙質が点状に露出する程度のマルティンの2度の状態である。被葬者の死亡年齢は、約30歳代であると推定される。

2. E4区出土人骨

(1)1号墓出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径173cm・短径125cm・深さ24cmの規模の長方形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、3体が認められている。

③人骨の出土部位：人骨の残存状態はよくなく、主に頭蓋骨片と遊離歯が検出されている。

④被葬者の個体数：遊離歯には重複部位が認められ、少なくとも3体が混在している。

⑤被葬者の性別：3体の内訳は、成人男性1体と成人女性1体と推定される。

⑥被葬者の死亡年齢：歯の咬耗度から、成人男性2体は約40歳代と20歳代であると推定される。成人女性1体は、10歳代後半であると推定される。

(2)5号土坑出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径312cm・短径205cm・深さ23cmの規模の不整楕円形土坑から出土している。

②被葬者の火葬方法：本土坑は、通常の火葬遺構よりも規模が大きい。一見、数体を火葬にした土坑のように見えるが、炭の範囲や骨の範囲は限定されており、単独の火葬跡であると推定される。火葬人骨は、白色を呈し

ており、約800度以上で火葬にしたと推定される。また、人骨には亀裂や捻れが認められるため、白骨化させた骨を火葬にしたのではなく、死体をそのまま火葬にしたと推定される。

③副葬品：副葬品は、検出されていない。

④火葬人骨の出土部位：出土量はあまり多くないが、頭蓋骨片から四肢骨片まで全身に及ぶ。

⑤被火葬者の個体数：出土火葬人骨には、重複部位が認められないため、被火葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被火葬者の性別：火葬人骨は、被熱による収縮を考慮しても大きく頭丈である。特に、後頭骨の十字隆起部が厚いため、被火葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被火葬者の死亡年齢：頭蓋縫合の一部は、内板及び外板共に癒合している状態である。総合的に、40歳代以上であると推定される。

⑧拾骨・取骨方法：本被火葬者の火葬人骨の残存量はあまり多くない。この葬法は、なるべく全部拾骨し、取骨した東日本の葬法であると推定される。

3. E7区出土人骨

(1) 1号墓出土人骨

①人骨の出土状況：人骨は、長径(103)cm・短径(70)cm・深さ不明の規模の長方形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を北東にした横臥屈葬で埋葬されたと推定される。

③人骨の出土部位：人骨の残存状態は非常に悪いが、全身骨格が検出されている。

④被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別：出土四肢骨は小さく華奢であるため、被葬者の性別は女性であると推定される。

⑥被葬者の死亡年齢：死亡年齢推定の指標となる部位が検出されていないが、恐らく成人であろう。

(2) 3号墓出土人骨[近世?]

①人骨の出土状況：人骨は、長径137cm・短径76cm・深さ不明の規模の楕円形土坑から出土している。

②被葬者の埋葬状態：人骨の出土位置から、被葬者は、頭位を南西にして右側を下にした横臥屈葬で埋葬されたと推定される。

③副葬品：副葬品は、検出されていない。

④人骨の出土部位：人骨の残存状態は、比較的良好である。ほぼ全身骨格が出土している。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体である。

⑥被葬者の性別：全体的に、人骨は大きく頭丈であるため、被葬者の性別は男性であると推定される。後頭骨の十字隆起部の厚さは、約20mmである。

⑦被葬者の死亡年齢：出土歯の咬耗度を観察すると、一部には象牙質が点状に露出する程度のマルティンの2度の状態であるが、ほとんどがエナメル質のみのマルティンの1度の状態であるため、被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

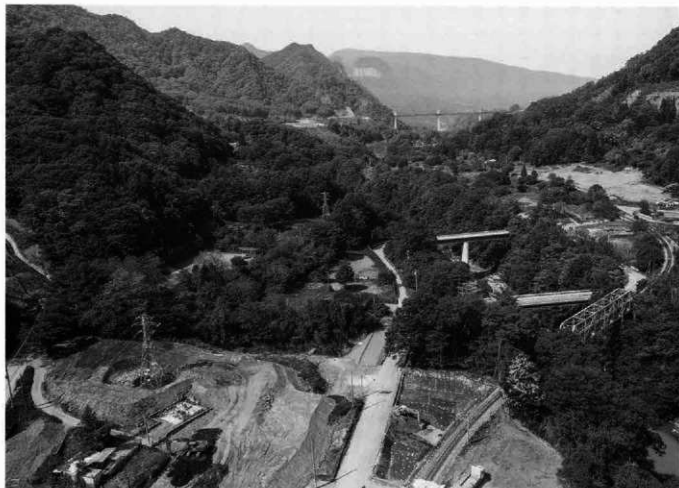
まとめ

下湖原遺跡から、中近世人骨43体が出土した。当初は、36体の予想であった。また、当初の36体の内、1体は人骨ではなく獣骨であった。獣骨は、別項で報告する。以下の表7にまとめを示した。

第7表 下湯原遺跡出土人骨まとめ

区名大	区名小	墓跡No	個体数	性別	死亡年齢	備考	
A区	A-1区	20号	1個体	♀	約30歳代		
		21号	1個体	♂	老齢?		
		22号	1個体	♀	成人		
		23号	1個体	♀	老齢?		
		24号	1個体	♀	成人		
		A-2区	1号	1個体	♀	成人・老齢?	
D区	D-1区	41号	1個体	不明	不明(子供?)		
		42号	1個体	不明	不明(子供?)		
		D-2区	43号	1個体	♀	約20歳代	
E区	E-2区	1号	2個体	♂(男児)	約4歳	本報告	
		♂		約30～40歳代			
		2号	1個体	♂(男児)	約3歳		
		3号	1個体	♂(男児)	約4歳		
		4号	1個体	♂	約20歳代		
		5号	1個体	♂	約30～40歳代		
		6号	1個体	♀	約30～40歳代		
		7号	1個体	♂	老齢		
		8号	1個体	♀	約40歳代		
		9号	1個体	♂	老齢		
		10号	1個体	♂	老齢		
		11号	1個体	♂(男児)	約12歳		
		12号	1個体	♂	約40～50歳代		
		13号	1個体	♀(女児)	約6～7歳		
		14号	1個体	♀	約40歳代		
		15号	1個体	♂	約30歳代		
		16号	1個体	♀(女児)	約2歳		
		17号	1個体	♀	約40歳代		
		18号	1個体	♀	成人		
		19号	1個体	♂(男児)	1歳		
		21号	1個体	♂	約20歳代		
		22号	1個体	♂	成人		
		23号	1個体	♂	老齢		
		24号	1個体	♂	約40歳代		
		25号	1個体	♂	約40歳代		
		26号	1個体	♂	約30歳代		
		E-4区	1号	3個体	♂	約40歳代	
	♂				約20歳代		
	♀				約10歳代		
		E-7区	5号	1個体	♂	40歳代以上	
	1号		1個体	♀	成人	本報告	
		3号	1個体	♂	約30歳代	本報告	

写真図版



1 下湯原道跡遠景南西端部(北東から)



2 D3区1面全景(南西から)



1 D2区1面細検出状況(北から)



2 D2区1面細検出状況(南から)



1 D1区1面全景(西から)



2 D1区1面A(北西から)



3 D1区1面A~D(北から)



4 D1区1面植物痕跡確認面(北から)



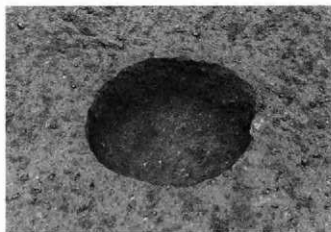
5 D1区2面東側(北から)



1 D1区2面全景(北から)



2 D1区2面西側(北から)



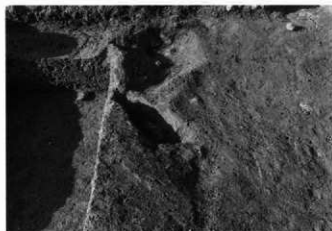
3 D1区2面1号土坑(北から)



4 D1区2面2~9号土坑、1・2号集石、4号溝(北から)



5 D1区2面1号溝(北西から)



1 D1区2面2号溝(北から)



2 D1区2面3号溝(北から)



3 D1区2面3号集石(南から)



4 D1区2面3号溝断面(北から)



5 D1区2面4号溝(西から)



6 D1区2面5号溝(北から)



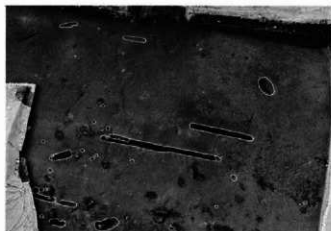
7 D1区2面5号溝断面(北から)



8 D1区2面1・2号集石(南から)



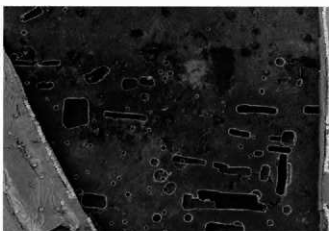
1 D1区2面畑(北から)



2 D1区3面西側(東から)



3 D1区3面全景(北から)



4 D1区3面中央(東から)



5 D1区3面東側(東から)



1 D1区3面10号土坑断面(南から)



3 D1区3面12号土坑(南から)



2 D1区3面11号土坑(北から)



4 D1区3面13号土坑(南から)



5 D1区3面14・15号土坑(北西から)



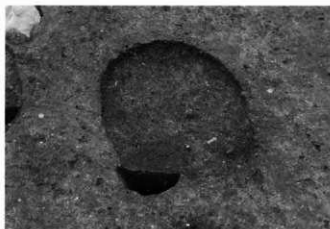
6 D1区3面16・17・33・58・59号土坑(北から)



7 D1区3面18号土坑(北から)



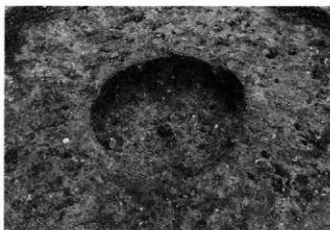
1 D1区3面19・20・32号土坑(西から)



2 D1区3面21号土坑(南から)



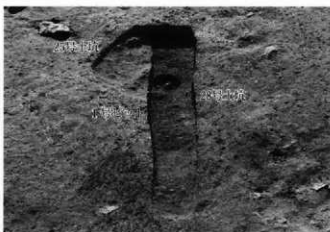
3 D1区3面22号土坑(南から)



4 D1区3面23号土坑(北から)



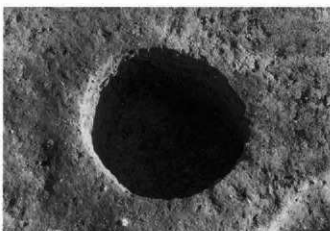
5 D1区3面24号土坑(北から)



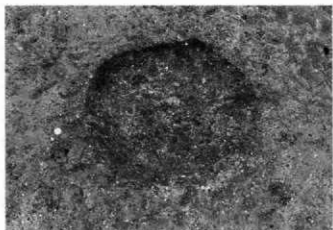
6 D1区3面25・28号土坑、1号ビット(北から)



7 D1区3面26・38号土坑(北から)



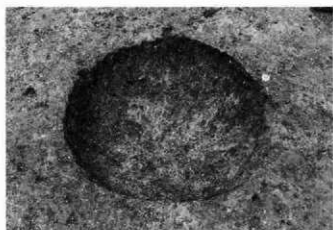
8 D1区3面27号土坑(北から)



1 D1区3面29号土坑(北から)



2 D1区3面30号土坑(北から)



3 D1区3面31号土坑(南から)



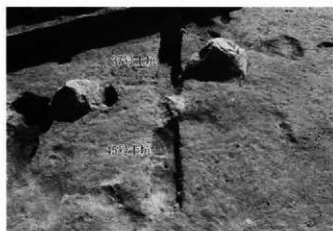
4 D1区3面32号土坑(北から)



5 D1区3面34号土坑(北から)



6 D1区3面35・36号土坑(北から)



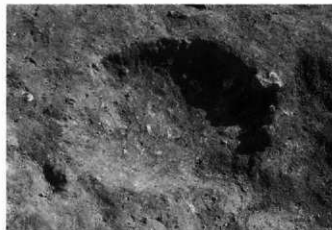
7 D1区3面37・45号土坑(北から)



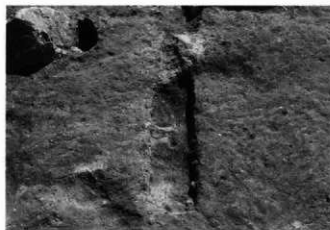
8 D1区3面39号土坑断面(東から)



1 D1区3面40号土坑(東から)



2 D1区3面44号土坑(北から)



3 D1区3面45号土坑(北から)



4 D1区3面46号土坑(北から)



5 D1区3面48号土坑(東から)



6 D1区3面49号土坑(東から)



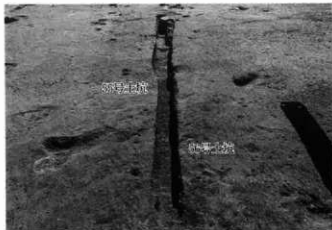
7 D1区3面50号土坑(北から)



8 D1区3面51~53号土坑(北から)



1 D1区3面54号土坑(北から)



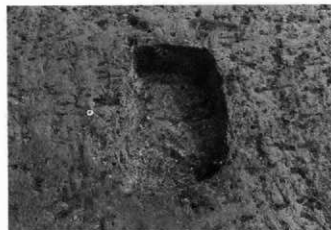
2 D1区3面55・56号土坑(北から)



3 D1区3面57号土坑(北から)



4 D1区3面60号土坑断面(南から)



5 D1区3面61号土坑(北から)



6 D1区3面62号土坑断面(西から)



7 D1区3面4号溝(南から)



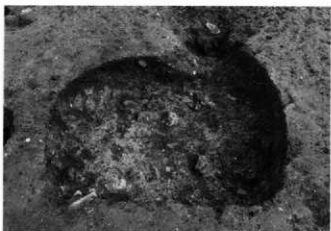
8 D1区3面1号墓(北から)



1 D1区3面1号墓断面(西から)



2 D1区3面2号墓(南から)



3 D1区3面2号墓(北から)



4 D1区3面2号墓断面(南から)



5 D1区4・5面B(南から)



6 D2区1面畑(北から)



7 D2区1面A(西から)



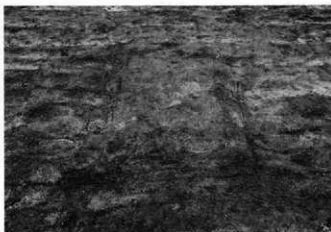
8 D2区1面3号平坦面(北から)



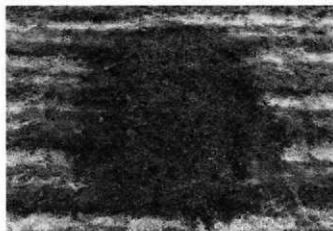
1 D2区1面全景(南西から)



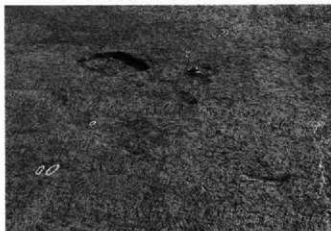
2 D2区1面4号平坦面(北から)



3 D2区1面7号平坦面(北から)



4 D2区1面8号平坦面(北から)



5 D2区2面1号溝(北から)



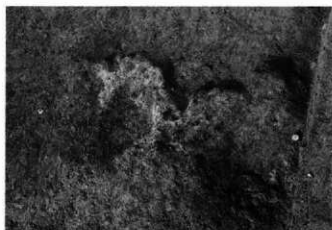
1 D2区2面2号溝(北東から)



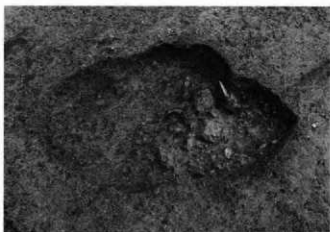
2 D2区2面3号溝・畑(北から)



3 D2区2面3号溝断面(北から)



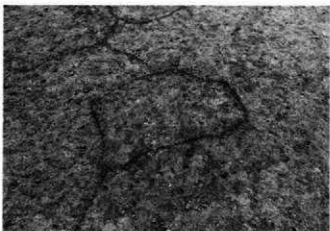
4 D2区2面1号焼土(北から)



5 D2区2面2号焼土(北から)



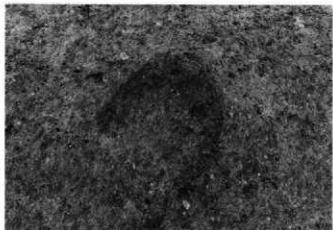
6 D2区2面3号焼土(北から)



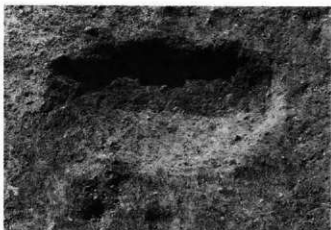
7 D2区2面4号焼土(北から)



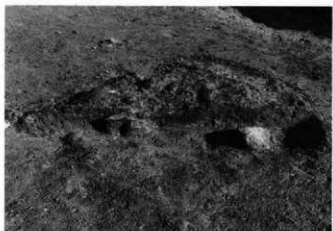
8 D2区2面5号焼土(北から)



1 D2区2面6号焼土(北から)



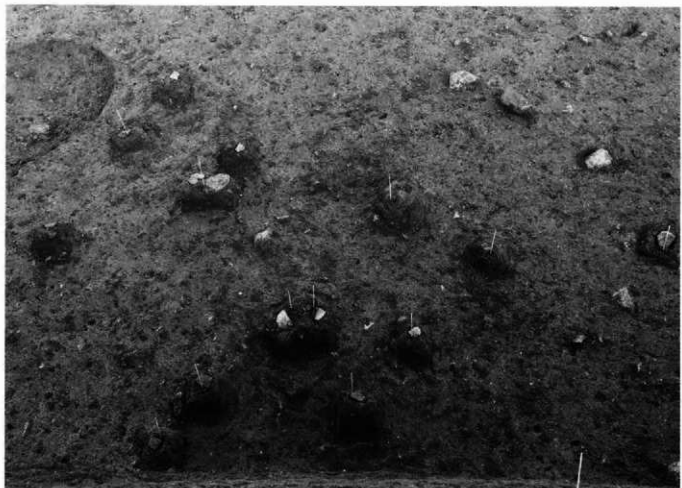
2 D2区2面7号焼土(東から)



3 D2区2面8号焼土断面(西から)



4 D2区2面9号焼土(西から)



5 D2区2面遺物集中(東から)



1 D2区3面全景(北から)



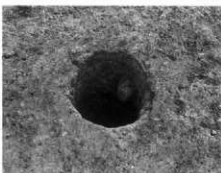
2 D2区3面1号掘立柱建物(北から)



1 D 2区3面1号掘立建物 P 1(北から)



2 D 2区3面1号掘立建物 P 2(北から)



3 D 2区3面1号掘立建物 P 3(北から)



4 D 2区3面1号掘立建物 P 4(北から)



5 D 2区3面1号掘立建物 P 5(北から)



6 D 2区3面1号掘立建物 P 6(北から)



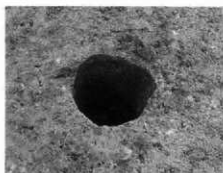
7 D 2区3面1号掘立建物 P 7(北から)



8 D 2区3面1号掘立建物 P 8(北から)



9 D 2区3面1号掘立建物 P 9(北から)



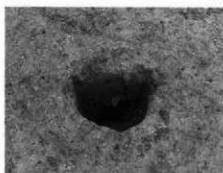
10 D 2区3面1号掘立建物 P 10(北から)



11 D 2区3面1号掘立建物 P 11(北から)



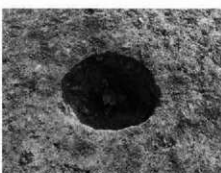
12 D 2区3面1号掘立建物 P 12(北から)



13 D 2区3面1号掘立建物 P 13(北から)



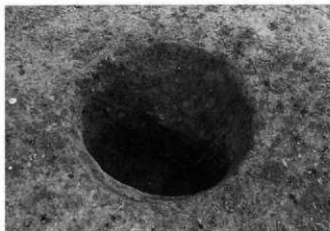
14 D 2区3面1号掘立建物 P 14断面(北から)



15 D 2区3面1号掘立建物 P 14(北から)



1 D 2区3面2号掘立柱建物(北から)



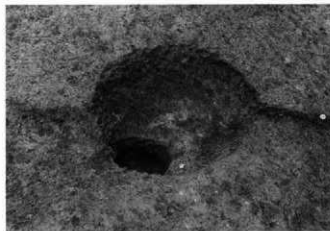
2 D 2区3面2号掘立柱建物P 1(北から)



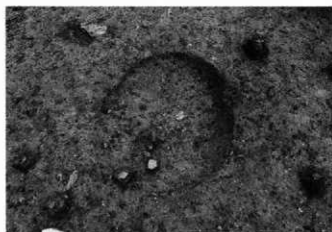
3 D 2区3面2号掘立柱建物P 2(北から)



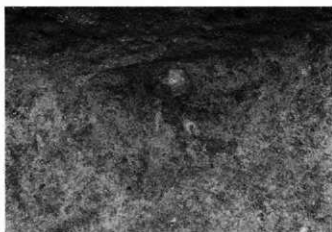
4 D 2区3面2号掘立柱建物P 3(北から)



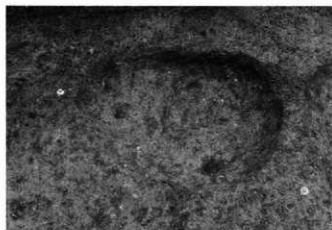
5 D 2区3面2号掘立柱建物P 4(北から)



1 D2区3画1号土坑(北から)



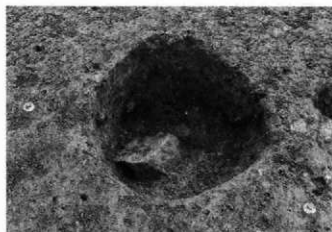
2 D2区3画2号土坑(北から)



3 D2区3画3号土坑(北から)



4 D2区3画5号土坑断面(北から)



5 D2区3画6号土坑(北から)



6 D2区3画7号土坑(北から)



7 D2区3画8号土坑断面(北から)



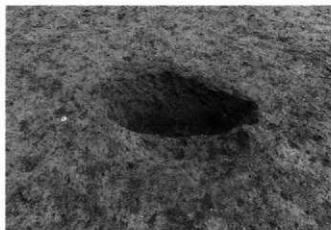
8 D2区3画10号土坑(北から)



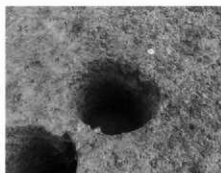
1 D 2区3面12号土坑(南西から)



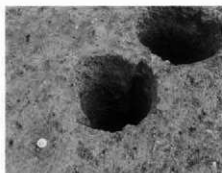
2 D 2区3面13号土坑(北から)



3 D 2区3面15号土坑(南から)



4 D 2区3面1号ピット(北から)



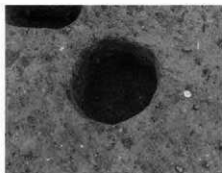
5 D 2区3面2号ピット(北から)



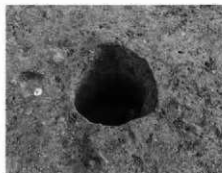
6 D 2区3面3号ピット(北から)



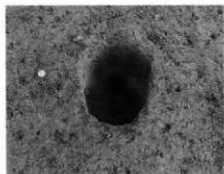
7 D 2区3面4号ピット(北西から)



8 D 2区3面5号ピット(南から)



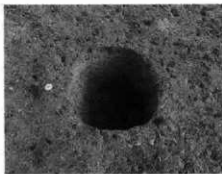
9 D 2区3面6号ピット(北から)



1 D 2区3面7号ビット(北から)



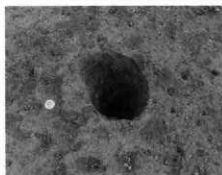
2 D 2区3面8号ビット(北から)



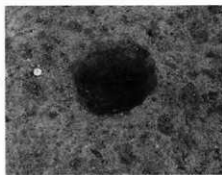
3 D 2区3面9号ビット(北から)



4 D 2区3面10号ビット(北から)



5 D 2区3面11号ビット(北から)



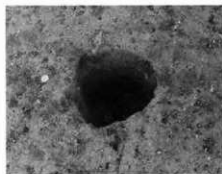
6 D 2区3面12号ビット(北から)



7 D 2区3面13号ビット(北から)



8 D 2区3面14号ビット(北から)



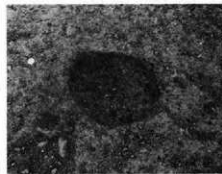
9 D 2区3面15号ビット(北から)



10 D 2区3面16号ビット(北から)



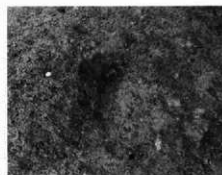
11 D 2区3面17号ビット(北から)



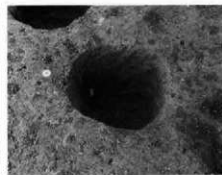
12 D 2区3面18号ビット(北から)



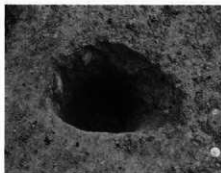
13 D 2区3面19号ビット(北から)



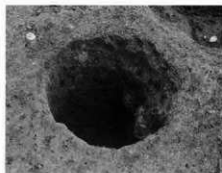
14 D 2区3面20号ビット(北から)



15 D 2区3面21号ビット(北から)



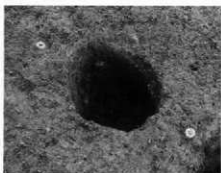
1 D 2区3面22号ビット(北から)



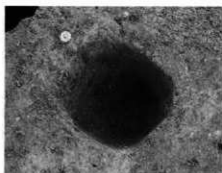
2 D 2区3面23号ビット(北から)



3 D 2区3面24号ビット(北から)



4 D 2区3面25号ビット(北から)



5 D 2区3面26号ビット(北から)



6 D 2区3面27号ビット(北から)



7 D 2区3面28号ビット(北から)



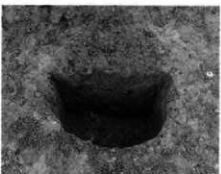
8 D 2区3面29号ビット(北から)



9 D 2区3面30号ビット(北から)



10 D 2区3面31号ビット(北から)



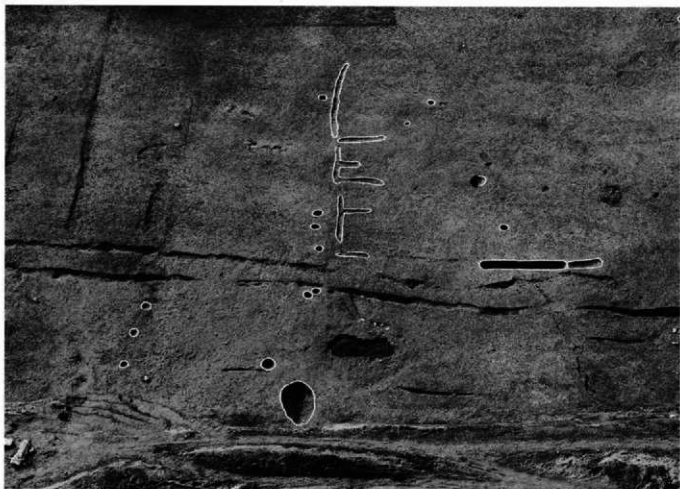
11 D 2区3面32号ビット(北から)



12 D 2区3面1号墓(南から)



1 D2区3面1号墓(東から)



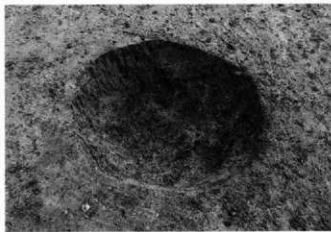
3 D2区3面畑(北東から)



1 D 2区4面全景(西から)



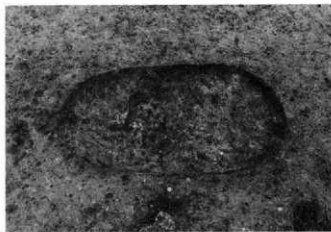
2 D 2区4面17号土坑(北から)



3 D 2区4面19号土坑(北から)



4 D 2区4面20号土坑(北から)



5 D 2区4面21号土坑(北から)



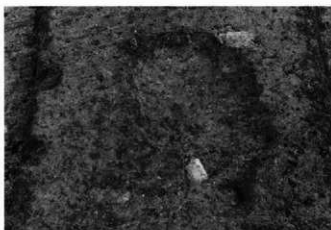
1 D2区4面33号ピット断面(南から)



2 D2区4面33号ピット(北から)



3 D2区4面11号焼土(東から)



4 D2区4面12号焼土(北から)



5 D3区1面全景(南東から)



1 D3区1面畑(南西から)



2 D3区2面1号土坑(北から)



3 D3区2面2号土坑断面(北から)



4 D3区2面3号土坑断面(北から)



5 D3区2面1・2・3号溝(南から)



1 D3区2面3号溝(北から)



2 D3区2面4号溝(北から)



3 D3区2面4号溝断面(南から)



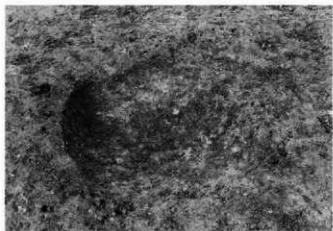
4 D3区2面5号溝(西から)



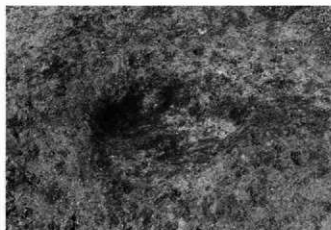
5 D3区3面全景(北から)



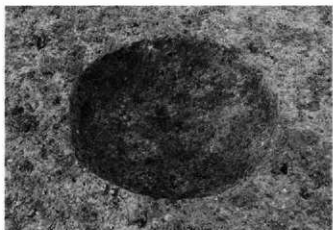
1 D3区3面4号土坑(西から)



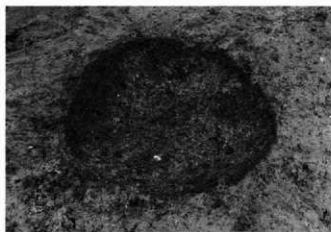
2 D3区3面5号土坑(南から)



3 D3区3面6号土坑(南から)



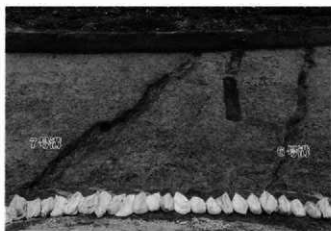
4 D3区3面7号土坑(南から)



5 D3区3面8号土坑(南から)



6 D3区3面9号土坑(北東から)



7 D3区3面6・7号溝(北から)



8 D3区3面8号溝遺物出土状況(北東から)



1 D3区3面8~10・16号溝(北から)



2 D3区3面9号土坑、8・9・17号溝(西から)



1 D3区3面5～7号土坑、11～15号溝(北から)



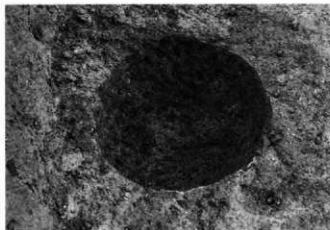
2 D3区3面16号溝断面(北西から)



1 D3区①1面北側(東から)



2 D3区①1面1号建物(東から)



1 D3区3面1号ピット(南から)



2 D3区①1面B・C(東から)



3 D3区①1面C(東から)



4 D3区①1面B(東から)



5 D3区①1面1号建物囲炉裏(南から)



6 D3区①1面1号建物囲炉裏断面(北から)



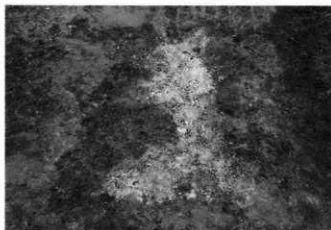
7 D3区①1面1号建物囲炉裏断面(南から)



8 D3区①1面1号建物灰集中断面(南から)



1 D3区①1面1号建物焼土1(北から)



2 D3区①1面1号建物焼土2(北から)



3 D3区①1面副、1・2号便槽(東から)



4 D3区①1面副、1・2号便槽(西から)



5 D3区①1面副、1号便槽断面(東から)



6 D3区①1面副、2号便槽断面(東から)



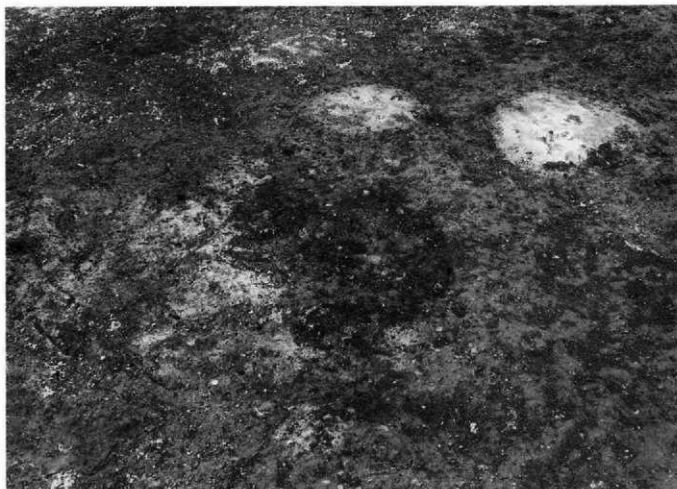
7 D3区①1面土手西端、石垣(東から)



8 D3区①1面土手西端、石垣(北から)



1 D3区①1面2号建物(南から)



2 D3区①1面2号建物跡裏(南から)



1 D3区①1面土手(東から)



2 D3区①1面集石(南から)



3 D3区①1面ヤックラ(北から)



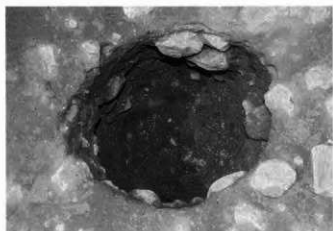
4 D3区①2面南側(南から)



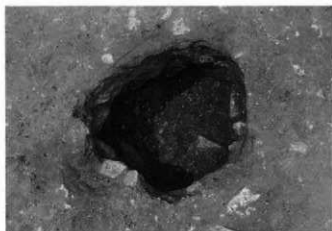
1 D3区①2面北側(東から)



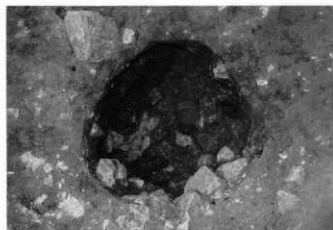
2 D3区①2面1号竪穴建物床面(南から)



1 D3区①2面1号竪穴建物P1(南から)



2 D3区①2面1号竪穴建物P2(南から)



3 D3区①2面1号竪穴建物P3(南から)



4 D3区①2面1号竪穴建物 貯蔵穴(南から)



5 D3区①2面1号竪穴建物掘り方(南から)



1 D3区①2面1号竪穴建物カマド(南から)



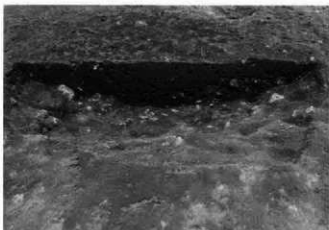
2 D3区①2面1号竪穴建物カマド掘り方断面(南から)



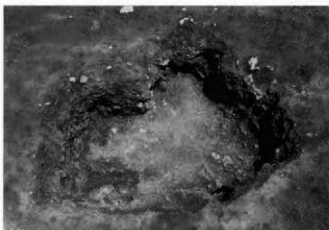
3 D3区①2面1号竪穴建物カマド掘り方断面(西から)



4 D3区①2面1号竪穴建物床下焼土(西から)



5 D3区①2面1号土坑断面(東から)



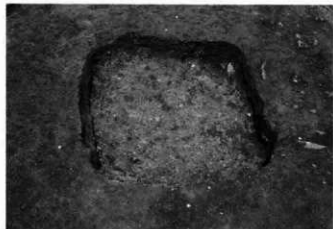
6 D3区①2面2・3号土坑(北西から)



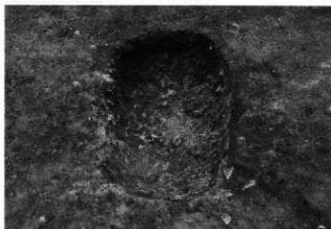
7 D3区①2面5号土坑(南から)



8 D3区①2面8号土坑(南から)



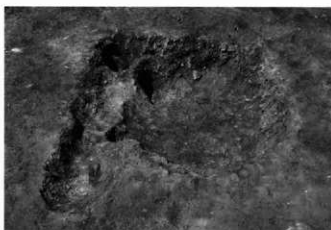
1 D3区①2面9号土坑(南から)



2 D3区①2面10号土坑(南から)



3 D3区①2面11号土坑断面(東から)



4 D3区①2面11・12号土坑(南から)



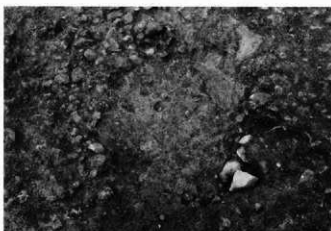
5 D3区①2面14号土坑断面(西から)



6 D3区①2面14号土坑(西から)



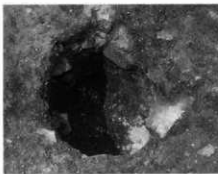
7 D3区①2面15号土坑(南から)



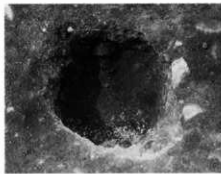
8 D3区①2面16号土坑(北から)



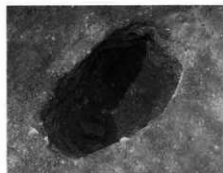
1 D3区①2面7号ビット(南から)



2 D3区①2面8号ビット(南から)



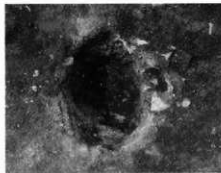
3 D3区①2面9号ビット(南から)



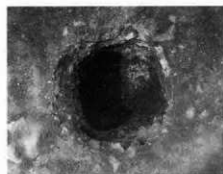
4 D3区①2面10号ビット(南から)



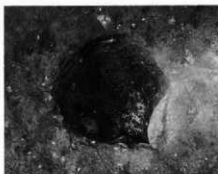
5 D3区①2面11号ビット(南から)



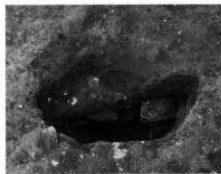
6 D3区①2面12号ビット(南から)



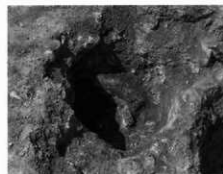
7 D3区①2面13号ビット(南から)



8 D3区①2面14号ビット(南から)



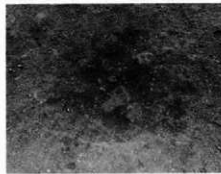
9 D3区①2面15号ビット(南から)



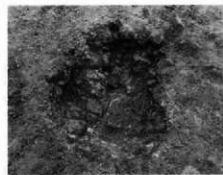
10 D3区①2面16号ビット(南から)



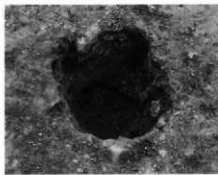
11 D3区①2面18号ビット(南から)



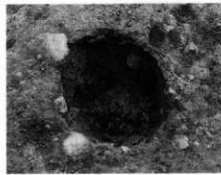
12 D3区①2面19号ビット(南から)



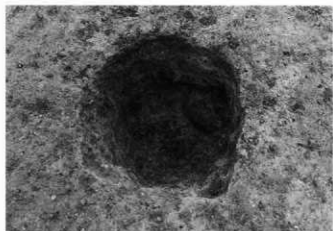
13 D3区①2面20号ビット(南から)



14 D3区①2面21号ビット(南から)



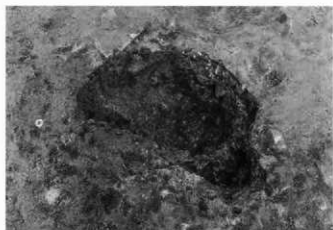
15 D3区①2面22号ビット(南から)



1 D3区①2面23号ピット(南から)



2 D3区①2面24号ピット(南から)



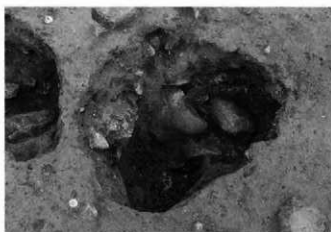
3 D3区①2面25号ピット(南から)



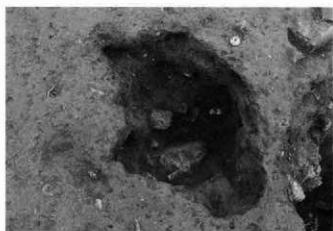
4 D3区①2面26号ピット(南から)



5 D3区①2面27号ピット(南から)



6 D3区①2面28号ピット(南から)



7 D3区①2面29号ピット(南から)



8 D3区①2面30号ピット(南から)



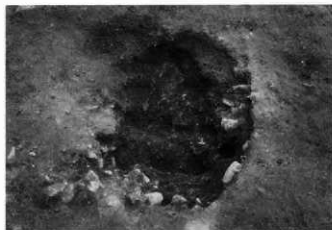
1 D3区①2面5号墓断面(西から)



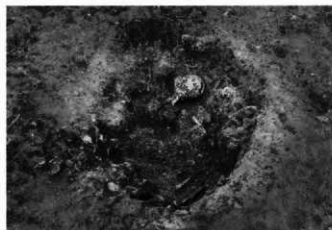
2 D3区①2面5号墓(南から)



3 D3区①2面6号墓断面(東から)



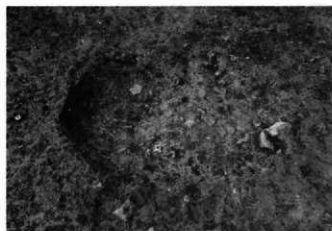
4 D3区①2面6号墓(南から)



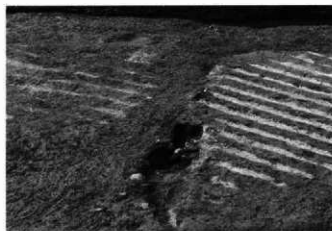
5 D3区①2面6号墓(南から)



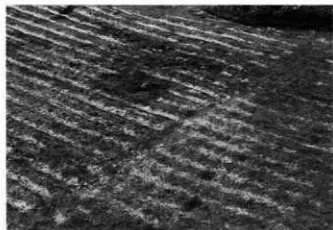
6 D3区①2面3号焼土(南から)



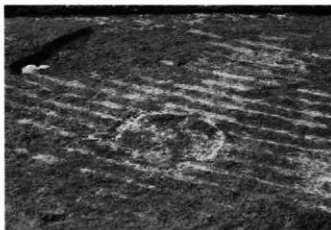
7 D3区①2面4号焼土(南から)



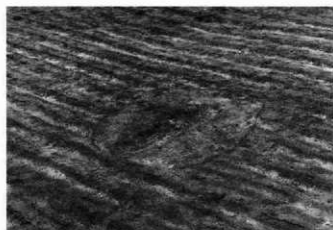
8 D3区②1面3号道(南から)



1 D3区②1面4号道(南から)



2 D3区②1面8号平坦面(南から)



3 D3区②1面9号平坦面(南から)



4 D3区②1面11号平坦面(南から)



5 D3区②1面集石(南から)



6 D3区②1面木枠(西から)



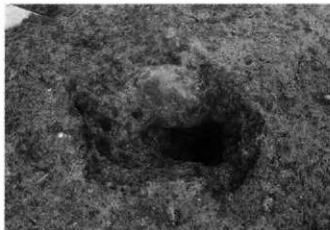
7 D3区②1面木枠(西から)



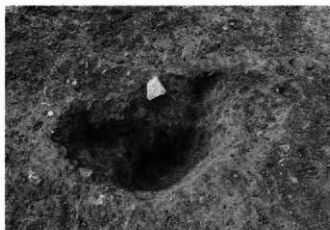
8 D3区②2面18号土坑(北から)



1 D3区②2面23号土坑(南から)



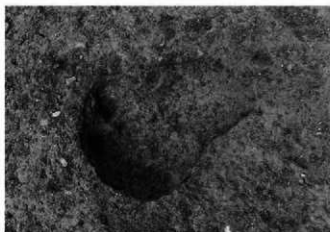
2 D3区②2面24号土坑(南西から)



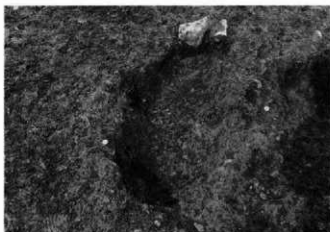
3 D3区②2面25号土坑(南から)



4 D3区②2面26号土坑(南西から)



5 D3区②2面27号土坑(南西から)



6 D3区②2面28号土坑(南から)



7 D3区②2面29号土坑(西から)



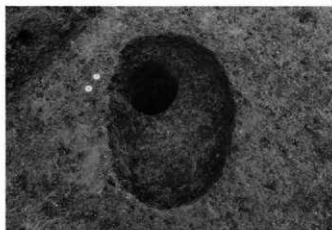
8 D3区②2面30号土坑(南から)



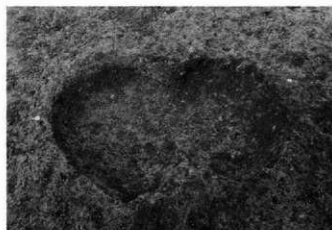
1 D3区②2面31号土坑(南西から)



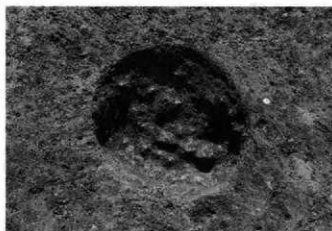
2 D3区②2面32号土坑(北東から)



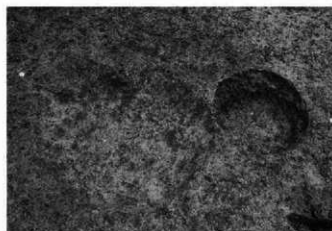
3 D3区②2面38号土坑・45号ビット(南西から)



4 D3区②2面39・40号土坑(南西から)



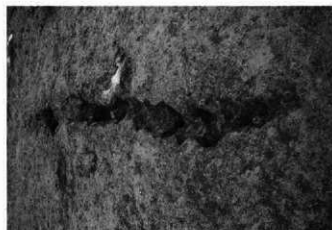
5 D3区②2面41号土坑(北東から)



6 D3区②2面42・43号土坑(北東から)



7 D3区②2面44号土坑(南西から)



8 D3区②2面1号溝(北から)



1 D3区②2面1号溝断面(南西から)



2 D3区②2面1号溝断面(南西から)



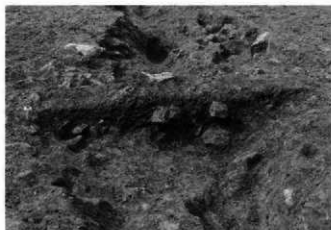
3 D3区②2面2・3号溝(北から)



4 D3区②2面2・3号溝断面(南から)



5 D3区②2面4号溝(北から)



6 D3区②2面4号溝断面(南から)



7 D3区②2面5号溝断面(南東から)



1 D3区②2面5～8号溝(北から)



2 D3区②2面6号溝断面(南西から)



3 D3区②2面7号溝断面(南西から)



4 D3区②2面8号溝断面(南西から)



5 D3区②2面9号溝(南から)



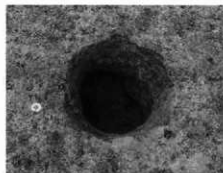
1 D3区②2面9～11号溝(南から)



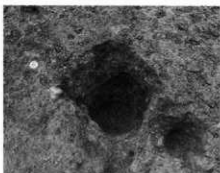
2 D3区②2面10号溝(北から)



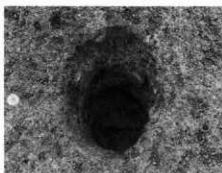
3 D3区②2面9・11号溝(南から)



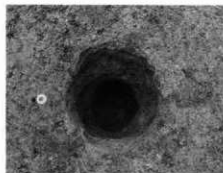
1 D3区②2面36号ビット(南から)



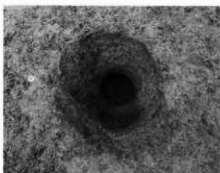
2 D3区②2面37号ビット(東から)



3 D3区②2面38号ビット(北東から)



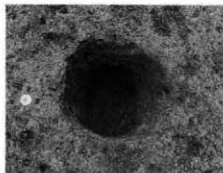
4 D3区②2面39号ビット(北東から)



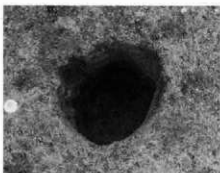
5 D3区②2面40号ビット(南東から)



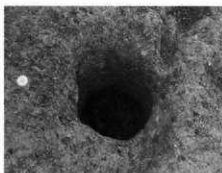
6 D3区②2面41号ビット(東から)



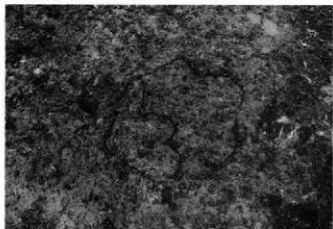
7 D3区②2面42号ビット(東から)



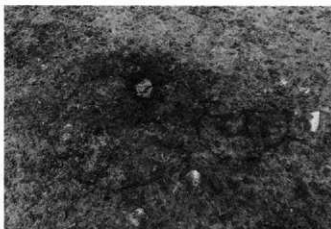
8 D3区②2面43号ビット(東から)



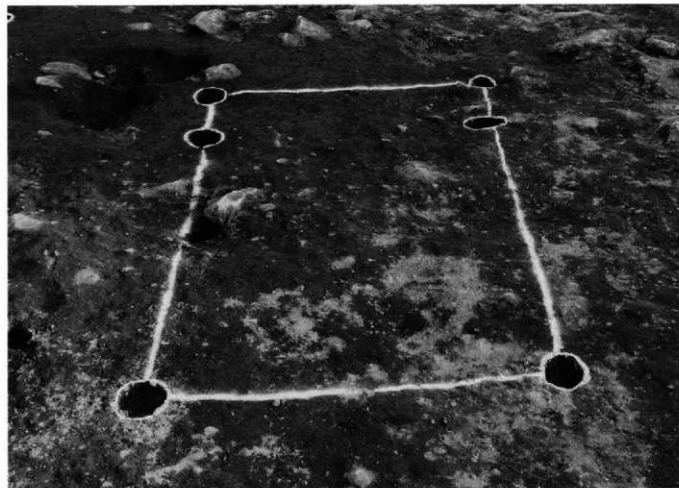
9 D3区②2面44号ビット(南西から)



10 D3区②2面5号焼土(南から)



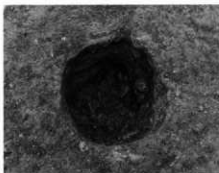
11 D3区②2面6号焼土(南東から)



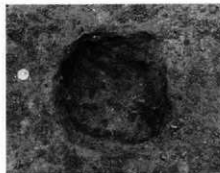
1 D3区②3面1号掘立柱建物(北から)



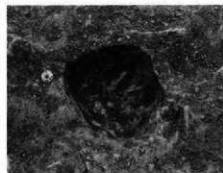
2 D3区②3面1号掘立柱建物P1(南から)



3 D3区②3面1号掘立柱建物P2(南から)



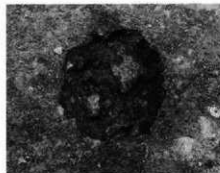
4 D3区②3面1号掘立柱建物P3(南から)



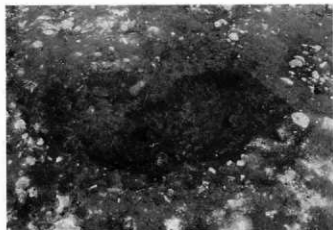
5 D3区②3面1号掘立柱建物P4(南から)



6 D3区②3面1号掘立柱建物P5(南から)



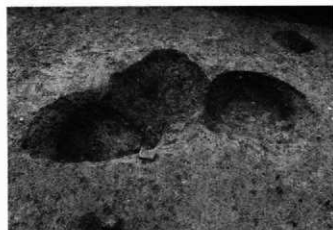
7 D3区②3面1号掘立柱建物P6(南から)



1 D3区②3面19・20号土坑(西から)



2 D3区②3面21号土坑(南から)



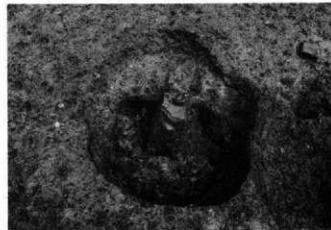
3 D3区②3面33・34・37号土坑、7号焼土(南から)



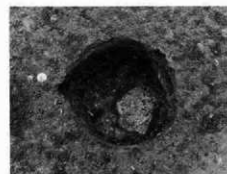
4 D3区②3面35号土坑(南から)



5 D3区②3面36号土坑(南から)



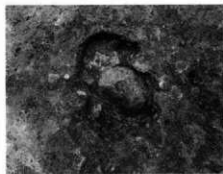
6 D3区②3面37号土坑(北から)



7 D3区②3面31号ピット(南から)



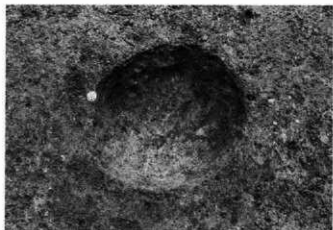
8 D3区②3面32号ピット(南から)



9 D3区②3面33号ピット(南から)



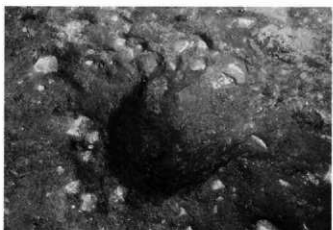
1 D3区②3面34号ピット(南から)



2 D3区②3面35号ピット(東から)



3 D3区②3面21号墓(東から)



4 D3区②3面21号墓(南から)



5 E5区全景(北西から)



1 E 5区A(北東から)



2 E 5区A断面(西から)



3 E 5区B(南西から)



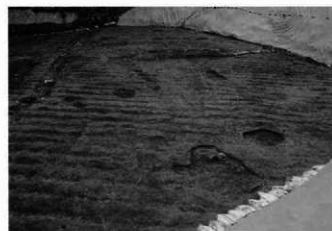
4 E 5区B断面(北西から)



5 E 5区C(北西から)



6 E 5区C断面(北西から)



7 E 5区渠(南西から)



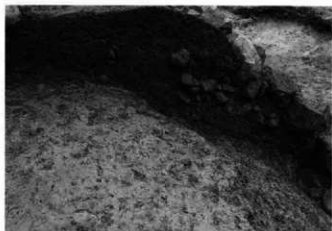
8 E 5区畑(南西から)



1 E7区1面全景(北東から)



2 E7区1面東端部調査風景(北西から)



1 E7区1面A断面(東から)



2 E7区1面B断面(北西から)



3 E7区1面C断面(南西から)



4 E7区1面D断面(北から)



5 E7区1面E断面(北西から)



6 E7区1面F断面(北西から)



7 E7区1面G断面(北西から)



8 E7区1面H断面(西から)



1 E7区1面I断面(西から)



2 E7区1面K断面(北西から)



3 E7区1面I号溝、I号道、石垣(西から)



4 E7区1面I号道、石垣(西から)



5 E7区1面I号溝、I号道、石垣(西から)



6 E7区1面I号道、石垣(西から)



7 E7区1面I号道、石垣(西から)



8 E7区1面I号墓断面(南東から)



1 E7区1面1号墓(東から)



2 E7区1面2号墓(北から)



3 E7区1面2号墓(北から)



4 E7区1面3号墓断面(北から)



5 E7区1面3号墓(東から)



6 E7区1面ヤックラ(北から)



7 E7区2面2号溝(東から)



8 E7区2面3号溝(西から)



1 E7区2面4号溝(西から)



2 G区1面A(北から)



3 G区1面全景(北から)



4 G区1面B(北から)



5 G区1面C断面(北西から)



1 G区1面D(西から)



2 G区1面E(東から)



3 G区1面F(南東から)



4 G区1面南壁断面(北から)



5 G区1面1号溝(南西から)



1 G区1面北西壁(南から)



2 G区1面1号溝断面(南西から)



3 G区1面畑2南側(北から)



4 G区1面南東壁北側断面(南から)



5 G区2面南側(西から)



1 G区2面北側(西から)



2 G区2面A(西から)



3 G区2面B(東から)



4 G区2面北東壁A(南西から)



5 G区2面北側(南東から)



D 1区2面1



D 2区トレ1



D 2区トレ2



D 2区2面3号溝1



D 2区遺物集中4



D 2区遺物集中10



D 2区遺物集中11



D 2区3面1号土坑1



D 2区3面1墓1



D 2区2・3面間1



D 2区4面12焼土1



D 2区4面12焼土2



D 2区遺構外1



D 2区遺構外2



D 2区遺構外3



D 2区遺構外4



D 3区1面A下部1



D 3区3面8号溝1



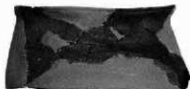
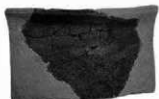
D 3区①2面
1号壁穴建物1



D 3区①2面
1号壁穴建物2



D 3区②2面
1号壁穴建物3

D 3区①2面
1号整穴建物6D 3区①2面
1号整穴建物7D 3区①2面
1号整穴建物11D 3区①2面
1号整穴建物12D 3区①2面
1号整穴建物13D 3区①2面
1号整穴建物14D 3区①2面
1号整穴建物15D 3区①2面
1号整穴建物16D 3区①2面
1号整穴建物17D 3区①2面
1号整穴建物20D 3区①2面
1号整穴建物21

E 5区A下層1



E 5区泥流中1



E 7区1面1基1



E 7区1面1基2



E 7区1面1基3



E 7区1面1基4



E 7区1面1基5



E 7区1面1基6



E 7区1面1基7



E 7区1面2基1



E 7区1面2墓2



E 7区1面2墓3



E 7区1面2墓4



E 7区1面2墓5



E 7区1面2墓6



E 7区道槽外1



E 7区道槽外2



E 7区道槽外3



E 7区瓶丸1



E 7区瓶丸2



E 7区1



E 7区境界坑15周边1



E 7区境界坑15周边2

報告書抄録

書名ふりがな	しもゆばらいせきかっこに
書名	下湯原遺跡(2)
副書名	ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	69
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	666
編著者名	黒田 晃
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20200310
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	しもゆばらいせき
遺跡名	下湯原遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざかわらゆ
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字川原湯
市町村コード	10424
遺跡番号	217
北緯(世界測地系)	61981
東経(世界測地系)	-100778
調査期間	20150401-20151231/20160401-20161013/20171001-20171226
調査面積	77.134
調査原因	ダム建設
種別	集落/生産/墓
主な時代	縄文/平安/中・近世
遺跡概要	縄文(4面)-土坑4+ピット1+焼土2-土器(包含層を含む) / 縄文~平安(3面)-土坑74+ピット44+焼土1+溝13+掘立柱建物3+墓4+畑1+竈壇状遺構 / 平安時代~天明 泥流以前(2面)-土坑48+ピット40+焼土12+溝27+竪穴建物1+畑+土器集中地点+集石 -土師器・須恵器 / 近世(1面)-土坑19+ピット1+焼土2+道2+溝2+建物2+廁(便 槽)2+墓5+畑+屋外炉2+土手+石垣+ヤックラ+木枠+粘土探掘坑-陶磁器・石製品・ キセル・銅金具・釘
特記事項	天明三(1783)年浅間山の噴火に伴う泥流堆積物によって覆われた畑・道・建物・墓地とその 下で確認された畑と掘立柱建物を検出。
要約	縄文時代では、後期から始まる生活痕が検出された。焼土が2箇所発掘され、僅かであるが 土器片が出土した。他に土坑が4基確認された。平安時代から天明泥流直下までの、古代 から中・近世の遺構に関しては、2面の調査を行い平安時代の竪穴建物を1棟検出した他、 土師器・須恵器片の土器集中地点や、多くの土坑・ピット・溝類を発見した。近世につい ては天明三(1783)年の浅間山噴火に伴う降下軽石(As-A)と天明泥流を鑑層として、泥流直下 の面の調査を進めた。ここでは泥流下の畑の他、土坑・ピット・溝・墓・土手・石垣・ヤック ラ・粘土探掘坑及び木を組んで作った木枠などが検出された。陶磁器・キセル等の金属製品 の他、多くの石造物が出土している。

研究室保管

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第 666 集

下湯原遺跡（2）

ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第 66 集

和令2（2020）年2月20日 印刷

和令2（2020）年3月10日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2

電話（0279）52-2511（代表）

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／松本印刷工業株式会社
